



消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 出雲方言調査報告書

木部暢子 [編]
2016年3月



はじめに

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年10月にスタートしました。2010年度からは毎年、共同研究者や若手研究者が1カ所に集まって共同で調査を行う合同調査を実施しています。これまで、沖縄県宮古島・久米島，鹿児島県喜界島・与論島・沖永良部島，東京都八丈島，島根県出雲・隠岐の島，宮崎県椎葉村で合同調査を行なってきました。本書は，そのうちの，島根県出雲方言調査（2014年8月）の調査報告書です。

調査の折りには，たくさんの方にお世話になりました。お忙しいなか，公民館まで足を運んでくださり，親切に方言を教えてくださいました方々に深く御礼申し上げます。みなさんのおかげで，このような報告書を作成することができました。また，教育長をはじめ教育委員会のみなさんには，調査の準備の段階から，実施，出雲方言公開講座 / 国立国語研究所セミナー「出雲方言のつどいー出雲ことば再発見ー」に至るまで，大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は，出雲方言全体から見ると，ごく一部のわずかなものにすぎませんが，方言の研究や記録・保存の資料として，少しでも多くの方々に使っていただければ幸いです。また，国立国語研究所ホームページの中の「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」のページで本書のPDF版を公開しています。こちらもぜひ，ご覧ください。

2016年2月25日

国立国語研究所 木部 暢子

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」 出雲方言調査報告書

目次

はじめに	
プロジェクトの概要	1
調査の概要	3
出雲方言の音韻 (木部暢子)	7
出雲方言アクセント調査報告 (上野善道)	23
出雲方言における格助詞「ガ」と「ノ」について (平子達也)	69
出雲方言の指示詞カ, サに関する報告 (荻野千砂子)	79
出雲方言データ集	
出雲方言データ集の表記について	87
出雲方言 基礎語彙集 (音声記号)	91
出雲方言 基礎語彙集 (かな)	109
出雲方言 文法例文集 (音声記号)	127
出雲方言 文法例文集 (かな)	141
出雲方言 動詞例文集 (音声記号)	155
出雲方言 動詞例文集 (かな)	179
出雲方言のつどいー出雲ことば再発見ー	203

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年10月にスタートしました。プロジェクトの目的は以下のとおりです。

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009年2月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

(国立国語研究所ホームページより)

2 これまでの調査

プロジェクトでは、2010年から毎年、琉球や八丈を中心として、合同調査を行っています。2010年から2015年までに行った調査は以下のとおりです。

・鹿児島県喜界島方言（奄美語）	2010年9月9日～15日	★ ☆
・沖縄県宮古方言（宮古語）	2011年9月4日～7日	★
・東京都八丈島方言（八丈語）	2012年9月5日～10日	★ ☆
・鹿児島県与論島方言・沖永良部島方言（国頭語）	2012年12月1日～6日	★ ☆
・沖縄県久米島方言（沖縄語）	2013年12月1日～5日	
・島根県出雲方言	2014年8月17日～21日	★
・宮崎県椎葉村（尾手納・日当）方言	2014年9月1日～6日	
・宮崎県椎葉村（日添）方言	2015年3月9日～13日	
・宮崎県椎葉村（小崎）方言	2015年5月8日～11日	
・宮崎県椎葉村（拇尾）方言	2015年9月6日～11日	
・島根県隠岐の島方言	2015年11月8日～11日	

★については、報告書を以下のウェブページで公開しています。

<http://pj.ninjal.ac.jp/Endangered/>

また、☆については基礎語彙の発話音声も以下のウェブページで公開しています。あわせてご参照ください。

<http://kikigengo.sakura.ne.jp/>

3 共同研究者

プロジェクトの共同研究者は以下のとおりです。(2016年2月1日現在)

研究代表者：木部暢子（国立国語研究所）

共同研究員：五十嵐陽介（一橋大学）、井上文子（国立国語研究所）、上野善道（東京大学名誉教授）、大西拓一郎（国立国語研究所）、小川晋史（熊本県立大学）、荻野千砂子（福岡教育大学）、金田章宏（千葉大学）、狩俣繁久（琉球大学）、久保智之（九州大学）、久保蘭愛（愛知県立大学）、窪菌晴夫（国立国語研究所）、熊谷康雄（国立国語研究所）、小西いずみ（広島大学）、小林隆（東北大学大学院）、佐々木冠（札幌学院大学）、重野裕美（広島経済大学）、下地賀代子（沖縄国際大学）、下地理則（九州大学／国立国語研究所客員教員）、田窪行則（京都大学）、竹田晃子（国立国語研究所）、クリス・デイビス（琉球大学）、中島由美（一橋大学）、仲原穰（琉球大学）、西岡敏（沖縄国際大学）、新田哲夫（金沢大学）、日高水穂（関西大学）、ブガエワ・アンナ（国立国語研究所）、トマ・ペラルール（フランス国立科学研究所）、又吉里美（岡山大学）、町博光（安田女子大学）、松浦年男（北星学園大学）、松田美香（別府大学）、松本泰丈（別府大学）、松森晶子（日本女子大学）、三井はるみ（国立国語研究所）、山田真寛（京都大学）、ウエイン・ローレンス（オーストラリア大学）、ダニエル・ロング（首都大学東京）（五十音順）

プロジェクト研究員：乙武香里（プロジェクトPD）、坂井美日（プロジェクトPD）、盛思超（プロジェクト非常勤研究員）

調査の概要

1 調査地点の概要

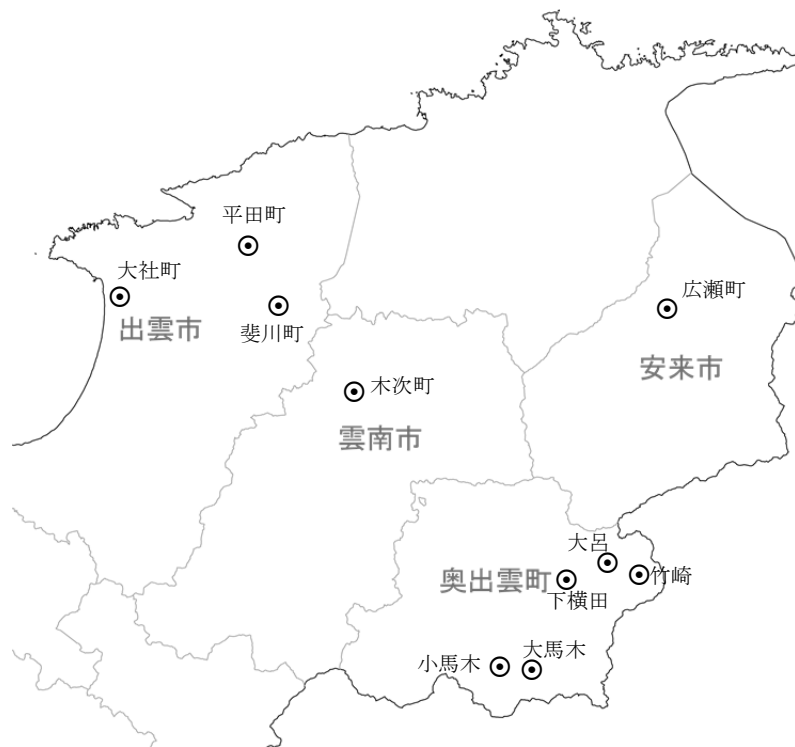
出雲地方は島根県の東部に位置し、西は日本海に臨み、東は鳥取県に接する。西から出雲市、雲南市、奥出雲町、安来市が並ぶ。

出雲市は、東西約30km、南北約39km、面積は624.36km²、人口は175,118人（平成27年12月現在）、雲南市は出雲市の南に位置し、面積は553.18km²、人口は40,489人（平成27年12月末現在）、奥出雲町は雲南市の東南に位置し、面積は368.01km²、人口は13,071人（平成27年国勢調査）、安来市は雲南市の東に位置し、面積は420.93km²、人口は40,349人（平成27年12月現在）である。

調査は出雲市斐川町、雲南市木次町、仁多郡奥出雲町横田、安来市広瀬町の四つの地域で行った。



地図1 出雲の位置



地図 2 調査地点

2 調査の概要

2.1 調査地点

調査は2014年8月17日～8月21日に行った。調査地点と調査内容、調査担当者は以下の通りである。

日時・地域	地区名	調査内容	調査担当者
8月18日 安来市	広瀬町	基礎語彙 a-1	當山, 平山
		基礎語彙 a-2	ペラール, 中澤, 木部
		基礎語彙 b-1	町, 青井
		基礎語彙 b-2	平子, 松倉
		文法 (一般)	重野, 白田, 大槻
		文法 (一般)	重野, 白田, 大槻
		文法 (動詞活用 a)	友定, 福嶋, 津田
		文法 (動詞活用 b)	荻野, 山田, 又吉, 乙武
		アクセント	上野, 新田, 高山, 三樹

8月19日 奥出雲町	小馬木	文法（一般）	大槻
		文法（一般）	重野，白田
		基礎語彙 a-2	當山，平山
	大馬木	基礎語彙 a-2	當山，平山
	下横田	文法（動詞活用 b）	荻野，又吉，山田，乙武
		基礎語彙 b-1	狩俣，高山，松倉，三樹
	大呂	アクセント	上野，新田，中澤，伊藤
	竹崎	文法（動詞活用 a）	友定，福嶋，津田
		基礎語彙 a-1	ペラール，平子，木部
基礎語彙 b-2		町，青井	
8月20日 雲南市	木次町	語彙 a-2	町，青井，三樹
		語彙 b-1	狩俣，高山
		語彙 b-2	ペラール，木部，當山
		文法（動詞活用 a）	重野，白田，大槻
		文法（動詞活用 b）	友定，福嶋，津田
		文法（一般）	又吉，山田
		文法（一般）	荻野，平子，乙武
		アクセント	上野，松倉，伊藤
		語彙 a-1	新田，中澤
8月21日 出雲市	斐川町	語彙 a-1	新田，中澤
		語彙 a-2	町，青井，三樹
		語彙 b-1	平子，高山
		語彙 b-2	ペラール，木部，當山
		アクセント	上野，松倉，伊藤
	平田町	文法（一般）	津田，大槻
		文法（一般）	山田，又吉，乙武
	大社町	文法（動詞活用 a）	重野，白田
		文法（動詞活用 b）	友定，福嶋

2.2 調査者

調査参加者は以下の25名である（所属は調査当時である）。

青井隼人（日本学術振興会／国立国語研究所），伊藤芳樹（東京大学修士課程），上野善道（国立国語研究所），大槻知世（東京大学博士後期課程），荻野千砂子（大分大学），乙武香里（国立国語研究所），狩俣繁久（琉球大学），木部暢子（国立国語研究所），重野裕美（広島経済大学），白田理人（京都大学博士後期課程／日本学術振興会），高山林太郎（東京大学博士後期課程／日本学術振興会），津田智史（日本学術振興会／国立国語研究所），當山奈那（琉球大学博士後期課程／日本学術振興会），友定賢治（県立広島大学名誉教授），中澤光平（東京大学博士

後期課程／日本学術振興会），新田哲夫（金沢大学），平子達也（日本学術振興会／九州大学），平山真奈美（立命館大学），福嶋秩子（新潟県立大学），トマ・ペラール（フランス国立科学研究所），又吉里美（岡山大学），町博光（安田女子大学），松倉昂平（東京大学修士課程），三樹陽介（国立国語研究所），山田真寛（京都大学）

〔五十音順〕

2.3 話者

話者は以下の方々である（年齢は調査当時である）。

- 安木市 永島茂亀さん（71歳），高松正登さん（70歳），末廣孜さん（67歳），須藤幸義（73歳），加藤弘紀（70歳），田邊洋子さん（71歳），中田進さん（79歳），永島繁さん（69歳），藤木義男さん（66歳）
- 奥出雲町 藤原純夫さん（72歳），糸原正美さん（84歳），佐佐木千代栄さん（88歳），田中靖子さん（70歳），花森弘枝さん（71歳），木邑光晴さん（65歳），嵐谷勝義さん（74歳），嵐谷真さん（77歳），内田道子さん（86歳），小林弘則さん（73歳）
- 雲南市 土江和良さん（77歳），景山年男さん（79歳），為石正三さん（78歳），松島政子さん（72歳），陶山直利さん（79歳），室田静江さん（77歳），本田宏さん（70歳），野津哲朗さん（80歳），板持松子さん（77歳），板持千美さん（84歳），石野賢吉さん（84歳）
- 出雲市 村上家次さん（81歳），福間花子さん（70歳），今岡照夫さん（82歳），飯塚信芳さん（81歳），杉谷義憲さん（79歳），勝部アサ子さん（84歳），奥野栄さん（64歳），岡克宣さん（64歳），三原廣市さん（-歳），渡部幸子さん（72歳）

謝辞

お忙しい中，本調査に協力していただき，ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

出雲方言の音韻

木部 暢子*

1 はじめに

2014年8月の調査では、島根県の出雲市斐川町、雲南市木次町、仁多郡奥出雲町横田、安来市広瀬町で調査を行った。その基礎語彙調査と文法項目調査のデータをもとにして、4地域の音韻の特徴を以下にまとめる。

2 母音

2.1 短母音

短母音は /a/, /i/, /u/, /e/, /o/ の5つで、/a/ は共通語の /a/ (ア) に、/i/ は共通語の /i/ (イ) に、/u/ は共通語の /u/ (ウ) に、/e/ は共通語の /e/ (エ) に、/o/ は共通語の /o/ (オ) に対応している。特徴的なのは、/i/ が中舌性の [i], [i̠] や緩みの [i̠] で発音される点、/e/ が口の開きが狭い [e̠] で発音される点である。その結果、出雲方言では /i/ と /e/ の区別、/i/ と /u/ の区別が曖昧になる。特に、子音を伴わずに単独で音節を作る /i/ と /e/ は、どちらも [e̠]~[e̠̚] と発音され、「イ」と「エ」の区別が非常に曖昧である。例えば、[e̠]~[e̠̚] (柄), [eda] (枝), [e̠ta]~[ita] (板), [e̠do] (井戸)。/i/ と /u/ に関しては、歯茎音の後で区別が非常に曖昧になる(具体例は3.2.2参照)。/u/ は口の丸めのない [u̠] であるが、子音を伴わずに単独で音節を作る場合や両唇音の後では [o] に発音されることがある。例えば、「虫(むし)」「筵(むしろ)」の「む」, 「鱗(うろこ)」「蛆(うじ)」の「う」は、出雲市斐川町、雲南市木次町では [mo], [o] と発音される(奥出雲町横田、安来市広瀬町では [mu], [u])。以下に短母音の例をあげる。なお、用例中の \dot{i} , \dot{u} は無声化した i , u を、 $e̠$ は口の開きが小さい e (i 寄りの e) を、 \dot{i} は口の開きが大きい i (e 寄りの i) を表す。また「~」は同一話者での発音の揺れを、「/」は話者による発音の違いを表す(以下同じ)。

表1 短母音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
a	豆(まめ)	mame (まめ)	mame (まめ)	mame (まめ)	mame (まめ)
	種(たね)	tane (たね)	tane (たね)	tane (たね)	tane (たね)
	肩(かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)
	鼻(はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)
i	実(み)	mi (み)	mi (み)	mi (み)	mi (み)
	指(ゆび)	ibi (いび)	ibi (いび)	juubi (ゆび)	jubi (ゆび)
	庭(にわ)	niwa (にわ)	niwa (にわ)	niwa (にわ)	niwa (にわ)
	鳥(とり)	tori (とり)	tori (とり)	tori (とり)	tori (とり)

* きべ のぶこ：国立国語研究所・教授

	木(き)	kɯi (き)	kɯi (き)	ki (き)	kʰi~ki (き)
	麦(むぎ)	muŋɯi (むぎ)	muŋɯi (むぎ)	muŋi (むぎ)	muuɯi (むぎ)
u	山羊(やぎ)	buuta (ふた)	buuta (ふた)	buuta (ふた)	buta (ふた)
	麦(むぎ)	muŋɯi (むぎ)	muŋɯi (むぎ)	muŋi (むぎ)	muuɯi (むぎ)
	糠(ぬか)	nika (にか)	neka (ねか)	nuka (ぬか)	nuka (ぬか)
	笊(ざる)	ɟzaru (ざる)	ɟza: (ざー)	ɟzaru (ざる)	ɟzaru (ざる)
	雲(くも)	kumo (くも)	kumo (くも)	kimo (きも)	kumo (くも)
	歯茎(はぐき)	haguɯkɯi (はぐき)	haguɯkɯi (はぐき)	haguɯki (はぐき)	haŋki (はんき) ~hauɯɯki (はぐき)
	雲脂(ふけ)	ɸu[kɛ (ふけ)	ɸuɯkɛ (ふけ)	ɸuɯke (ふけ)	ɸuɯkɛ (ふけ)
o/u	虫(むし)	mosi (もし)	mosi (もし)	muɯei (むし)	muɯei (むし)
	筵(むしろ)	mosso (もっそ)	mosso (もっそ)	musiro (むしろ)	muɯei (むしろ)
	鱗(うろこ)	uroko (おろこ)	uroko (おろこ)	uuroko (うろこ)	uuroko (うろこ)
	蛆(うじ)	ozi (おじ)	ozi (おじ)	uuzi (うじ)	uɟzi (うぢ)
e	目(め)	mɛ (め)	mɛ (め)	me (め)	mɛ (め)
	手(て)	tɛ (て)	tɛ (て)	te (て)	te (て)
	毛(け)	kɛ (け)	kɛ (け)	ke (け)	kɛ~ke (け)
	臍(へそ)	hɛso (へそ)	hɛso (へそ) ~ɸɛso (ふえそ)	heso (へそ)	heso (へそ)
	涎(よだれ)	jodare (よだれ)	jodare (よだれ)	jodare (よだれ)	gobozi (ごぼじ)
o	桃(もも)	momo (もも)	momo (もも)	momo (もも)	momo (もも)
	壺(つぼ)	teibo (ちぼ)	tsibo (ちぼ)	tsubo (つぼ)	tsubo (つぼ)
	鳥(とり)	tori (とり)	tori (とり)	tori (とり)	tori (とり)
	底(そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)
	米(こめ)	kome (こめ)	kome (こめ)	kome (こめ)	kome (こめ)
	五人(ごにん)	gonin (ごにん)	gonin (ごにん)	gonin (ごにん)	gonin (ごにん)

表2 「エ」「イ」に対応する音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
エ	柄(え)	ɛ (え)	e (え)	je (いえ)	e (え)
	海老(えび)	ebi (えび)	ibi (いび)	ebi (えび)	ɛbi (えび)
	襟(えり)	iri~iri (いり)	ɛri~ɛri (えり)	eri (えり)	iri (いり)
	枝(えだ)	eda (えだ)	eda (えだ)	eda (えだ)	eda (えだ)
イ	板(いた)	ɛta (えた)	ita (いた)	ita (いた)	ita (いた)
	井戸(いど)	ɛdo (えど)	enonto (えのんと)	ido (いど)	ido (いど)
	いさり(夜の漁)	ɛsa: (えさー)	isari (いさり)	NR	isari (いさり)
	稲光 (いなびかり)	ɲabika: (いなびかー)	ɲabika: (いなびかー)	inabikari (いなびかり)	inabikari (いなびかり)
	糸(いと)	ito (いと)	ito (いと)	ito (いと)	ito (いと)
	息(いき)	ikɯi (いき)	ikɯi (いき)	iki (いき)	iki (いき)

いつ	itsi (いち)	itsi (いち)	itsi (いち)	ętsi (えち)
鳥賊(いか)	ika (いか)	ika (いか)	ika (いか)	ika (いか)
犬(いぬ)	inu~inu (いの)	ino (いの)	inu (いぬ)	ini (いに)
莓(いちご)	itsigo (いちご)	itsigo (いちご)	iteigo (いちご)	iteiuo (いちご)
石(いし)	isi~jsi (いし)	isi (いし) ~ęsi (えし)	iei (いし)	iei (いし)
刺青 (いれずみ)	iridzumi (いりづみ)	iredzimi (いれじみ)	irezimi (いれじみ)	eredzin (えれぢん)
色(いろ)	iro (いろ)	ıro (いろ)	ıro (いろ)	iro (いろ)
従兄弟(いとこ)	itoko (いとこ)	itoko (いとこ)	ıtoko (いとこ)	itoko (いとこ)
お祝い (おいわい)	iwai~riwai (いわい)	iwaigoto (いわいごと)	oiwae (いわえ)	ęwae goto (えわ えごと)/ęwae (えわえ)
命(いのち)	inotsi (いのち)	inotsi (いのち)	NR	inotei~inotei (い のち)
稲(いね)	ine (いね)	ine (いね)	ine (いね)	ine (いね)
芋(いも)	imo (いも)	imo (いも)	imo (いも)~ emo (えも)	imo (いも)
いるか	iruuka (いるか)	iruuka (いるか)	iruuka (いるか)	iruuka (いるか)
家(いえ)	ie (いえ)	ie (いえ)	ie (いえ)	ie (いえ)
いろり	irori (いろり)	irori (いろり)	irori (いろり)	irori (いろり)
妹(いもうと)	imo:to (いもーと) ~imoto (いもと)	imo:to (いもーと)	NR	imo:to (いもーと)

2.2 長母音

長母音は /a:/, /i:/, /u:/, /e:/ [eː, ɛː], /o:/ の5つである。以下に例をあげる。

表3 長母音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
a:	瓦(かわら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)	ka:ra (かーら)
	俵(たわら)	ta:ra (たーら)	ta:ra (たーら)	ta:ra (たーら)	ta:ra (たーら)
i:	汁(しる)	ei: (しー)	si: (しー)	siru (しる)	siri (しり)~si: (しー)
	かまきり	kamak:i: (かまきー)	kamak:i: (かまきー)	kamakiri (かまきり)	kamakiri (かまきり)
u:	夕食(ゆうめし)	jɔ:han (よーはん)	i:han (いーはん)	ju:han (ゆーはん)	ju:han (ゆーはん)
	食べる	ku: (<う)	ku: (<ー)	ku: (<ー)	ku: (<ー)
	背丈(せたけ)	se: (せー)	ęe: (しえー)	setake (せたけ)	ęe: (しえー)~se (せ)
e:	煙管(きせる)	kįse: (きせー)	kįse: (きせー)~ kįęe: (いしえー)	kęęeru (きしえる)	kiseru (きせる)
	稗(ひえ)	hę: (へー)	ęę: (ふえー)	ęie (ひえ)	ęe: (ふえー)
o:	今日(きょう)	kjo: (きよー)	kjo: (きよー)	kjo: (きよー)	kjo: (きよー)
	煙(けむり)	kemo: (けもー)	kemo: (けもー)	kemuri (けむり) ~kebuuri (けぶり)	kemuri (けむり)
	麴(こうじ)	ko:đi (こーぢ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)

2. 3 二重母音

二重母音には、/ai/, /ae/ [ae, ae, aæ], /ui/, /oi/, /oe/ [oe, oe, oæ] がある。以下に例をあげる。

表4 二重母音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ai,ae	粥(かゆ)	kai (かい)	okae (かえ)	okaju (かゆ)	kai (かい)
	貝(かい)	kaɛ (かえ)	kaɛ (かえ)	kai (かい)	kaɪ (かい)
	灰(はい)	haɛ (はえ)	hae (はえ)	hai (はい)	hai (はい)
	盥(たらい)	taraɛ (たらえ)	tarae (たらえ)	tarai (たらい)	tarai (たらい)
	眉(まゆ)	maɛ (まえ) / maeɛ (まえげ)	maeɛɛ (まえげ)	majuu (まゆ)~ maige (まいげ)	majuuɛ (まゆげ)
	大根(だいこん)	daɛko (だえこ)	daɛko (だえこ)	daikon (だいこん)	daikon (だいこん)
oi,ui	手ぬぐい	tenogoi (てのごい)	tenogoi (てのごい)	tenouɔo (てのご)	tenɔgui (てのぐい)
oi	甥(おい)	oi (おい)	oikko (おいっこ)	oibosi (おいぼし)	oibosi (おいぼし)
	青い(おおい)	aoi (あおい)	aoi (あおい)	aoi (あおい)	aoi (あおい)
ei	姪(めい)	me: (めー) / mei (めい)	meikko(めいっこ)	meikko(めいっこ)	meigo(めいご)
ui,ue	上(うえ)	ui ~ui (うい)	ue ~ue (うえ)	ue (うえ)	ue (うえ)
ui	篩(ふるい)	ɸurui (ふるい)	to:si (とーし)	ɸurui (ふるい)	ɸurui (ふるい)

3 子音

3. 1 両唇音

両唇音には無声閉鎖音の /p/, 有声閉鎖音の /b/, 鼻音の /m/ がある。これらは、それぞれ共通語の /p/, /b/, /m/ に対応している。

表5 両唇音 /p/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
pa	草原(くさはら)	kusappara (くさっぱら)	kusappara (くさっぱら)	no (の) / noppara (のっぱら)	jabu (やぶ)
	たくさん	ippai~ippai (いっぱい)	ippai (いっぱい)	kodakusan (こたくさん)	eppodo (えっぽど) / joke (よけ)
pe	頂上 (ちょうじょう)	teppen (てっぺん)	teɲko (てんこ)	teɲkotsu (てんこつ)	tippin (ていっぴん)
po	尾(お)	si:bo (しーぼ)	si:bo (しーぼ)	o (お) / eippo (しっぽ)	oppo (おっぽ)

表6 両唇音 /b/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ba	夜(よる)	ban (ばん)	ban (ばん)	joru (よる)	joru (よる)
	傍(そば)	soba (そば)	soba (そば)	soba (そば)	soba (そば)
bi	旅(たび)	tabi (たび)	tabi (たび)	rjoko: (りよこー)	tabi (たび)
	帯(おび)	obi (おび)	obi (おび)	obi (おび)	obi (おび)

bu	山羊(やぎ)	buta (ぶた)	buta (ぶた)	buta (ぶた)	buta (ぶた)
	たんこぶ	kobuu (こぶ)	kobuu (こぶ)	taŋkobuu (たんこぶ)	taŋkobuu (たんこぶ)
be	尿(にょう)	eikko (しっこ) / eo:be (しよーべ)	eo:ben (しよーべん)	no: (にょー) / eombe (しよんべ)	eomben (しよんべん)
bo	壺(つぼ)	teibo (ちぼ)	tsibo (ちぼ)	tsubo (つぼ)	tsubo (つぼ)

表7 両唇音 /m/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ma	豆(まめ)	mame (まめ)	mame (まめ)	mame (まめ)	mame (まめ)
	胡麻(ごま)	goma (ごま)	goma (ごま)	goma (ごま)	goma~uoma (ごま)
mi	右(みぎ)	migi~migi (みぎ)	migi (みぎ)	miuqi (みぎ)	migi (みぎ)
	耳(みみ)	mimi (みみ)	mimi (みみ)	mimi (みみ)	mimi (みみ)
	海(うみ)	omi (おみ)	umi ~ ūmi (うみ)	umi (うみ)	umi (うみ)
mu	麦(むぎ)	muug ² i (むぎ)	muug ² i (むぎ)	muugi (むぎ)	muuqi (むぎ)
	寒い(さむい)	samui (さむい)	samui (さむい)	sami: (さみー)	sami (さみ)
me	目(め)	mę (め)	mę (め)	me (め)	mę (め)
	爪(つめ)	tsime (ちめ)	tsime (ちめ)	tsume (つめ)	tsume (つめ)
mo	桃(もも)	momo (もも)	momo (もも)	momo (もも)	momo (もも)
	蜘蛛(くも)	kumo (くも)	kumo (くも)	kumo (くも)	kumo (くも)

3. 2 歯茎音

出雲方言の歯茎音には、閉鎖音(無声)の /t/, 閉鎖音(無声)の /d/, 摩擦音(無声)の /s/, 摩擦音(有声)の /z/, 鼻音の /n/, 弾き音の /r/ がある。

3. 2. 1 歯茎音閉鎖音

/t/, /d/ は共通語の /t/, /d/ に対応している。

表8 歯茎閉鎖音 /t/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ta	種(たね)	tane (たね)	tane (たね)	tane (たね)	tane (たね)
	肩(かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)
te	手(て)	te (て)	te (て)	te (て)	te (て)
	明後日(あさって)	asatte (あさって)	asatte (あさって)	asatte (あさって)	asatte (あさって)
to	鳥(とり)	tori (とり)	tori (とり)	tori (とり)	tori (とり)
	跡(あと)	ato (あと)	ato (あと)	ato (あと)	ato (あと)

表9 歯茎閉鎖音 /d/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
da	だれ	da: (だー)	da: (だー)	da: (だー)	da: (だー)

	枝(えだ)	eda (えだ)	eda (えだ)	eda (えだ)	eda (えだ)
de	おでき	dek ^h imono (できもの)	dek ^h imon (できもん)	dekimono (できもの)	dek ^h imono (できもの)
	百足(むかで)	mukade (むかで)	mukade (むかで)	mukade (むかで)	mukade (むかで)
do	どう	doge (どげ)	doge (どげ)	doge: (どげー)	doge (どげ)

3. 2. 2 歯茎摩擦音

/s/, /z/ は共通語の /s/, /z/ に対応している。/s/ は、母音 /a, o/ の前で [s] , 母音 /i, u, e/ の前で [s] または [ɕ] である。出雲方言では /i/ が中舌性の発音であるため、「シ」と「ス」の区別が曖昧になる。この特徴は特に出雲市斐川町、雲南市木次町で顕著。奥出雲町横田と安来市広瀬町では、[si]~[ɕi] と [su] (表の網掛け部分) で区別される。

表 10 歯茎摩擦音 /s/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
sa	魚(さかな)	sakana (さかな)	sakana (さかな)	sakana (さかな)	sakana (さかな)
	朝(あさ)	asa (あさ)	asama (あさま)	asama (あさま)	asa (あさ)
so	底(そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)
	潮(しお)	so (そ)~sso (っそ)	so (そ)	ɕo (そ)	sio (しお)
se	背中(せなか)	senaka (せなか)	ɕenaka (しえなか)	senaka (せなか) /se (せ)	ɕenaka (しえなか) ~senaka (せなか)
	煙管(きせる)	kjse: (きせー)	kjse: (きせー)~ kice: (きしえー)	kçjeeru (きしえ る)	kiseru (きせる)

表 11 「シ」に対応する音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
シ	白髪(しらが)	ɕiraga (しらが)	ɕiraga (しらが)	ɕiraga (しらが)	ɕirauç~ɕiragɕ (しらげ)
	島(しま)	sima (しま)	ɕima (しま)	ɕima (しま)	ɕima (しま)
	下(した)	sita (した)	ɕita (した)	ɕita (した)	ɕita (した)
	印(しるし)	ɕirici (しるし)	sirusi (しるし)	sirusi (しるし)	ɕiruei (しるし)
	明日(あした)	asita (あした)	acita (あした)	açita (あした)	açita (あした)
	昔(むかし)	mukasi (むかし)	mukasi (むかし)	mukacɕi (むかし)	mukacɕi (むかし)
	足(あし)	aci (あし)	asi (あし)	aci (あし)	aci (あし)
	虫(むし)	mosi (もし)	mosi (もし)	muɕi (むし)	muɕi (むし)
	石(いし)	isi~jisi (いし)	isi (いし)~ɕisi (えし)	ici (いし)	ici (いし)

表 12 「ス」に対応する音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ス	粕(かす)	kacɕi~kasi (かし)	kasi (かし)	kasɕi (かし)	kasɕi (かし)
	裾(すそ)	siso (しそ)	siso (しそ)	ɕiso (しそ)	suuso (すそ)
	好きだ(すきだ)	sjk ^h ida (しきだ)	sjk ^h ida (しきだ)	sikida (しきだ)	suiteo: (すいちよー)
	脛(すね)	sine (しね)	sime (しね)	suune (すね)	muiko:zune

				(むこーずね)
筋(すじ)	sizi (しじ)	sidzi (しぢ)	suɔdzi (すぢ)	sizi (しじ)
雀(すずめ)	sizime̞ (しじめ)	sizime̞ (しじめ)	suɔzume (すずめ)	suɔzume (すずめ)
薄(すすき)	sisikʰi (ししき)	sisikʰi (ししき)	suɔsuki (すすき)	suɔsuki (すすき)

/z/ は異音として [z], [dz], [z̥], [dz̥] を持つ。母音 /a, o/ の前では [z] または [dz] が、母音 /i, u, e/ の前では [z̥], [dz̥], [z̥], [dz̥] が現れる。出雲方言では /i/ が中舌性の発音であるため、「ジ」と「ズ」の区別が曖昧になる(出雲市斐川町, 雲南市木次町で顕著)。以下に例をあげる。

表 13 歯茎摩擦音 /z/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
za	筧(ざる)	dʒaru (ざる)	dʒa: (ざー)	dʒaru (ざる)	dʒaru (ざる)
	莫蔭(ござ)	godʒa (ござ)	goza (ござ)	goza (ござ)	muciro (むしろ)
zo	草履(ぞうり)	zo:ri (ぞーり)	dʒo:ri ~ dʒo:ri (ぞーり)	dʒo:ri (ぞーり) / dʒondʒo (ぞんぞ, 幼児語)	dʒo:ri (ぞーり)
	溝(みぞ)	mizo (みぞ)	mɛʒokko (めぞっこ)	mizɔ (みぞ)	midʒo (みぞ)
ze	膳(ぜん)	dʒen (ぜん)	dʒen (ぢえん)	dʒen (ぢえん)	zen (ぜん)
	風(かぜ)	kaze (かぜ) ~ kaze (かじえ)	kaze (かぜ)	kaze ~ kadze (かぜ)	kadze (かぜ)

表 14 「ジ」に対応する音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
zi	地震(じしん)	zisɪn (じしん)	zisɪn (じしん)	dʒicɪn (ぢしん)	dʒicɪn (ぢしん)
	味(あじ)	adʒi (あぢ)	azi (あじ)	azi (あじ)	azi (あじ)
	蛆(うじ)	ozi (おじ)	ozi (おじ)	uʒi (うじ)	uɔʒi (うぢ)

表 15 「ズ」に対応する音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
zu	水(みず)	mizi (みじ)	mʒi (みじ)	mʒi (みじ)	midʒu (みず)
	蚯蚓 (みみず)	mɛmɛʒi (めめじ)	mʒimʒindʒo (みみんぞ) ~ mʒimʒo (みみぞ)	memeʒi (めめじ)	mimʒidʒu (みみず)
	雀(すずめ)	sizime̞ (しじめ)	sizime̞ (しじめ)	suɔzume (すずめ)	suɔzume (すずめ)

3. 2. 3 破擦音

/c/ は共通語の /c/ に対応している。/c/ は、母音 /a/ の前では [ts] ([ototsan] (お父さん), [ottsan] (おじさん) の2例のみ), 母音 /i, u/ の前では [ts̥] または [tɕ̥] で現れる。/c/ が母音 /e, o/ と結びついた [tse], [tso] のような音は現れない。出雲方言では /i/ が中舌性の発音であるため、「チ」と「ツ」の区別が曖昧である。特に、出雲市斐川町, 雲南市木次町で顕著。調査の範囲では、奥出雲町横田, 安来市広瀬町に関しては「チ」= [tɕi], 「ツ」= [tɕu] (網掛け部分) で現れた。以下に例をあげる。

表 15 硬口蓋破擦音 /c/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ca	お父さん	ototsan (おとつあん)	otosan (おと一さん)	ojazi (おやじ)	ototsan (おとつあん)
	おじさんたち	ottsan (身内以外 のおじさん)	odzisanra (おぢさんら)	ozisantatsi (おじさんたち)	ottsan jatsi (おつつあんやち)

表 16 共通語の「チ」に対応する音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
チ	血(ち)	tsi (ち)	tsi (ち)	tei (ち)	tsi (ち)
	乳(ちち)	tsitsi (ちち)	tsitsi (ちち)	teitei (ちち)	tsitsi (ちち)
	力(ちから)	tsɨkara (ちから)	tsɨkara (ちから)	teikara (ちから)	teikarakobu (ちからこぶ)
	苺(いちご)	itsigo (いちご)	itsigo (いちご)	iteigo (いちご)	iteiuo (いちご)
	蜂(はち)	hatsi (はち)	hatsi (はち)	hatei (はち)	hatei (はち)
	命(いのち)	inotsi (いのち)	motsi (いのち)	NR	inotei~inotei (いのち)
	道(みち)	mɨtsi (みち) ~metsi (めち)	mitsi (みち)	mitei (みち)	mitei (みち)
	口(くち)	kɸɨtsi~kɨtsi (くち)	kɨtei (くち)	kɨtei (くち)	kɨtei (くち)
	内(うち)	utsi (うち)	utei (うち)	urtsi~utei (うち)	utei (うち)
	餅(もち)	motei (もち)	motsi (もち)	motsi (もち)	motsi (もち)

表 17 共通語の「つ」に対応する音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ツ	一つ(ひとつ)	ɸɨtotsi (ふとち)	ɸɨtotsi (ふとち)	ɸito:tsi (ふいと一ち)	ɸɨtotsi (ふとち)
	二つ(ふたつ)	ɸɨtatsi (ふたち)	ɸɨta:tsi (ふた一ち)	ɸuta:tsi (ふた一ち)	ɸɨta:tsi (ふた一ち)
	月(つき)	tsik ^s i (ちき)	otsikisan (おちきさん)	tsɨki (つき)	tsuk ^s i (つき)
	壺(つぼ)	teibo (ちぼ)	tsibo (ちぼ)	tsubo (つぼ)	tsubo (つぼ)
	粒(つぶ)	teibi~tsibi (ち び)	tsibi (ちび)	tsubu (つぶ)	tsibu (ちぶ)
	爪(つめ)	tsime (ちめ)	tsime (ちめ)	tsume (つめ)	tsume (つめ)
	露(つゆ)	tsiju (ちゆ)	tsiju (ちゆ)	tsujju (つゆ)	tsujju (つゆ)
	面(つら)	tsira (ちら)	tsira (ちら)	tsura (つら)	tsura (つら)
	夏(なつ)	natsi (なち)	natsi (なち)	natei (なち)	natsu (なつ)
	松(まつ)	matsi (まち)	matsi (まち)	matsɨ (まつ)	matsu (まつ)
	鯉(かつお)	katsio (かちお)	katsio (かちお)	katsuo (かつお)	katsuo (かつお)

3. 2. 4 歯茎鼻音

歯茎鼻音の /n/ は、共通語の /n/ に対応している。母音 /a, u, e, o/ の前では [n]、母音 [i] の前では硬口蓋音の [ɲ] で発音される。

表 18 歯茎鼻音 /n/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
na	涙(なみだ)	nanda (なんだ)	nanda (なんだ)	namida (なみだ)	namida (なみだ)
	鼻(はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)
ni	荷(に)	ni (に) / nimotsi (にもち)	ni (に)	ni (に)	ni (に)
	庭(にわ)	niwa (にわ)	niwa (にわ)	niwa (にわ)	niwa (にわ)
nu	糠(ぬか)	nika (にか)	neka (ねか)	nuka (ぬか)	nuka (ぬか)
ne	根(ね)	ne (ね)	ne (ね)	ne (ね)	nekkō (ねっこ)
	種(たね)	tane (たね)	tane (たね)	tane (たね)	tane (たね)
no	蚤(のみ)	nomi (のみ)	nomi (のみ)	nomi (のみ)	nomi (のみ)
	物(もの)	mono (もの)	mon (もん)	mono (もの)	mono (もの)

3. 2. 5 歯茎はじき音

歯茎はじき音の /r/ は、共通語の /r/ に対応している。

表 19 歯茎はじき音 /r/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ra	来年(らいねん)	rainen (らいねん)~ raenen (らえねん)	ræ:nen (れーねん)	rainen (らいねん)	rainen (らいねん)
	皿(さら)	sara (さら)	sara (さら)	sara (さら)	sara (さら)
ri	襟(えり)	iri~iri (いり)	eri~eri (えり)	eri (えり)	iri (いり)
	踊り(おどり)	odori (おどり) / odo:sa (おどーさ)	odori (おどり)	odori (おどり)	odo: (おどー)
	埃(ほこり)	hoko: (ほこり)	hoko: (ほこー)	hokori (ほこり)	hokori (ほこり)
	隣(となり)	tonari (となり)~ tona: (となー)	tona: (となー)	tonari (となり)~ tona: (となー)	tonari (となり)
ru	箸(ざる)	dzaru (ざる)	dza: (ざー)	dzaru (ざる)	dzaru (ざる)
	昼(ひる)	çiruu (ひる)	çiru (ひる)	hiruma (ひるま)	çiruu (ひる)
	汁(しる)	ei: (しー)	si: (しー)	siru (しる)	siri (しり)~ si: (しー)
	煙管(きせる)	kjse: (きせー)	kjse: (きせー)~ kjçe: (きしえー)	kçjeeru (きしえる)	kiseru (きせる)
re	これ	kore (これ) / ko: (こー)	ko: (こー)	ko: (こー)	ko: (こー)
ro	色(いろ)	iro (いろ)	iro (いろ)	iro (いろ)	iro (いろ)

3. 4 軟口蓋音

軟口蓋音には、無声閉鎖音の /k/ と有声閉鎖音の /g/ がある。/k/ は母音 /i/ の前では呼気を伴う [kʰ], [kʰ] で発音される。また、/g/ は母音 /i/ の前では [gʰi] のように発音される。この特徴は、出雲市斐川町、雲南市木次町で特に顕著である。以下に例をあげる。

表 20 軟口蓋音 /k/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ka	肩(かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)
	垢(あか)	aka (あか)	aka (あか)	aka (あか)	aka (あか)
ki	肝(きも)	k ^s imo (きも)	k ^s imo (きも)	kimo (きも)	kimo~k ^h imo (きも)
	北(きた)	k ^s ita (きた)	kita (きた)	kita (きた)	k ^ɰ ita (きた)
	時(とき)	toki~tok ^s i (とき)	toki (とき)	toki~tok ^h i (とき)	toki (とき)
ku	雲(くも)	kumo (くも)	kumo (くも)	kimo (くも)	kumo (くも)
	草(くさ)	k(ɸ)u ^s a (くさ)	ku ^s a (くさ)	ku ^s a (くさ)	ku ^s a (くさ)
	ほくろ	hokɸuro (ほくろ) ~hoku (ほくろ)	ɸukuro (ほくろ)	hokuro (ほくろ)	hok ^h uro (ほくろ)
ke	毛(け)	kɛ (け)	kɛ (け)	ke (け)	kɛ~ke (け)
	酒(さけ)	sake (さけ)	sake (さけ)	sake (さけ)	sake (さけ)
ko	子(こ)	ko (こ)	ko (こ)	ko (こ)	ko (こ)
	米(こめ)	kome (こめ)	kome (こめ)	kome (こめ)	kome (こめ)
	底(そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)	soko (そこ)

表 21 軟口蓋音 /g/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ga	東(ひがし)	ɸugasi (ひがし)	ɕigaei~ɕigasi (ひがし)	hiu ^s aei (ひがし)	ɕigaei (ひがし)
	鏡(かがみ)	kagami (かがみ)	kagami (かがみ)	kagami (かがみ)	kagami (かがみ)
gi	麦(むぎ)	mu ^s g ⁱ (むぎ)	mu ^s g ⁱ (むぎ)	mu ^s gi (むぎ)	muu ^s gi (むぎ)
	兎(うさぎ)	osag ⁱ (おさぎ)	usag ⁱ (うさぎ)	usagi (うさぎ)	usau ^s gi (うさぎ)
	右(みぎ)	migi~migi (みぎ)	migi (みぎ)	miu ^s gi (みぎ)	migi (みぎ)
gu	歯茎(はぐき)	hagu ^s k ⁱ (はぐき)	hagu ^s k ⁱ (はぐき)	hagu ^s ki (はぐき)	han ^s ki (はんき)~ hau ^s uki (はぐき)
ge	棘(とげ)	toge (とげ)	toge (とげ)	toge (とげ)	to ^s ge (とげ)
go	五人(ごにん)	gonin (ごにん)	gonin (ごにん)	gonin (ごにん)	gonin (ごにん)
	孫(まご)	mago (まご)	mago (まご)	mago (まご)	mago (まご)

3. 5 声門音

声門音には、摩擦音(無声)の /h/ がある。/h/ は、母音 /a,e,o/ の前では [h], 母音 /i/ の前では口蓋音の [ç], 母音 /u/ の前では両唇音の [ɸ] で発音される。また, /i/, /e/ の前でも [ɸ] に発音されることがある(網掛け部分)。

表 22 声門音 /h/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ha	鼻(はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)
hi	火(ひ)	ɸu (ひ)	çi (ひ)	hi (ひ)	çi (ひ)
	肘(ひじ)	çi.zi (ひじ)~	heçzikko (へぢっこ)~	çidzi (ひぢ)	hizi~çizi (ひじ)

		φi:zi (ふいじ)	φeɟzikko (ふえぢっこ)		
	昼(ひる)	çiru (ひる)	çiru (ひる)	hiruma (ひるま)	çiru (ひる)
	人(ひと)	φito (ふいと)	çito (ひと)	çito (ひと)	φuto (ふと)
hu	冬(ふゆ)	φuju (ふゆ)	φuju (ふゆ)	φujɯ (ふゆ)	φujɯ (ふゆ)
	雲脂(ふけ)	φuke (ふけ)	φuke (ふけ)	φuke (ふけ)	φuke (ふけ)
he	屁(へ)	φe (ふえ)	he (へ)~φe (ふえ)	he (へ)	he (へ)
	臍(へそ)	heso (へそ)	heso (へそ)~ φeso (ふえそ)	heso (へそ)	heso (へそ)
ho	星(ほし)	hosi (ほし)	hosi (ほし)	hoçi~hoçi (ほし)	hoçi (ほし)
	骨(ほね)	hone (ほね)	hone (ほね)	hone (ほね)	hone (ほね)

3. 6 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。

3. 6. 1 接近音 /j/

/j/ は硬口蓋の接近音で、共通語の /j/ に対応する。母音 /a, u, o/ の前に立つ。

表 23 接近音 /j/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
ja	山(やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)
	親(おや)	oja (おや)	oja (おや)	oja (おや)	oja (おや)
ju	湯(ゆ)	ji (ゆ)	i (い)	ju (ゆー)	ji (ゆ)
	夢(ゆめ)	jimi (ゆみ)	jume (ゆめ)	jume (ゆめ)	jumi (ゆみ)
	露(つゆ)	tsiju (ちゆ)	tsiju (ちゆ)	tsujju (つゆ)	tsujju (つゆ)
jo	涎(よだれ)	jodare (よだれ)	jodare (よだれ)	jodare (よだれ)	gobozi (ごぼじ)
	暦(こよみ)	kojomi (こよみ)	kojomj (こよみ)	kojomi (こよみ)	kojomj (こよみ)

/j/ はまた、子音の後ろに続いて、口蓋化した子音を作る。調査語の範囲では、次のような口蓋化子音が現れた。

表 24 口蓋化子音

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
pjo	鶉(うずら)	pjoppjodo: (ぴよっぴよどー)	uzira (うじら)	uzura (うずら)	uɟzura (うづら)
bja	飛べば	tobja (とびゃ)	tobja (とびゃ)		
bjo	病気(びょうき)	bjo:kʲi (びょーき)	bjo:kʲi (びょーき) / jamae (やまえ)	bjo:ki (びょーき) / etaei: (えたしー)	itasi (いたし)
mja	飲めば	nomja (のみゃ)	nomja (のみゃ)	nomja: (のみゃー)	nomja: (のみゃー)
mjo	夫婦(ふうふ)	φu:φu (ふーふ)	φu:φu (ふーふ)	mjo:to (みよーと)	mjo:to (みよーと)
rjo	料理(りょうり)	rjo:ri (りょーり)	rjo:ri (りょーり)	rjo:ri (りょーり)	rjo:ri (りょーり)
njo	昨日(きのう)	kʲijnno: (きんによー)	keino: (きのー)	kʲijnno: (きんによー)	kʲijnno: (きんによー)

njo	尿(にょう)	eikko (しっこ) / eo:be (しよーべ)	eo:ben (しよーべん)	no: (にょー) / eombe (しよんべ)	eomben (しよんべん)
sja	明明後日 (しあさって)	eijasatte (しあさって)	ea:catte (しやーさって)	ea:satte (しやーさって)	eijasatte(しやさっ て)
	ひしゃく	ɸɕaku (ふしゃく)	ɕeaku (つしゃく)	ɕeaku (つしゃく)	ɕeaku (つしゃく)
sjo	塩(しお)	sso (つそ)	so (そ)	eo: (しよー)~ so: (そー)	ɕeo (つしよ)
	急須・鉄瓶 (きゅうす)	kɕibieo (きびしよ)	kɕibieo (きびしよ)	kɕibieo (きびしよ)	kibieo (きびしよ)
zja				miza: (みじやー 水は)	endzatta (えんぢや った 戻った)
zju	饅頭(まんじゅう)	manzu: (まんじゅー)		mandzu: (まんぢゅー)	
zjo	天井(てんじょう)	tendzo (てんぢょ)	tendzo (てんじょ)	tendzo: (てんぢょー)	tɕenzo: (てんじょー)
	長女(ちようじょ)	teo:dzo (ちよーぢょ)	teo:dzosan (ちよーぢょさん)	teo:zo (ちよーじょ)	teo:dzo (ちよーぢょ)
cja	茶碗(ちやわん)	teawan (ちやわん)	teawan (ちやわん)	teawan (ちやわん)	teawan (ちやわん)
cjo	少し(+指小辞)	teombosi (ちよんぼし)	teombosi (ちよんぼし)	teombosi (ちよんぼし)	teombosi (ちよん ぼし) / teokkosi (ち よっこし)
nja	山には			jamana: (やまにやー)	jamana: (やまにやー)
njo	昨日(きのう)	kijnno: (きんにょー)	kijnno: (きんにょ)	kijnno: (きんにょー)	kijnno: (きんにょー)
rja	あれは			arja: (ありやー)	arja: (ありやー)
kja	大きな	okkjan (おっきやん)	o:kjan (おーきやん)		
kju	九男(くなん)	kju:nan (きゅーなん)	NR	kju:nan (きゅーなん)	kju:nan (きゅーなん)
	胡瓜(きゅうり)	kʰi:ɾi (きーり)	kʰi:ɾi (きーり)	kju:ri (きゅーり) ~ki:ri (きーり)	kju:ri (きゅーり)
kjo	今日(きょう)	kjo: (きょー)	kjo: (きょー)	kjo: (きょー)	kjo: (きょー)
	去年(きよねん)	kjonɛn (きよねん)	kjonɛn (きよねん)	kjonɛn (きよねん)	kjonɛn (きよねん)

3. 6. 2 接近音 /w/

/w/ は両唇の接近音で、共通語の /w/ に対応する。/w/ は母音 /a/ の前にしか立たない。また、/k/ の後ろに続いて、唇音化した子音 /kʷ/ を作る。

表 25 接近音 /w/

	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
wa	藁(わら)	wara (わら)	wara (わら)	wara (わら)	wara (わら)
	椀(わん)	wan (わん)	wan (わん)	siruwan (わん)	wan (わん)
	川(かわ)	kawa (かわ)	kawa (かわ)	kawa (かわ)	kawa (かわ)
kʷa	鋏(くわ)	kʷa (くわ)	kʷa (くわ)	kʷa: (くわー)	kuwa (くわ)

3. 7 特殊音

特殊音には、撥音 /N/ (ん) と促音 /Q/ (っ) がある。これらは母音を伴わずに1つの拍を作

る。撥音は鼻にかかる音で、後ろに両唇音の [p], [b], [m] があるときには両唇の鼻音 [m] に、歯茎音の [t], [d], [n] があるときには歯茎の鼻音 [n] に、軟口蓋音の [k], [g] があるときには軟口蓋の鼻音 [ŋ] に、後ろに摩擦音の /s/, 母音 /a, i, u/ があるとき、および語末では、口のどこも閉じない鼻音 [N] になる。

表 26 撥音

N	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
m	蜻蛉(とんぼ)	tombo (とんぼ)	tombo (とんぼ)	tombo (とんぼ)	tombo (とんぼ)
n	雷(かみなり)	kanna: (かんなー)	kannasan (かんなさん)	kanna:(かんなー) / kanna:san (かんなさん)	kaminari (かみなり)
	大蒜(にんにく)	ninniku (にんにく)	ninniku (にんにく)	pinpiku (にんにく)	pinpiku~ninniku (にんにく)
ŋ	夕方(ゆうがた)	banjata (ばんかた)	banjata (ばんかた)	jombegata (よんべがた)	banje (ばんげ)
	喧嘩(けんか)	kinka (きんか) / i:jao (いーやお)	kenka (けんか)	kenk ^w a (けんくわ)	k ^w en ^w a (くえんくわ)
	頂上(ちょうじょう)	teppen (てっぺん)	tenko (てんこ)	tenkotsu (てんこつ)	tippin (てびん)
N	椀(わん)	wan (わん)	wan (わん)	siruwān (わん)	wan (わん)
	大根(だいこん)	daeko (だいこん)	daeko (だいこ)	daikon (だいこん)	daikon (だいこん)
	蜜柑(みかん)	mikan (みかん)	mikan (みかん)	mikan (みかん)	mikan (みかん)

促音は子音を重ねる発音で、調査の範囲では、[pp], [tt], [kk], [ss], [ɕɕ] の促音が現れた。

表 27 促音

Q	語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
pp	頂上(ちょうじょう)	teppen (てっぺん)	tenko (てんこ)	tenkotsu (てんこつ)	tippin (てびん)
	草原(くさはら)	kusappara (くさっぱら)	kusappara (くさっぱら)	noppara (のっぱら)	jabuu (やぶ)
tt	ぼった	batta (ぼった)	NR	batta (ぼった)	batta (ぼった)
	明後日(あさって)	asatte (あさって)	asatte (あさって)	asatte (あさって)	asatte (あさって)
kk	末っ子(すえっこ)	suekko (すえっこ) ~ euekko (しゅえっこ)	otogo (おとご) / suekko (すえっこ)	otombo (おとんぼ)	otogo (おとご)
ss	筵(むしろ)	mosso (もっそ)	mosso (もっそ)	musiro (むしろ)	mueiro (むしろ)
ɕɕ	いっしょ	ieeo (いっしょ)	ieeo (いっしょ)	ieeo (いっしょ)	

4 音素目録

以上の音素の一覧をあげておく。

(1) 母音音素

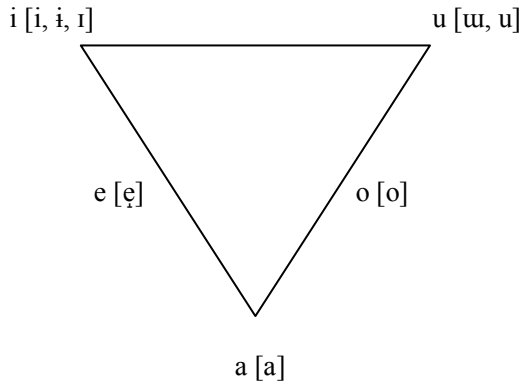


図1 短母音音素

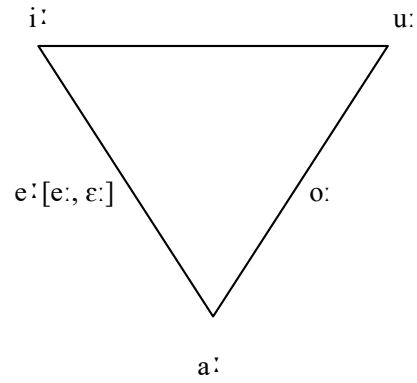


図2 長母音音素

(2) 子音音素

表27 子音音素

調音方法		両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂	無声	p	t		k	
	有声	b	d		g	
鼻音		m	n [n~ɲ]			
摩擦	無声		s [s~ç]			h [h~ç~ϕ]
	有声		z [z~dz~z~dz]			
はじき			r			
破擦	無声			c [tʰ~tɕ]		
	有声					
接近		w		j		

(3) 特殊音

撥音 N [N~m~n~ŋ]

促音 Q [pp, tt, kk, ss, εε]

5 音節

出雲方言の音節の構造は, (O) (G) N (Co) である。(Oは onset (頭子音), Gは glide (わたり音), Nは nucleus (中核母音), Coは coda (結び) を, () は任意であることを表す。)

音節の必須の要素は「中核母音」で, これに「頭子音」, 「わたり音」, 「結び」がついて, 1つ

の音節を作る。以下に音節構造と音節の例をあげておこう。

表 28 音節構造

O (頭子音)	G (わたり音)	N (中核母音)	Co (結び)
p, b, m	w j	a, i, u, e, o	N
t, d, s, n, r		a:, i:, u:, e:, o:	Q
c		ai, ae, ui, oi	
k, g			
h			

参考文献

- 糸原正徳・友定賢治 (1991) 「出雲方言概説」 『地域文化資料叢刊 5 奥出雲のことば』
溪水社, pp.1-15.
- 神部宏泰 (1982) 「島根県の方言」 『講座方言学 8』 国書刊行会, pp.211-238.
- 友定賢治編 (2004) 『湖西振興機構受託研究報告書 出雲方言資料』
- 前川喜久雄 (1984) 「母音の合一と混同の理論 津軽, 出雲方言を例として」 『計量国語学』 14-04
- 友定賢治 (2007) 「特集; 方言と方言研究の現況—— 方言の現況点描中国方言(雲伯)」 『国文学 解釈と鑑賞』 (至文堂) 72-07

出雲方言アクセント調査報告

上野 善道*

1 出雲方言のアクセント調査

1. 1 調査と報告書作成の概要

2014年8月に国立国語研究所時空間変異研究系共同研究プロジェクト「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（プロジェクトリーダー木部暢子）が4地点で行なった島根県出雲方言調査のうち、アクセント班が担当した部分を本稿で報告する。具体的には、調査をした4地点のすべてのアクセントデータを提示することと、その中の興味深い現象を取り上げてその概要を述べることを目的とする。

調査の情報を(1)に掲げる。ご教示下さった話者の方々に厚く御礼を申し上げます。

(1) 調査情報

地点	話者	調査者
出雲市斐川（ひかわ）町荘原	福間花子氏	上野・松倉昂平・伊藤芳樹
雲南市木次（きすき）町東日登	土江和良氏	上野・松倉昂平・伊藤芳樹
仁多（にた）郡奥出雲町横田	小林弘則氏	上野・新田哲夫・中澤光平・伊藤芳樹
安来（やすぎ）市広瀬町上山佐	須藤幸義氏	上野・新田哲夫・高山林太郎

調査表は国立国語研究所当該チームの担当者が作成したものをを用いた。調査に際して一部のみ変更し（「寺」と「寺参り、寺子屋」を「川」と「川岸、川下だり、川魚」に）、「青、黒、白」の色彩語彙に「赤」も追加した。さらに音調型の可能性を探るために3～4拍語約25語を別途追加した。2拍の関連語彙を聞いた箇所もある。

調査後に、松倉、伊藤、中澤、高山がそれぞれの担当者となって（適宜、調査者間で打ち合わせしながら）調査表に音調を記入した手書き清書版をまとめた。それを受け取った後の一連の作業は上野が行なった。まず、その清書版と自らの調査表を元にしながら、すべての録音を一通り聞き直した。それと併行しながら、出雲市と雲南市だけであったが、いくつかの項目について電話で確認をした。その際に若干の補充調査もし、特に出雲市では金田一語彙の2拍名詞第4類と第5類を一通り聞くことができた。その結果も含めて全データを入力した（「川」関連と「赤」については調査表ファイルの中に組み込み、それ以外の追加項目は別枠で報告することにした）。その上で出てきた疑問点は、録音があるものについて再度聞き直しを行なった（電話で聞いた部分の録音はない）。こうしてでき上がった資料に基づいて本稿を執筆するとともに、その資料を本稿の中に組み入れた。アクセント解釈の結論は上野（1981;2009）で述べたことと基本的に変わらないが、いくつかの補足をする。

今回の報告の経緯は以上のとおりで、調査者全員の共同調査報告であるが、文責は上野にある。

* うわの ぜんどう：東京大学名誉教授

1. 2 表記

音調は(2)の方向カギ式で示す。現実の発話には半上昇もあつたりするが、(2)の範囲で処理をした。第2文節以降において上昇がある発話とない発話が出た場合は、併記の他に、紙幅に応じて〔〕のようにまとめて示した。

(2) 音調記号

- [: 上昇
-] : 下降
-]] : 拍内下降 (下降調)

分節音は表音式「カタカナ」表記で示すが、「ひらがな」に(3)の特別な意味をもたせて用いる。

(3) 平仮名表記の意味

え段音: 広いエ (アイ, アエに由来)。「めーカケ」(前掛け), 「けータ」(書いた)等。
通常のエ (狭いエ) はカタカナ表記。「メ」(目), 「ムネ」(胸)等。

い段音, う段音: 母音の無声化拍。CVのCが無声子音でVが i/u であれば, 直後の子音が有声音であっても無声化する。「モチゴメ」(もち米)など。この「ち」は気音が強く出て, かつ, 無声化拍の直前の母音が長めになる。「イチゴ」(苺)の例ではイを長母音かと思ったほどである。この無声化は標準語にないだけでなく, 上昇位置に関与しうる特徴なので, それに関わる場合は明示する。ただし, 「ナデシコ」の「シ」など標準語と同じ無声化例はもとより, 「カンザシガ」(簪が)の「シ」など有声音の直前で無声化しても音調に影響を与えない例は, 片仮名のままとしたものも多い。従って, 平仮名は必ず無声化していることを表わすが, 片仮名は無声化していないことを意味するとは限らない。

また, 音韻的に別の形になっている方言形はできるだけ取り上げる(カタカナ表記)。ラ行音, 特に「リ, ル」は長音「ー」によく変わり(「ケモー」煙, 「クチビー」唇など), それが表面音調に影響を与えることがある。語頭の「イ」には「エ」が(「エモ」芋など), 「ウ」には「オ」が(「オタ」歌など)に対応することがある(一部は語頭以外でもウ段音にオ段音が対応する)。現在ではほとんど使われなくなっているようであるが, その形が確認できたものについては該当項目のところに注記した。元々の調査表にあった「兎(ウサギ)」の下に「オサギ」として()に入れずに示したものがそれである(言い切りの「。」は略)。なお, 「海」のウ[ミ]]と[ウ]ミのように, 語形は同じでアクセントの併用がある場合も同じやり方で示した。

その他の音声上の特徴は特に仮名の上に反映させることはしないが, 以下の点に留意されたい。エ段音の「セ, ゼ」は, 地域(話者)により単語により程度は異なるものの, シェ, ジェに近くなる。イ段音は中舌音で, (少なくとも出雲市の)「キ, ギ」は [kʲi], [gʲi] である。「シとス」, 「チとツ」は母音が同じ [i] で区別がないと見られるが, 一方に統一することはせずに, 表記は元のままとした。なお, 母音の中舌化は東北方言に類似するも, 鼻濁音はなく, 母音間の子音有聲化もない。

以下, (1)の順に出雲市斐川方言から取り上げる。調査の日付け順とは正反対になっているが,

敢えてこうしたのは、斐川方言の音調に興味深い現象があり、これを解釈すれば他方言もほぼ自動的にそのアクセント解釈に繋がると考えられるからである。

2 出雲市斐川方言

2.1 イントネーション

この方言には、他の3地点では見られなかった独特の言い切りイントネーションがある。その機能の解明は今後に俟たなければならないが、断定していることを一つ一つはっきり相手に伝えているように感じられる。後続文節に接続する環境では出ず、言い切りでも早めに列挙する感じで読み上げる場合には出にくいように観察された。その音調は顕著な下降調で、文節末（語末を含む）に現われ、かつ母音が長めになって最後は緩んだ中央母音のシュワーに移りながら終わる。仮名表記では、(4)のように小字の「ア」を付けることにする。なお、(4a)と(4b)との違いは、後述する名詞の有核、有核の違いに当たる。この音調は核の有無とは無関係に出てくる。

(4) 下降調イントネーションの例

- a. カ[ゼア]]. (風), ミ[ナトア]]. (港), ア[ズキニア]]. (小豆に), ミ[ナトマデア]]. (港まで), ト[モダチカラモア]]. (友達からも) など。
- b. ア[メア]]. (雨), オ[トコア]]. (男), ハ[サミア]]. (鉄に), [カ]ブトマデア]]. (兜まで), ナ[デ]シコカラモア]]. (撫子からも) など。

「ボー」(棒)などの語末長母音語でも[ボア]]となり、全体で長母音相当の長さになる。短母音語の「戸」の[トア]]もほぼ同じ長さのように聞こえるが、助詞付き形では[ボーニア]](棒に), ト[ニア]](戸に)のように長短の別は明瞭に出る。(話者の内省では、単独でも長さが違うという。)

稿末に掲げる資料においては、音調面の]] だけを表示し、分節音の「ア」は省略した。それに伴って、「棒」は[ボー]]ではなく、[ボ]ーと表記する(実際の音調もこう聞こえる)。このイントネーションがはっきり出たものは漏れなく資料にも記すように心掛けたが、微弱なケースもあり、無表記の項目にもいろいろの程度に現われている可能性がある。また、実際に現われていなくても、イントネーションの性質上、それを付けた発話は可能であり得る。無表記の項目は、このことを頭に置きながら読む必要がある。

2.2 イントネーションとアクセントの関係

この下降調はあくまでもイントネーションによるもので、アクセントとしての下げ核の存在を意味するものではない。アクセント特徴はそれとは別に存在する。(5)を参照されたい。語末拍がCe/o/aの広母音(厳密には非狭母音)の単語を先に取り上げる。

(5) 無核型と有核型の違い(語末広母音語)

- a. カ[ゼ]]. カ[ゼガ]]. カ[ゼカラ]]. カ[ゼマデモ]]. カ[ゼガア]ー。 (風がある)
- b. コ[メ]]. コ[メ]ガ。 コ[メ]カラ。 コ[メ]マデモ。 コ[メ]ガ([]ア)ー。(米がある)

「風」は、単語単独で文節をなすときは]] は語末に来るが、助詞が付くと文節末に移動し、別文節が続いて言い切りの環境でなくなると「風」の文節に下降は現われなくなってしまう。従

って、単語としての「風」は下降を持たず、言い切りの文節末にこのイントネーションが被さった結果が(5a)であると解される。

一方、「米」の方は、単語単独のみならず、助詞付き文節でも、そして別文節が続いても一貫してメの後に下降を持つ。「米」のアクセントはメに「下げ核」をもつ/コメ]/である。

下げ核の後から文節末までの距離が長いほどこの下降調イントネーションは現われやすい。その距離が短いと現われにくくなるが、その場合でも ア[メ]ニ]].(雨に), ア[メ]マデ]].(雨まで)と出ることがある(「雨」は「米」と同じアクセント)。また、下げ核からの距離が同じ2拍分であっても「から」よりも「まで」の方により多く記録してあるのは、おそらく格助詞と副助詞の性格の違いで「まで」の方がより感情が入りやすく、イントネーションを被せやすいからであろう。

2.3 アクセント体系

核の位置の認定には、もう一つ、狭母音拍に終わる単語の場合も扱う必要がある。そこでは(5)と違った振る舞いが見られる。(6)の「紙」と「耳」の例を参照。

(6) 無核型と有核型の違い(語末狭母音語)

- a. カ[ミ]]. カミ[ガ]]. カミ[カラ]]. カミ[マデモ]]. カミ[ガア]ー。(紙がある)
- b. ミ[ミ]]. ミミ[ガ]]. ミミ[カラ]. ミミ[マ]デモ. ミミ[ガ]ア]ー。(耳がある)

ここでは1拍助詞を付けただけでは区別が出ないが、2拍以上の助詞(連続)を付けるか、別文節を続けると、両者の区別がはっきり現われる。(6a)の]] は言い切り形の文節末に出るのに対して、(6b)では単独では語末(2番目のミ)、助詞付きではその直後の3拍目の後に一貫して下降が見られる。後者の下降は、やはり単語のアクセントであるが、それが「狭母音拍」にある場合はその位置が固定しておらず、後続の普通拍があればそこにずれることが分かる。後述のように、狭母音拍は十分な強さを持っておらず、直後に強い拍が続くと、それに肩代わりをしてもらう形である。(5)と(6)の上昇位置の違いに関しては2.5で後述。)

無核型と語末核型との区別は、語末非狭母音語では1拍助詞を付けるだけで分かるが(ただし「の」については揺れがある)、語末狭母音語の場合は「から」など2拍以上の助詞を付ける必要がある。まとめると、2拍助詞を付ければ名詞のアクセントが判定できることになる。

狭母音拍と並ぶ今一つの制約は、末位の「特殊拍」が単独では高い音調を担えないことで、それは(7)の対から分かる。それぞれの右側が古い方言形、左側がその元の形(同時に、現在の標準語形)である。(7a)(7b)の各対の音調を比べると、普通拍では高い音調(下降調)を担っていたものが、特殊拍に転ずると低くなっている。(7c)の場合は、もともと末位拍が下がっていたので、特殊拍に転じても交替は起こっていない。

(7) 特殊拍の音調

- a. カミ[ナリ]]. と カン[ナ]ー。(雷)
- b. ア[メフリ]]. と ア[メフ]ー。(雨降り)
- c. ミ[ソシ]ル. と ミ[ソシ]ー。(味噌汁)

ただし、このことは特殊拍が下げ核を担えないことを意味するとは限らない。(8)の区別がある。

(8) 特殊拍と核

- a. カン[ナ]ー。 カン[ナーガ]]。 カン[ナーカラ]]。 カン[ナーマデモ]]。
- b. ア[メフ]ー。 ア[メフーガ]]。 ア[メフーカラ]]。 ア[メフーマ]デモ。
- c. ミ[ソシ]ー。 ミ[ソシーガ]]。 ミ[ソシーカラ]]。 ミ[ソシーマデモ]]。

これから、(8a)は無核型、(8b)は語末核型(④型、-①型)、(8c)は次末核型(③型、-②型)であり、(8b)において長音「ー」が核を担っていることになる。ただし、その核はそのままの位置で下降を実現させることはできず、助詞が後続する場合は狭母音拍の場合と同様に1拍後ろにずれ、後続拍のない末位(単独形)においては逆に1拍前にずれて実現する。(7)で見たように、末位における前へのずれは、無核型に言い切りイントネーションが被さった場合でも同様に起こる。末位の「ー」は、アクセントにしるイントネーションにしる、下降を担えないためである。

私は音実質に基づく表層音韻論の立場を取っているが、本節で見た広母音拍、狭母音拍、特殊拍の実現の違いは相補分布をなしており、かつ移動の音声学的な理由もあるので、この立場においてもこれらは音韻レベルで同一のもので、広母音拍に代表される位置に核があるものと解釈する。

まとめると、出雲市斐川方言は下げ核の有無と位置で弁別される $P_n = n+1$ の多型アクセント体系で、同じ出雲の松江市方言と同じである。その核の位置を語頭から数えた数字(無核は0)で本節末の資料の中に書き込んでおく。2拍名詞の資料(1)(2)については書き入れる余白がなかったが、その音調型から、また資料(7)と(8)から、容易に分かるはずである。

2.4 上昇位置

上昇の位置については、広戸・大原(1953: 68-73)と上野(1981;2009)にすでに松江市方言の記述がある。それが出雲市方言にも当てはまる。具体的には(9)のようになる。ここに、Wは広母音拍(非狭母音拍)、Nは狭母音拍、Mは促音を除く特殊拍、Qは促音拍、△は無声化拍で、○は(単語の配列制限に従う範囲での)任意拍を表わし、核を含む下降の位置は問題にしていない(以下も同様)。上野(2009:80)で述べたように、この分布には2拍目の「弱」(9b)、「最弱」(9c)が絡む。(なお、これらの歴史的な説明も上野2009を参照。)狭母音拍は直後に来る拍の性質によって相対的な強さが異なる。

(9) 上昇位置

- a. ○[WO], ○[NN], ○[NM] 2拍目から
- b. [OMO] 1拍目から
- c. ○N[W], ○Q[○], ○△[○] 3拍目から

ただし、○[NN]でも、名詞単独ではケ[ムリ(煙)、ア[ズキ(小豆)であるのに対して、助詞付き文節ではエビ[ニ(海老に)、カミ[ニ(紙に)で異なっている。これは、「ニ」が助詞で独立性が強いために、それが狭母音拍であっても語中のものとは異なって「非弱」とみなされた結果、それと隣合う名詞語末狭母音拍の方は相対的に弱いものと扱われることによる。

2拍単位の場合は、(9)の語頭2拍を抜き出したパターンになる。○Nは、そもそも直後に何もなく(強い拍も当然ない)、弱くないものとして扱われて、(1拍目にアクセント核が来ない限り)○[Nとなる。この方言には上昇のない型は存在しえない。

4拍以上はほとんどが(9)の最初の3拍で決まるが、(9c)の促音拍、無声化拍の直後にNWが

続く場合は、(10)のように4拍目、5拍目と上昇位置が後退する。この環境でもNは無声化しているので、詳しく言うと(10)の右側は ○△△[W, ○Q△[W, ○M△△[W である可能性が高い。

(10) 4拍目以降の上昇位置の環境

- a. ○△[N ザし[キ。 ○△N[W ザしき[ガ。 (座敷)
- b. ○Q[N ヨッ[ツ。 ○QN[W ヨッつ[ガ。 (四つ)
- c. ○M△[N ワーク[チ。 ○M△N[W ワークち[ガ。 (悪口)

ここでむしろ問題になるのは、(10c)の ワーク[チ、あるいは(8a)の カン[ナー (雷) である。本来、(9b)からは [ワークチ、[カンナー と1拍目から上昇する型が期待されるところだからである。実際、(11)のような、一見上昇位置の対立かと思える例もある。

(11) ○M- における上昇の違い

- a. ハー[ガネ (針金) カン[ナー (雷)
- b. [めーカケ (前掛け) [カンザシ (簪)

これを見ると、(11b)は元々語頭が重音節の○M-であったのに対して、(11a)は元は *ハリ[ガネ、*カミ[ナリの○N[W○であり、その後でリ>一、ミ>ンと変化しても上昇位置は影響を受けずにそのまま成立したものと見られる。なお、(11a)のカンザシの古い形は *カミサシ (髪挿し) であったはずであるが、今の上昇音調付与規則はその段階まで遡るものではないと考えられる。

(「簪」が *カミサシであった時代は語音構造に関係なく上昇位置が1拍目にあってその音調のままカンザシに変化したか、あるいは最初からカンザシの形で出雲方言に入ってきたものであろう。後者であれば、最初から「髪」との結び付きは意識されなかったことになる。) (10c)の ワーク[チの場合も、無声化がどの段階で生じたかという課題はあるが、ワ[ルクチに由来することは疑いない。

これらの通時的な変化を共時的な過程としてとらえ直し、(11a)の基底形をハリガネ、カミナリと設定すれば、そして「悪口」もワルーを基底形と考えれば、上昇の対立は認めなくて済むことになる。この立場は、他の語形を参照している点においてアクセント核の解釈の場合とは異なるように見えるかもしれない。しかしながら、ハリガネ～ハーガネ、カミナリ～カンナー、ワルクチ～ワークチが話者の頭の中で密接に結びついている以上、表層共時音韻論で扱える範囲に納まるものとする (上野 1981:119)。

2. 5 上昇とそれに続く音調

出雲市斐川方言では、上昇の幅が顕著で、かつその後が通常 of 自然下降の形で弱化するのではなく、小幅な下降が繰り返される、ないしは文節末に向かって直線的に下降して行くように知覚されることがある。これがもう一つの特徴である。このため、上昇位置を間違えることはまずないが、その後の音調の動きをとらえ損ねる可能性がある。

具体的に言えば、コ[メボツ]。、コ[メボツガ]。(米櫃) を、当初、コ[メ]ボツ。コ[メ]ボツガ]。の②型と聞いたほどである。コ[メ]ボツカ]ラ。、コ[メ]ボツマ]デ。と聞いたところでその助詞の音調から④型を捉え損ねていたのではないかと思ひ直し、あらためて聞き直すと明瞭な コ[メボツカ]ラ。、コ[メボツマ]デ。が出て来て④型と確定したことがあった。問題の下降をより詳しく表わすと、コ[メ]ボツ]。、コ[メ]ボツ]ガ]。としたいくらいである。

2拍目が(本来の)特殊拍で1拍目から上昇する場合でも、◎型の[カンザシ]。(簪)が[カン]ザシ]。かと聞こえることがあった。③型の ミ[ソシ]ー。(味噌汁)においてさえ、核のあるシよりもソの方が高いように聞こえたこともある。④型で長音に終わるア[メフ]ー。(雨降り)などは、②型、③型と聞き紛れるおそれがある。

しかし、これらと本当の②型である ナ[デ]シコ。を比べると、「撫子」はデの直後の下降が顕著で、シ、コがずっと低くなって弱まる。その差ははっきりしていて、対立そのものには何の疑いもない。

この上昇後の音調特徴は、どのアクセント型にも見られることから、2.1を中心に見てきた言い切り下降イントネーションとの関連で捉えるべきものかもしれない。文節末の急下降]]がその前に影響を与え、上昇の後の音調を引き下げている可能性がある。

2. 6 複合名詞

資料の(7)に見る複合名詞のアクセントは、前部要素の核の有無に対応して複合語の核の有無も決まるという関係が認められる。調査表全体を通して見たときに、「髪」②に対して「簪」◎で一一致しない例が見つかるのは、2.4で検討した「簪」借用語説を裏付けるものであるかもしれない。もっとも、追加調査語彙まで見てみると、(12)に示した同じパターンの例外が見つかるので、強い論拠とはしにくい。

(12) 複合法則の例外

「針」② 「針金」◎
「麦」② 「麦藁」◎
「前」② (マエ) 「前掛け」◎ (めーカケ)

ただし、「米」②と「米櫃」④、「味噌」②と「味噌汁」③の関係は規則的である。なお、複合名詞が有核になる場合、後部3拍語では次末核(-②型)になる。

3 雲南市木次方言，奥出雲町方言，安来市広瀬方言

これらの諸方言も基本的なアクセント体系は出雲市斐川方言と同じなので、この後は、4方言全体を見たときの差(地域差)を取り上げることにする。念のためにここで位置関係を略述しておく。県庁所在地の松江市を中心に、その東側(鳥取県寄り)に安来市、西側に出雲市、南側(広島県寄り)に奥出雲町、南西側(出雲市と奥出雲町の間)に雲南市がある。

3. 1 2拍名詞4・5類

対象とした4方言を地理的に大まかに西から東に並べ、調査表にある該当語例のアクセントを記してみると(13)のようになる。なお、奥出雲町で空欄になっているのは、時間の関係で一部調査していない項目。数字は下げ核の位置を表わす。

(13) 2拍名詞4・5類のアクセント

類	単語	出雲市方言	雲南市方言	奥出雲方言	安来市方言
4	笠	2	2	1	1
4	鎌	2	2		1

4	種	2	2	2	1
4	舟	2	2	2	2
4	海	2,1	1	1	1
4	箸	1	1		1
4	松	2	2	1	1
5	雨	2	2	1	1
5	井戸	2	2	2	2
5	錐	2	2		1
5	猿	1	1	1	1
5	鶴	1	1	1	1
5	春	1	1	1	1
5	蛇	1	1	1	1
5	青	2,1	1	1	1
5	黒	2	1	1	1
5	白	2	1	1	1

これを見ると、一番東の安来市広瀬方言はほとんどが①型で、②型は「舟、井戸」のNW構造(2.4参照)の単語の2例だけである。それから西に移るほど②型が増えていき、出雲市斐川方言になると②型が中心を占め、①型は「猿、鶴、春、蛇(、海)」のONで、かつNの子音が有声音の構造に多く見られる状況になっている。

追加語彙資料に示したように、斐川方言については2拍名詞4・5類について電話で聞くことができた。これによると、第4類(使わないという項目を除くと65語)の8割以上が②型で、①型はわずかに「今日、今朝、汁(シー)、主、箸、我(ワー)」の6語(うち3例が語末が長音)と、併用の「海」だけである。そして、③型が「桁、下駄、粒」の3語ある。それに対して第5類(同じく37語)では、①型専用だけでも「秋、朝、鮎、牡蛎、鯉、琴、鮭、猿、鶴、春、蛇、眉(めー)」の12語もある。

これは、奥村三雄(1981)が2拍名詞4・5類の区別がある方言として報告した簸川郡大社町(現出雲市)のアクセントに類似している。(なお、30年近く前であったか、この奥村論文を受けて大社町方言を調査したことがあるが、今、その調査記録が残念ながら見つからない。ほぼ同じ結果であったと記憶する。)

3.2 「狭母音拍+ニ」の音調

狭母音拍に終わる2拍無核型名詞(第1類と第2類に相当)に助詞「ニ」が続くときの音調の地域差を(14)に取り上げる。ここは調査表の出現順で、空欄は未調査である。

(14) 「狭母音拍+ニ」の音調

類	単語	出雲市方言	雲南市方言	奥出雲方言	安来市方言
1	柿	カキ[ニ]]。	カキ[ニ。カ[キニ。	カ[キニ。	カ[キニ。
1	海老	エビ[ニ]]。	エ[ビニ。	エ[ビニ。	エ[ビニ。
2	紙	カミ[ニ]]。	カミ[ニ。カ[ミニ。	カミ[ニ。カ[ミニ。	カ[ミニ。
2	昼	ヒル[ニ]]。	ヒル[ニ。	ヒル[ニ。ヒ[ルニ。	ヒ[ルニ。

1 端	ハシ[ニ]]。		ハシ[ニ。ハ[シニ。
2 橋	ハシ[ニ]]。	ハシ[ニ。	ハシ[ニ。ハ[シニ。
1 霧	キリ[ニ]]。	キリ[ニ。	キ[リニ。

安来市方言では2拍目から上昇するのが基本でありながら、同じ単語でもそこが無声化すると3拍目から上昇するようになっている点（端，橋）が注目される。（「柿に」はカ[キニしか記録していないが、確認すれば カキ[ニも出てきた可能性が高い。）無声化が変化の引き金になっている。未調査語があるものの、奥出雲方言，雲南市方言は2拍目が無声拍以外のときにも3拍目から上昇するパターンが（時には併用で）出ている。そして出雲市方言になると、すべて3拍目から上昇している。ここにおいても全体的に漸層的な移行が見られる。

3. 3 「三つ，四つ」の上昇位置

追加調査語彙の中に、「三日，四日；三つ，四つ」の促音を含む数詞がある。出雲市，雲南市は無核型のミッ[カ，ミッ[ツである。ところが，安来市では，同じく無核型でありながら，ミッ[カ（そして，調査漏れながら，おそらくヨッ[カ）に対して，[ミツツ，[ヨツツと上昇位置が違っている点が注目される。松江市方言にも同じく[ミツツ，[ヨツツがミッ[カなどとは区別されて存在するからである（上野 1981: 111, 119）。これは○QNで，かつ1拍目が非無声化拍である環境で生じている可能性がある。奥出雲町では，ミッ[カ，ヨッ[カ（ともに◎）でありながら，[ミツツ，[ヨツツは①型になっている。さらにこの一帯の情報がほしいところである。

[参考文献]

- 上野善道（1981）「松江市方言のアクセント——付属語を中心に——」『日本海域研究所報告』（金沢大学日本海域研究所）13：109-136.
- 上野善道（2009）「通時的にしか説明できない共時アクセント現象——句頭の上昇と語音との関係——」『月刊言語』（特集：ことばの変化を捉える）38(2)：74-81.
- 奥村三雄（1981）「国語アクセント史の一問題——出雲方言のアクセントを中心に——」『藤原与一先生古稀記念論集 方言学論叢Ⅱ——方言研究の射程——』，三省堂，165-176.
- 広戸惇・大原孝道（1953）『山陰地方のアクセント』，報光社.

4. 出雲方言のアクセント資料

4. 1 出雲市斐川町のアクセント資料

(1) 2拍名詞 (第2拍広母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
1-2-1w-1	風 (カ[ゼ]])	カ[ゼガ]]。	カ[ゼニ]]。	カ[ゼカラ]]。	カ[ゼマデ]]。	カ[ゼカラモ]]。	カ[ゼマデモ]]。	カ[ゼノオト]]	○●▼
1-2-1w-2	箱 (ハ[コ]])	ハ[コガ]]。	ハ[コニ]]。	ハ[コカラ]]。	ハ[コマデ]]。	ハ[コカラモ]]。	ハ[コマデモ]]。	ハ[コノナカ]]	○●▼
1-2-2w-1	音 (オ[ト]])	オ[トガ]]。	オ[トニ]]。	オ[トカラ]]。	オ[トマデ]]。	オ[トカラモ]]。	オ[トマデモ]]。	オ[トノオーキサ]]	○●▼
1-2-2w-2	胸 (ム[ネ]])	ム[ネガ]]。	ム[ネニ]]。	ム[ネカラ]]。	ム[ネマデ]]。	ム[ネカラモ]]。	ム[ネマデモ]]。	ム[ネノマエ]]	○●▼
1-2-2w-3	歌 (オ[タ]])	オ[タガ]]。	オ[タニ]]。	オ[タカラ]]。	オ[タマデ]]。	オ[タカラモ]]。	オ[タマデモ]]。	オ[タノホ]]ン	○●▽
1-2-3w-1	芋 (エ[モ]])	エ[モガ]]。	エ[モニ]]。	エ[モカラ]]。	エ[モマデ]]。	エ[モカラモ]]。	エ[モマデモ]]。	エ[モノツル]]	○●▽
1-2-3w-2	米 (コ[メ]])	コ[メガ]]。	コ[メニ]]。	コ[メカラ]]。	コ[メマデ]]。	コ[メカラモ]]。	コ[メマデモ]]。	コ[メ]ノデ[キ]]	○●▽
1-2-4w-1	笠 (カ[サ]])	カ[サガ]]。	カ[サニ]]。	カ[サカラ]]。	カ[サマデ]]。	カ[サカラモ]]。	カ[サマデモ]]。	カ[サ]ノホ[ネ]]	○●▽
1-2-4w-2	舟 (フ[ネ]])	フ[ネガ]]。	フ[ネニ]]。	フ[ネカラ]]。	フ[ネマデ]]。	フ[ネカラモ]]。	フ[ネマデモ]]。	フ[ネ]ノウ[エ]]	○●▽
1-2-5w-1	雨 (ア[メ]])	ア[メガ]]。	ア[メニ]]。	ア[メカラ]]。	ア[メマデ]]。	ア[メカラモ]]。	ア[メマデモ]]。	ア[メ]ノナ[カ]]	○●▽
1-2-5w-2	井戸 (エ[ド]])	エ[ドガ]]。	エ[ドニ]]。	エ[ドカラ]]。	エ[ドマデ]]。	エ[ドカラモ]]。	エ[ドマデモ]]。	エ[ド]ノマ[エ]] エ[ドノマエ]]	○●▽

(2) 2拍名詞 (第2拍狭母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
2-2-1n-1	柿 (カ[キ])	カキ[ガ]	カキ[ニ]	カキ[カラ]	カキ[マデ]	カキ[カラモ]	カキ[マデモ]	カキ[ノヘタ]	○○▼
2-2-1n-2	海老 (エ[ビ])	エビ[ガ]	エビ[ニ]	エビ[カラ]	エビ[マデ]	エビ[カラモ]	エビ[マデモ]	エビ[ノカラ]	○○▼
2-2-2n-1	紙 (カ[ミ])	カミ[ガ]	カミ[ニ]	カミ[カラ]	カミ[マデ]	カミ[カラモ]	カミ[マデモ]	カミ[ノウエ]	○○▼
2-2-2n-2	昼 (ヒ[ル]) フ[ル]も?	ヒル[ガ]	ヒル[ニ]	ヒル[カラ]	ヒル[マデ]	ヒル[カラモ]	ヒル[マデモ]	ヒル[ノシゴト] ヒル[ノ]シ[ゴト]	○○▼
2-2-3n-1	足 (ア[シ])	アシ[ガ]	アシ[ニ]	アシ[カラ]	アシ[マデ]	アシ[カラモ]	アシ[マデモ]	アシ[ノウラ]	○○▼
2-2-3n-2	耳 (ミ[ミ])	ミミ[ガ]	ミミ[ニ]	ミミ[カラ]	ミミ[マデ]	ミミ[カラモ]	ミミ[マデモ]	ミミ[ノナカ]	○○▼
2-2-4n-1	松 (マ[ツ])	マツ[ガ]	マツ[ニ]	マツ[カラ]	マツ[マデ]	マツ[カラモ]	マツ[マデモ]	マツ[ノ]エ[ダ]	○○▼
2-2-4n-2	海 (ウ[ミ])	ウミ[ガ]	ウミ[ニ]	ウミ[カラ]	ウミ[マデ]	ウミ[カラモ]	ウミ[マデモ]	ウミ[ノ]ナカ]	○○▼
2-2-5n-1	猿 (サ[ル]) [サ]ー	[ウ]ミガ [サ]ルガ	[ウ]ミニ [サ]ルニ	[ウ]ミカラ [サ]ルカラ	[ウ]ミマデ [サ]ルマデ	[ウ]ミカラモ [サ]ルカラモ	[ウ]ミマデモ [サ]ルマデモ	[ウ]ミノナ[カ] [サ]ルノシッ[ボ]	●○▽
2-2-5n-2	鶴 (ツ[ル]) [ツ]ー	[ツ]ルガ	[ツ]ルニ	[ツ]ルカラ [ツ]ーカラ	[ツ]ルマデ	[ツ]ルカラモ	[ツ]ルマデモ	[ツ]ルノハ[ネ]	●○▽
2-2-5n-3	蛇 (ヘ[ビ])	[ヘ]ビガ	[ヘ]ビニ	[ヘ]ビカラ	[ヘ]ビマデ	[ヘ]ビカラモ	[ヘ]ビマデモ	[ヘ]ビノヌ[ケガラ]	●○▽

※ ツー[カラ] は「弦から」。

(3) 2拍名詞

	単語	～が	～に	～から	～まで	奥村 1981
3-1-2-1w	飴 (ア[メ])	ア[メ]ガ。	ア[メ]ニ。	ア[メ]カラ。	ア[メ]マデ。	○●▼
3-1-2-5w	雨 (ア[メ])	ア[メ]ガ。	ア[メ]ニ。	ア[メ]カラ。	ア[メ]マデ。	○●▽
3-2-2-1w	釜 (カ[マ])	カ[マ]ガ。	カ[マ]ニ。	カ[マ]カラ。	カ[マ]マデ。	○●▼
3-2-2-4w	鎌 (カ[マ])	カ[マ]ガ。	カ[マ]ニ。	カ[マ]カラ。	カ[マ]マデ。	○●▽
3-3-2-1n	端 (ハ[シ])	ハシ[ガ]。	ハシ[ニ]。	ハシ[カラ]。	ハシ[マデ]。	○●▼
3-3-2-2n	橋 (ハ[シ])	ハシ[ガ]。	ハシ[ニ]。	ハシ[カラ]。	ハシ[マデ]。	○●▼
3-3-2-4n	箸 (ハ[シ])	[ハ]シガ。	[ハ]シニ。	[ハ]シカラ。	[ハ]シマデ。	●○▽
3-4-2-2n	紙 (カ[ミ])	カミ[ガ]。	カミ[ニ]。	カミ[カラ]。	カミ[マデ]。	○●▼
3-4-2-3n	髪 (カ[ミ])	カミ[ガ]。	カミ[ニ]。	カミ[カラ]。	カミ[マ]デ。	○●▼
3-5-2-1n	霧 (キ[リ])	キリ[ガ]。	キリ[ニ]。	キリ[カラ]。	キリ[マデ]。	—
3-5-2-4n	錐 (キ[リ])	キリ[ガ]。	キリ[ニ]。	キリ[カラ]。	キリ[マ]デ。	○●▼
	[キ]ー	キー[ガ]。	キー[ニ]。	キー[カラ]。	キー[マ]デ。	—
3-6-2-5w-1	青 ([ア]オ)	[ア]オガ。	[ア]オニ。			○●▽～●○▽
			ア[オ]ニ。	ア[オ]カラ。	ア[オ]マデ。	
3-6-2-5w-2	黒 (ク[ロ])	ク[ロ]ガ。	ク[ロ]ニ。	ク[ロ]カラ。	ク[ロ]マデ。	○●▽～●○▽
3-6-2-5w-3	白 (シ[ロ])	シ[ロ]ガ。	シ[ロ]ニ。	シ[ロ]カラ。	シ[ロ]マデ。	○●▽～●○▽
3-7-2-	赤 [ア]カ 時にア[カ]も	ア[カ]ガ。	ア[カ]ニ。	ア[カ]カラ。	ア[カ]マデ。	

(4) 3拍名詞(言い切り)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
4-3-1-1 0	煙(ケ[ムリ])	ケ[ムリガ]	ケ[ムリニ]	ケ[ムリカラ]	ケ[ムリマデ]	ケ[ムリカラモ]	ケ[ムリマデモ]
4-3-1-2 0	ケ[モ]ー 踊(オ[ドリ])	オ[ドリガ]	オ[ドリニ]	オ[ドリカラ]	オ[ドリマデ]	オ[ドリカラモ]	オ[ドリマデモ]
4-3-1-3 0	オ[ド]ー 港(ミ[ナト])	ミ[ナトガ]	ミ[ナトニ]	ミ[ナトカラ]	ミ[ナトマデ]	ミ[ナトカラモ]	ミ[ナトマデモ]
4-3-2-1 3	女(オ[オンナ])	[オンナ]ガ	[オンナ]ニ	[オンナ]カラ	[オンナ]マデ	[オンナ]カラモ	[オンナ]マデモ
0	オ[ナゴ]	オ[ナゴガ]					
4-3-2-2 0	小豆(ア[ズキ])	ア[ズキガ]	ア[ズキニ]	ア[ズキカラ]	ア[ズキマデ]	ア[ズキカラモ]	ア[ズキマデモ]
4-3-4-1 0	鉢(ハ[サミ])	ハ[サミガ]	ハ[サミニ]	ハ[サミカラ]	ハ[サミマデ]	ハ[サミカラモ]	ハ[サミマデモ]
4-3-4-2 0	鏡(カ[ガミ])	カ[ガミガ]	カ[ガミニ]	カ[ガミカラ]	カ[ガミマデ]	カ[ガミカラモ]	カ[ガミマデモ]
4-3-4-3 3	男(オ[トコ])	オ[トコガ]	オ[トコニ]	オ[トコカラ]	オ[トコマデ]	オ[トコカラモ]	オ[トコマデモ]
4-3-5-1 2	朝日(ア[サ]ヒ)	ア[サ]ヒガ	ア[サ]ヒニ	ア[サ]ヒカラ	ア[サ]ヒマデ	ア[サ]ヒカラモ	ア[サ]ヒマデモ
4-3-5-2 2	命(イ[ノ]チ) エ[ノ]チ	イ[ノ]チガ	イ[ノ]チニ	イ[ノ]チカラ	イ[ノ]チマデ	イ[ノ]チカラモ	イ[ノ]チマデモ
4-3-5-3 3	心(コ[コロ])	コ[コロガ]	コ[コロニ]	コ[コロ]カラ	コ[コロ]マデ	コ[コロ]カラモ	コ[コロ]マデモ
4-3-6-1 2	兎(ウ[サ]ギ) オ[サ]ギ	ウ[サ]ギガ	ウ[サ]ギニ	ウ[サ]ギカラ	ウ[サ]ギマデ	ウ[サ]ギカラモ	ウ[サ]ギマデモ
4-3-6-2 0	狐(きつ[ネ])	きつ[ネガ]	きつ[ネニ]	きつ[ネカラ]	きつ[ネマデ]	きつ[ネカラモ]	きつ[ネマデモ]
4-3-6-3 0	背中(セ[ナカ])	セ[ナカガ]	セ[ナカニ]	セ[ナカカラ]	セ[ナカマデ]	セ[ナカカラモ]	セ[ナカマデモ]
4-3-7-1 1	兜(カ]ブト)	[カ]ブトガ	[カ]ブトニ	[カ]ブトカラ	[カ]ブトマデ	[カ]ブトカラモ	[カ]ブトマデモ
4-3-7-2 0	葎(イチ[ゴ]) エチ[ゴ]	イチ[ゴガ]	イチ[ゴニ]	イチ[ゴカラ]	イチ[ゴマデ]	イチ[ゴカラモ]	イチ[ゴマデモ]
4-3-7-3 0	葉(ク[スリ]) ク[ス]ー	ク[スリガ]	ク[スリニ]	ク[スリカラ]	ク[スリマデ]	ク[スリカラモ]	ク[スリマデモ]
		ク[スーガ]	ク[スーニ]	ク[スーカラ]			

(5) 4拍名詞

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
5-01 0	餅米 (もち[ゴメ])	もち[ゴメガ]]。	もち[ゴメニ]]。	もち[ゴメカラ]]。	もち[ゴメマデ]]。	もち[ゴメカラモ]]。	もち[ゴメマデモ]]。
5-02 0	友達 (ト[モダチ])	ト[モダチガ]]。	ト[モダチニ]]。	ト[モダチカラ]]。	ト[モダチマデ]]。	ト[モダチカラモ]]。	ト[モダチマデモ]]。
5-03 0	懐 (フ[トコロ])	フ[トコガ]]。	フ[トコニ]]。	フ[トコカラ]]。	フ[トコマデ]]。	フ[トコカラモ]]。	フ[トコマデモ]]。
5-04 0	唇 (ク[チビル])	ク[チビガ]]。	ク[チビニ]]。	ク[チビカラ]]。	ク[チビマデ]]。	ク[チビカラモ]]。	ク[チビマデモ]]。
5-05 0	川上 (カ[ワカミ])	カ[ワカミガ]]。	カ[ワカミニ]]。	カ[ワカミカラ]]。	カ[ワカミマデ]]。	カ[ワカミカラモ]]。	カ[ワカミマデモ]]。
5-06 4	色紙 (イ[ロガミ])	イ[ロガミガ]]。	イ[ロガミニ]]。	イ[ロガミカラ]]。	イ[ロガミマデ]]。	イ[ロガミカラモ]]。	イ[ロガミマデモ]]。
5-07 0	雷 (カミ[ナリ])	カミ[ナリガ]]。	カミ[ナリニ]]。	カミ[ナリカラ]]。	カミ[ナリマデ]]。	カミ[ナリカラモ]]。	カミ[ナリマデモ]]。
0	カン[ナ]	カン[ナガ]]。			カン[ナマデ]]。		
5-08 4	米櫃 (コ[メボツ])	コ[メボツガ]]。	コ[メボツニ]]。	コ[メボツカラ]]。	コ[メボツマデ]]。	コ[メボツカラモ]]。	コ[メボツマデモ]]。
5-09 0	簪 ([カンザシ])	[カンザシガ]]。	[カンザシニ]]。	[カンザシカラ]]。	[カンザシマデ]]。	[カンザシカラモ]]。	[カンザシマデモ]]。
5-10 0	針金 (ハー[ガネ])	ハー[ガネガ]]。	ハー[ガネニ]]。	ハー[ガネカラ]]。	ハー[ガネマデ]]。	ハー[ガネカラモ]]。	ハー[ガネマデモ]]。
5-11 0	麦藁 (ムギ[ワラ])	ムギ[ワラガ]]。	ムギ[ワラニ]]。	ムギ[ワラカラ]]。	ムギ[ワラマデ]]。	ムギ[ワラカラモ]]。	ムギ[ワラマデモ]]。
5-12 3	味噌汁 (ミ[ソシ]ル)	ミ[ソシ]ルガ]]。					
3	ミ[ソシ]	ミ[ソシ]ーガ]]。	ミ[ソシ]ーニ]]。	ミ[ソシ]ーカラ]]。	ミ[ソシ]ーマデ]]。	ミ[ソシ]ーカラモ]]。	ミ[ソシ]ーマデモ]]。
5-13 4	雨降り (ア[メフリ])	ア[メフガ]]。	ア[メフリニ]]。	ア[メフカラ]]。	ア[メフマデ]]。	ア[メフカラモ]]。	ア[メフマデモ]]。
4	ア[メフ]	[めーカケガ]]。	[めーカケニ]]。	[めーカケカラ]]。	[めーカケマデ]]。	[めーカケカラモ]]。	[めーカケマデモ]]。
5-14 0	前掛け ([めーカケ])	ウ[グイスガ]]。	ウ[グイスニ]]。	ウ[グイスカラ]]。	ウ[グイスマデ]]。	ウ[グイスカラモ]]。	ウ[グイスマデモ]]。
5-15 0	鶯 (ウ[グイス])						

5-16	2	撫子 (ナ[デ]シコ)	ナ[デ]シコガ]]。 ナ[デ]シコニ]]。 ナ[デ]シコカラ]]。 ナ[デ]シコマデ]]。 ナ[デ]シコカラモ]]。 ナ[デ]シコマデモ]]。
5-17	0	風呂敷(フ[ロシキ]])	フ[ロシキガ]]。 フ[ロシキニ]]。 フ[ロシキカラ]]。 フ[ロシキマデ]]。 フ[ロシキカラモ]]。 フ[ロシキマデモ]]。

(6) 1拍名詞

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の
6-1-1-1	0	蚊 ([カ]])	カ[[ニ]]。	カ[[カラ]]。	カ[[マデ]]。	カ[[カラモ]]。	カ[[マデモ]]。	カ[[ノ]]ナキ[[ゴエ]]
6-1-1-2	0	戸 ([ト]])	ト[[ニ]]。	ト[[カラ]]。	ト[[マデ]]。	ト[[カラモ]]。	ト[[マデモ]]。	ト[[ノ]]ス[[ベリ]]
6-1-1-3	0	血 ([チ]])	チ[[ニ]]。	チ[[カラ]]。	チ[[マデ]]。	チ[[カラモ]]。	チ[[マデモ]]。 ※	チ[[ノ]]イ[[ロ]]
6-1-2-1	0	葉 ([ハ]])	ハ[[ニ]]。	ハ[[カラ]]。	ハ[[マデ]]。	ハ[[カラモ]]。	ハ[[マデモ]]。	ハ[[ノ]]イ[[ロ]]
6-1-2-2	0	日 ([ヒ]])	ヒ[[ニ]]。	ヒ[[カラ]]。 ※	ヒ[[マデ]]。 ※	ヒ[[カラモ]]。 ※	ヒ[[マデモ]]。 ※	ヒ[[ノ]]ヒ[[〇]]カリ]]
6-1-3-1	1	手 ([テ]])	[テ]ニ。	[テ]カラ。	[テ]マデ。	[テ]カラモ]]。	[テ]マデモ]]。	テ[[ノ]]ナカ[[一語]]
6-1-3-2	1	目 ([メ]])	[メ]ニ。	[メ]カラ。	[メ]マデ。	[メ]カラモ]]。	[メ]マデモ]]。	[メ]ノウ[[エ]]
6-1-3-3	1	火 ([ヒ]])	フ[[ガ]]。	ヒ[[カ]]ラ。	ヒ[[マ]]デ。	ヒ[[カ]]ラモ]]。	ヒ[[マ]]デモ]]。	ヒ[[ノ]]タマ[[一語]]
	1	[フ]]	フ[[ガ]]出]]タ。	フ[[カ]]ラ。	フ[[マ]]デ。	フ[[カ]]ラモ]]。	フ[[マ]]デモ]]。	ヒ[[ノ]]イ[[オ]]イ

※これらの狭母音語においては、しばしばヒ[[カ]]ラ、ヒ[[マ]]デ、ヒ[[カ]]ラモ]]、ヒ[[マ]]デモ]] も出る。

(7) 複合語

		単語		奥村 1981	
7-2-5n	春 ([ハ]ル) 1	ハー[ヤス]ミ 4	ハー[マツ]ー (祭) 4	ハー[サメ]] (食) 0	●○▽
7-2-2n	夏 (ナ[ツ]] 0	ナツ[ヤスミ]] 0	ナツ[マツ]ー	ナ[ツクサ]] 0	○●▽
7-2-1w	金 (カ[ネ]] 0	カ[ネズ]けー 0	カ[ネモ-ケ]]	カ[ネモチ]] 0	○●▼
7-2-2w	川 (カ[ワ]] 0	カ[ワギシ]] 0	カ[ワ下ダ]ー	カ[ワザカナ]] 0	○●▼
7-2-3w	塩 ([ソ]] 1	[ソ-アジ]] ※4	[ソ-カゲ]ン ※ 4	[ソ-気]] ※ 3	○●▽
7-2-4w	種 (タ[ネ]] 2	タ[ネマキ]] 4	タ[ネツケ]]	タ[ネオマ]] (馬) 4	○●▽
7-2-5w	雨 (ア[メ]] 2	ア[メ降]ー 4	ア[メ上ガ]ー	ア[メ漏]ー 3	○●▽

※仮にソーとしたが、半長で、子音も長子音的に聞こえる。シオが完全には融合していない可能性がある。

(8) 2拍名詞 (接続)

		単語	～が	～を	～に	～から
8-2-1w	0	箱 (ハ[コ]]	ハ[コガア]ー。	ハ[ココ]作ツ]タ。	ハ[コニ]入[レ]タ]]。	ハ[ココ]ラで]ー]タ (出した)。
8-2-1n	0	柿 (カ[キ]]	カキ[ガア]ー。	カキ[オ]食ツ[タ]]。	カキ[ニ (袋を) 被]ズ[セ]タ。	カキ[カラ]食ツ[タ]]。
8-2-2w	0	音 (オ[ト]]	オ[トガ]聞コエ]ー。	オ[トオ]立[テ]タ。	オ[トニ]敏感]ダ]]。	オ[トカラ]覚[ボエ]ー。
8-2-2n	0	紙 (カ[ミ]]	カミ[ガね]ー。	カミ[オ]破ツ[タ]]。	カミ[ニ]け]ー]タ (書いた)。	カミ[カラ]捨[テ]タ]]。
8-2-3w	2	芋 (イ[モ]]	イ[モ]ガ[ア]ー。	イ[モ]オツ[クツ]タ。(畑)	イ[モ]ニ似[ト]ー。	イ[モ]カラ (先に) [食]ー。
8-2-3n	2	足 (ア[シ]]	ア[シ]ガ[ア]ー。	ア[ソ]揉ン[ダ]]。 (アソのソの母音は半長)	ア[シ]ニ (薬を) つ[ケ]タ。	ア[シ]カラ揉ン[ダ]]。
8-2-4w	2	笠 (カ[サ]]	カ[サ]ガ[ア]ー。	カ[サ]オ被[ブツ]タ。	カ[サ]ニ (飾りを) つ[ケ]タ。	カ[サ]カラ作[クツ]タ。
8-2-4n	1, 2	海 ([ウ]ミ)	[ウ]ミガ見[エ]ー。	カ[サ]オ被]ズツ[タ]]。 [ウ]ミオ見[タ]]。	[ウ]ミニ行き[タ]] (行った)。	[ウ]ミカラ [吹]イテ]ク]ー。

8-2-5w	2	雨 (ア[メ])	ア[メ]ガ[降]ー。 [へ]ビガオ[ル]。 ～オー[ズ (おるよ)]	ア[メ]オ降[ラセ]ー。 [へ]ビオ捕[カメ]ー。タ。	ア[メ]ニ濡[レタ]。 [へ]ビニ[気]ーつゲ]ー。	(家を) ア[メ]カラ守[モ]ー。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ー。
--------	---	----------	--	--------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------

(9) 3拍名詞 (接続)

	単語	～が	～を	～に	～から
9-3-1	0	煙 (ケ[モ]ー)	ケ[モ]ーで]ー。タ (出した)。	ケ[モ]ーニナツ]タ。	(家を) ケ[モ]ーカラ]守[モ]ー。
9-3-2	3	女 ([オンナ])	[オンナ]オ見[タ]。 オ[ナゴオ]見[タ]。	[オンナ]ニ[会ッ]タ。	[オンナ]カラ (先に) 始[メタ]。
9-3-3	0	オ[ナゴ]。			
9-3-4	1	[ニヨ]バ			
9-3-4	3	男 (オ[トコ])	オ[トコ]オ見[タ]。	オ[トコ]ニ[会ッ]タ。	オ[トコ]カラ (先に) 始[メタ]。
9-3-5	3	心 (コ[コロ])	コ[コロ]オ入[レ替エ]ー。	コ[コロ]ニヒ[ビ]ー。タ。	コ[コロ]カラ謝[ヤマ]ー。
9-3-6	2	兎 (ウ[サ]ギ)	ウ[サ]ギオ[飼ッ]トー。	ウ[サ]ギニエ[サ]ヤー。	ウ[サ]ギカラ (先に) つ[カメ]ー。タ。
9-3-7	1	兜 ([カ]ブト)	[カ]ブトオカ[ブッ]タ。	[カ]ブトニ (飾りを) つ[ケ]タ。	[カ]ブトカラ始[メタ]。

4. 2 雲南市木次町のアクセント資料

(1) 2拍名詞 (第2拍広母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
1-2-1w-1	風 (カ[ゼ])	カ[ゼ]ガ。	カ[ゼ]ニ。	カ[ゼ]カラ。	カ[ゼ]マデ。	カ[ゼ]カラモ。※	カ[ゼ]マデモ。※	カ[ゼ]ノオト	○●▼
1-2-1w-2	箱 (ハ[コ])	ハ[コ]ガ。	ハ[コ]ニ。	ハ[コ]カラ。	ハ[コ]マデ。	ハ[コ]カラモ。※	ハ[コ]マデモ。※	ハ[コ]ノナ[カ]	○●▼
1-2-2w-1	音 (オ[ト])	オ[ト]ガ。	オ[ト]ニ。	オ[ト]カラ。	オ[ト]マデ。	オ[ト]カラモ。※	オ[ト]マデモ。※	オ[ト]ノオーキサ	○●▼
1-2-2w-2	胸 (ム[ネ])	ム[ネ]ガ。	ム[ネ]ニ。	ム[ネ]カラ。	ム[ネ]マデ。	ム[ネ]カラモ。※	ム[ネ]マデモ。※	ム[ネ]ノマ[エ]	○●▼
1-2-2w-3	歌 (ウ[タ]) オ[タ]	ウ[タ]ガ。	ウ[タ]ニ。	ウ[タ]カラ。	ウ[タ]マデ。	ウ[タ]カラモ。	ウ[タ]マデモ。	ウ[タ]ノ[ホ]ン	○●▽
1-2-3w-1	芋 (イ[モ]) エ[モ]	イ[モ]ガ。	イ[モ]ニ。	イ[モ]カラ。	イ[モ]マデ。	イ[モ]カラモ。	イ[モ]マデモ。	イ[モ]ノツ[ル] イ[モ]ノツ[ル]	○●▽
1-2-3w-2	米 (コ[メ])	コ[メ]ガ。	コ[メ]ニ。	コ[メ]カラ。	コ[メ]マデ。	コ[メ]カラモ。	コ[メ]マデモ。	コ[メ]ノデ[キ]	○●▽
1-2-4w-1	笠 (カ[サ])	カ[サ]ガ。	カ[サ]ニ。	カ[サ]カラ。	カ[サ]マデ。	カ[サ]カラモ。	カ[サ]マデモ。	カ[サ]ノホ[ネ]	○●▽
1-2-4w-2	舟 (フ[ネ])	フ[ネ]ガ。	フ[ネ]ニ。	フ[ネ]カラ。	フ[ネ]マデ。	フ[ネ]カラモ。	フ[ネ]マデモ。	フ[ネ]ノウエ	○●▽
1-2-5w-1	雨 (ア[メ])	ア[メ]ガ。	ア[メ]ニ。	ア[メ]カラ。	ア[メ]マデ。	ア[メ]カラモ。	ア[メ]マデモ。	ア[メ]ノナ[カ]	○●▽
1-2-5w-2	井戸 (イ[ド]) エ[ド]	イ[ド]ガ。	イ[ド]ニ。	イ[ド]カラ。	イ[ド]マデ。	イ[ド]カラモ。	イ[ド]マデモ。	イ[ド]ノ[マ]エ ～マ[エ]を否定して	○●▽

※これが本来と見られるが、しばしばカ[ゼ]カラモ、カ[ゼ]マデモにも揺れる。

(2) 2拍名詞 (第2拍狭母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
2-2-1n-1	柿 (カ[キ])	カキ[ガ]。	カキ[ニ]。 カ[キニ]。	カキ[カラ]。 ※	カキ[マデ]。	カキ[カラ]モ。	カキ[マデ]モ。 ※	カキ[ノ]ヘタ	○○▼
2-2-1n-2	海老 (エ[ビ])	エビ[ガ]。	エビ[ニ]。	エビ[カラ]。 ※	エビ[マデ]。 ※	エビ[カラ]モ。	エビ[マデ]モ。 ※	エビ[ノ]カラ	○○▼
2-2-2n-1	紙 (カ[ミ])	カミ[ガ]。	カミ[ニ]。 カ[ミニ]。	カミ[カラ]。 ※	カミ[マデ]。 ※	カミ[カラ]モ。	カミ[マデ]モ。 ※	カミ[ノ]ウエ	○○▼
2-2-2n-2	屋 (ヒ[ル])	ヒル[ガ]。	ヒル[ニ]。	ヒル[カラ]。 ※	ヒル[マデ]。 ※	ヒル[カラ]モ。	ヒル[マデ]モ。 ※	ヒル[ノ]シゴト	○○▼
2-2-3n-1	足 (ア[シ])	アシ[ガ]。	アシ[ニ]。	アシ[カラ]。	アシ[マデ]。	アシ[カラ]モ。	アシ[マデ]モ。	アシ[ノ]ウラ	○○▼
2-2-3n-2	耳 (ミ[ミ])	ミミ[ガ]。	ミミ[ニ]。	ミミ[カラ]。	ミミ[マデ]。	ミミ[カラ]モ。	ミミ[マデ]モ。	ミミ[ノ]ナカ	○○▼
2-2-4n-1	松 (マ[ツ])	マツ[ガ]。	マツ[ニ]。	マツ[カラ]。	マツ[マデ]。	マツ[カラ]モ。	マツ[マデ]モ。	マツ[ノ]エ[D]ダ	○○▼
2-2-4n-2	海 ([ウ]ミ)	[ウ]ミガ。	[ウ]ミニ。	[ウ]ミカラ。	[ウ]ミマデ。	[ウ]ミカラモ。	[ウ]ミマデモ。	[ウ]ミノナカ	○○▼
2-2-5n-1	猿 ([サ]ル)	[サ]ルガ。	[サ]ルニ。	[サ]ルカラ。	[サ]ルマデ。	[サ]ルカラモ。	[サ]ルマデモ。	[サ]ルノシッ[ボ]	●○○▽
2-2-5n-2	鶴 ([ツ]ル)	[ツ]ルガ。	[ツ]ルニ。	[ツ]ルカラ。	[ツ]ルマデ。	[ツ]ルカラモ。	[ツ]ルマデモ。	[ツ]ルノハ[D]ネ	●○○▽
2-2-5n-3	蛇 ([ヘ]ビ)	[ヘ]ビガ。	[ヘ]ビニ。	[ヘ]ビカラ。	[ヘ]ビマデ。	[ヘ]ビカラモ。	[ヘ]ビマデモ。	[ヘ]ビノヌケガラ [ヘ]ビノヌ[ケ]ガラ	●○○▽

※これが本来と見られるが、しばしばカキ[カ]ラ、カミ[マ]デ、カキ[マ]デモにも揺れる。

(3) 2拍名詞 (「端」のみ未調査)

	単語	～が	～に	～から	～まで	奥村1981
3-1-2-1w	飴 (ア[メ])	ア[メ]ガ。	ア[メ]ニ。	ア[メ]カラ。	ア[メ]マデ。	○●▼
3-1-2-5w	雨 (ア[メ])	ア[メ]ガ。	ア[メ]ニ。	ア[メ]カラ。	ア[メ]マデ。	○●▽
3-2-2-1w	釜 (カ[マ]) (稀) ハ[ガ]マが普通※	カ[マ]ガ。	カ[マ]ニ。	カ[マ]カラ。	カ[マ]マデ。	○●▼
3-2-2-4w	鎌 (カ[マ])	カ[マ]ガ。	カ[マ]ニ。	カ[マ]カラ。	カ[マ]マデ。	○●▽
3-3-2-1n	端 (ハシ)	ハシガ。	ハシニ。	ハシカラ。	ハシマデ。	○○▼
3-3-2-2n	橋 (ハ[シ])	ハシガ。	ハシニ。	ハシカラ。	ハシマデ。	○○▼
3-3-2-4n	箸 (ハシ)	ハシガ。	ハシニ。	ハシカラ。	ハシマデ。	●○▽
3-4-2-2n	紙 (カ[ミ])	カミ[ガ]。	カミ[ニ]。	カミ[カ]ラ。	カミ[マ]デ。	○○▼
3-4-2-3n	髪 (カ[ミ])	カミ[ガ]。	カミ[ニ]。	カミ[カ]ラ。	カミ[マ]デ。	○○▼
3-5-2-1n	霧 (キ[リ])	キリ[ガ]。	キリ[ニ]。	キリ[カ]ラ。	キリ[マ]デ。	—
3-5-2-4n	錐 (キ[リ])	キリ[ガ]。	キリ[ニ]。	キリ[カ]ラ。	キリ[マ]デ。	○○▼
3-6-2-5w-1	青 ([ア]オ)	[ア]オガ。	[ア]オニ。	[ア]オカラ。	[ア]オマデ。	○●▽～●○▽
3-6-2-5w-2	黒 ([ク]ロ)	[ク]ロガ。	[ク]ロニ。	[ク]ロカラ。	[ク]ロマデ。	○●▽～●○▽
3-6-2-5w-3	白 ([シ]ロ)	[シ]ロガ。	[シ]ロニ。	[シ]ロカラ。	[シ]ロマデ。	○●▽～●○▽
3-7-2-1	赤 [ア]カ	[ア]カガ。	[ア]カニ。	[ア]カカラ。	[ア]カマデ。	

※カ[マ(ガ)]は、炭焼きの「窯」。なお、「橋」は記録が不確かな点があり、推測で補った。

(4) 3拍名詞(言い切り)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
4-3-1-1	煙(ケ[ムリ])	ケ[ムリガ]	ケ[ムリニ]	ケ[ムリカラ]	ケ[ムリマデ]	ケ[ムリカラモ]	ケ[ムリマデモ]
4-3-1-2	踊(オ[ドリ])	オ[ドリガ]	オ[ドリニ]	オ[ドリカラ]	オ[ドリマデ]	オ[ドリカラモ]	オ[ドリマデモ]
4-3-1-3	港(ミ[ナト])	ミ[ナトガ]	ミ[ナトニ]	ミ[ナトカラ]	ミ[ナトマデ]	ミ[ナトカラモ]	ミ[ナトマデモ]
4-3-2-1	女([オンナ])	[オンナガ]	[オンナニ]	[オンナカラ]	[オンナマデ]	[オンナカラモ]	[オンナマデモ]
4-3-2-2	小豆(ア[ズキ])	ア[ズキガ]	ア[ズキニ]	ア[ズキカラ]	ア[ズキマデ]	ア[ズキカラモ]	ア[ズキマデモ]
4-3-4-1	鉞(ハ[サミ])	ハ[サミガ]	ハ[サミニ]	ハ[サミカラ]	ハ[サミマデ]	ハ[サミカラモ]	ハ[サミマデモ]
4-3-4-2	鏡(カ[ガミ])	カ[ガミガ]	カ[ガミニ]	カ[ガミカラ]	カ[ガミマデ]	カ[ガミカラモ]	カ[ガミマデモ]
4-3-4-3	男(オ[トコ])	オ[トコガ]	オ[トコニ]	オ[トコカラ]	オ[トコマデ]	オ[トコカラモ]	オ[トコマデモ]
4-3-5-1	朝日(ア[サ]ヒ)	ア[サ]ヒガ]	ア[サ]ヒニ	ア[サ]ヒカラ	ア[サ]ヒマデ	ア[サ]ヒカラモ	ア[サ]ヒマデモ
4-3-5-2	命(イ[ノ]チ)	イ[ノ]チガ]	イ[ノ]チニ	イ[ノ]チカラ	イ[ノ]チマデ	イ[ノ]チカラモ	イ[ノ]チマデモ
4-3-5-3	心(コ[コロ])	コ[コロガ]	コ[コロニ]	コ[コロカラ]	コ[コロマデ]	コ[コロカラモ]	コ[コロマデモ]
4-3-6-1	兎(ウ[サ]ギ)	ウ[サ]ギガ]	ウ[サ]ギニ	ウ[サ]ギカラ	ウ[サ]ギマデ	ウ[サ]ギカラモ	ウ[サ]ギマデモ
4-3-6-2	オ[サ]ギとも	ウ[サ]ギガ。(新)	ウ[サ]ギニ	ウ[サ]ギカラ	ウ[サ]ギマデ	ウ[サ]ギカラモ	ウ[サ]ギマデモ
4-3-6-3	狐(きつ[ネ])	きつ[ネガ]	きつ[ネニ]	きつ[ネカラ]	きつ[ネマデ]	きつ[ネカラモ]	きつ[ネマデモ]
4-3-7-1	背中(セ[ナカ])	セ[ナカガ]	セ[ナカニ]	セ[ナカカラ]	セ[ナカマデ]	セ[ナカカラモ]	セ[ナカマデモ]
4-3-7-2	兜([カ]ブト)	[カ]ブトガ]	[カ]ブトニ	[カ]ブトカラ	[カ]ブトマデ	[カ]ブトカラモ	[カ]ブトマデモ
4-3-7-3	蕁(イチ[ゴ])	イチ[ゴガ]	イチ[ゴニ]	イチ[ゴカラ]	イチ[ゴマデ]	イチ[ゴカラモ]	イチ[ゴマデモ]
4-3-7-3	薬(ク[スリ])	ク[スリガ]	ク[スリニ]	ク[スリカラ]	ク[スリマデ]	ク[スリカラモ]	ク[スリマデモ]

※ケ[ムリカラモ, ケ[ムリマデモ]の他に, ケ[ムリカ]ラモ, ケ[ムリマ]デモ にも揺れる。後者の方が後に続く感じがあるという。

なお, 「女の子」は, 古くは「ニョーバ」ンコ。また オ[ナゴ]ノコ とも言うが, オナゴ単独ではもう使わないという。

(5) 4拍名詞

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
5-01	餅米 (もち[ゴメ])	もち[ゴメガ]	もち[ゴメニ]	もち[ゴメカラ]	もち[ゴメマデ]	もち[ゴメカラモ]	もち[ゴメマデモ]
5-02	友達 (トモダチ)	トモダチガ	トモダチニ	トモダチカラ	トモダチマデ	トモダチカラモ	トモダチマデモ
5-03	懐 (フトコロ) フトコロ	フトコロガ	フトコロニ	フトコロカラ	フトコロマデ	フトコロカラモ	フトコロマデモ
5-04	唇 (ク[チビル]) ク[チビー]	ク[チビルガ]	ク[チビルニ]	ク[チビルカラ]	ク[チビルマデ]	ク[チビルカラモ]	ク[チビルマデモ]
5-05	川上 (カ[ワカミ])	カ[ワカミガ]	カ[ワカミニ]	カ[ワカミカラ]	カ[ワカミマデ]	カ[ワカミカラモ]	カ[ワカミマデモ]
5-06	色紙 (イ[ロガ]ミ)	イ[ロガ]ミガ	イ[ロガ]ミニ	イ[ロガ]ミカラ	イ[ロガ]ミマデ	イ[ロガ]ミカラモ	イ[ロガ]ミマデモ
5-07	雷 (カミ[ナリ]) カミ[ナ]	カミ[ナリガ]	カミ[ナリニ]	カミ[ナリカラ]	カミ[ナリマデ]	カミ[ナリカラモ]	カミ[ナリマデモ]
5-08	米櫃 (コ[メビツ])	コ[メビツガ]	コ[メビツニ]	コ[メビツカラ]	コ[メビツマデ]	コ[メビツカラモ]	コ[メビツマデモ]
5-09	簪 (カン[ザシ])	カン[ザシ]ガ	カン[ザシ]ニ	カン[ザシ]カラ	カン[ザシ]マデ	カン[ザシ]カラモ	カン[ザシ]マデモ
5-10	針金 (ハリ[ガネ]) ハー[ガネ]	ハリ[ガネガ]	ハリ[ガネニ]	ハリ[ガネカラ]	ハリ[ガネマデ]	ハリ[ガネカラモ]	ハリ[ガネマデモ]
5-11	麦藁 (ムギ[ワラ])	ムギ[ワラガ]	ムギ[ワラニ]	ムギ[ワラカラ]	ムギ[ワラマデ]	ムギ[ワラカラモ]	ムギ[ワラマデモ]
5-12	味噌汁 (ミ[ソシ]ル) ミ[ソシ]ー	ミ[ソシ]ルガ	ミ[ソシ]ルニ	ミ[ソシ]ルカラ	ミ[ソシ]ルマデ	ミ[ソシ]ルカラモ	ミ[ソシ]ルマデモ
5-13	雨降り (ア[メフリ])	ア[メフリガ]	ア[メフリニ]	ア[メフリカラ]	ア[メフリマデ]	ア[メフリカラモ]	ア[メフリマデモ]
5-14	前掛け (マエ[カケ])	マエ[カケガ]	マエ[カケニ]	マエ[カケカラ]	マエ[カケマデ]	マエ[カケカラモ]	マエ[カケマデモ]
5-15	鶯 (ウ[グイス])	ウ[グイスガ]	ウ[グイスニ]	ウ[グイスカラ]	ウ[グイスマデ]	ウ[グイスカラモ]	ウ[グイスマデモ]
5-16	撫子 (ナ[デ]シコ)	ナ[デ]シコガ	ナ[デ]シコニ	ナ[デ]シコカラ	ナ[デ]シコマデ	ナ[デ]シコカラモ	ナ[デ]シコマデモ
5-17	風呂敷 (フ[ロシキ])	フ[ロシキガ]	フ[ロシキニ]	フ[ロシキカラ]	フ[ロシキマデ]	フ[ロシキカラモ]	フ[ロシキマデモ]

※ア[メフリ]カラ, ア[メフリ]マデ, ア[メフリ]マデモ に揺れるのは, 上記の注記と同じ現象であろう。ア[メフリ]カラモ はこれだけが出ているが, おそらくア[メフリ]カラモ も存在するであろう。なお, 「色紙」は物自体が新しいという。

(6) 1拍名詞

単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の
6-1-1-1 蚊 ([カ])	カ[ガ]。	カ[ニ]。	カ[カラ]。※	カ[マデ]。	カ[カラモ]。※	カ[マデモ]。※	カ[ノナキゴエ
6-1-1-2 戸 ([ト])	ト[ガ]。	ト[ニ]。	ト[カラ]。※	ト[マデ]。	ト[カラモ]。※	ト[マデモ]。	ト[ノスベリ
6-1-1-3 血 ([チ])	チ[ガ]。	チ[ニ]。	チ[カラ]。※	チ[マデ]。	チ[カラモ]。※	チ[マデモ]。	チ[ノイロ
6-1-2-1 葉 ([ハ])	ハ[ガ]。	ハ[ニ]。	ハ[カラ]。※	ハ[マデ]。	ハ[カラモ]。※	ハ[マデモ]。	ハ[ノイロ
6-1-2-2 日 ([ヒ])	ヒ[ガ]。	ヒ[ニ]。	ヒ[カラ]。※	ヒ[マデ]。	ヒ[カラモ]。	ヒ[マデモ]。	ヒ[ノヒカリ
	ヒ[ガデ]タ。						
6-1-3-1 手 ([テ])	[テ]ガ。	[テ]ニ。	[テ]カラ。	[テ]マデ。	[テ]カラモ。	[テ]マデモ。	[テ]ノナカ
6-1-3-2 目 ([メ])	[メ]ガ。	[メ]ニ。	[メ]カラ。	[メ]マデ。	[メ]カラモ。	[メ]マデモ。	[メ]ノウエ
6-1-3-3 火 ([ヒ])	ヒ[ガ]。	ヒ[ニ]。	ヒ[カラ]ラ。	ヒ[マ]デ。	ヒ[カ]ラモ。	ヒ[マ]デモ。	ヒ[ノ]タマ
	ヒ[ガ]デタ。						ヒ[ノ]イキオイ

※ここでも、カ[カ]ラ、カ[カ]ラモ、カ[マ]デモに揺れる。

(7) 複合語

単語	奥村 1981			
7-2-5n 春 ([ノ]ル)	ハル[ヤス]ミ	ハル[マツ]リ	ハル[サメ (食)]	●○▽
7-2-2n 夏 ([ナ]ツ)	ナツ[ヤス]ミ	ナツ[マツ]リ	ナ[ツク]サ	○●▽
7-2-1w 金 ([カ]ネ)	カ[ネズ]カイ	カ[ネモ]ーケ	カ[ネモ]チ	○●▼
7-2-2w 川 ([カ]ワ)	カ[ワギ]シ	カ[ワク]ダリ	カ[ワザ]カナ	○●▼
7-2-3w 塩 ([シ]オ)	シ[オア]ジ	シ[オカ]ゲン	シ[オケ]	○●▽
		[ソーカ]ゲン	[ソーケ]	
7-2-4w 種 ([タ]ネ)	タ[ネマ]キ	タ[ネツ]ケ	タ[ネオ]マ (馬)	○●▽
7-2-5w 雨 ([ア]メ)	ア[メフ]リ	ア[メア]ガリ	ア[マモ]リ	○●▽
	ア[メフ]リ			

ここは、カラを付けて語末の核の有無を判定し、核のあるもののみ、語末に「」を付してある。

(8) 2拍名詞 (接続)

	単語	～が	～を	～に	～から
8-2-1w	箱 (ハコ)	ハ[コガア]ル。 (終助詞付きは～[ア]ー)	ハ[コオ作]ッ[タ]。 カキ[オ]食[べ]タ。	ハ[コニ]入[レ]タ。 カ[キニ] (袋オ) 被[ブセ]タ。	ハ[コカラ出]エタ。 カキ[カラ]食[べ]タ。 カキ[カラ]クッ[タ]。が普通 オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-1n	柿 (カキ)	カキ[ガア]ル。	カキ[オ]食[べ]タ。	カ[キニ] (袋オ) 被[ブセ]タ。	カキ[カラ]食[べ]タ。 カキ[カラ]クッ[タ]。が普通 オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-2w	音 (オト)	オ[トガ]聞[コエ]ー。	オ[トオ]タテ[タ]。 カミ[オ]破[ブ]ッ[タ]。	オ[トニ]敏[感]ダ。 カミ[ニ]書[イ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-2n	紙 (カミ)	カミ[ガナ]エ。	カミ[オ]破[ブ]ッ[タ]。	カミ[ニ]書[イ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-3w	芋 (イモ)	イ[モ]ガ[ア]ル。	イ[モ]オ作[ク]ッ[タ]。 アシ[オ]揉[ン]ダ]。	イ[モニ]似[ト]ー。 アシ[ニ] (葉オ) つ[ケ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-3n	足 (アシ)	アシ[ガ]痛[テ]。	アシ[オ]揉[ン]ダ]。	アシ[ニ] (葉オ) つ[ケ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-4w	笠 (カサ)	カ[サ]ガ[ア]ル。	カ[サ]オカ[ブ]ッ[タ]。 [ウ]ミオ見[タ]。	カ[サニ] (飾りを) つ[ケ]タ。 [ウ]ミニ行[ッ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-4n	海 (ウミ)	[ウ]ミガ見[エ]ル。	[ウ]ミオ見[タ]。	[ウ]ミニ行[ッ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-5w	雨 (アメ)	ア[メ]ガ降[ル]。	ア[メ]オ降[ラセ]ル。	ア[メニ]濡[レ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-5n	蛇 (へビ)	[へ]ビガオ[ル]。 (～オー[ワ] おるよ)	[へ]ビオ捕[カマ]エタ。 [へ]ビオ降[ラセ]ル。	[へ]ビニ氣[オ]つ[ケ]ル。 ア[メニ]濡[レ]タ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。 カミ[カラ]捨[テ]タ。 イ[モ]カラ (先に) 食[べ]ル。 アシ[カ]ヲ揉[ン]ダ。 カ[サ]カラ作[ク]ッ[タ]。 [ウ]ミカラ[吹]イテクル。 (家オ) ア[メ]カラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。

(9) 3拍名詞 (接続)

	単語	～が	～を	～に	～から
9-3-1	煙 (ケムリ)	ケ[ムリガ]出[タ]。	ケ[ムリ]オ出[シ]タ。 ケ[ムリニ]ナッ[タ]。	ケ[ムリニ]ナッ[タ]。	ケ[ムリカラ]守[モ]ル。 (家オ) ケ[ムリカラ]守[モ]ル。 [オンナ]カラ (先に) 始[メ]タ。 オ[トコ]カラ (先に) 始[メ]タ。 コ[コロ]カラア[ヤマ]ル。 ウ[サギカラ] (先に) ツ[カマ]エタ。
9-3-2	女 (オンナ)	[オンナ]ガオ[ル]。	[オンナ]オ見[タ]。 オ[トコ]オ見[タ]。	[オンナニ]会[ッ]タ。 オ[トコニ]会[ッ]タ。	[オンナ]カラ (先に) 始[メ]タ。 オ[トコ]カラ (先に) 始[メ]タ。 コ[コロ]カラア[ヤマ]ル。 ウ[サギカラ] (先に) ツ[カマ]エタ。
9-3-4	男 (オトコ)	オ[トコ]ガオ[ル]。	オ[トコ]オ見[タ]。 コ[コロ]オ入[れ]替[エ]ル。	オ[トコニ]会[ッ]タ。 コ[コロニ]ヒ[ビ]ー[タ]。	オ[トコ]カラ (先に) 始[メ]タ。 コ[コロ]カラア[ヤマ]ル。 ウ[サギカラ] (先に) ツ[カマ]エタ。
9-3-5	心 (ココロ)	コ[コロ]ガ優[サシ]ー。	コ[コロ]オ入[れ]替[エ]ル。	コ[コロニ]ヒ[ビ]ー[タ]。	オ[トコ]カラ (先に) 始[メ]タ。 コ[コロ]カラア[ヤマ]ル。 ウ[サギカラ] (先に) ツ[カマ]エタ。
9-3-6	兎 (ウサギ)	ウ[サギガ]居[ル]。	ウ[サギ]オ飼[ッ]トー。 ([飼]ッ) ヨーもあるが)	ウ[サギニ]エ[サ]オヤ(口)ル。 [カ]ブトニ (飾りを) つ[ケ]タ。	ウ[サギカラ] (先に) ツ[カマ]エタ。 [カ]ブトカラ始[メ]タ。 [カ]ブトカラ始[メ]タ。
9-3-7	兜 (カブト)	[カ]ブトガア[ル]。	[カ]ブトオカ[ブ]ッ[タ]。	[カ]ブトニ (飾りを) つ[ケ]タ。	ウ[サギカラ] (先に) ツ[カマ]エタ。 [カ]ブトカラ始[メ]タ。 [カ]ブトカラ始[メ]タ。

4. 3 仁多郡奥出雲町横田のアクセント資料

(1) 2拍名詞 (第2拍広母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
1-2-1w-1	風 (カ[ゼ])	カ[ゼガ]。	カ[ゼニ]。	カ[ゼカラ]。	カ[ゼマデ]。	カ[ゼカラモ]。 ※	カ[ゼマデモ]。 ※	カ[ゼノオト]	○●▼
1-2-1w-2	箱 (ハ[コ])	ハ[コガ]。	ハ[コニ]。	ハ[コカラ]。	ハ[コマデ]。	ハ[コカラモ]。 ※	ハ[コマデモ]。 ※	ハ[コノナ]カ	○●▼
1-2-2w-1	音 (オ[ト])	オ[トガ]。	オ[トニ]。	オ[トカラ]。	オ[トマデ]。	オ[トカラモ]。 ※	オ[トマデモ]。 ※	オ[トノオーキサ]	○●▼
1-2-2w-2	胸 (ム[ネ])	ム[ネガ]。	ム[ネニ]。	1ム[ネカラ]。	ム[ネマデ]。	ム[ネカラモ]。 ※	ム[ネマデモ]。 ※	ム[ネノマ]エ	○●▼
1-2-2w-3	歌 (ウ[タ])	ウ[タガ]。	ウ[タニ]。	ウ[タカラ]。	ウ[タマデ]。	ウ[タカラモ]。	ウ[タマデモ]。	ウ[タ]ノ[ホ]ン	○●▽
1-2-3w-1	芋 (イ[モ]) エ[モ]	イ[モガ]。	イ[モニ]。	イ[モカラ]。	イ[モマデ]。	イ[モカラモ]。	イ[モマデモ]。	イ[モ]ノツ[ル]	○●▽
1-2-3w-2	米 (コ[メ])	コ[メガ]。	コ[メニ]。	コ[メカラ]。	コ[メマデ]。	コ[メカラモ]。	コ[メマデモ]。	コ[メ]ノデ[キ]	○●▽
1-2-4w-1	笠 ([カ]サ)	[カ]サガ]。	[カ]サニ]。	[カ]サカラ]。	[カ]サマデ]。	[カ]サカラモ]。	[カ]サマデモ]。	[カ]サノホ[ネ]	○●▽
1-2-4w-2	舟 (フ[ネ])	フ[ネガ]。	フ[ネニ]。	フ[ネカラ]。	フ[ネマデ]。	フ[ネカラモ]。	フ[ネマデモ]。	フ[ネ]ノウ[エ]	○●▽
1-2-5w-1	雨 ([ア]メ)	[ア]メガ]。	[ア]メニ]。	[ア]メカラ]。	[ア]メマデ]。	[ア]メカラモ]。	[ア]メマデモ]。	[ア]メノ[ナ]カ	○●▽
1-2-5w-2	井戸 (イ[ド])	イ[ドガ]。	イ[ドニ]。	イ[ドカラ]。	イ[ドマデ]。	イ[ドカラモ]。	イ[ドマデモ]。	イ[ド]ノ[マ]エ	○●▽

※これが本来と見られるが、しばしばカ[ゼカラ]モ、カ[ゼマデ]モにも揺れる。有核語でも、コ[メ]カラ]モ、[カ]サカラ]モが頻出する。

(2) 2拍名詞 (第2拍狭母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
2-2-1n-1	柿 (カ[キ])	カキ[ガ]	カ[キニ]	カキ[カラ]※	カキ[マデ]	カキ[カラ]モ。	カキ[マデ]モ。	カキ[ノ]ヘタ	○○▼
2-2-1n-2	海老 (エ[ビ])	エビ[ガ]	エ[ビニ]	エビ[カラ]※	エビ[マデ]	エビ[カラ]モ。	エビ[マデ]モ。	エビ[ノ]カラ	○○▼
2-2-2n-1	紙 (カ[ミ])	カミ[ガ]	カミ[ニ]	カミ[カラ]	カミ[マデ]※	カミ[カラ]モ。	カミ[マデ]モ。※	カミ[ノ]ウエ	○○▼
2-2-2n-2	屋 (ヒ[ル])	ヒル[ガ]	ヒル[ニ]	ヒル[カラ]※	ヒル[マデ]※	ヒル[カラ]モ。	ヒル[マデ]モ。	ヒル[ノ]シゴト	○○▼
2-2-3n-1	足 (ア[シ])	アシ[ガ]	ヒ[ルニ]	アシ[カラ]	アシ[マデ]	アシ[カラ]モ。	アシ[マデ]モ。	アシ[ノ]ウラ	○○▼
2-2-3n-2	耳 (ミ[ミ])	ミミ[ガ]	ア[シニ]	ア[シ]カラ	ア[シ]マデ	ア[シ]カラ	ア[シ]マデ	アシ[ノ]ユ[ビ]	○○▼
2-2-4n-1	松 ([マ]ツ)	[マ]ツガ。	ミミ[ニ]	ミミ[カラ]	ミミ[マデ]	ミミ[カラ]モ。	ミミ[マデ]モ。	ミミ[ノ]ナカ	○○▼
2-2-4n-2	海 ([ウ]ミ)	[ウ]ミガ。	[マ]ツニ	[マ]ツカラ	[マ]ツマデ	[マ]ツカラ	[マ]ツマデ	[マ]ツノエ[ダ]	○○▼
2-2-5n-1	猿 ([サ]ル)	[サ]ルガ。	[ウ]ミニ	[ウ]ミカラ	[ウ]ミマデ	[ウ]ミカラ	[ウ]ミマデ	[ウ]ミノ[ナ]カ	○○▼
2-2-5n-2	鶴 ([ツ]ル)	[ツ]ルガ。	[サ]ルニ	[サ]ルカラ	[サ]ルマデ	[サ]ルカラ	[サ]ルマデ	[サ]ルノシツ[ボ]	●○▽
2-2-5n-3	蛇 ([ヘ]ビ)	[ヘ]ビガ。	[ツ]ルニ	[ツ]ルカラ	[ツ]ルマデ	[ツ]ルカラ	[ツ]ルマデ	[ツ]ルノハ[ネ]	●○▽
			[ヘ]ビニ	[ヘ]ビカラ	[ヘ]ビマデ	[ヘ]ビカラ	[ヘ]ビマデ	[ヘ]ビノヌ[ケ]ガラ	●○▽

※ これが本来と見られるが、しばしば ヒル[カラ], ヒル[マ]デ, カミ[カラ]モ, カミ[マデ]モ にも揺れる。なお, [ヘ]ビカラ]モ, [ヘ]ビマデ]モも頻出する。

(3) 2拍名詞 (3-6のみ調査。無印は未調査。)

	単語	へが	へに	へから	へまで	奥村 1981
3-1-2-1w	飴 (アメ)	アメガ。	アメニ。	アメカラ。	アメマデ。	○●▼
3-1-2-5w	雨 (アメ)	アメガ。	アメニ。	アメカラ。	アメマデ。	○●▽
3-2-2-1w	釜 (カマ)	カマガ。	カマニ。	カマカラ。	カママデ。	○●▼
3-2-2-4w	鎌 (カマ)	カマガ。	カマニ。	カマカラ。	カママデ。	○●▽
3-3-2-1n	端 (ハシ)	ハシガ。	ハシニ。	ハシカラ。	ハシマデ。	○○▼
3-3-2-2n	橋 (ハシ)	ハシガ。	ハシニ。	ハシカラ。	ハシマデ。	○○▼
3-3-2-4n	箸 (ハシ)	ハシガ。	ハシニ。	ハシカラ。	ハシマデ。	●○▽
3-4-2-2n	紙 (カミ)	カミガ。	カミニ。	カミカラ。	カミマデ。	○○▼
3-4-2-3n	髪 (カミ)	カミガ。	カミニ。	カミカラ。	カミマデ。	○○▼
3-5-2-1n	霧 (キリ)	キリガ。	キリニ。	キリカラ。	キリマデ。	—
3-5-2-4n	錐 (キリ)	キリガ。	キリニ。	キリカラ。	キリマデ。	○○▼
3-6-2-5w-1	青 ([ア]オ)	[ア]オガ。	[ア]オニ。	[ア]オカラ。	[ア]オマデ。	○●▽~●○▽
3-6-2-5w-2	黒 ([ク]ロ)	[ク]ロガ。	[ク]ロニ。	[ク]ロカラ。	[ク]ロマデ。	○●▽~●○▽
3-6-2-5w-3	白 ([シ]ロ)	[シ]ロガ。	[シ]ロニ。	[シ]ロカラ。	[シ]ロマデ。	○●▽~●○▽
3-7-2-1	赤 [ア]カ	[ア]カガ。	[ア]カニ。	[ア]カカラ。	[ア]カマデ。	

(4) 3拍名詞(言い切り)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
4-3-1-1	煙(ケ[ムリ])	ケ[ムリガ]	ケ[ムリニ]	ケ[ムリカラ]	ケ[ムリマデ]	ケ[ムリカラモ]	ケ[ムリマデモ]
4-3-1-2	踊(オ[ドリ])	オ[ドリガ]	オ[ドリニ]	オ[ドリカラ]	オ[ドリマデ]	オ[ドリカラモ]	オ[ドリマデモ]
4-3-1-3	港(ミ[ナト])	ミ[ナトガ]	ミ[ナトニ]	ミ[ナトカラ]	ミ[ナトマデ]	ミ[ナトカラモ]	ミ[ナトマデモ]
4-3-2-1	女(オ[オンナ]) オ[ナゴ]	[オンナ]ガ	[オンナ]ニ	[オンナ]カラ	[オンナ]マデ	[オンナ]カラモ	[オンナ]マデモ
4-3-2-2	小豆(ア[ズキ])	ア[ズキガ]	ア[ズキニ]	ア[ズキカラ]	ア[ズキマデ]	ア[ズキカラモ]	ア[ズキマデモ]
4-3-4-1	鉢(ハ[サミ])	ハ[サミガ]	ハ[サミニ]	ハ[サミカラ]	ハ[サミマデ]	ハ[サミカラモ]	ハ[サミマデモ]
4-3-4-2	鏡(カ[ガミ])	カ[ガミ]ガ	カ[ガミニ]	カ[ガミ]カラ	カ[ガミ]マデ	カ[ガミ]カラモ	カ[ガミ]マデモ
4-3-4-3	男(オ[トコ])	オ[トコ]ガ	オ[トコ]ニ	オ[トコ]カラ	オ[トコ]マデ	オ[トコ]カラモ	オ[トコ]マデモ
4-3-5-1	朝日(ア[サ]ヒ)	ア[サ]ヒガ	ア[サ]ヒニ	ア[サ]ヒカラ	ア[サ]ヒマデ	ア[サ]ヒカラモ	ア[サ]ヒマデモ
4-3-5-2	命(イ[ノ]チ)	イ[ノ]チガ	イ[ノ]チニ	イ[ノ]チカラ	イ[ノ]チマデ	イ[ノ]チカラモ	イ[ノ]チマデモ
4-3-5-3	心(コ[コロ])	コ[コロ]ガ	コ[コロ]ニ	コ[コロ]カラ	コ[コロ]マデ	コ[コロ]カラモ	コ[コロ]マデモ
4-3-6-1	兎(ウ[サ]ギ) ウ[サギ]	ウ[サ]ギガ	ウ[サ]ギニ	ウ[サ]ギカラ	ウ[サ]ギマデ	ウ[サ]ギカラモ	ウ[サ]ギマデモ
4-3-6-2	狐(きつ[ネ])	きつ[ネ]ガ	きつ[ネ]ニ	きつ[ネ]カラ	きつ[ネ]マデ	きつ[ネ]カラモ	きつ[ネ]マデモ
4-3-6-3	背中(セ[ナカ])	セ[ナカガ]	セ[ナカニ]	セ[ナカカラ]	セ[ナカマデ]	セ[ナカカラモ]	セ[ナカマデモ]
4-3-7-1	兜([カ]ブト)	[カ]ブトガ	[カ]ブトニ	[カ]ブトカラ	[カ]ブトマデ	[カ]ブトカラモ	[カ]ブトマデモ
4-3-7-2	葎(イチ[ゴ])	イチ[ゴ]ガ	イチ[ゴ]ニ	イチ[ゴ]カラ	イチ[ゴ]マデ	イチ[ゴ]カラモ	イチ[ゴ]マデモ
4-3-7-3	葉(ク[スリ])	ク[スリガ]	ク[スリニ]	ク[スリカラ]	ク[スリマデ]	ク[スリカラモ]	ク[スリマデモ]

しばしば(特に有核語において)カラモとマデモの場合に、オ[トコ]カラモ、イ[ノ]チマデ]モ を記録している。

なお、女の子は[ニョーバ]ンコ で、その対は オ[トコ]ンコ。

(5) 4拍名詞

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
5-01	餅米 (もち[ゴメ])	もち[ゴメガ]。	もち[ゴメニ]。	もち[ゴメカラ]。	もち[ゴメマデ]。	もち[ゴメカラモ]。	もち[ゴメマデモ]。
5-02	友達 (トモダチ)	トモダチガ。	トモダチニ。	トモダチカラ。	トモダチマデ。	トモダチカラモ。	トモダチマデモ。
5-03	懐 (フ[トコロ])	フ[トコロガ]。	フ[トコロニ]。	フ[トコロカラ]。	フ[トコロマデ]。	フ[トコロカラモ]。	フ[トコロマデモ]。
5-04	唇 (ク[チビル])	ク[チビルガ]。	ク[チビルニ]。	ク[チビルカラ]。	ク[チビルマデ]。	ク[チビルカラモ]。	ク[チビルマデモ]。
5-05	川上 (カ[ワカミ])	カ[ワカミガ]。	カ[ワカミニ]。	カ[ワカミカラ]。	カ[ワカミマデ]。	カ[ワカミカラモ]。	カ[ワカミマデモ]。
5-06	色紙 (イ[ロガ]ミ)	イ[ロガ]ミガ。	イ[ロガ]ミニ。	イ[ロガ]ミカラ。	イ[ロガ]ミマデ。	イ[ロガ]ミカラモ。	イ[ロガ]ミマデモ。
5-07	雷 (カミ[ナリ] カン[ナー])	カミ[ナリガ]。	カミ[ナリニ]。	カミ[ナリカラ]。	カミ[ナリマデ]。	カミ[ナリカラモ]。	カミ[ナリマデモ]。
5-08	米櫃 (コ[メビツ])	コ[メビツガ]。	コ[メビツニ]。	コ[メビツカラ]。	コ[メビツマデ]。	コ[メビツカラモ]。	コ[メビツマデモ]。
5-09	簪 ([カンザシ])	[カンザシガ]。	[カンザシニ]。	[カンザシカラ]。	[カンザシマデ]。	[カンザシカラモ]。	[カンザシマデモ]。
5-10	針金 (ハリ[ガネ])	ハリ[ガネガ]。	ハリ[ガネニ]。	ハリ[ガネカラ]。	ハリ[ガネマデ]。	ハリ[ガネカラモ]。	ハリ[ガネマデモ]。
5-11	麦藁 (ムギ[ワラ])	ムギ[ワラガ]。	ムギ[ワラニ]。	ムギ[ワラカラ]。	ムギ[ワラマデ]。	ムギ[ワラカラモ]。	ムギ[ワラマデモ]。
5-12	味噌汁 (ミ[ソシ]ル) ミ[ソシ]ー	ミ[ソシ]ルガ。	ミ[ソシ]ルニ。	ミ[ソシ]ルカラ。	ミ[ソシ]ルマデ。	ミ[ソシ]ルカラモ。	ミ[ソシ]ルマデモ。
5-13	雨降り (ア[メフ]リ)	ア[メフ]リガ。	ア[メフ]リニ。	ア[メフ]リカラ。	ア[メフ]リマデ。	ア[メフ]リカラモ。	ア[メフ]リマデモ。
5-14	前掛け ([マエカケ])	[マエカケガ]。	[マエカケニ]。	[マエカケカラ]。	[マエカケマデ]。	[マエカケカラモ]。	[マエカケマデモ]。
5-15	鶯 (ウ[グ]イス)	ウ[グ]イスガ。	ウ[グ]イスニ。	ウ[グ]イスカラ。	ウ[グ]イスマデ。	ウ[グ]イスカラモ。	ウ[グ]イスマデモ。
5-16	撫子 (ナ[デ]シコ)	ナ[デ]シコガ。	ナ[デ]シコニ。	ナ[デ]シコカラ。	ナ[デ]シコマデ。	ナ[デ]シコカラモ。	ナ[デ]シコマデモ。
5-17	風呂敷 (フ[ロシキ])	フ[ロシキガ]。	フ[ロシキニ]。	フ[ロシキカラ]。	フ[ロシキマデ]。	フ[ロシキカラモ]。	フ[ロシキマデモ]。

(6) 1 拍名詞

単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の
6-1-1-1 蚊 ([カ])	カ[ガ]。	カ[ニ]。	カ[カラ]。	カ[マデ]。	カ[カラ]モ。	カ[マデ]モ。	カ[ノナ]きゴエ
6-1-1-2 戸 ([ト])	ト[ガ]。	ト[ニ]。	ト[カラ]。	ト[マデ]。	ト[カラ]モ。	ト[マデ]モ。	ト[ノス]ベリ
6-1-1-3 血 ([チ])	チ[ガ]。	チ[ニ]。	チ[カラ]。	チ[マデ]。	チ[カラ]モ。	チ[マデ]モ。	チ[ノイ]ロ
6-1-2-1 葉 ([ハ])	ハ[ガ]。	ハ[ニ]。	ハ[カラ]。	ハ[マデ]。	ハ[カラ]モ。	ハ[マデ]モ。	ハ[ノイ]ロ
6-1-2-2 日 ([ヒ])	ヒ[ガ]。	ヒ[ニ]。	ヒ[カラ]。	ヒ[マデ]。	ヒ[カラ]モ。	ヒ[マデ]モ。	ヒ[ノヒ]カリ
6-1-3-1 手 ([テ])	ヒ[ガ]デ]タ。 [テ]ガ。	[テ]ニ。	[テ]カラ。	[テ]マデ。	[テ]カラモ。	[テ]マデモ。	[テ]ノ[ナ]カ
6-1-3-2 目 ([メ])	[メ]ガ。	[メ]ニ。	[メ]カラ。	[メ]マデ。	[メ]カラモ。	[メ]マデモ。	[メ]ノウ[エ]
6-1-3-3 火 ([ヒ])	ヒ[ガ]。 [ヒ]ガ。	[ヒ]ニ。	ヒ[カラ]。	ヒ[マデ]。 [ヒ]マデ。	ヒ[カラ]モ。 ヒ[カ]ラモ。	ヒ[マデ]モ。 [ヒ]マデモ。	ヒ[ノ]タマ ヒ[ノ]ナカ

マデモが付いたときの音調については、(1)の注記を参照。また、[テ]マデ]モ、[ヒ]マデ]モ も聞かれる。

(7) 複合語

単語	奥村 1981		
7-2-5n 春 ([ハ]ル)	ハル[ヤス]ミ	ハル[マツ]リ	ハル[サ]メ ●○▽
7-2-2n 夏 ([ナ]ツ)	ナツ[ヤス]ミ	ナツ[マツ]リ	ナ[ツク]サ ○●▽
7-2-1w 金 (カ[ネ])	カ[ネズ]カイ	カ[ネモ]ーケ カ[ネモ]ーケ	カ[ネ]モち ○●▼
7-2-2w 川 (カ[ワ])	カ[ワギ]シ	カ[ワク]ダリ	カ[ワ]ザカナ ○●▼
7-2-3w 塩 (シ[オ]) [ツシヨ]	シ[オア]ジ	シ[オカ]ゲン	カ[ワ]ザカ]ナ シ[オ]ケ ○●▽
7-2-4w 種 (タ[ネ])	タ[ネマ]き	タ[ネツ]ケ	タ[ネ]ウマ ○●▽
7-2-5w 雨 ([ア]メ)	ア[メフ]リ	ア[メア]ガ]リ	ア[メ]モ]リ ○●▽

ここは、カラを付けて語末の核の有無を判定し、核のあるもののみ、語末に] を付してある。なお、[シヨ-カ]イ (塩辛い) という形はある。

(8) 2拍名詞 (接続)

	単語	～が	～を	～に	～から
8-2-1w	箱 (ハコ)	ハ[コガア]ル。 ～[ア]ーヨ (あるよ)	ハ[コオ]作[クツ]タ。 カキ[オ食]ベタ。 オ[トオタ]テタ。 カミ[オ破]ツタ。 イ[モ]オつ[クツ]タ。 アし[オ][揉]ンダ。 (アッ[ショ]に近い)	ハ[コニ入]レタ。 カ[キニ] (袋オ) 被[ブセ]タ。 オ[トニ敏感]ダ。 カミ[ニ書]イタ。 イ[モ]ニ似[チョー]。 ア[シ]ニ (薬オ) つ[ケ]タ。 [カ]サニ (飾りを) つ[ケ]タ。 [ウ]ミニ行[ツ]タ。 [ア]メニ濡[レ]タ。 [へ]ビニ気(き)[オツケ]ル。	ハ[コカラ出]エタ。 カキ[カラ食]ベタ。 オ[トカラ覚]ボエ]ル。 カミ[カラ捨]テタ。 イ[モ]カラ (先に) 食[ベ]ル。 アし[カ]ラ[揉]ンダ。 [カ]サカラつ[クツ]タ。 [ウ]ミカラ[吹]イテク]ル。 (家オ) [ア]メカラ守[モ]ル。 [へ]ビカラ逃[ゲ]ル。
8-2-1n	柿 (カキ)	カキ[ガア]ル。	カキ[オ食]ベタ。	カ[キニ] (袋オ) 被[ブセ]タ。	カキ[カラ食]ベタ。
8-2-2w	音 (オト)	オ[トガ聞]コエー。	オ[トオタ]テタ。	オ[トニ敏感]ダ。	オ[トカラ覚]ボエ]ル。
8-2-2n	紙 (カミ)	カミ[ガナ]エ。	カミ[オ破]ツタ。	カミ[ニ書]イタ。	カミ[カラ捨]テタ。
8-2-3w	芋 (イモ)	イ[モ]ガ[ア]ル。	イ[モ]オつ[クツ]タ。	イ[モ]ニ似[チョー]。	イ[モ]カラ (先に) 食[ベ]ル。
8-2-3n	足 (アシ)	アし[ガ]痛[タ]エ。	アし[オ][揉]ンダ。 (アッ[ショ]に近い)	ア[シ]ニ (薬オ) つ[ケ]タ。	アし[カ]ラ[揉]ンダ。
8-2-4w	笠 (カサ)	[カ]サガ[ア]ル。	[カ]サオカ[ブツ]タ。	[カ]サニ (飾りを) つ[ケ]タ。	[カ]サカラつ[クツ]タ。
8-2-4n	海 (ウミ)	[ウ]ミガ見[エ]ル。	[ウ]ミオ[見]タ。	[ウ]ミニ行[ツ]タ。	[ウ]ミカラ[吹]イテク]ル。
8-2-5w	雨 (アメ)	[ア]メガ[降]ル。	[ア]メオ降[ラセ]ル。	[ア]メニ濡[レ]タ。	(家オ) [ア]メカラ守[モ]ル。
8-2-5n	蛇 (へビ)	[へ]ビガオ[ル]。 ～オー[ヨ (おるよ)]	[へ]ビオ捕[カマ]エタ。	[へ]ビニ気(き)[オツケ]ル。	[へ]ビカラ逃[ゲ]ル。

(9) 3拍名詞 (接続)

	単語	～が	～を	～に	～から
9-3-1	煙 (ケムリ)	ケ[ムリガ出]タ。	ケ[ムリオ出]シ]タ。	ケ[ムリニナツ]タ。	(家オ) ケ[ムリカラ(口)守(D)モ]ル。
9-3-2	女 (オンナ)	[オンナ]ガオ[ル]。	[オンナ]オ[見]タ。	[オンナ]ニ[会ツ]タ。	[オンナ]カラ (先に) 始[メ]タ。
9-3-4	男 (オトコ)	オ[トコ]ガオ[ル]。	オ[トコ]オ[見]タ。	オ[トコ]ニ[会ツ]タ。	オ[トコ]カラ (先に) 始[メ]タ。
9-3-5	心 (ココロ)	コ[コロ]ガ優[サシ]ー。	コ[コロ]オ入[レ替]エル。	コ[コロ]ニヒ[ビ]ータ。	コ[コロ]カラア[ヤマ]ル。
9-3-6	兎 (ウサギ)	ウ[サ]ギガ居[ル]。	ウ[サ]ギオ[カ]ー[チョー]。 (飼っている)	ウ[サ]ギニエ[サ]オヤ[ル]。 ウ[サギニ]エ[サ]オヤ[ル]。	ウ[サ]ギカラ (先に) ツ[カマ]エタ。 ウ[サギカラ] (先に) ツ[カマ]エタ。
9-3-7	兜 (カブト)	[カ]ブトガ[ア]ル。	[カ]ブトオカ[ブツ]タ。	[カ]ブトニ (飾りを) つ[ケ]タ。	[カ]ブトカラ始[メ]タ。

4. 4 安来市広瀬のアクセント資料

(1) 2拍名詞 (第2拍広母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
1-2-1w-1	風 (カ[ゼ])	カ[ゼ]ガ。	カ[ゼ]ニ。	カ[ゼ]カラ。	カ[ゼ]マデ。	カ[ゼ]カラモ。	カ[ゼ]マデモ。	カ[ゼ]ノオト	○●▼
1-2-1w-2	箱 (ハ[コ])	ハ[コ]ガ。	ハ[コ]ニ。	ハ[コ]カラ。	ハ[コ]マデ。	ハ[コ]カラモ。	ハ[コ]マデモ。	ハ[コ]ノナ[カ]	○●▼
1-2-2w-1	音 (オ[ト])	オ[ト]ガ。	オ[ト]ニ。	オ[ト]カラ。	オ[ト]マデ。	オ[ト]カラモ。	オ[ト]マデモ。	オ[ト]ノオーキサ	○●▼
1-2-2w-2	胸 (ム[ネ])	ム[ネ]ガ。	ム[ネ]ニ。	ム[ネ]カラ。	ム[ネ]マデ。	ム[ネ]カラモ。	ム[ネ]マデモ。	ム[ネ]ノマ[エ]	○●▼
1-2-2w-3	歌 (ウ[タ])	ウ[タ]ガ。	ウ[タ]ニ。	ウ[タ]カラ。	ウ[タ]マデ。	ウ[タ]カラモ。	ウ[タ]マデモ。	ウ[タ]ノホ[ン]	○●▼
1-2-3w-1	芋 (イ[モ])	イ[モ]ガ。	イ[モ]ニ。	イ[モ]カラ。	イ[モ]マデ。	イ[モ]カラモ。	イ[モ]マデモ。	イ[モ]ノツ[ル]	○●▼
1-2-3w-2	米 (コ[メ])	コ[メ]ガ。	コ[メ]ニ。	コ[メ]カラ。	コ[メ]マデ。	コ[メ]カラモ。	コ[メ]マデモ。	コ[メ]ノデ[キ]	○●▼
1-2-4w-1	笠 ([カ]サ)	[カ]サガ。	[カ]サニ。	[カ]サカラ。	[カ]サマデ。	[カ]サカラモ。	[カ]サマデモ。	[カ]サノホ[ネ]	○●▼
1-2-4w-2	舟 (フ[ネ])	フ[ネ]ガ。	フ[ネ]ニ。	フ[ネ]カラ。	フ[ネ]マデ。	フ[ネ]カラモ。	フ[ネ]マデモ。	フ[ネ]ノウ[エ]	○●▼
1-2-5w-1	雨 ([ア]メ)	[ア]メガ。	[ア]メニ。	[ア]メカラ。	[ア]メマデ。	[ア]メカラモ。	[ア]メマデモ。	[ア]メノ[ナ]カ	○●▼
1-2-5w-2	井戸 (イ[ド])	イ[ド]ガ。	イ[ド]ニ。	イ[ド]カラ。	イ[ド]マデ。	イ[ド]カラモ。	イ[ド]マデモ。	イ[ド]ノ[マ]エ	○●▼

(2) 2拍名詞 (第2拍狭母音)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の	奥村 1981
2-2-1n-1	柿 (カ[キ])	カキ[ガ]。	カ[キ]ニ。	カキ[カラ]。	カキ[マデ]。	カキ[カラ]モ。	カキ[マデ]モ。	カキ[ノ]ヘタ	○○▼
2-2-1n-2	海老 (エ[ビ])	エビ[ガ]。	エ[ビ]ニ。	エビ[カラ]。	エビ[マデ]。	エビ[カラ]モ。	エビ[マデ]モ。	エビ[ノ]カ[ラ]	○○▼
2-2-2n-1	紙 (カ[ミ])	カミ[ガ]。	カ[ミ]ニ。	カミ[カラ]。	カミ[マデ]。	カミ[カラ]モ。	カミ[マデ]モ。	カミ[ノ]ウエ	○○▼
2-2-2n-2	昼 (ヒ[ル])	ヒル[ガ]。	ヒ[ル]ニ。	ヒル[カラ]。	ヒル[マデ]。	ヒル[カラ]モ。	ヒル[マデ]モ。	ヒル[ノ]シゴト	○○▼
2-2-3n-1	足 (ア[シ])	アシ[ガ]。	ア[シ]ニ。	アシ[カラ]。	アシ[マデ]。	アシ[カラ]モ。	アシ[マデ]モ。	アシ[ノ]ウラ	○○▼
2-2-3n-2	耳 (ミ[ミ])	ミミ[ガ]。	ミ[ミ]ニ。	ミミ[カラ]。	ミミ[マデ]。	ミミ[カラ]モ。	ミミ[マデ]モ。	ミミ[ノ]ナ[カ]	○○▼
2-2-4n-1	松 ([マ]ツ)	[マ]ツガ。	[マ]ツニ。	[マ]ツカラ。	[マ]ツマデ。	[マ]ツカラモ。	[マ]ツマデモ。	[マ]ツノエ[ダ]	○○▼
2-2-4n-2	海 ([ウ]ミ)	[ウ]ミガ。	[ウ]ミニ。	[ウ]ミカラ。	[ウ]ミマデ。	[ウ]ミカラモ。	[ウ]ミマデモ。	[ウ]ミノナ[カ]	○○▼
2-2-5n-1	猿 ([サ]ル)	[サ]ルガ。	[サ]ルニ。	[サ]ルカラ。	[サ]ルマデ。	[サ]ルカラモ。	[サ]ルマデモ。	[サ]ルノシツ[ボ]	●○○▽
2-2-5n-2	鶴 ([ツ]ル)	[ツ]ルガ。	[ツ]ルニ。	[ツ]ルカラ。	[ツ]ルマデ。	[ツ]ルカラモ。	[ツ]ルマデモ。	[ツ]ルノハ[ネ]	●○○▽
2-2-5n-3	蛇 ([ヘ]ビ)	[ヘ]ビガ。	[ヘ]ビニ。	[ヘ]ビカラ。	[ヘ]ビマデ。	[ヘ]ビカラモ。	[ヘ]ビマデモ。	[ヘ]ビノヌ[ケガ]ラ	●○○▽

(3) 2拍名詞

	単語	〜が	〜に	〜から	〜まで	奥村 1981
3-1-2-1w	飴 (ア[メ])	ア[メガ]。	ア[メニ]。	ア[メカラ]。	ア[メマデ]。	○●▼
3-1-2-5w	雨 ([ア]メ)	[ア]メガ。	[ア]メニ。	[ア]メカラ。	[ア]メマデ。	○●▽
3-2-2-1w	釜 (カ[マ])	カ[マガ]。	カ[マニ]。	カ[マカラ]。	カ[ママデ]。	○●▼
3-2-2-4w	鎌 ([カ]マ)	[カ]マガ。	[カ]マニ。	[カ]マカラ。	[カ]ママデ。	○●▽
3-3-2-1n	端 (ハ[シ])	ハシ[ガ]。	ハシ[ニ]。	ハシ[カラ]。	ハシ[マデ]。	○●▼
3-3-2-2n	橋 (ハ[シ])	ハシ[ガ]。	ハシ[ニ]。	ハシ[カラ]。	ハシ[マデ]。	○●▼
3-3-2-4n	箸 ([ハ]シ)	[ハ]しガ。	[ハ]しニ。	[ハ]しカラ。	[ハ]しまデ。	●○▽
3-4-2-2n	紙 (カ[ミ])	カミ[ガ]。	カ[ミニ]。	カミ[カラ]。	カミ[マデ]。	○●▼
3-4-2-3n	髪 (カ[ミ])	カミ[ガ]ア]ル。 カミ[ガ]。カ[ミ]ガ。 カミ[ガ]ア]ル。	カ[ミニ]。	カミ[カラ]。	カミ[マデ]。 カ[ミ]マデ	○●▼
3-5-2-1n	霧 (キ[リ])	キリ[ガ]。	キ[リニ]。	キリ[カラ]。	キリ[マデ]。	—
3-5-2-4n	錐 ([キ]リ)	[キ]リガ。	[キ]リニ。	[キ]リカラ。	[キ]リマデ。	○●▼
3-6-2-5w-1	青 ([ア]オ)	[ア]オガ。	[ア]オニ。	[ア]オカラ。	[ア]オマデ。	○●▽~●○▽
3-6-2-5w-2	黒 ([ク]ロ)	[ク]ロガ。	[ク]ロニ。	[ク]ロカラ。	[ク]ロマデ。	○●▽~●○▽
3-6-2-5w-3	白 ([シ]ロ)	[シ]ロガ。	[シ]ロニ。	[シ]ロカラ。	[シ]ロマデ。	○●▽~●○▽
	赤 [ア]カ	[ア]カガ。	[ア]カニ。	[ア]カカラ。	[ア]カマデ。	

(4) 3拍名詞(言い切り)

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
4-3-1-1	煙(ケ[ムリ])	ケ[ムリ]ガ。	ケ[ムリ]ニ。	ケ[ムリ]カラ。	ケ[ムリ]マデ。	ケ[ムリ]カラモ。	ケ[ムリ]マデモ。
4-3-1-2	踊(オ[ドリ])	オ[ドリ]ガ。	オ[ドリ]ニ。	オ[ドリ]カラ。	オ[ドリ]マデ。	オ[ドリ]カラモ。	オ[ドリ]マデモ。
4-3-1-3	港(ミ[サト])	ミ[サト]ガ。	ミ[サト]ニ。	ミ[サト]カラ。	ミ[サト]マデ。	ミ[サト]カラモ。	ミ[サト]マデモ。
4-3-2-1	女([オンナ])	[オンナ]ガ。	[オンナ]ニ。	[オンナ]カラ。	[オンナ]マデ。	[オンナ]カラモ。	[オンナ]マデモ。
	[ニヨ](一)バ						
4-3-2-2	小豆(ア[ズキ])	ア[ズキ]ガ。	ア[ズキ]ニ。	ア[ズキ]カラ。	ア[ズキ]マデ。	ア[ズキ]カラモ。	ア[ズキ]マデモ。
4-3-4-1	鋏(ハ[サミ])	ハ[サミ]ガ。	ハ[サミ]ニ。	ハ[サミ]カラ。	ハ[サミ]マデ。	ハ[サミ]カラモ。	ハ[サミ]マデモ。
4-3-4-2	鏡(カ[ガミ])	カ[ガミ]ガ。	カ[ガミ]ニ。	カ[ガミ]カラ。	カ[ガミ]マデ。	カ[ガミ]カラモ。	カ[ガミ]マデモ。
4-3-4-3	男(オ[トコ])	オ[トコ]ガ。	オ[トコ]ニ。	オ[トコ]カラ。	オ[トコ]マデ。	オ[トコ]カラモ。	オ[トコ]マデモ。
4-3-5-1	朝日(ア[サ]ヒ)	ア[サ]ヒガ。	ア[サ]ヒニ。	ア[サ]ヒカラ。	ア[サ]ヒマデ。	ア[サ]ヒカラモ。	ア[サ]ヒマデモ。
4-3-5-2	命(イ[ノ]チ)	イ[ノ]チガ。	イ[ノ]チニ。	イ[ノ]チカラ。	イ[ノ]チマデ。	イ[ノ]チカラモ。	イ[ノ]チマデモ。
4-3-5-3	心(コ[コロ])	コ[コロ]ガ。	コ[コロ]ニ。	コ[コロ]カラ。	コ[コロ]マデ。	コ[コロ]カラモ。	コ[コロ]マデモ。
4-3-6-1	兎(ウ[サ]ギ)	ウ[サ]ギガ。	ウ[サ]ギニ。	ウ[サ]ギカラ。	ウ[サ]ギマデ。	ウ[サ]ギカラモ。	ウ[サ]ギマデモ。
4-3-6-2	狐(きつ[ネ])	きつ[ネ]ガ。	きつ[ネ]ニ。	きつ[ネ]カラ。	きつ[ネ]マデ。	きつ[ネ]カラモ。	きつ[ネ]マデモ。
4-3-6-3	背中(セ[ナカ])	セ[ナカ]ガ。	セ[ナカ]ニ。	セ[ナカ]カラ。	セ[ナカ]マデ。	セ[ナカ]カラモ。	セ[ナカ]マデモ。
4-3-7-1	兜([カ]ブト)	[カ]ブトガ。	[カ]ブトニ。	[カ]ブトカラ。	[カ]ブトマデ。	[カ]ブトカラモ。	[カ]ブトマデモ。
4-3-7-2	莓(イチ[ゴ])	イチ[ゴ]ガ。	イチ[ゴ]ニ。	イチ[ゴ]カラ。	イチ[ゴ]マデ。	イチ[ゴ]カラモ。	イチ[ゴ]マデモ。
4-3-7-3	薬(ク[スリ])	ク[スリ]ガ。	ク[スリ]ニ。	ク[スリ]カラ。	ク[スリ]マデ。	ク[スリ]カラモ。	ク[スリ]マデモ。

(5) 4拍名詞

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも
5-01	餅米 (もち[ゴメ])	もち[ゴメ]ガ。	もち[ゴメ]ニ。	もち[ゴメ]カラ。	もち[ゴメ]マデ。	もち[ゴメ]カラモ。	もち[ゴメ]マデモ。
5-02	友達 (ト[モダチ])	ト[モダチ]ガ。	ト[モダチ]ニ。	ト[モダチ]カラ。	ト[モダチ]マデ。	ト[モダチ]カラモ。	ト[モダチ]マデモ。
5-03	懐 (フ[トコロ])	フ[トコロ]ガ。	フ[トコロ]ニ。	フ[トコロ]カラ。	フ[トコロ]マデ。	フ[トコロ]カラモ。	フ[トコロ]マデモ。
5-04	唇 (ク[チビル])	ク[チビル]ガ。	ク[チビル]ニ。	ク[チビル]カラ。	ク[チビル]マデ。	ク[チビル]カラモ。	ク[チビル]マデモ。
5-05	川上 (カ[ワカミ])	カ[ワカミ]ガ。	カ[ワカミ]ニ。	カ[ワカミ]カラ。	カ[ワカミ]マデ。	カ[ワカミ]カラモ。	カ[ワカミ]マデモ。
5-06	色紙 (イ[ロガ]ミ)	イ[ロガ]ミガ。	イ[ロガ]ミニ。	イ[ロガ]ミカラ。	イ[ロガ]ミマデ。	イ[ロガ]ミカラモ。	イ[ロガ]ミマデモ。
5-07	雷 (カミ[ナリ])	カミ[ナリ]ガ。	カミ[ナリ]ニ。	カミ[ナリ]カラ。	カミ[ナリ]マデ。	カミ[ナリ]カラモ。	カミ[ナリ]マデモ。
5-08	米櫃 (コ[メビツ])	コ[メビツ]ガ。	コ[メビツ]ニ。	コ[メビツ]カラ。	コ[メビツ]マデ。	コ[メビツ]カラモ。	コ[メビツ]マデモ。
5-09	簀 (カンザシ)	カンザシガ。	カンザシニ。	カンザシカラ。	カンザシマデ。	カンザシカラモ。	カンザシマデモ。
5-10	針金 (ハリ[ガネ])	ハリ[ガネ]ガ。	ハリ[ガネ]ニ。	ハリ[ガネ]カラ。	ハリ[ガネ]マデ。	ハリ[ガネ]カラモ。	ハリ[ガネ]マデモ。
5-11	麦藁 (ムギ[ワラ])	ムギ[ワラ]ガ。	ムギ[ワラ]ニ。	ムギ[ワラ]カラ。	ムギ[ワラ]マデ。	ムギ[ワラ]カラモ。	ムギ[ワラ]マデモ。
5-12	味噌汁 (ミ[ソシ]ル)	ミ[ソシ]ルガ。	ミ[ソシ]ルニ。	ミ[ソシ]ルカラ。	ミ[ソシ]ルマデ。	ミ[ソシ]ルカラモ。	ミ[ソシ]ルマデモ。
5-13	雨降り (ア[メフ]リ)	ア[メフ]リガ。	ア[メフ]リニ。	ア[メフ]リカラ。	ア[メフ]リマデ。	ア[メフ]リカラモ。	ア[メフ]リマデモ。
5-14	前掛け (マエカケ)	マエカケガ。	マエカケニ。	マエカケカラ。	マエカケマデ。	マエカケカラモ。	マエカケマデモ。
5-15	鶯 (ウ[グ]イス)	ウ[グ]イスガ。	ウ[グ]イスニ。	ウ[グ]イスカラ。	ウ[グ]イスマデ。	ウ[グ]イスカラモ。	ウ[グ]イスマデモ。
5-16	撫子 (ナ[デ]シコ)	ナ[デ]シコガ。	ナ[デ]シコニ。	ナ[デ]シコカラ。	ナ[デ]シコマデ。	ナ[デ]シコカラモ。	ナ[デ]シコマデモ。
5-17	風呂敷 (フ[ロシキ])	フ[ロシキ]ガ。	フ[ロシキ]ニ。	フ[ロシキ]カラ。	フ[ロシキ]マデ。	フ[ロシキ]カラモ。	フ[ロシキ]マデモ。

(6) 1 拍名詞

	単語	～が	～に	～から	～まで	～からも	～までも	～の
6-1-1-1	蚊 ([カ])	カ[ガ]。	カ[ニ]。	カ[カラ]。	カ[マデ]。	カ[カラ]モ。 カ[カラ]モ。 [カカラ]モ。	[カマデ]モ。	カ[ノナキ]ゴエ
6-1-1-2	戸 ([ト])	ト[ガ]。	ト[ニ]。	ト[カラ]。	ト[マデ]。	ト[カラ]モ。 [トカラ]モ。	[トマデ]モ。	ト[ノスベリ]
6-1-1-3	血 ([チ])	チ[ガ]。	チ[ニ]。	ち[カラ]。	ち[マデ]。	ち[カラ]モ。 [チカラ]モ。 ち[カラ]モ。	ち[マデ]モ。 [チマデ]モ。	チ[ノ]イ[ロ]
6-1-2-1	葉 ([ハ])	ハ[ガ]。	ハ[ニ]。	ハ[カラ]。	ハ[マデ]。	ハ[カラ]モ。	[ハマデ]モ。	ハ[ノ]イ[ロ]
6-1-2-2	日 ([ヒ])	ヒ[ガ]。	ヒ[ニ]。	ひ[カラ]。	ひ[マデ]。	ひ[カラ]モ。 [ヒカラ]モ。 [ヒ]カラモ。	[ヒマデ]モ。 ひ[マデ]モ。	ヒ[ノヒカリ]
6-1-3-1	手 ([テ])	[テ]ガ。	[テ]ニ。	[テ]カラ。	[テ]マデ。	[テ]カラモ。	[テ]マデモ。	[テ]ノ[ナ]カ
6-1-3-2	目 ([メ])	[メ]ガ。	[メ]ニ。	[メ]カラ。	[メ]マデ。	[メ]カラモ。	[メ]マデモ。	[メ]ノウ[エ]
6-1-3-3	火 ([ヒ])	[ヒ]ガ。	[ヒ]ニ。	[ヒ]カラ。	[ヒ]マデ。	[ヒ]カラモ。 ひ[カ]ラモ。	[ヒ]マデモ。 ひ[マ]デモ。	ひ[ノタマ(一語)]

ここは、カラモ、マデモの箇所にも異質なものも混ざっている可能性がある。

(7) 複合語

	単語		奥村 1981
7-2-5n	春 ([ハ]ル)	ハ[ルヤス]ミ	●○▽
7-2-2n	夏 (ナ[ツ])	ナ[ツヤス]ミ ナ[ツヤス]ミ	○●▽
7-2-1w	金 (カ[ネ])	カ[ネズカ]イ	○●▼
7-2-2w	川 (カ[ワ])	カ[ワギ]シ	○●▼
7-2-3w	塩 (シ[オ])	シ[オア]ジ	○●▽
7-2-4w	種 ([タ]ネ)	タ[ネマ]キ	○●▽
7-2-5w	雨 ([ア]メ)	ア[メフ]リ	○●▽
		ハ[ルマツ]リ	
		ナ[ツク]サ	
		カ[ネモ]チ	
		カ[ワザ]カナ	
		シ[オケ]	
		[シヨ]ーキ	
		タ[ネウ]マ	
		ア[メア]ガリ	

ここは、カラを付けて語末の核の有無を判定し、核のあるもののみ、語末に「」を付してある。

(8) 2拍名詞 (接続)

	単語	～が	～を	～に	～から
8-2-1w	箱 (ハコ)	ハ[コガア]ル。	ハ[コオ作クツ]タ。	ハ[コニ]入[レ]タ。	ハ[コカラ出]シ[タ]。
8-2-1n	柿 (カキ)	カキ[ガア]ル。	カキ[オ食]ベタ。	カ[キニ] (袋オ) 被[ブセ]タ。	カキ[カラ食]ベタ。
8-2-2w	音 (オト)	オ[トガ聞]コエ[ル]。	オ[トオタ]テタ。	オ[トニ]敏感ダ。	オ[トカラ]覚[ボエ]ル。
8-2-2n	紙 (カミ)	カミ[ガナ]イ。	カミ[オ破]ブツ[タ]。	カ[ミニ書]イタ。	カミ[カラ]捨[テ]タ。
8-2-3w	芋 (イモ)	イ[モ]ガ[ア]ル。	イ[モ]オ作[クツ]タ。	イ[モ]ニ似[チョー]。	イ[モ]カラ (先に) 食[ベ]ル。
8-2-3n	足 (アシ)	アシ[ガ]痛[タ]イ。	アシ[オ] [揉ンダ (アッ[ショ]に近い)	ア[シ]ニ (薬オ) つ[ケ]タ。	アシ[カラ] [揉ンダ]。
8-2-4w	笠 (カサ)	[カ]サガ[ア]ル。	[カ]サオカ[ブツ]タ。	[カ]サニ (飾りを) つ[ケ]タ。	[カ]サカラ作[クツ]タ。
8-2-4n	海 (ウミ)	[ウ]ミガ見[エ]ル。	[ウ]ミオ[見]タ。	[ウ]ミニ行[ツ]タ。	[ウ]ミカラ[吹]イテ[ク]ル。
8-2-5w	雨 (アメ)	[ア]メガ[降]ル。	[ア]メオ降[ラセ]ル。	[ア]メニ濡[レ]タ。	(家オ) [ア]メカラ守[モ]ル。
8-2-5n	蛇 (ヘビ)	[ヘ]ビガオ[ル]。	[ヘ]ビオ捕[カマ]エタ。	[ヘ]ビニき(気) [オつケ]ル。	[ヘ]ビカラ逃[ゲ]ル。

(9) 3拍名詞 (接続)

	単語	～が	～を	～に	～から
9-3-1	煙 (ケムリ)	ケ[ムリガ出]タ。	ケ[ムリオ出]シ[タ]。	ケ[ムリニナツ]タ。	(家オ) ケ[ムリカラ]守[モ]ル。
9-3-2	女 (オンナ)	[オンナ]ガオ[ル]。	[オンナ]オ[見]タ。	[オンナ]ニ[会ツ]タ。	[オンナ]カラ (先に) 始[メ]タ。
9-3-4	男 (オトコ)	オ[トコ]ガオ[ル]。	オ[トコ]オ[見]タ。	オ[トコ]ニ[会ツ]タ。	オ[トコ]カラ (先に) 始[メ]タ。
9-3-5	心 (ココロ)	コ[コロ]ガ優[サシ]。	コ[コロ]オ入[レ替エ]ル。	コ[コロ]ニヒ[ビ]一タ。	コ[コロ]カラア[ヤマ]ル。
9-3-6	兎 (ウサギ)	ウ[サ]ギガ居[ル]。	ウ[サ]ギオ[飼ツ]チョー。	ウ[サ]ギニ[エ]サオヤ[ル]。	ウ[サ]ギカラ (先に) ツ[カマ]エタ。
9-3-7	兜 (カブト)	[カ]ブトガ[ア]ル。	[カ]ブトオカ[ブツ]タ。	[カ]ブトニ (飾りを) つ[ケ]タ。	[カ]ブトカラ始[メ]タ。

5. 出雲方言のアクセント 追加語彙資料（2拍名詞4・5類）

類	読み	項目	出雲市アクセント	出雲市注記	雲南市アクセント	雲南市注記	奥出雲町アクセント	安来市アクセント
24	アト	跡[後]	2					
24	アマ	尼	x					
24	アワ	栗	2					
24	イキ	息	2		2			
24	イタ	板	2					
24	イチ	市	2(稀)	一は1	x	エチ[バ3]		
24	イツ	何時	2					
24	イト	糸	2(エ[ト])		2(エ[ト])			
24	イネ	稲	2		2			
24	ウス	臼	2		2(オ[シ])			
24	ウミ	海	2,1					
24	ウリ	瓜	2					
24	オビ	帯	2	オリは言わず	2			
24	カイ	櫛	x					
24	カサ	笠[傘]	2					
24	カス	糟	2		2			
24	カズ	数	2					
24	カタ	肩	2					
24	カド	角	2					
24	カマ	鎌	2					
24	カミ	上	2					
24	キヌ	絹	2		1			
24	キネ	杵	2					
24	キヨー	今日	1					

類	読み	項目	出雲市アクセント	出雲市注記	雲南市アクセント	雲南市注記	奥出雲町アクセント	安来市アクセント
24	キリ	錐	2					
24	クズ	層	2		2			
24	クダ	管	2					
24	ケサ	今朝	1	袈裟は0				
24	ケタ	桁	0					
24	ゲタ	下駄	0					
24	サヤ	鞘	2					
24	シル	汁	1 ([シ]ー)		1 ([シ]ー)			
24	スジ	筋	2					
24	スミ	隅	2					
24	ゼニ	銭	2		2 (ジェ[ニ])			
24	ソト	外	2					
24	ソバ	側	2	蕎麦も2				
24	ソラ	空	2					
24	タネ	種	2					
24	チヂ	父	x					
24	チヂ	乳	2		2			
24	ツエ	杖	[ツェーンバ]	0				
24	ツチ	槌	2					
24	ツバ	鏝	2(稀)					
24	ツブ	粒	0					
24	ツミ	罪	2					
24	トガ	咎	x					
24	ナエ	苗	2					
24	ナカ	中	2					
24	ナニ	何	2	ナン[ガ], ナン[カ]ラ				
24	ヌシ	主	1					

類	読み	項目	出雲市アクセント	出雲市注記	雲南市アクセント	雲南市注記	奥出雲町アクセント	安来市アクセント
24	ノミ	鑿	2	蚤も2	2	蚤も2		
24	ハシ	箸	1					
24	ハダ	肌	2					
24	ハリ	針	2					
24	フネ	舟	2					
24	ベニ	紅	2					
24	ヘラ	篋	2					
24	ホカ	他	2					
24	マツ	松	2					
24	ミソ	味噌	2					
24	ミノ	蓑	2					
24	ムギ	麦	2					
24	ヤド	宿	2					
24	ワナ	罾	2					
24	ワラ	藁	2					
24	ワレ	我	1 ([ワ]ー)	自分の意				
25	アイ	藍	x	藍染め 4				
25	アオ	青	1,2					
25	アカ	赤	1,2					
25	アキ	秋	1					
25	アサ	朝	1					
25	アセ	汗	2					
25	アニ	兄	x	[ア]ンヤ, [ア]ンサン 1				
25	アブ	虻	2					
25	アメ	雨	2					
25	アユ	鮎	1					
25	イド	井戸	2					

類	読み	項目	出雲市アクセント	出雲市注記	雲南市アクセント	雲南市注記	奥出雲町アクセント	安来市アクセント
25	オケ	桶	2					
25	カキ	牡蛎	1					
25	カゲ	蔭	2					
25	キビ	黍	2					
25	クモ	蜘蛛	2					
25	クロ	黒	2					
25	コイ	鯉	1 ([コ]エ)					
25	コエ	声	2					
25	コト	琴	1					
25	サケ	鮭	1					
25	サル	猿	1					
25	シロ	白	2					
25	タテ	縦	2	盾も2				
25	タビ	足袋	2					
25	ツネ	常	x					
25	ツユ	露	1 ([ツ]ー)					
25	ツル	鶴	1					
25	ナベ	鍋	2					
25	ハモ	鱧	2					
25	ハル	春	1					
25	ヒル	蛭	0 ([フール])					
25	フナ	鮒	2					
25	ヘビ	蛇	1					
25	マエ	前	2 (マ[エ])	以前の意も				
25	マド	窓	2					
25	マユ	眉	1 ([め]ー)					
25	マリ	鞠	ブン[デマ]ー 4					
25	ムコ	舅[婿]	2	モコは言わず				

類	読み	項目	出雲市アクセント	出雲市注記	雲南市アクセント	雲南市注記	奥出雲町アクセント	安来市アクセント
25	モモ	股[腿]	2					
21	ウシ	牛	0		0 (オ[シ])			
21	ハイ	灰	0 ([へ]ー)		0 ([ハエ])			
21	ハエ	蠅	0 ([へ]ー)		0 ([ハエ])	[ハエボンボ 0]		
2		棒	0 ([ボ]ー)		0 ([ボ]ー)			
31	コーリ	氷	0 ([コーリ]]]		0 ([コーリ])		0 ([コーリ])	0 ([コーリ])
31	ハジメ	初め	0 (ハジ[メ]]]		0 (ハジ[メ])		0 (ハジ[メ])	0 (ハジ[メ])
31	ミツカ	三日	0 (ミツ[カ]]]		0 (ミツ[カ])		0 (ミツ[カ])	0 (ミツ[カ])
31	ヨツカ	四日	0 (ヨツ[カ]]]		0 (ヨツ[カ])		0 (ヨツ[カ])	
32	ミツツ	三つ	0 (ミツ[ツ]]]		0 (ミツ[ツ])		1 ([ミツ]ツ)	0 ([ミツツ])
32	ムスメ	娘	0 (モす[メ]]]		0 (ムす[メ])		0 (ムす[メ])	0 (ムす[メ])
32	ヨツツ	四つ	0 (ヨツ[ツ]]]	ヨツつ[ガ]]]	0 (ヨツ[ツ])		1 ([ヨツ]ツ)	0 ([ヨツツ])
34	スズリ	硯	0 (ス[ズ]ー)		0 (ス[ズリ])		3 (ス[ズリ])	3 (ス[ズリ])
35	ハシラ	柱	0 (ハシ[ラ]]]		0 (ハシ[ラ])		0 (ハシ[ラ])	0 (ハシ[ラ])
37	クジラ	鯨	3 (クジ[ラ]]]		3 (クジ[ラ])		1 ([ク]ジラ)	0 (クジ[ラ])
3x	ホタル	蛍	0 (ホ[タ]ー)		0 (ホ[タル])		0 (ホ[タル])	0 (ホ[タル])
3	ザシキ	座敷	3 (ザし[キ]]]	ザしき[ガ]]]	3 (ザし[キ])		3 (ザし[キ])	3 (ザし[キ])
3	トーフ	豆腐	3 ([トーフ]]]		3 ([トーフ])		3 ([トーフ])	0 ([トーフ])
3	ヌイメ	縫い目	3 ([ヌイメ]]]		3 ([ヌイメ])		3 ([ヌイメ])	3 ([ヌイメ])
4	カキカタ	書き方	4 (カき[カタ]]]		4 (カき[カタ])		4 (カき[カタ])	0 (カき[カタ])
4	ガッコー	学校	0 (ガッ[コ]ー)		0 (ガッ[コー])		0 (ガッ[コー])	0 (ガッ[コー])
4	カルワザ	軽業	0 (カー[ワザ]]]		0 (カル[ワザ])		0 (カル[ワザ])	0 (カル[ワザ])
4	シヤミセン	三味線	3 (シヤミ[セ]ン)					
4	センセー	先生	0 ([センセ]ー)		0 ([センセー])		0 ([センセー])	0 ([センセー])

類	読み	項目	出雲市アクセント	出雲市注記	雲南市アクセント	雲南市注記	奥出雲町アクセント	安来市アクセント
4	タノシミ	楽しみ	0		0		0	
4	ツイタチ	一日	0 ([ツイタチ]])		0 ([ツイタチ])		0 ([ツイタチ])	0 ([ツイタチ])
4	フルサト	古里	1 ([フ]ーサト)		1 ([フ]ルサト)		1 ([フ]ルサト)	1 ([フ]ルサト)
4	ホーチョー	包丁	0 ([ホー]ー ー)		0 ([ホー]ー ー)		0 ([ホー]ー ー)	0 ([ホー]ー ー)
4	ヨクバリ	欲張り	4 (ヨく[バ]ー)		3 (ヨク[バ]ー)		3 (ヨく[バ]り)	4 (ヨク[バリ])
4	ヨロコビ	喜び	0		0	動詞が普通	0	
4	ワルクチ	悪口	4 (ワーく[チ]])	ワーくち[ガ]]	4 (ワーく[チ])	ワル[グチ]は0	4 (ワーく[チ])	0 (ワ[ルクチ])

出雲方言における格助詞「ガ」と「ノ」について¹

平子 達也*

1 はじめに

本稿は、出雲方言の形態統語面に関する初期的な報告として、この方言における格助詞「ガ」と「ノ」について、その分布の概略を記述するものである。なお、筆者のこれまでの調査からすると、格体系（格の配列および格助詞の現れ方）については、基本的に出雲方言内部での差異はないと言って良い。それ故、本稿では出雲方言内部の変異については特に触れない。基本的に本稿で用いるデータは出雲市大社町（以下、大社方言）および仁多郡奥出雲町佐白（以下、佐白方言）での筆者自身の調査によって得たものである。

本稿の構成は以下のようになっている。まず2節では出雲方言を含めた日本語諸方言における「ガ」と「ノ」の現れについて触れた先行研究を概観する。3節で、出雲方言における連体助詞「ガ」「ノ」の現れについて記述し、続く4節で主語を表示する「ガ」「ノ」の現れについて記述する。5節はまとめである。

2 先行研究の概観

本節では、出雲方言を含む日本語諸方言における格助詞「ガ」と「ノ」（あるいはそれに対応する形式）の現れについて扱った先行研究を概観する。

2.1 出雲方言における「ガ」「ノ」に関する研究

管見の限り、出雲方言において現代日本語標準語とは異なる格助詞「ガ」「ノ」の現れ方があることを指摘した最も古い研究は、加藤（1935）である。この加藤の研究は、旧大原郡（現雲南市）出身である加藤自身の内省によるものである。加藤は「主語を表はすに、一般にガを添える所へノを用ひる事が多い。ガは同輩以下への親稱であり、ノは同輩以上への敬稱である」と述べている。以下の(1a-d)は加藤があげている例文であるが、これらの例文を見る限り、「ガ」「ノ」に関する加藤の記述が「主語を表はす」場合に限らず、所有などを表わす連体助詞として用いられる場合にも当てはまることだと分かる（なお、以下の(1)の例文は標準語訳も含めて加藤における表記をそのままに引用している。ただし下線は本稿の筆者による）。

(1) 加藤（1935）における例文²

* ひらこ たつや：実践女子大学・助教

¹ 草稿の段階で国立国語研究所の坂井美日氏から多くの貴重なコメントをいただいた。また、九州大学の下地理則氏には調査内容などについて多くのご助言をいただいた。両氏に心から感謝申上げる。水谷（1980）など先行研究について様々にご教示くださった友定賢治氏（県立広島大学名誉教授）には、小西いずみ氏（広島大学）とともに出雲地域諸方言の調査でも種々御世話になっている。本稿の内容の一部についても、友定氏や小西氏には御意見・御助言をいただいた。記して感謝申上げる。

- (a) オマエガホンダ（お前の本だ）
- (b) ソラオマエガエツィダ（それはお前の奴（物）だ）
- (c) シェンシェノゴダッシャッタ（先生が来られた）
- (d) ショーヤサンノエワッシャッタ（庄屋さんが言ひなされた）

広戸（1949: 82-83）では、上記の加藤の記述を引用している以外には「ガ」「ノ」に関する記述はない。加藤や広戸の研究の後、出雲方言における「ガ」「ノ」に関する記述はほとんどないが、旧大原郡木次町（現雲南市木次町）の方言における敬語法に関する記述である水谷（1980）では、「親しみ・ていねいの意識の認められる表現法」の一つとして「助詞の「ノ」と「ガ」の使い分けによるもの」があげられている。そこでは、「ガ」「ノ」が主語を表示する場合と、連体助詞として用いられる場合のどちらともについて記述されている。水谷の主張は以下のようにまとめられる。

(2) 「ガ」と「ノ」の使い分けに関する水谷の主張

- (a) 「ガ」と「ノ」が主語を表示するのに用いられる場合、老年層では目上の人に対して「ガ」をもって表現することは失礼だという認識が強く、「ガ」と尊敬法助動詞は共起しないなどの制限がある。ただし、中年層あたりからはそういった認識は弱くなっており、若年層にあっては主語を表示するのに専ら「ガ」が用いられるようになっている。
- (b) 「ガ」と「ノ」が連体助詞として用いられる場合、老年層では、一人称名詞「オラ」や親しみのある人物（おじさん）や目下の人（子ども）などを表わす名詞に続けて「ガ」を用いることがありうる。ただし、中年層・若年層では連体助詞として「ガ」が用いられることはほとんどなく、「ノ」が専ら用いられる。

水谷の「ガ」と「ノ」に関する記述は、あくまで「敬語法」に関する記述の一部である。「ガ」や「ノ」の前に現れる名詞としては、一人称名詞・二人称名詞の他に人名や親族名称があるだけである。

その他、出雲方言において（主節における）主語を表示するのに「ノ」が用いられることがあるとの指摘が神部（1982: 233）にあるが、当時「すでに衰微の相が明らかである」としている。

2. 2 出雲方言以外の方言（言語）における「ガ」と「ノ」に関する研究

「ガ」と「ノ」（もしくはそれらに対応する形式）の使い分け（分布）に関する研究は、特に九州諸方言と琉球諸語で進んでいる。

例えば坂井（2013）は現代熊本市方言における主語表示に関する記述であるが、そこでは「ガ」と「ノ」の使い分けに関して、主語に立つ名詞句の性質（人称名詞か否か）と述語の性質が関わるとされている。即ち、人称名詞が主語に立つ場合には専ら「ガ」が用いられる一方、人称名詞以外が主語となる場合には述語の性質によって「ガ」と「ノ」が使い分けられる。坂井の記述に

² ここにある例だけを見ると連体助詞としては「ガ」、主語を表示するには「ノ」というような分布を示しているように思われるが、そうではないと思われる。加藤は、「（「ガ」は）主語を表はす場合に用ひられ」としているし、また、「一體言が他の體言を修飾する際のノは一般である」などと述べている。加藤は格助詞「ガ」「ノ」の用例として（1）にあげた4つの例文しか示していないが、おそらくこれは「標準語」と異なるものだけをあげたためだと思われる。

よれば、他動詞述語文と意志自動詞述語文の主語は「ガ」で、非意志自動詞述語文と形容詞述語文の主語は「ノ」で表示される。また、敬語接辞やアスペクト辞の有無によっても「ガ」「ノ」の使用のあり方が変動するという。

鹿児島県甕島里方言では、熊本市方言における「ガ」「ノ」の使い分けに関わる要素に加えて、主語に立つ名詞句が名詞句階層のどの位置にあるかも「ガ」「ノ」の使い分けに関わるという（平塚・森・黒木 2015: 91-95）。また、連体助詞として「ガ」「ノ」が用いられる場合には、その使い分けは以下のようにまとめられる（同 96-98。表1と2はp.97の表24と25をもとにして作成した）。

表1 甕島里方言における連体助詞「ガ」「ノ」（待遇なし）

人称名詞		親族・固有名詞	人間名詞	動物	無生物
一人称	二人称	(同等・目下)	(同等・目下)		
=ガ	=ガ	=ガ, =ノ	=ガ, =ノ	=ノ	=ノ

表2 甕島里方言における連体助詞「ガ」「ノ」（待遇あり）

二人称	親族・固有名詞	人間名詞
(目上)	(目上)	(目上)
=ノ	=ノ	=ノ

琉球諸語における「ガ」系助詞・「ノ」系助詞の使い分けについては、記述的・理論的あるいは歴史的研究が幾つかある。例えば、南琉球語に属する宮古語大神島方言（大神語）では、「ガ」系 (=ka) はそれが続く名詞が名詞句階層の上位にある場合に用いられる一方、「ノ」系 (=nu) は名詞句階層の下位にある名詞をとる（Pellard 2010: 143）。この使い分けのあり方は、=kaと=nuが連体助詞として用いられる場合でも、主語を表示するのに用いられる場合でも当てはまるという。大神語に見られるような当該の助詞が続く名詞の名詞句階層上の位置による「ガ」系と「ノ」系の使い分けは、琉球諸語全般に広く見られる。

近年では、琉球諸語におけるケースマーキングに関する記述的研究の深化に伴って、それらに関する類型論的・歴史言語学的研究が下地理則氏らによって進められている。その研究過程において、下地氏は琉球列島言語史のある段階で「ガ」系と「ノ」系とが（主語表示をする場合に）動作主性の度合いによって使い分けられていた可能性を指摘している³。

歴史的な研究としては、特に8世紀およびそれを若干遡る時代の日本語中央方言（上代語）における「ガ」「ノ」⁴の使い分けに関する研究が多くある。Frellesvig (2010) は、日本語史に関する欧米の言語で書かれた教科書的概説書であるが、そこでは、上代語における主語を表示する助詞の「ガ」は人間（もしくは擬人化された動物・無生物）をreferする名詞をマークする場合にか用いられず、「ノ」は如何なる名詞をもマークするという（Frellesvig 2010: 128ff）。なお、主節において「ガ」「ノ」が主語を表示することは基本的にはないというが、こういった環境で「ガ」「ノ」が主語を表示することができるのかについては種々の意見があり、未だに議論は続

³ 下地氏の一連の研究発表（下地・坂井 2015など）とそれらの発表の場などにおける個人的な談話にもとづく。

⁴ 上代特殊仮名遣では乙類仮名で表記される。

いている (cf. Osterkamp 2014⁵)。

2.3 本節のまとめ

この節では、出雲方言を含めた日本語諸方言における格助詞「ガ」「ノ」の使い分けなどに関する先行研究を概観した。先行研究からは、ある方言における格助詞「ガ」「ノ」の使い分けについて、(1) 敬意(待遇)、(2) 名詞句階層上の位置、(3) 動作主性などが関わる可能性があると考えられる。また、上代語において主節では「ガ」「ノ」が主語表示に用いられないが、(4) 節タイプ⁶によって格配列のあり方が変わってくる現象は通言語的に見てもままあることである。さらに、「ガ」「ノ」の振る舞いについて、主語を表示するのに用いられる場合と連体助詞として用いられる場合とで振る舞いが異なる方言とそうでない方言とがある。

以下では、出雲方言における「ガ」「ノ」の使い分けについて、主語を表示するのに用いられる場合と連体助詞として用いられる場合とに分けて記述を行う。議論の都合上、まず連体助詞として用いられる場合について記述し、後に主語を表示するのに用いられる場合について記述する。

3 「ガ」「ノ」が連体助詞として用いられる場合

本節では、出雲方言において「ガ」「ノ」が連体助詞として用いられる場合における両者の使い分けについて記述をする。大まかには、当該の助詞がとる名詞がreferする(指示する)ものが人間であれば「ガ」も「ノ」も用いることができ、動物・無生物をreferする場合には「ノ」しか用いることができない。この使い分けのあり方は、上代語における主語を表示するのに用いられる「ガ」「ノ」の使い分けについてFrellesvig (2010: 128ff) が指摘しているところと同じである。連体助詞として用いられる場合か(出雲方言)、主語を表示する場合か(上代語)という違いはあるが、両者の共通点は注目される。なお、既に述べたとおり上代語の場合は連体助詞としての「ガ」「ノ」は動物・無生物をreferする名詞にも続く。

表3 出雲方言における連体助詞「ガ」「ノ」(待遇なし)

人称名詞		親族・固有名詞	人間名詞	動物	無生物
一人称	二人称	(同等・目下)	(同等・目下)		
=ガ, =ノ	=ガ, =ノ	=ガ, =ノ	=ガ, =ノ	=ノ	=ノ

また、「ガ」「ノ」がとる名詞がreferする人物が、話し手にとって敬意の対象となる場合には「ノ」しか用いることができない。この点は、甕島里方言と同じである。

表4 出雲方言における連体助詞「ガ」「ノ」(待遇あり)

二人称	親族・固有名詞	人間名詞
(目上)	(目上)	(目上)
=ノ	=ノ	=ノ

⁵ Osterkamp (2014) は、中古語(9世紀から12世紀にかけての日本語中央方言)における所謂属格主語(genitive subject)に関する西洋における諸研究を広く扱った非常に有用なsurveyである。

⁶ 節タイプによって格配列が変動する可能性は既に坂井(2013: 70)や平塚他編(2015: 91)でも触れられているが、坂井(2013)では「典型を見る目的」、平塚他編(2015)では「調査不足」を理由にして、議論を主節における格配列に限定をしている。

それぞれの場合における例は以下のとおりである（データは佐白方言）⁷：

(3) 連体助詞「ガ」「ノ」

(a)	{オラノ／オラガ}	テヌグイダワ	「私の手拭だ」
(b)	{オマエノ／オラガ}	テヌグイジャネーカネ	「お前の手拭ではないか」
(c)	{オマエサンノ／*オマエサンガ}	テヌグイダワ	「あなたの手拭だ」
(d)	{オトーサンノ／オトーサン ⁸ ガ}	テヌグイダワ	「お父さんの手拭だ」
(e)	{ハナコノ／ハナコガ}	テヌグイダヨ	「ハナコの手拭だよ」
(f)	{アーノ／アーガ}	テヌグイダワ	「あの人の手拭だ」
(f)	{センセーノ／*センセーガ}	テヌグイダネ	「先生の手拭だね」
(g)	コリヤ {ネコノ／?ネコガ}	ケダワ	「これは猫の毛だ」
(h)	{ツィクエノ／*ツィクエガ}	ネズィダ	「机のネジだ」
(i)	{アーノ／*アーガ}	ネズィダワ	「あれのネジだ」

(この場合の「アー（あれ）」はある机をreferしている)

「ガ」「ノ」の前に来るものが複数接辞(-チ)を伴って「オラチ（私たち）」「オマエチ（お前たち）」などとなっても、表3と表4で示した「ガ」「ノ」の分布は変わらない。

なお、「A {ガ／ノ} B」という形式における連体助詞「ガ」あるいは「ノ」が表わすAとBの関係は所有や属性など様々であるが、現在までの調査ではAとBの関係によって「ガ」「ノ」の使い分けが異なってくるということを示す証拠は見つかっていない。例えば、「私が写っている写真」という意味でも「私の所有物であるところの写真」という意味でも「ガ」「ノ」の使い分けは見られず、どちらも「オラガ シヤスイン」あるいは「オラノ シヤスイン」（私の写真）といえることができる。

また、表3で「ガ」の使用が許容されるものについては、「A {ガ／ノ} B」という形式のBにあたるものが形式名詞（当該方言では「ヤツィ」「ブン」など）の場合、あるいはBにあたるものが無表示で直接コピュラ（「ダ」）が続く場合には「ガ」が使用される傾向がある。少なくとも、調査時においてBが普通名詞である場合には、まず「ノ」を用いる形式が聞かれ、その後「ガ」も使用可と確認がとれることが多い。一方、標準語の「私の（もの）だ」にあたる当該方言における表現を尋ねると、まず「オラガ（ブン／ヤツィ）ダ」という「ガ」が用いられる表現が聞かれる。この傾向は、「ガ」「ノ」の前に現れる名詞が一人称名詞以外（二人称名詞など）であっても、表3において「ガ」の使用が許容されるとしたものの全てに見られる。もちろん「オラノ（ブン／ヤツィ）ダ」という表現も許容される。

ただし、この「オラノ（ブン／ヤツィ）ダ」という表現も含めて連体助詞として「ガ」も「ノ」も使用可能であるという場合、その「ノ」の使用が当該方言に伝統的にあったものなのか、ある

⁷ 以下、出雲方言の例文はカタカナで表記する。中舌母音([i])を伴う音節に関しては例えば「ツィ」などと示す。また、例文の後ろに「」にて、対応する標準語訳を付す。なお、例文中左肩のアスタリスク(*)は、当該の形式が用いられないこと、クエスチョンマーク(?)は非文法的とは言えないものの、その形式を用いないのが普通であると話者が答えたものであることを示す。

⁸ この例文における「オトーサン（お父さん）」は、話者自身の父というよりは話者の夫であるなど、家庭内において「お父さん」と呼ばれる人物を指すものである。話者自身の父親を指す場合の「オトーサン」であれば、「ガ」は不適もしくはやや不自然（失礼）とされる。

いは標準語からの影響によるものなのかは分からない。このことは、4節以下で述べる主語を表示するのに「ガ」も「ノ」も用いられる場合にも当てはまる。即ち、主節の主語を表示するのに「ガ」も「ノ」も使用可能である場合、その「ガ」の使用が当該方言に伝統的にあったものか、標準語の影響によるものなのかを判断できないのである。

4 「ガ」「ノ」が主語を表示する場合

本節では、「ガ」「ノ」が主語を表示するのに用いられる場合について記述する。まず、「ガ」「ノ」の現れについて、その典型を見ることを目的に坂井（2013）にならって主節中の主語を表示するのに用いられる場合について記述をする。その後、連体節中の主語を表示するのに用いられる場合について述べる。

4.1 「ガ」「ノ」が主節中の主語を表示する場合

「ガ」あるいは「ノ」が主節の主語を表示する場合、その主語が敬意の対象となるときには（「ガ」とともに）「ノ」の使用が許容される一方、敬意の対象にならなければ専ら「ガ」が用いられる。

(4) 主節の主語を表わす「ガ」「ノ」（例は大社方言から）

(a)	{センセーノ／ガ}	コラエタヨ	「先生がいらっしゃったよ」
(b)	{センセーノ／ガ}	カケッチョラエル	「先生が走っていらっしゃる」
(c)	{センセーノ／ガ}	ソコニ オラエーヨ	「先生がそこにいらっしゃるよ」
(d)	{センセーノ／ガ}	マクレラレタ	「先生がお転びになった」
(e)	{センセーノ／ガ}	(セートオ) タタカイタ	「先生が（生徒を）叩かれた」
(f)	{タローガ／*ノ}	カケッチョー／カケル	「太郎が走っている」
(g)	{タローガ／*ノ}	オル	「太郎が（あそこに）いる」
(h)	{タローガ／*ノ}	マクレタ	「太郎が転んだ」
(i)	{タローガ／*ノ}	ジローオ クラワセタ	「太郎が次郎をなぐった」
(j)	{イヌガ／*ノ}	ネコオ オイサゲチョー	「犬が猫を追いかけている」
(k)	{イヌガ／*ノ}	オーヨ	「（あそこに）犬がいるよ」
(l)	{クモガ／*ノ}	タイヨーオ カクス	「雲が太陽を隠す」
(m)	{タエフーガ／*ノ}	キタ	「台風が来た」
(n)	{ミズィウミガ／*ノ}	アー	「湖がある」

なお現在までに、主節の主語を表示する「ガ」「ノ」の使用について、動作主性や動詞の語彙的アスペクトあるいは時制・相などが影響を与えることを示す証拠は得られていない⁹。

注意したいのは、例えば(4a-e)において「ガ」ではなくて「ノ」を用いた場合、しばしばその後ろに続く述語動詞は尊敬の接辞を伴い コラエタ「来られた（いらっしゃった）」という形となることである。このとき可能性としては、主語となる名詞自体が敬意の対象となるかによって

⁹ ただし、特に「ガ」の現れについては、所謂総記の「ガ」（久野 1973）に相当する類など情報構造に関わる現象について別に検討する必要がある。本稿はあくまで純粋に格の問題として「ガ」「ノ」の現れについて記述するものであり、情報構造に関わることは扱わない。この点を踏まえて、調査時に適宜総記解釈でないことを確認したデータを用いている。

「ノ」と「ガ」のどちらを使用するかが決まるのではなく、むしろ「ノ」でマークされることによって主語位置の名詞が敬意の対象となり、それが述語動詞に尊敬の接辞を付す契機となっているということも考えられるかもしれない。しかし、「ノ」は主語となる名詞自体が敬意の対象とならない場合には用いられない。また、「ガ」を用いたとしても尊敬の接辞を伴うこともある。やはり、主語となる名詞自体が敬意の対象となるかによって「ノ」と「ガ」のどちらを使用するかが決まっていると考えるのが妥当であろう。

4.2 「ガ」「ノ」が連体節中の主語を表示する場合

出雲方言における「ガ」「ノ」が連体節中の主語を表わす場合、主節中の主語を表示する場合と同じように、その主語が話者にとって敬意の対象となる人物をreferするときには「ノ」を用いるのがふつうである（「ガ」を用いると主語位置に立つ名詞がreferする人物に対して「失礼」になるという）。一方、敬意の対象とならない場合には「ガ」「ノ」どちらを用いても許容される。

(5) 連体節（関係節）中の主語を表わす「ガ」「ノ」（例は大社方言から）

- (a) {オマエガ/ノ} クー クゥスイワ コーダ
「お前が食べる菓子はこれだ」
- (b) コラ {タローノ/ガ} ツィクッタ クゥスイダ
「これは太郎が作った菓子だ」
- (c) コーガ {アイツィガ/ノ} ツィクッタ クゥスイダ
「これはあいつが作った菓子だ」
- (d) (コーガ) {アノスイノ/?ガ} ツクラエタ クゥスイダ
「（これは）あの人が作られた菓子だ」
- (e) コーガ {テンノーヘーカノ/*ガ} ウメラエタ マツィ
「これは天皇陛下が埋められた松（だ）」
- (f) (コーガ) {サルガ/ノ} カエタ ズィダ
「（これは）猿が書いた字だ」
- (g) (コーガ) {キカエノ/ガ} カエタ ズィダ
「（これは）機械が書いた字だ」

上記で示したように連体節中においても、節中の主語を表示する「ガ」と「ノ」は敬意によって使い分けがある。ただ、主節中の主語を表示する場合と異なり、連体節中の主語を表示する場合には主語が敬意の対象とならない場合に「ノ」「ガ」の両方を用いられ、敬意の対象となっている場合には「ノ」しか用いられない¹⁰。「ノ」「ガ」の両方が用いることができる環境としては、連体節中の主語表示は連体助詞の場合に近い。ただし、連体節中の主語表示の場合、人間でない動物・無生物をreferする名詞に続くときには「ノ」だけでなく「ガ」も用いられる点が、連体助詞の場合とは異なる。

以上で述べたことは(5)にある所謂関係節的なものについてばかりでなく、(6)のように当該の連体節が関係節的でない場合でも当てはまることである。

¹⁰ 既に4.1節で見たとおり、主節中の主語を表示する場合には主語が敬意の対象となる場合には「ノ」「ガ」の両方が用いられるが、敬意の対象とならない場合には「ガ」しか用いられない。

- (6) 連体節（非関係節）中の主語を表わす「ガ」「ノ」（例は大社方言から）
- (a) {ウツィノ／ガ} カケッチョーノオ ミッチョタカネ
「私が走っているのを見ていたか」
 - (b) {タローノ／ガ} ジローオ クラワセチョー（ノ）オ ミタ
「太郎が次郎をなぐっているのを見た」
 - (c) {センセーノ／[?]ガ} コラエタ（ノ）ニ キガツィカンダッタ
「先生がいらっしゃったことに気がつかなかった」
 - (d) {センセーノ／[?]ガ} オイデタトキ ウルサカッタ
「先生がいらっしゃったときは、（教室が）うるさかった」
 - (e) {テンノーヘーカノ／[?]ガ} コラエタ（ノ）ヲ ミタ
「天皇陛下がいらっしゃったのを見た」
 - (f) {エノガ／ノ} ホエチョー ヤツィガ キコエタ
「犬が吠えているのが聞こえた」

なお, Shibatani (1975) あるいは南部 (2007) によれば, 現代標準語においては連体節中の主語を表示する「ガ」「ノ」について, 「太郎 が/*の 友達と買った本」のように, 当該の名詞句の後にさらに別の名詞句が続く場合, 主語表示として「ノ」は使用しがたいという。一方, 出雲方言においては, (6b) の例のように当該の名詞句に別の名詞句が続いた場合でも, 「ガ」「ノ」のどちらもが問題なく使用可能である。主節中の主語を表示する場合においても, 当該の名詞句の後にさらに別の名詞句が続いても, 「ガ」「ノ」の両方が現れうる (4e) も参照)。

5 おわりに

本稿では, 出雲方言における格助詞「ガ」「ノ」の現れについて, その概要を記述した。非常に大雑把な記述ではあるが, 本稿で述べたことのうち少なくとも連体助詞として用いられる場合の「ガ」と「ノ」の使い分けに, 敬意 (待遇) だけでなく名詞句階層中の位置が関係していることは, 管見の限りにおいては, これまで出雲方言においては指摘されてこなかったことである。

本稿で述べたことは出雲方言の形態統語論に関する事柄のうち, ほんの一部のものであり, 未解明のことも多く残されている。例えば本稿で扱った格助詞に関して言えば, まず連体節中の「ガ」「ノ」に関しては検討すべき問題が多く残っている。特に, この方言 (の特に80代中盤以上の世代に見られる) ゼロ準体と呼ばれるものと「ガ」「ノ」の現れについては検討が不十分である。また, 既に述べたとおり情報構造などを考慮した分析は本稿では保留してある。

格体系全般に関して言えば, 対格 (目的格) 助詞として用いられることがある「オ (を)」の分布 (どのようなときに「オ」が必須となるか) についても不明なところがある。ニクニ スイチョー「肉が好きだ」などの助詞「ニ」の現れも興味深い。

出雲方言は様々な点で注目され, 既に述べたとおり早くから研究のある方言ではあるものの, なお詳細な記述がない。今回の合同調査に参加した一人として筆者は, 今後も出雲方言の調査・研究を続け, その地理的変異や歴史的形成過程も含めた全体像を明らかにしたいと考えている。

参考文献

- Frellesvig, Bjarke (2010) *A History of the Japanese Language*. Cambridge University Press.
平塚雄亮・森勇太・黒木邦彦 (編) (2015) 『甌島里方言記述文法書』国立国語研究所。

- 廣戸 惇 (1949) 『山陰方言の語法—出雲・隠岐・石見・伯耆—』 島根新聞社.
- 神部宏泰 (1982) 「島根県の方言」『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』 国書刊行会, 211-238.
- 加藤義成 (1935) 「中央出雲方言語法考」『方言』 5/4.
- 久野 暁 (1973) 『日本文法研究』 大修館書店.
- 水谷信明 (1980) 「島根県大原郡木次町上熊谷中ノ段の敬語法の研究」 広島大学文学部 昭和54年度卒業論文.
- 南部智史 (2007) 「定量的分析に基づく「が／の」交替再考」『言語研究』 131: 115-149.
- Osterkamp, Sven (2014) On so-called genitive subjects in Classical Japanese and their treatment in Western grammars«. In: Majtczak, Tomasz and Sonoyama, Senri (eds.): *Language and Literary Traditions of Japan. Collection of papers to commemorate the twenty-fifth anniversary of Japanese studies at the Jagiellonian University (1987–2012)*, 107–154. Kraków: Jagiellonian University Press.
- Pellard, Thomas (2010) Ōgami (Miyako Ryukyuan) . In: Shimoji, Michinori and Pellard, Thomas (eds.) *An Introduction to Ryukyuan Languages*, 113-166.
- 坂井美日 (2013) 「現代熊本市方言の主語表示」『阪大社会言語学研究ノート』 11: 66-83.
- Shibatani, Masayoshi (1975) Perceptual strategies and the phenomena of particle conversion in Japanese. In: Robin E. Grossman, L. James San, and Timothy J. Vance (eds.) *Papers from the Parasession on Functionalism*, 469–480. Chicago Linguistic Society, University of Chicago.
- 下地理則・坂井美日 (2015) 「九州琉球におけるガ系とノ系による主語表示 —類型と歴史—」 合同シンポジウム「日本語のアスペクト・ヴォイス・格」(2015年8月21-23日) 発表資料.

出雲方言の指示詞カ, サに関する報告

荻野 千砂子*1

1 はじめに

2014年度に実施された出雲方言調査の文法班の調査票の中に、指示詞コレワ、ソレワを含む項目があった。9番目の「それはおとうとのかもしれない」と42番目の「これはかつおだろう」の二項目である。それぞれの地点の回答は次のようになっている。

9. それは おとうとのかもしれない。

1.安来市	<u>soitea</u> oto:tonobundanjikajæ. ソイチャー オトートノブンダニカヤえ。
2.奥出雲町	<u>so:wa</u> {oto:to no / oto:toga} {jatsi / bun} kamo {eiren~siren} {jo / dzo}. ソーワ {オトートノ / オトートガ} {ヤツイ / ブン} カモ {シレン~スイレン} {ヨ/ヂョ}.
3.雲南市 A	{ <u>sora</u> / <u>so:wa</u> } oto:tono kamo {ein / eiren} na.. {ソラ / ソーワ} オトートノ カモ {シン / シレン} ナー.
3.雲南市 B	<u>soriwa</u> oto:tono kamoeire:n. ソリワ オトートノ カモシレーン.
4.出雲市 A	<u>sa</u> oto:tono kamoeen. サ オトートノ カモシェン.
4.出雲市 B	<u>sorewa</u> oto:tono kamo een 《no》. ソレワ オトートノ カモ シェン 《ノ》.

42. これは かつおだろう。

1.安来市	<u>ko:wa</u> katsuo {dara / darazojæ}. コーワ カツオ {ダラ / ダラゾヤえ}.
2.奥出雲町	<u>korja</u> {katsio~katsuo} dara: 《ga》. コリヤー {カツィオ / カツオ} ダラー 《ガ》.
3.雲南市 A	<u>kora</u> katsuodaraga. コラ カツオダラガ.
3.雲南市 B	<u>korewa</u> {katsuodaro: / katsuodazi (かつおだ)}. コレワ {カツオダロー / カツオダズィ}.
4.出雲市 A	<u>ka</u> kattso {dara: (多) / daro:}. カ カツォ {ダラー(多) / ダロー}

9の「それは」に該当する言い方は、各地点においてソイチャー、ソーワ、ソラ、ソリワ、ソレワが見られるが、出雲市Aにはサという回答がある。また、42の「これは」に該当する言い方は、各地点においてコーワ、コリヤー、コラ、コレワが見られるが、出雲市Aにはカという回答がある。ここから、カはコレワに、サはソレワにそれぞれ対応していることが予想できる。

*1 おぎの ちさこ：福岡教育大学・准教授

調査票では出雲市のA話者のみが使用しているが、実は、カもサも出雲方言話者にとってはなじみがある言葉だという。巻野辰雄著『出雲のことば早わかり辞典』（2001年）によると、次のような記述がある²。

カ： これは。「カ、お前のもんか」

このようにカはコレワに相当すると認識されていることが分かる。音声的にもコーワ (koowa)、ソーワ (soowa) が短音化してカ (ka)、サ (sa) となる可能性は十分にある。とはいえ、カとサが、コレワ、ソレワと全く同じ機能を有するかという点に関しては疑問が残った。そこで、カ、サに関しての追加調査を2015年11月6日と7日に行った。6日は、島根県教育庁文化財課の職員の方3名が調査に協力して下さった。その結果を踏まえて7日に詳細な調査を行った³。7日は、昭和7年生まれの男性と昭和25年生まれの男性が調査に協力して下さった。これらの追加調査において明らかになったことを以下に述べる。

2 調査結果

2.1 カの感動詞的用法

11月6日の調査では、主にカの使い方について比較的自由に内省してもらい、おおまかな情報を収集した。話の中で、カは話し手領域の物を指すこと、サは聞き手領域の物を指すことを確認した。当初、カとコレワは同一の用法を持っているかのように思われたが、次第にカとコレワには異なる機能があることが分かってきた。カの特徴について、以下(A)～(C)にまとめる。用例の表記は、簡易な音声表記とし、促音は子音連続で表し、長音は母音を重ねて表記する。また、形態素境界は・で、語境界は=で表す。

(A) カは感情が高まったときの批判的な場面で使いやすい。

例えば、自分の部下が提出してきた書類がとんでもないものだったとする。部下を叱る場合に上司はカを用いることができる。

(1) ka nan=daja.
カ ナン=ダヤ.
これは なんだ!

しかし、もし自分が陶芸を趣味としていて、ある日、会心の作ができたとする。「うん！これはいい」と褒めるときにはカが使いにくくなって、コレを用いるという。

(2) kora e=da ne=ka.
コラ エ=ダ ネ=カ.
これは いいじゃ ないか。

² 出雲市市民文化財課の職員の方に該当箇所のPDFファイルを送って頂いた。

³ 7日の調査も6日に引き続き文化財課の職員の方が同席して下さった。また、午後の調査では、出雲市市民文化財課の職員の方も同席して下さった。お二人の意見も反映させている。

ただし、カは全くの非文にはならない。自分のものを褒めることがないので、いいにくいだけかもしれないという意見もあった。とすると、文法的には使用可能だが使用場面に何らかの偏りがありそうである。叱るときに使いやすいという話なので、感情が高まった場面で使いやすい傾向があると言えそうである。

(B) 同等の人間関係、または目上から目下の人間関係において使用する。

目上の人に対してはカが使用できないという。目上の人でも親しい関係の人や伯父ぐらいの人であれば、「これは何ですか？」と質問するとき、丁寧語「です」を用いて次のように言う。

- (3) ka nan=desu=ka?
カ ナン=德斯=カ?
これは 何ですか？

しかし、明らかに目上の人だと認識している場合にはカは使用できない。また、店員など初対面の人に話しかける場合や、改まった場合にも使えないという。つまり、カが使えるのは、日常の場面であり、人間関係は親しい間柄でなければならないということになる。

(C) 感動詞に相当する用法がある。

次に、夫婦二人の会話で、夫が捜し物をしているが物の名前を思い出せないで困っている場面を想定した。

夫「アレはどこに置いたかね？」

妻「アレって何ですか？アレだけでは分かりませんよ」

この後しばらくして、妻が夫にある物を提示したとする。

妻「お父さん、もしかしたら、コレのことですか？」

妻が提示したコレが、まさに夫が捜していたアレであった場合に次のように言える。

- (4) ka kjan toko=ni atta=kaja.
カ キャン トコ=ニ アッタ=カヤ.
おっ！ こんな ところに あったか。

共通語では、発見した喜びで「おっ！」とか「あっ！」等、感動詞が出てきそうな場面である。

「おっ！こんなところにあったか」と言うのが自然であろう。「これは、こんなところにあったのか」と、わざわざ指示詞コレワを使いそうにない。とすると、カには感動詞的な用法があると言えそうだ。しかし、共通語のコレワも「これはこれは。驚きましたよ」のように感動詞的用法で使用できるので、類似の用法かもしれない。しかし、(A)の「感情が高まったときの批判的な場面で使いやすい」という用法を考え合わせると、感動を現す場面に使用が偏るとするのはカの特徴として重要ではないかと考えられる。

以上のように見てくると、カは単純にコレワに相当しない可能性が出てきた。

2. 2 カ, サの使用制限

7日の調査で、さらに明らかになったのが、次の(D)と(E)である。

(D) カには格助詞が下接しない。だが、ガ格相当の場合でもカ単独で使用可能である。

カに格助詞を下接させてみたが、「*カが」「*カを」「*カに」とは言えない。よって、カに格助詞は下接しないと言える。この特徴は、カがコレワ、サがソレワと助詞「は」を含んでいるためであると考えられる。しかし、用法を確認していると「これが」相当の場合にもカ単独で使用できることが分かった。例えば、部下が書類を持って来たが、上司は不備のある書類だとして叱ったとする。このとき、上司はカもコレも使用可能である。

- (5) ka/kore nan=da.
 カ/コレ ナン=ダ.
 これは 何だ。

その後、上司が書類の特定の箇所を指さし「これが問題だ」と指摘したとする。その場合、(6)も(7)も使用可能である。

- (6) koko=ga/ kore=ga mondai=da.
 ココ=ガ/コレ=ガ モンダイ=ダ
 ここが/これが 問題だ。

- (7) ka mondai=dana.
 カ モンダイ=ダナ.
 これが 問題だ。

書類全体を指して「これは何だ」と叱った後に、書類の一部を指すときは「{ここが/これが} 問題だ」とガ格を使用するのが一般的である。「これは」は使いにくい。よって、(7)のカは「これが」に相当すると考えてよさそうである。とすると、カは助詞「は」を含んでいない可能性も出てくる。「カ=コレワ」ではなく、「カ=コレ」だとすると、カとコレに何らかの違いがあるはずである。そこで、調査内容を変更しようとした矢先、「カ=コレ」とも考えられない特徴が新たに出てきた。

(E) カとサは、最初に見た物を指すときに使用できる。しかし、吟味した後や、熟考した後で同様の物を指す場合は、カもサも使用が不可能となる。

先に上司に注意を受けた部下は、上司に指摘された部分を徹夜で書き改めたとする。次の日に上司に書類を再提出した。その書類を見て上司が、「これはいいね」と褒めたとする。

- (8) koo=de ee.
 クー=デ エー.
 これで いい。

(8)ではカが使用できない。「これで、いい」や「これなら、いい」等、コレデやコレナラを使うためではないかと考えたが、話者はそういうことではないと説明する。カは吟味した後や熟考した後では使えないという。逆に、熟考する前であればカが使用できるという。だからもし、部下が最初に完璧な書類を作成して来たら、上司は次のように褒めてもよいという。

- (9) ka ee=zo.
カ エー=ゾ.
これは いいね。

この特徴は、カとコレとの決定的な相違点である。コレにはこのような制限はない。

以上、カの使用制限が明らかとなったので、同様の制限がサにも見られるのではないかと考えた。そこで、次のような場面を設定した。友達が着物を買おうとして、あれこれ選んでいるとする。友達が試着したのを見て、次のように感想を述べる。

- (10) sa ee=zo.
サ エー=ゾ.
それ いいね。

最初に見た物、あるいは、瞬時に見た物を指す場合にはサが使用できる。しかし、いくつか着物を試着した後で、最後に友達が着た物が一番似合っていると判断する場合、サは使用できない。

(11)のようにソレとなる。

- (11) soo=ga ee.
ソー=ガ エー.
それ いい。

吟味した後や熟考した後ではサは使えず、ソレが用いられるという。ガ格、ヲ格の問題ではなさそう。

以上のような特徴があることを考えると、カはコレ、サはソレとは異なる意味用法を持っていると考えられる。コレ、ソレと関係がないとすれば、カとサは何から生じた語であろうか。

3 連体詞のキャンとシャーン

カとサの出自を考える上で、連体詞のキャンとシャーンが参考になるのではないかと考えた。キャンとシャーンは、キャン、シャンと短音化することも多い。次のように使用される。

- (12) kjaan si=wa mita koto nee.
キャン シ=ワ ミタ コト ネー.
こんな 人は 見た こと ない。

- (13) sjaan koto sira-n.
シャーン コト スイラン.
そんな こと 知らない。

キャンとシャーンは、一般的に、指示副詞のコゲ、ソゲと関連を持つ、コギヤーン、ソギヤーンの音声的な省略であると考えられているようだが、そうではない可能性もあるのではないだろうか。

室町時代のオ段長音には開合の区別があったとされる。*au から生じたオ段長音は、開音の*ɔɔ となり、*ou から生じたオ段長音は合音 *oo となったと推定されている。開音 *ɔɔ は、江戸時代には合音 *oo と融合したので、現代共通語ではオ段長音に開合の区別はない。「かような」「さような」は、歴史的仮名遣いでは「かやうな」「さやうな」であり、音声的には *kajauna, *sajauna から *kajɔɔna, *sajɔɔna を経て、江戸時代に *kajooa (カヨーナ), *sajooa (サヨーナ)

となったと推定される。しかし、出雲地域では開音はaaで実現している。出雲方言において「かやうな」「さやうな」は、次のような過程をたどったと考えられないだろうか。

*kajauna→*kajaana→*kjaana→kjaan (キャン)

*sajauna→*sajaana→*sjaana→sjaan (シャーン)

このように考えると、室町時代に多用されていた「かやうな」と「さやうな」がそのまま出雲方言に残っていると見えそう。とはいえ、出雲方言での指示詞体系全体をみると、コレ、ソレ、アレ等のコソア指示詞体系が主軸となっている。そのため、コソア指示詞体系の中に、カ系指示詞由来の語であるキャンとサ系指示詞由来の語であるシャーンが組み込まれているということになる。

出雲方言には、他にも古語のサ系指示詞が関連していると思われる例がある。相手が言ったことに対して、「さあ、どうかな？」という半信半疑の気持ちを表すときに、次のように言える。

(14) saare.

サーレ。

さあ、どうかな？

これも、サ系指示詞が関連したsa-are (サ-アレ) から生じた語ではないかと考える。サーレの出自は定かではない。室町時代末に上方において「さあれば」という接続詞が多用されているので、この語と関連があるかもしれない。「さあれば」からサーレと独立して、「そうかな」という意味を持つ感動詞になった可能性はある。

以上、古語のカ系指示詞やサ系指示詞が出雲方言に残存する現象が見られることを確認した。これらが、カとサにも関係があるのではないだろうか。

4 カとサの本質

では、カとサは本質的にどのような機能を持っているのであろうか。カとサが使用しやすいのは最初に物を指す場面であり、熟考した後ではカとサが使用できなくなった。これは、カとサが、実は純粋な物指示機能を持っていないということを意味しているのではないだろうか。(A)感情が高まったときの批判的な場面で使いやすい、(C)感動詞に相当する用法がある、という特徴を考え合わせると、物指示というよりも、むしろ「このような事態」「そのような事態」という、初見の場面全体を指示するのではないかと考える。

そこで、場面として、私が部屋に入ったら子供が瞬時に何か物を後ろに隠したところを想定した。「それは何だ？」と尋ねる場合は、サもソレワも使用できる。しかし、続けて「それを見せなさい」というときには、サが使用できない。これは、ヲ格が下接しないからというわけではなく、サでは、子どもが隠した物を指せないからではないかと考える。サは、「子どもが何かを隠したこと」全体を指しているのではないかと考えるわけである。

(15) a sa/soo=wa nan=da?

サ/ソー=ワ ナン=ダ?

それは 何だ?

b *sa/ so=o mise=te mi-ta.
サ/ソ=オ ミセ=テ ミ-タ.
それを みせて みなさい。

カやサは指示代名詞というよりも感動詞的な場面指示用法が強いと考えられる。

そう考えると、話者の意見で納得できることがある。実は、カとコレ、サとソレを比較しているときに、話者から「カやサを使うと弱い感じがする」という見解が示された。「弱い」というのは、「はっきりと決められない」ことらしい。例えば、友達がハンカチを落としたとする。私が、友達の後ろに落ちている布を指で指して、「それはあなたのハンカチではないのか？」と尋ねるとき、次のようにサを用いて言える。

(16) sa cigau?
 サ チガウ?
 それと 違う？

ただし、(16)のサは、自分に確信がないときに使うという。一方、(16)を「ソレと違う？」とソレを使って言うと、私がハンカチの色や模様を知っていて、間違いなく友達のハンカチだと確信している感じがするという。サとソレで「弱く思うか、強く思うか」という差が出てくるという。カに関しても同様の意見が出てきた。店で手に取って品物を選ぶとき、カを用いると「この品物は、まあ、いいかな」という意味あいが出てくるという。

(17) ka e=gana.
 コレ エ=ガナ.
 これ いいな。

あれこれ品物を手に取って、「これも、まあまあだな」「あ、こっちも、まあまあだな」というときは、カを連続して使ってよい。「まあまあ、いいな」と「弱く」思っているときには、(17)を繰り返し言うことができる。しかし、すばらしい品物を見つけて「ああ！これはいい！」と一つの物を「強く」思ったときは、カではなくコレを用いるという。具体的な物を指し示すのがコレとソレの用法であり、その場の事態全体を指すのがカとサの主たる用法であるならば、具体的な物をカやサで指そうとすると、相対的に弱く感じられるのかもしれない。

以上、出雲方言のカとサが、コレ、ソレではなく古語の指示詞カ、サ由来の語であり、指示代名詞というよりも感動詞に近い場面指示用法を持つのではないかという見解を述べた。ただし、指示詞体系の中においては、カは自分に近い範囲の事態を指し、サは聞き手に近い範囲の事態を指すので、カはコ系指示詞、サはソ系指示詞に関連した領域を持つと考えられる。また、今の時点で、カとサの明らかな出自は不明である。指示副詞のカとサがそのまま独立した可能性もあるし、連体詞のキャン、シャーンのキャン、シャーの部分が直音化した後に単音化してカ、サとなった可能性もある。今回の調査で、サが時折シャと発音される現象も見られたので、連体詞シャーンからシャが生じ、それがサと直音化した可能性は高いのではないかと考えている。今後も継続的に調査を行い、カとサの特徴についてより明確な記述を試みたい。

出雲方言データ集

出雲方言データ集の表記について

木部 暢子

1 表記の基本方針

- (1) 語形は音声記号とかなの両方で表記する。それぞれの箇所を参照されたい。
- (2) アクセント符号は、次のものを使用する。
[音調の上がり目] 音調の下がり目]] 拍内の下降
- (3) 同一話者の発音が揺れている場合は、2つ（またはそれ以上）の発音を「～」でつないで表す。複数の語形を回答した場合は、2つ（またはそれ以上）の語形を「 / 」で区切って併記する。文法例文集では、複数語形の範囲を { } でくくって、{ / } のように表記する。
- (4) 語形に関するその他の情報は、() の中に入れて示す。
- (5) <新>, <古> は語形の新旧を表す。

2 出雲方言 音声記号・仮名対応表

(空欄は、調査の範囲では該当する音が現れなかったことを表す)

	音素	/a/	/i/	/u/	/e/	/o/
	異音	[a]	[i, i]	[u, u]	[e, ε, æ]	[o, ɔ]
	仮名	あ	い	う	え	お
p	音素	/pa/		/pu/	/pe/	/po/
	異音	[pa]		[pu]	[pe, pɪ]	[po]
	仮名	ぱ		ぷ	ぺ	ぽ
b	音素	/ba/	/bi/	/bu/	/be/	(/bo/)
	異音	[ba]	[bi, bi, bɪ]	[bu, bu]	[be]	([bo])
	仮名	ば	び	ぶ	べ	ぼ
m	音素	/ma/	/mi/	/mu/	/me/	/mo/
	異音	[ma]	[mi, mi, mɪ]	[mu, mu]	[me]	[mo]
	仮名	ま	み	む	め	も
t	音素	/ta/			/te/	/to/
	異音	[ta]			[te, tɪ]	[to]
	仮名	た			て	と
d	音素	/da/			/de/	/do/
	異音	[da]			[de]	[do]
	仮名	だ			で	ど
s	音素	/sa/	/si/	/su/	/se/	/so/
	異音	[sa]	[ɕi, ɕɪ, ɕi, si, sɪ]	[su, su]	[se, ɕe]	[so]
	仮名	さ	し	す	せ、しえ	そ

z	音素	/za/	/zi/	/zu/	/ze/	/zo/
	異音	[za, dzu]	[zi, zi, zi], [dzi, dzi, dzi]	[zi, zu, zu], [dzi, dzu]	[ze, ze, dze, dze]	[zo, dzo]
	仮名	ざ	じ、ぢ	ず、づ	ぜ	ぞ
c	音素	/ca/	/ci/	/cu/		
	異音	[tsa]	[tei, tei, tei, tsi]	[tsu, tsu]		
	仮名	つあ	ち	つ		
n	音素	/na/	/ni/	/nu/	/ne/	/no/
	異音	[na]	[ni, ni, ni, ni]	[nu]	[ne]	[no]
	仮名	な	に	ぬ	ね	の
r	音素	/ra/	/ri/	/ru/	/re/	/ro/
	異音	[ra]	[ri, ri, ri]	[ru, ru]	[re]	[ro]
	仮名	ら	り	る	れ	ろ
k	音素	/ka/	/ki/	/ku/	/ke/	/ko/
	異音	[ka]	[ki, ki, k ^s i, ki ^h , kçi, ki]	[ku, ku, kφu]	[ke]	[ko]
	仮名	か	き	く	け	こ
g	音素	/ga/	/gi/	/gu/	/ge/	/go/
	異音	[ga]	[gi, gi, g ^z i, gi]	[gu, gu]	[ge]	[go]
	仮名	が	ぎ	ぐ	げ	ご
h	音素	/ha/	/hi/	/hu/	/he/	/ho/
	異音	[ha]	[çi, hi], [phi, phi]	[φu, φu]	[he, φe]	[ho]
	仮名	は	ひ, ふうい	ふ	へ	ほ
撥音	音素	/N/				
	異音	[m, n, ŋ, N]				
	仮名	ん				
促音	音素	/Q/				
	異音	[pp, tt, kk, ss, çç]				
	仮名	っ				
長音	音素	/:/				
	異音	[:]				
	仮名	ー				

	音素	/ja/	/ju/	/jo/	/wa/
	異音	[ja]	[ju, ju, ji]	[jo]	[wa, uja]
	仮名	や	ゆ	よ	わ
p	音素			/pjo/	
	異音			[pjo]	
	仮名			ぴよ	
b	音素	/bja/		/bjo/	
	異音	[bja]		[bjo]	
	仮名	びゃ		びよ	

m	音素	/mja/		/mjo/	
	異音	[mja]		[mjo]	
	仮名	みゃ		みよ	
t	音素				
	異音				
	仮名				
d	音素				
	異音				
	仮名				
s	音素	/sja/		/sjo/	
	異音	[ɕa]		[ɕo]	
	仮名	しゃ		しよ	
z	音素	/zja/	/zju/	/zjo/	
	異音	[za, ɕza]	[ɕju, ɕju]	[zo, ɕzo]	
	仮名	ぢゃ、じゃ	ぢゅ	ぢよ	
c	音素	/cja/		/cjo/	
	異音	[tɕa]		[tɕo]	
	仮名	ちゃ		ちよ	
n	音素	/nja/		/njo/	
	異音	[na]		[no]	
	仮名	にゃ		によ	
r	音素	/rja/			
	異音	[rja]			
	仮名	りゃ			
k	音素	/kja/	/kju/	/kjo/	/k ^w a/
	異音	[kja]	[kju, kju]	[kjo]	[k ^w a, kuɕa]
	仮名	きゃ	きゅ	きよ	くわ
g	音素				
	異音				
	仮名				
h	音素				
	異音				
	仮名				

出雲方言 基礎語彙集 (音声記号)

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
頭(あたま)	a[tama]	atama	a[tama]	a[tama]
髪の毛(かみのけ)	ka[mino]ke	kaminoke	kami[no]ke	kami[no]ke~ kami[no]ke
旋毛(つむじ)	gi:[gi:]	tsimudzi	tsu[mudzi]	gi[ri]~gi[ri]
雲脂(ふけ)	φυ[ke]	φυke	φυ[ke]	φυ[ke]
白髪(しらが)	ei[raga]	ei[ra]ga	ei[ra]ga	[ei[ra]u~[ei]ra]ge
目(め)	[mε]	mε	[me]	mε
眉(まゆ)	[ma]ε / [ma]εε	maεε	[ma]ju~[ma]ige	ma]juuε
額(ひたい)	φυ[taεgu:tsi]	çitaεgu:tsi	çi[ta]	oto]ηuε
鼻(はな)	ha[na]	hana	ha[na]	hana
鼻血(はなぢ)	ha[nazi]	hanadzi	ha[nadzi]	hanazi
耳(みみ)	mi[mi (mimi[ga 耳が])]	mimi	mi[mi]	mimi
口(くち)	kφυ[tsi~kφυ[tsi (kφυ[tsi[ga 口が])]	kφυtei	kφυ[tei~kφυtei[kφυtei~kφυtei]
唇(くちびる)	kφυ[tsibiri~ kφυ[tsibiri]	kφυtsibi:	kφυ[teibiru	kφυteibiru
舌(した)	ei[ta]	ei[ta]	ei[ta] / [be]ro	be]ro
歯(は)	[ha]	ha (~ga hasi: ~が痛い)	[ha]	ha
歯茎(はぐき)	ha[gu:kʰi]	hagu:kʰi	ha[gu]ki	ha]ηki~ha]u]uki
口蓋(あご)	a[go]ta	agota	a[go]	a[u]o
髭(ひげ)	φi[ge~φu[ge]	φige~φuε	çi[ge]	ei[u]ε
毛(け)	ke (ke[ga 毛が])	ke	[ke~ke[ke~ke
面(かお)	ka[o]	kao	ka[o]	ka[o]
首(くび)	kφυ[bi~kφυ[bi (kφυ[bi[ga 首が]) / kφυ[bindzakφυ~ kφυ[bindzaku / kφυ[bitama~ kφυ[bitama]	kubi / kuwindzaku	kφυ[bi]	kφυ]bi~kubi
肩(かた)	ka[ta]	kata	[ka]ta	ka]ta
胸(むね)	mu[nε (mu[nanto 胸の中)]	mu:ne (minanto 胸の中)	mu[ne]	mu[ne]
肋骨(あばらぼね)	a[bara~a[barabone]	abarabone	a[ba: / a[ba:bone	ro[kko:tsu]
乳(ちち)	tsi[tsi (tsitsi[ga 乳が])]	tsitsi / oppaε	[tei]tei	tsi]tsi
腹(はら)	ha[ra]	hara	ha[ra]	ha[ra]
背中(せなか)	se[naka]	εenaka	se[naka / se[εe[naka~se[naka]
肝(きも)	kʰi[mo]	kʰimo	ki[mo]	ki[mo~kʰi]mo
臍(へそ)	he[so]	he:so~φεso	he[so]	he[so]
腰(こし)	ko[si (kosi[ga 腰が])]	kosi	ko[ei]	ko[ei]
尻(しり)	si[ri / si: (si:[ga 尻が])]	siri~si: / si:go	ei[ri]	ta]mpe
肛門(こうもん)	[ko:mon]	ko:mon	[ko:mon]	[ko:mon]
手(て)	[te]	te	[te]	te

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
腕(うで)	u[de]	uɔ̃	u[de](上腕)	u[de]
肘(ひじ)	çi·[zi~φi·[zi (φi·zi[ga 肘が])	hɛ̃dzikko~φɛ̃dzikko	çi[dzi	hizi~çizi
力(ちから)	tsi[kara	tsikara	tei[kara / ba[riki	tei[karakobu
拳(こぶし)	ko[bu]ei	kobusi	ko[buei	geŋkotsu~ geŋkotsu
筋(すじ)	si[zi (sizi[ga (筋が)])	sidzi	su[dzi~[su]dzi	si[zi
指(ゆび)	i[bi (ibi[ga (指が)])	i[bi]	ju[bi]	ju[bi
爪(つめ)	tsi[mɛ̃	tsimɛ̃	tsu[me	tsu[me
足(あし)	a[ei] (aei[ga (足が)])	asi	a[ei]	a[ei (靴履くところ)
腿(もも)	mo[mo] / mo[motabuura	momo / momotabuura	mo[mo]~[mo]mo / momo[ta]buura	mo]mo
股(また)	ma[ta]	mata	ma[ta]	ma[ta
膝(ひざ)	φu[za / (?)φi[zabo]:zi	φidzakko / φidzakkoba.dzi	çi[dza	çi[zabo:zu
踝(くるぶし)	NR	kuurobosi	ku[ro]boei~ ku[ro]bosi	ku[ru]buei~ ku[ru]buei
脛(すね)	si[ne] / si[nebo]:zi	sime / sinekko	su[ne]	mu[ko:zu]ne
ふくらはぎ	kobu[ra]	φukurohagi	[ko]buura	φu[kura]hau
踵(かかと)	ka[gato	kagato	ka[gato	ka[kato
体(からだ)	ka[rada	karada	ka[rada	ka[rada
背丈(せたけ)	[se]:	ɛe:	se[ta]ke	ɛe]:~se
骨(ほね)	ho[ne]	hone	ho[ne]	ho[ne]
皮(かわ)	ka[wa]	kawa	ka[wa]	ka[wa
黒子(ほくろ)	hokφuro~hoku	φukuro	hoku[ro	ho[k ^h uro
涙(なみだ)	nan[da]	nanda	nami[da	na]mida
声(こえ)	ko[e]	koe	[ko]i	ko]e~ko]ɛ̃
息(いき)	i[k ^s i (iks ⁱ [ga (息が)])	iks ⁱ	[i]ki	i]ki
咳(せき)	ee[k ^s i (eek ^s [ga (咳が)])	eek ^s i	se[ki]	ee]ki
唾(つば)	tsi[baki	tsibaki	tsu[ba]	tsu[ba / ta]n (u が 中舌に聞こえる)
欠伸(あくび)	a[k(φ)ubi	akubi	a[kubi	akobi~a[kobi
涎(よだれ)	jo[dare	jodare	jo[dare	gobozi
屁(へ)	[φɛ̃]	hɛ̃~φɛ̃	[he]	he
糞(くそ)	k(φ)u[so	ku]so	ku]so	kxu]so
尿(によう)	[ei]ko / [ɛo:be	ɛo:ben	[no]: / [eombe	eombe]n
おでき	dek ^s [mono	dek ^s imon	o[de]ki / deki[mono ~deki]mon	dek ^h [mo]no
たんこぶ	[ko]bu	kobu	[tan]ko]bu	tan]ko]bu~ tan]ko]bu
汗(あせ)	a[ɛe]	aee	a[se]	a]ɛɛ̃
垢(あか)	a[ka]	aka	a[ka]	a]ka
怪我(けが)	[aɛmatsi	aɛmatsi	ke[ga]	ke]u]a

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
病気(びょうき)	[bjo:kʰi	bjo:kʰi / jamae	[bjo:ki / e[taei:~ e[taei	i[tasi
血(ち)	[tsi (tsi[ga 血が)	tsi	tsi[tsi
傷(きず)	kʰi[zi (kʰizi[ga 傷が)	kʰidzi	ki[dzu~ki[dzi	ki[zu
葉(くすり)	kɸu[si:	kɸusi:	kɸu[suri	kɸu[suri
灸(きゅう)	[kʰi:	kʰi:	[kju: / [jaito	ki: (ki:si:do 灸するぞ)
命(いのち)	i[no]tsi	inotsi	NR	i]notei~i]notei
面(つら)	tsi[ra]	tsira	tsu[ra]	tsu[ra
膿(のう)	u[mi (umi[ga 膿が)	umi (膿) (「脳」のことは no: という)	[no]: / [u]mi	u]mi~u]mi
木(き)	[kʰi]	kʰi	[ki]	kʰi~ki
葉(は)	[ha (ha[ga 葉が)	ha	ha[ha]ppa
枝(えだ)	e[da	eda	e[da	e[da
梢(こずえ)	e[dasakʰi	kʰino teppen	kozu[e	(言わない)
実(み)	[mi (mi[ga 実が)	mi	[mi~mi[mi~mi
根(ね)	[ne]	ne	[ne]	ne]kko
草(くさ)	k(ɸ)usa	kɸusa	kɸu[sa]	kɸu[sa
花(はな)	ha[na]	hana	ha[na]	ha[na
種(たね)	ta[ne]	tane	ta[ne]	ta]ne~ta]ne
苗(なえ)	na[e]	nae / naengo~ naego	[na]ɾ	na]e~na]e
稲(いね)	i[ne]	me	i[ne]	i]ne~i]ne
穂(ほ)	[ho]	hone	[ho]	ho
米(こめ)	ko[me]	kome	ko[me]	ko[me
粃(もみ)	mo[mi (momi[ga 粃が)	momi	mo[mi	mo[mi
麦(むぎ)	mu[gʰi (mugzi[ga 麦が)	mugʰi	[mu]gi	mu]uɸi
藁(わら)	wa[ra]	wara	wa[ra]~[wa]ra	wa]ra
麦わら(むぎわら)	mugʰi[wara	mugʰi[wara	mugi[wara	muuɸiwara~ muuɸi[wara
茅(かや)	ka[ja]	kaja	[ka]ja	ka]ja
粟(あわ)	a[wa]	awa	[a]wa~a[wa]	a]wa
稗(ひえ)	[he]:~[he:]	ɸe:	ɸi[e	ɸe:
芋(いも)	i[mo]	imo	i[mo]~e[mo]	i[mo]
甘藷(さつまいも)	[ɾi:kʰimo] / sa	ɾi:kʰimo	satsu[maimo / [ka]neo	ka]neo / satsuma]imo
豆(まめ)	ma[me]	mame	ma[me]	mame
胡瓜(きゅうり)	[kʰi:ɾi	kʰi:ɾi	[kju:ri~[ki:ri	kju:ri
蓬(よもぎ)	jo[mogʰi	jomogʰi	jo[mogi	jomouɸi
菜(な)	[na]	na	[na]	na]ppa
大根(だいこん)	[daeko	daeko	[daikon	dai]kon

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
冬瓜(とうがん)	NR	NR (食べない)	[to]:gan~[to:ga]N	to:uʔan
南瓜(かぼちゃ)	ka[botea	kabotea	ka[botea	ka[botea
瓜(うり)	o[ri] (o[ri]ga 瓜が) ~ [u]ri	u[ri]	[u]ri	u]ri
萋(にら)	ni[ra]	nira	[ni]ra	nira
茸(きのこ)	[ksi]noko / ta[ke (稀)	NR (それぞれの名 前を言う)	ki[no]ko	kino]ko~ki[no]ko
きくらげ	NR	NR	k̥i]ku[ra]ge	k̥i]ku[ra]uʔe~ k̥i]ku[ra]uʔe
とうがらし	[namba	toŋgarasi	[to:ga]raei	to:uʔa]raei~ to:uʔa]raei
苦瓜(にがうり)	NR	NR	ni[ga]uri~ ni[gau]ri	ni[uʔa]uri~ ni[uʔa]uri / uʔo:ja
胡麻(ごま)	go[ma	goma	go[ma	goma~uʔoma
苺(いちご)	itsi[go	rtsigo	itei[go	itei[uʔo]]
蘇鉄(そてつ)	NR	NR	so[tetsu]	sotetsu
松(まつ)	ma[tsi] (matsi[ga 松 が)~ [ma]tsi	matsi	[ma]tsu]	ma]tsu
竹(たけ)	ta[ke	take	ta[ke	ta[kɛ
梅(うめ)	o[me	ume~ome	u[me	u[me
桃(もも)	mo[mo	momo	mo[mo	momo
桑(くわ)	k(φ)u[wa]~ (?)ku[φa]	kuwa	[kʷa]	kuwa
薄(すすき)	si[siksi	sisiksi	su[suki	su[suki / kʰa]ja
蜜柑(みかん)	mi[kan (mi はやや広 め)	mikan	mi[kan	mi]kan
茎(くき)	kφu[k̥i~ku[k̥i~ [kφu]k̥i~ [ku]k̥i	ku]k̥i	[ku]ki	ku]ki~ku]ki
あおさ	NR	NR	a[o]sa~a[osa	no]ri
もずく	mo[zik(φ)u	modziku	mo[dzuku	mo]zuku
藻(も)	[mo (mo[ga 藻が)	mo	[mo]	mo
糸瓜(へちま)	hetsi[ma]	hetsima~φetsima	hetei[ma	hetsi]ma
棘(とげ)	to[ge]	toge	to[ge]	to[uʔe
烏賊(いか)	i[ka	ika	i[ka	i]ka
蛸(たこ)	[ta]ko~ta[ko]	tako	[ta]ko	ta]ko
海老(えび)	e[bi] (ebi[ga 海老が)	ibi	e[bi	e]bi
雲丹(うに)	[o]ni	uni	[u]ni	u]ni
雲丹の身	[o]ni	uninomi	mi[u]ni
貝(かい)	[ka]ɛ	kaɛ	[ka]i	ka]i
蝸(こな, まきがい)	ni[na]	nina	NR	ni[:na~ni[:na(川に いる巻き貝。蛸の幼 虫が食べる) ka]i(海にいる巻き 貝は全て)
亀(かめ)	ka[me]~[ka]me	kame	[ka]me	ka]me

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
蟹(かに)	ka[ni (kani[ga (蟹か)])	gani	ka[ni~kani[kani
魚(さかな)	sa[kana	sakana	sa[kana	sa[kana
鱗(うろこ)	o[roko	oroko	u[ro]ko	u[ro]ko
鰻(うなぎ)	o[nagʷi	onagʷi	u[nagi	u nauʷi
鯨(くじら)	k(φ)uɔdzi[ra]	kuɔdziɾa	kɯ[ɔdziɾa	ku]ziɾa
鱧(かつお)	katsi[o	katsio	ka[tsuo~katsui[o	ka[tsuo
飛魚(とびうお)	a[go	NR (ago は別の魚か?)	to[biuo	to[biuo
鱻(ふか)	φɯ[ka	φɯka~φɯka	φɯ[ka	(言わない)
鮫(さめ)	sa[me / [wa]ni	wani	[sa]me	sa[mɛ
海豚(いるか)	iru[ka	iruuka	iru[ka	i[ruuka
海鼠(なまこ)	na[ma]ko	namako	na[mako~ na[ma]ko	na[ma]ko
ひとで	çi[tode / φɯ[tode	çitode	çi[tode	çitode
やどかり	ja[doka:	jadoka:	ja[doka]ri	ja[do]kari
牛(うし)	o[si (osi[ga 牛が)	osi	u[ei~uei[u[ei~u[ei
馬(うま)	o[ma]	uma	u[ma]	u[ma]]
馬のたてがみ	[ja]gʷi	jagʷi	[ja]gi	ja]ɯi~ ja]yi
山羊(やぎ)	bu[ta]	buuta	bu[ta	bu[ta]]
豚(ぶた)	tsi[no]	tsino	tsu[no]	tsu[no
角(つの)	ta[tegami	NR	ta[tegami	ta[teuami~ ta[teuami]
犬(いぬ)	i[nɔ]~i[nɔ ([i]nɔga 犬が)	ino	[i]nu	i[ni
猫(ねこ)	ne[ko]	neko	[ne]ko	ne]ko
兎(うさぎ)	o[sagʷi	usagʷi	u[sag]i~u[sagi	u[sauʷi
鼠(ねずみ)	[ne]ziN	neɔziN	ne[ɔzumi	ne]zumi
尾(お)	si:[bo	si:bo	[o] / eip[po]	o]ppo
動物(どうぶつ)	[do:burtsi	do:burtsi	NR	do:burtsu
虫(むし)	mosi	mosi	mu[ei	mu[ei
蟻(あり)	ari	a:go	a]ri / a[riŋgo	[a]ri
蚊(か)	ka	ka	ka / kabuumbum	ka
蜘蛛(くも)	kumo	kumo	ku]mo	ku[mo]
蜘蛛の巣 (くものす)	si:	si	ku]mono [ei	ku[monosu]
蝶々(ちょうちよ)	teo:teo	teonteo	teo]:teo	teo:teo
蝸牛(かたつむり)	dendenmosi~ dendenmuʷi	katatsimuri	dende]n muɛi / majmaj	katatsumuɾi / dendemmuɛi
蛙(かえる)	gja: / kaiɾu~kaeru~ kæ:ru	kaeru	ka[wazu / kja:ko	[kaeru
蜂(はち)	hatsi	hatsi	ha[tei	ha[tei
蠅(はえ)	haɛ	haebombo	ha[ebombo / bu[to:(ブヨ)	[har
蛆(うじ)	ozi	ozi	u]zi	[u]ɔzi

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
蚤(のみ)	nomi	nomi	no]mi	[no]mi
蚯蚓(みみず)	mɛmɛzi	mimindzo~mimizo	me[mezi	mimidzu
虱(しらみ)	sirame	siramɪ	ei[rami	ɛramɪ
百足(むかで)	mukade	mukade	mu[kade	mu[kade
蚕(かいこ)	keikosAN~ke:kosAN	kaekosAN~ kæ:kosAN	ka]ikosAN	[ka]iko
蠶螂(かまきり)	kamakɪ:	kamakɪ:	ka]makiri~ ka[makiri	kamakiri
蜻蛉(とんぼ)	tombo	tombo	to]mbo	[to]mbo
ばった	batta	NR	ba[tta	bat[ta
蟬(せみ)	semi	semɪ	se]mi	ɛi[mɪ]
鳥(とり)	tori	tori	to[ri	to[ri
鶏(にわとり)	niwato:	niwato:	ni[watori / ko[kekokko (幼児 語)	ni[watori
鶏冠(とさか)	NR	tosaka	to[saka	tosaka
雀(すずめ)	sizime	sizime	su[zuime / teu]nteuN (幼児語)	suzuu[me
鳩(はと)	hato	hato	ha]to / ha]topoppo (幼児語)	[ha]to
烏(からす)	karasi	karasi	ka]rasu / ka]:ka	karasu
鶉(うずら)	pjoppjodo:	uzira	u[zuura	uuzuura
鷹(たか)	taka	taka	tʰa[ka	ta[ka
卵(たまご)	tamago	tamago	ta[maɯo	ta[mago
巢(す)	si	si	ɛi~ɛi	[su]
羽(はね)	hanɛ	hanɪ	ha[ne	ha[ne]]~ha[ni]]
空(そら)	sora	sora	ten / so]ra	[so]ra
日(ひ)	ɸu	çi	hi	çi
太陽(たいよう)	oɸuisAN / taejo:sAN	tentosAN	ta]ijo: / ta]ijo:sAN / te]ntosAN	[ta]ijo:
光(ひかり)	ɸuka[~ɸukari	çikari	çi[ka]ri	çi[kari
蔭(かげ)	kage	kageppo	ka]uɛ / ka]uɛmbo	[ka]gɪ
まぶしい	mabusi	mabusi	mabai]:	ma[buei]:
火(ひ)	ɸu	çi	hi	[çi]
水(みず)	mizi	mɪzi	mi]zi	mi[dzu
山(やま)	jama	jama	ja[ma	ja[ma]
川(かわ)	kawa	kawa	ka[wa / ouɯawa (小 川) / ide (小川より 小さい川) / ideɯawa (小川より 小さい川)	ka[wa
橋(はし)	hasi	hasi	ha[ɛi	haɛɪ
丘(おか)	oka	oka	o[ka	o[ka
陸地(りくち)	ri]kutsi	riku	NR	ri[kuteɪ / riku

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
土・地面 (つち・じめん)	tsitsi / zimin	doro	do[ro (土) / dzimen / ri[kutei / tsu[tsi	do[ro]
星(ほし)	hosi	hosi	ho[ei~ho[ei	hoɛi
月(つき)	tsikʰi	otsikisan	tsu[ki / otsu[kisan / nonnosan(幼児語)	tsu[kʰi]
雲(くも)	kumo	kumo	ki[mo	ku[mo]
霧(きり)	kʰiri	kiri	ki[ri~ ki[ri	kiri
露(つゆ)	tsiju	tsiju	tsu[ju	tsu[ju]~[tsu]ju
雨(あめ)	ame~ame~ami	ame	a[me	[a]mi
風(かぜ)	kaze~kaze	kaze	ka[ze~ka[dze	ka[dze
竜巻(たつまき)	tatsimakʰi	tatsimaki	ta[tsumaki	tatsu[ma]ki (稀)
稲光(いなびかり)	inabika:	inabjka:	i[nabi]kari~ ina[bikari	i[na]bikari
地震(じしん)	zisin	zisin	dzein	dzi[ei]n
虹(にじ)	nizi~nizi	nizi~nizi	ni]zi	[ni]dzi
明かり	aka:	aka:	a[kari	akari
雷(かみなり)	kanna:	kannasan	kan[na: / kanna]:san	ka[minari
潮(しお)	so~sso	so	eo	sio
煙(けむり)	kemo:	kemo:	ke[muuri~ke]buuri	ke[muuri
浅瀬(あさせ)	asase	asase	a[se:	a[sase
遠浅(とおあさ)	to:asa	NR	NR	[to:asa
洞窟(どうくつ)	do:kutsi	do:kutsi	a[na	[do:kutsu
海(うみ)	omi	umi~umi	u]mi	[u]mi
水溜り(みずたまり)	mizitama:	mizitama:	mizuu[tamari	mizuu[tamari
港(みなと)	menato	minato	minato(あまり使わ ない)	minato
波(なみ)	namj	nai	na[mi	na[mi]
泡(あわ)	ababa~awawa	awawa	a[wa	[a]wa
島(しま)	sima	eima	ei]ma	[ei]ma
浜(はま)	hama	hamango	ha[ma	ha[ma]
砂(すな)	sina	sina	ei]na	suna
石(いし)	isi~isi	isi~esi	i[ei~iei	[i]ei
溝(みぞ)	mizo	męzokko	mi]zō	mi[dzo
田(た)	tambo	tambo	ta / tambo	[ta]
畦道(あぜみち)	adi	aze	a[dze~a]ze	[a]dze
畑(はたけ)	hatake	hatake	ha[take	hatake
野(の)	harade	NR	no / no]ppara	[no]
草原(くさはら)	kusappara	kusappara	no / no]ppara	ja[bu
道(みち)	mјtsi~metsi	mitsi	do]:ro / mi]tei	mitɛi
崖(がけ)	gake	gake	ga[ke / ha[uera (山 の禿げた場所)	[ga]ki

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
坂(さか)	saka	saka	sa[ka	sa[ka]
頂上(ちょうじょう)	teppen	teŋko	teŋkotsu	tɪp[ɾɪN
東(ひがし)	ɸuɠasi	çigaei ~ çigasi	hiuɠaei	çigaei
東風(ひがしかぜ)	otsikaze	NR	NR	NR
北(きた)	k ^s ita	kita	ki[ta	kɪta
北風(きたかぜ)	k ^s itakaze	kitakaze	NR	NR
西(にし)	ɲisi	ɲisi	niei	ɲi[ei]
西風(にしかぜ)	ɲisikaze	NR	NR	NR
南(みなみ)	minami	minami	mi[nami	minami
南風(みなみかぜ)	haikaze ~ haekaze	mɪnaŋkaze	mi[nanɠkaze	NR
嶺(みね)	mine	NR	mu[ne	o[ɲi]
村(むら)	NR	mura	mu[ra	mu[ra]
右(みぎ)	migi ~ miɠi	migi	miuɠi	mi[ɠi
左(ひだり)	ɸudari	çidari	ɸi[dari	çidari
前(まえ)	mae	mae	ma]e	[ma]ɪ
後ろ(うしろ)	osiro	ueiro	o]eiro	[u]eiro
跡(あと)	ato	ato	a[to	[a]to
横(よこ)	joko	jokonteo / jokoppara	jo[ko	jo[ko
上(うえ)	uɪ ~ ui	ue ~ ueɸ	u[e	u[e
下(した)	sita	eita	ei[ta	ei[ta]
中(なか)	naka	naka	na]ka	[na]ka
底(そこ)	soko	soko	so[ko	so[ko
内(うち)	utsi	utei	u[tsi ~ u[tei	uteɪ
外(そと)	soto	soto	so]to	[so]to
奥(おく)	oku	oku	o]ku	[o]kɸ ~ [o]ku
角(かど)	kado	kadotteo	ka[do	[kɪ]do / [su]mi
傍(そば)	soba	soba	so]ba	[so]ba
隣(となり)	tonari ~ tona:	tona:	tonari ~ to[na:	to[nari
今日(きょう)	kjo:	kjo:	kjo]:	[kjo]:
昨日(きのう)	k ^s ɲno:	keino:	kɪn[no:	[k ^s ɲno:
一昨日(おととい)	ototoi	ototsii	o[totei: ~ o[totsu]i	o[totoi
明日(あした)	asita	acita	acɪta	acɪ[ta]
明後日(あさって)	asatte	asatte	asa]tte ~ asa]tte	a[sat]te
明明後日(しあさって)	eijasatte	ea:eatte	ea:sa]tte	eijasatte ~ eiasatte
今年(ことし)	kotosi	kotosi	kotoeɪ	kotoeɪ
去年(きょねん)	kjonen	kjonɛn	kjo[nen	kjo[nɛn]
一昨年(おとし)	otodosi	otodosi	otodo]ei ~ o[todoeɪ	o[todoeɪ
来年(らいねん)	rainen ~ raenen	ræ:nen	rainen	[rainen

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
再来年(さらいねん)	sarainen~saraenen	saræ:nen	sarainen	sa[rainen
今(いま)	imma	ima	e]ma	[i]ma / i[maŋoro
昔(むかし)	mukasi	mukasi	mukaei	mu[kaei
春(はる)	hari	haru	ha]ru	[ha]ru~[ha]]ru
夏(なつ)	natsi	natsi	na[tei	natsu
秋(あき)	ak ^s i	akei	a]ki	[a]ki~[a]]ki
冬(ふゆ)	φuju	φuju	φu[ju	φu[ju]]
朝(あさ)	asa	asama	a[sama	[a]sa
昼(ひる)	çiru	çiru	hi[ru	çi[ru
夕方(ゆうがた)	ji:gata / baŋkata	baŋkata	jom[begata	baŋ[ge]]
夜(よる)	ban	ban	jo]ru	[jo]ru
夜中(よなか)	jonaka	jonaka	jo[naka	jo[na]ka
暁(あかつき)	asakatsik ^s i	akegata	a[keuata	a[kegata
暇(ひま)	φuma	çima	çi[ma	çi[ma
時(とき)	toki~tok ^s i	toki	to[ki~to[k ^h i / dzika]N	to[ki]]
年(とし)	tosi	toei	to[ei	to[ei]]
暦(こよみ)	kojomi	kojomi	ko[jomi	ko[jomi]
着物(きもの)	k ^s imon~k ^s imon	keimon	kimo]N	[k ^s i:mon
襟(えり)	iri~iri	eri~eri	e]ri	i[ri
袖(そで)	sode	sode	so]de	so[de
裾(すそ)	siso	siso	ei]so	su[so
帯(おび)	obi	obi	o]bi	[o]]bi
紐(ひも)	φumo	çimo	φu[mo	çi[mo
足袋(たび)	tabi	tabi	ta]bi	[ta]bi~[ta]]bi
袴(はかま)	hakama	hakama	ha[kama	ha[kama]
下駄(げた)	geta~gita	geta	ge]ta	ge[ta
草履(ぞうり)	zo:ri	dzo:ri~dzo:ri	dzo:ri / dzo]Nzo (幼 児語)	[dzo:ri
緒(お)	o	hanao	o	[o]
布(ぬの)	nino	tsigi	tsiu]	tsu[g ^z i
表(おもて)	omote	omote	o[mote	o[mo]te
裏(うら)	ora	ura	u[ra	u[ra]
綾,模様(あや)	gara	gara	mojo: (高級な着物の柄) / mojo: (普通の柄)	a[ja] (「言葉」の意味)
手ぬぐい	tenogoi	tenogoi	te[nouo~te[neuo	te[nogwi
蓑(みの)	nenon~pino	ŋino	mi[no	[mi]no
湯(ゆ)	[ji	[i	ju	ji
茶(ちゃ)	[tea	[tea	tea (tea[ga 茶が)	tea
飯(めし)	[me]ei	[mi]si	[me]si	masi

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
粥(かゆ)	[kai	o[kae	o[ka]ju	kai
餅(もち)	mo[tei	mo[tsi	mo[tsi	mo:si
雑炊(ぞうすい)	[dzo:sui	[dzo:si	o[kaesan	dzo:si
味噌(みそ)	me[so	mi[so	mi[so	mɛso
汁(しる)	[ei]:	[si]:	[si]ru	siri ~ si:
塩(しお)	[sso	[so	eo' ~ so'	ɛeo
塩辛い(しおからい)	[ssokara]i	[sokara]e	[so:kara]i	ɛeokarai
砂糖(さとう)	sa[to	sa[to	sa[to]:	sato:
甘い(あまい)	[ma]i	a[mae	[ma]i	amai
砂糖黍(さとうきび)	sa[tokɕibi	NR	NR	sato:kibi
粕(かす)	ka[ei ~ ka[si	ka[si	[ka]sɨ	kasɨ
酒(さけ)	sa[kɕ	sa[ke	sa[ke	sake
黴(かび)	ka[bi (kabi[ga 黴か) / [ko:zi	kabi / ko:dzi	ka[bi / [ko:dzi	ko:zi / ko[meko]:zi (米麴)
麴(こうじ)	[ko:dzi	[ko:zi	[ko:zi	ko:zi
粒(つぶ)	tei[bi ~ tsɨ[bi	[tsɨ]bi	[tsu]bu	tsibu
糠(ぬか)	ni[ka	ne[ka	nu[ka	nuka
粉(こ・こな)	[ko	[ko	ko[na	ko
大蒜(にんにく)	[ninni]kuu	[ninniku	[niɲɲiku	niɲɲiku ~ ninniku
芽(め)	[mɕ	[me	me	me
肉(にく)	ni[kuu	ni[ku	ni[ku	niku
果物(くだもの)	kɨ[da]mon	ku[da]mon	ku[da]mon	kudamono
油(あぶら)	abu[ra	abu[ra	abu[ra	abura
天ぷら(てんぷら)	[tempura	[tempura	[tempura	tempura
灰(はい)	[haɕ	[hae	[hai	hai
匂い(におい)	ni[o]ɕ	ni[o]e	ni[o]i	ni oi
味(あじ)	a[dzi	a[zi	a[zi	azi
料理(りょうり)	[rjo]:ri	[rjo]:ri	[rjo]:ri	rjo:ri
ご飯(ごはん)	[me]ei / [go]han	[me]si	[me]si	gohan
食事(しょくじ)	eo[kuɕzi	eo[kuzi	ɛoku[zi	ɛokuzi
朝食(あさめし)	a[sahan	a[sahan	a[sahan	asamesi / teanoko < 古>
昼食(ひるめし)	[tsi:ha]N ~ [tei:ha]N	[tsi:han	[teu:han ~ [tsi:han	tsi:han ~ tei:han
夕食(ゆうめし)	[jɔ:han ~ [jo:han	[i:han	[ju:han	ju:han
膳(ぜん)	[dzen	[dzen	[dɕe]N	zen
食べる	[ku]:	[ku]:	[ku]:	taberu / ku:
食べ物(たべもの)	[ku]:mon	[kuimo]N	[ku]:mon	tabemono / kuimon
家(いえ)	i[e	i[e	i[e	ie
母屋(おもや)	o[mo]ja	o[mo]ja	o[mo]ja	omoja
台所(だいどころ)	[daɕdoko	[daedoko	dae[doko	daidoko / nagaeɕi

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
天井(てんじょう)	[tendzo	ten[dzo	ten[dzo:	tɛnzɔ:
床(ゆか)	[dza	ju[ka	ju[ka	juka ~ jika
棚(たな)	ta[na	ta[na	ta[na	tana
竈(かまど)	kɯ[do	kɯ[do	ka[mado	kudo
囲炉裏(いろり)	i[rori	i[rori	i[rori	irori
戸(と)	[to	[to	to	to
板(いた)	ɛ[ta	i[ta	i[ta	ita
節(ふし)	ɸɯ[ɛi ~ ɸɯ[si	ɸɯ[si	ɸɯ[si ~ ɸɯ[ɛi	ɸuei
穴(あな)	a[na	a[na	a[na	ana
柱(はしら)	has[sa	hasi[ra	haɛi[ra ~ hasi[ra	haɛira ~ hasira
釘(くぎ)	ku[gi	ku[gi	ku[gi	kugi
瓦(かわら)	[ka:ra	[ka]:ra	[ka:ra	ka:ra
便所(べんじょ)	[ɛombeɛi	[si]ntsi	[bendzo	ɸuzo:
垣(かき)	ka[bɛ / [hɛ]:	ka[kɕi	ka[ki ~ ka[kɕi	kaki
庭(にわ)	ni[wa	ni[wa	ni[wa	niwa
井戸(いど)	ɛ[do	e[nonto	i[do	ido
墓(はか)	ha[ka	ha[ka	ha[ka	haka
煤(すす)	ɛi[ɛi ~ si[si	si[si	si[si	sisi
埃(ほこり)	ho[ko:	ho[ko:	ho[kori	hokori
門(もん)	[mo]N	[mo]N	[mo]N	mon
縄(なわ)	na[wa	na[wa	na[wa	nawa
綱(つな)	tɛi[na	tɕi[na	tɕi[na	tɕina
鎖(くさり)	kɯ[sa:	kɯ[sa:	kɯ[sari	kusari
袋(ふくろ)	ɸɯku[ro ~ ɸɯkɯ[ro	ɸɯkɯ[ro	ɸɯkɯ[ro	ɸukurɔ
荷(に)	[ni / ni[mo]tɕi	[ni	ni	ni
皿(さら)	sa[ra	sa[ra	sa[ra	sara
椀(わん)	[wan	[wan	siru[wan	wan
茶碗(ちゃわん)	tea[wan	tea[wan	tea[wan	teawan
壺(つぼ)	tɛi[bo	tɕi[bo	tsu[bo	tsubo
鉢(はち)	ha[tɛi	ha[tɕi	ha[tɕi	hatei
瓶(かめ)	ka[mɛ	ka[me	ka[me	hando
水瓶(みずがめ)	[ha]ndo / midzi[game	mizi[game	mizu[ga]me	NR
桶(おけ)	o[kɛ	ta[ga	o[ke	oke
水桶(みずおけ)	midzi[oke	mizi[taga	mizu[o]ke	NR
盥(たらい)	ta[ra]ɛ	ta[rae	ta[rai	tarai
柄杓(ひしゃく)	ɸɯ[ɛaku	ɛ[ɛaku	ɛ[ɛaku	ɛɛaku
柄(え)	[ɛ	[e	je	e
釜(かま)	ha[gama	ka[ma	ka[ma	kama
煤(すす・鍋などに付く汚れ)	ɛi[ɛi ~ si[si	NR	NR	sisi

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
しゃもじ	ea[modzi / ea[kuei (汁用)	ea[kusi	ea[ku]si	eamozi
急須(きゅうす)	kçibi[εo	kçibi[εo	kçibi[εo	kibieo
箸(はし)	[ha]ei ~ [ha]si	[ha]sɿ	[ha]ei	haei
包丁(ほうちょう)	[ho:teo	[ho:teo	[ho:teo	ho:teo:
刀(かたな)	ka[tana	ka[tana	ka[tana	katana
小刀(こがたな)	ko[gatana / [na]iɸu	ko[gatana	ko[gatana	kogatana
まな板(いた)	ma[naεta	ma[naeta	ma[naita ~ ma[naeta	manaita
臼(うす)	o[ei	o[sɿ	[u]su	usi
杵(きね)	kçi[ne	kçi[ne	kçi[ne	kine
斧(おの)	ma[saka:	o[no	o[no	ono
鋸(のこ)	no[ko	no[ko	no[kogɿ]ri	noko
鑿(のみ)	no[mi	no[mi	[no]mi	nomi
錐(きり)	kçi[ri	kçi[ri	[kçi]ri	kiri
箱(はこ)	ha[ko	ha[ko	ha[ko	hako
筆(ふで)	ɸu[de	ɸu[de	ɸu[de	ɸude
紙(かみ)	ka[mi	ka[mi	ka[mi ~ ka[mi	kami
鋏(はさみ)	ha[sami	ha[sami	ha[sami	hasami
印(しるし)	ei[riei	si[rusi	si[rusi	eiruei
漆(うるし)	u[ruei	o[rosi	NR	uruei
鏡(かがみ)	ka[gami	ka[gami	ka[gami	kagami
櫛(くし)	kɸ[ei	kɸ[si	kçɸ[si:	kueɿ
布団(ふとん)	ɸu[ton	ɸu[ton	ɸu[ton	ɸuton
枕(まくら)	maku[ra	maku[ra	maku[ra	makura
箒(ほうき)	[ho:kçi	[ho:kçi	[ho:kçi	ho:ki
竿(さお)	sa[o	sa[o	sa[o	sao
杖(つえ)	tei[ç	[tsie	tsu[e ~ tsɿ[e	tsie ~ teie
笠・傘(かさ)	ka[sa	ka[sa	ka[sa	kasa
針(はり)	[ha]ri	[ha]:	[ha]ri ~ [ha]ri	hari
糸(いと)	i[to	i[to	i[to	ito
煙管(きせる)	kɿ[se:	kɿ[se: ~ kɿ[εe:	kçɿ[εeru	kiseru
金(かね)(金属・銭)	dze[ni (お金) / ka[nε	ka[ne (鐘) / dze[ni (銭)	ka[ne ~ [dze]ni	kane
三味線(しゃみせん)	eame[çç]N	ea[mi / eami[sen ~ eami[çç]N	eami[çç]N	eamiçç
船(ふね)	ɸu[ne	[ɸu]ne	ɸu[ne	ɸune
帆(ほ)	[ho	[ho	ho	ho
櫂(舟のカイ)	[ka]ç	[ka]e	[ka]i	kai
網(あみ)	a[mi	a[mi	a[mi	ami
槍(やり)	ja[ri ~ ja[ri	[ja	ja[ri	jarɿ
漁り(いさり)	ç[sa:	i[sari	NR	isari

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
松明(たいまつ)	[taɕmatsi	[taematsi	NR	taimatsi
鍬(くわ)	[kʷa	[kʷa	[kʷa:	kuwa
鋤(牛にひかすすき)	sɪ[kçɪ	sɪ[kçɪ	sɪ[kçɪ	siki
鎌(かま)	ka[ma	ka[ma	ka[ma	kama
莫産(ござ)	go[dza	go[za	go[za	muciro
篋(へら)	he[ra	he[ra	çe[ra	NR
箆(ざる)	dza[ru	[dza:	dza[ru	dzaru
籠(かご)	ka[go / te[kago / [so:kçɪ	ka[go	ka[go	kago
もっこ	ka:[ko	mok[ko	mok[ko	mokko
篩(ふるい)	ɸu[rui	[to:si	ɸu[rui	ɸurui
俵(たわら)	[ta:ra	[ta:ra	[ta:ra	ta:ra
筵(むしろ)	mos[so	mos[so	musi[ro	muciro
薪(たきぎ)	ta[kçigi	taku[mon	ta[kigi	takigi
簪(かんざし)	[kandzasɪ ~ [kandzaeɪ	kan[dza]sɪ	kan[dza]sɪ	kanzasɪ
人(ひと)	ɸɪ[to	çito	çito	ɸɪ[to / a[no si]i / ko[no sa]N
親(おや)	o[ja	o[ja	oja	o[ja]
子(こ)	ko	ko	ko	ko / wa[kemo]N
子供(こども)	ko[domo	ko[domo	kodomotatsi	ko[domo
長男(ちやうなん)	[teo:nan	teo:nan	teo:nan	[teo:na]N / a[toto:
二男(になん)	dzi[na]N / dzi[na]N	džinan	zɪnan ~ zinan	dzi[na]N
三男(さんなん)	sa]nnan	sambammeno kodomosi	sannan	[sa]nnan
四男(よんなん)	jo]nnan	jomabammeno kodomosi	jonnan	[jo]nnan
五男(ごなん)	go[na]N	gobammeno kodomosi	gonan	[go]nan
六男(ろくなん)	ro[kʰuna]N	rokunansan	rokunan	roku[na]N
七男(しちなん)	çɪ[teina]N / çitei	nananansan	nananan	NR
八男(はちなん)	hatsi[na]N	NR	hatsinan	hatsi[na]N
九男(くなん)	kju]:nan	NR	kju]:nan	[kju]:na]N
十男(じゅうなん)	dzu]:nan	NR	dzu]:nan	[dzi]:nan
長女(ちやうじよ)	[teo]:dzo	[teo]:džosan	teo:zo	[teo]:dzo
二女(にじよ)	dzi]dzo	džidžosan	zizo ~ zizo	ni[bamme
三女(さんじよ)	sa]ndzo	sandžosan	sanzo	[sambamme
四女(よんじよ)	jo]ndzo	NR	jonzo	NR
五女(ごじよ)	go]dzo	NR	gozo	NR
六女(ろくじよ)	roku[dzo	NR	rokuzo	NR
末っ子(すえっこ)	suekko ~ euekko	o[to]go / suekko	otombo	o[to]go
親子(おやこ)	o[ja]ko	o[ja]ko	ojako	o[ja]ko / [o]jako (親 類のことも)
孫(まご)	ma[go	ma[go	mago	ma[go]

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
お父さん	oto]ttsan / oto:san	o[to]san	ojazi	o[to]ttsan (自分の父親のみ) / [o]ʎazi / [to]tto / o[ʎattsan
お母さん	o[ka]ka	o[ka]san	oka:san	o[ka]ka / o[ka]:san / [tea]ttea / [ka]kka
お兄さん	oni:san / a]nsan	[ni]:san	aji / apiki	[a]ni / [a]nteān / [a]n.jan
お姉さん	a[nesan	[ne:sa]n	ane	[ne:san / a[nesan / a[ne]
弟(おとうと)	o[to:to / o[toto	o[to]:to	oto:to	o[to:to] (ga o:[de)
妹(いもうと)	i[mo:to~i[moto~ i[moto	i[mo]:to	NR	i[mo:to]
兄弟(きょうだい)	kjo]:dai	kjo]:dai	kjo:dae	o[to]doi
お祖父さん	o[ɕi]ɕi	oɕi:[san / ɕi:[san	zi:san	o[ɕi]ɕi / o[ɕi]:san / [ɕi:kama (卑語)
お祖母さん	o[ba]ba	oba:[san	ba:san	o[ba]ba
夫(おっと)	ot[to	ɕudzi:n / ot[to	NR	ot[to
妻(つま)	tsi[ma	ka[na]i	kanae	[ka]nai
夫婦(ふうふ)	ɕu:]ɕu	[ɕu:]ɕu	mjo:to	[mjo]:to
叔父(おじ)	o[ɕi	oɕi / oɕi[san	ozi:	o[ttsa]n / o[ɕi
叔母(おば)	obasan	oba[san	oba:	o[basan / o[ba
甥(おい)	[oi	oik[ko	oibosi	[oibosi
姪(めい)	me]: / me]i	meik[ko	meikko	[meigo
従兄弟(いとこ)	i[to]ko	i[toko	itoko	i[to]ko
婿(むこ)	mo[ko / mo[ko]san	mu[ko]san	mukosan	mu[ko]san
家族(かぞく)	ka[zo]ku / ka[zoku	ka[ɕoku	ikka	[ka]ɕoku
親戚(しんせき)	[einceki	[einseki	sinseki / sinrui	[sinseki ^{hi} / (ikken) mo[ttto: / motsi[re
男(おとこ)	otoko	o[toko]no[ko	otoko	o[toko]
女(おんな)	[onna / noban]ko (小中生)	[onna]no[ko	no:ba:	o[nago] / no[basi (目上?複数?) / [no:ba]n]ko / [no]ba
目上(めうえ)	NR	NR	tosiuē	o[ttsan / o[nagosi (目上の女)
目下(めした)	NR	NR	tosisita	NR
青年(せいねん)	ee:ne]n / wa[k]si	wa[ka]e si]:	wakaimon / se:nen	[ee:nen
大工(だいく)	da]riku / da]rikusan	daiku[san	daiku	[da]iku
友だち(ともだち)	to[modatsi	to[modatsi	tomodatsi	to[modatei
娘(むすめ)	mu[simesa]n~ mu[simesa]n	mu[simesan	no:ban]ko	musu[me
私(わたし)	wa[tasi / wa[taei / o[ra (男性の言い方)	wa[tasi / o[re (男性の言い方)	ora	a[da]n (女性語) / o[ra
私たち	o[ra]nteā	wa[taeitae] / wa[tasitae]	oratatsi / adantsi	o[rajatsi (o[rajateā 私たちは) / a[da]nteā (私たちは) / wa:[wa:

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
あなた	a]nta / omaesan	a]nta	anta	o[maesan
あなたたち	anta]jaca / omaeja]ea / omaesangata	a]ntajatsi	antatatsi	o[maesan jatsi (o[maesan jatea あなたたちは)
お前(おまえ)	o[mae	o[mae~o[m3:	omae	o[mae / [wa]a
お前たち	omae]ja]tei	o[maetatei	omaetatsi	o[mae ja]tea (お前たちは) / [wa]a]ja]tsi ([wa]a ja]tea: お前たちは)
皆(みな)	minna / minna	min[na	adantsi	da[re mo / [minna
名(な)	na[mae	namae~namai	namae	na[mae
おじさんたち	odzisantatsi / odzisanjaca / ot[tsa]N (身内以外のおじさん)	o[dzisan]ra / odzi[sanja]tsi	ozisantatsi	o[ttsan ja]tsi
老人(ろうじん)	toeeri / toe[eo:sa]N	toei]jo]risan	ro:zin / toeijorisan	toei]jo]:
恋人(こいびと)	i]si	ano sino sikma si	NR	[koibito
畑作業 (はたけさぎょう)	hatakesigoto	hatakeigoto / so[toei]goto	eigoto	NR
旅(たび)	ta[bi	ta[bi	rjoko:	ta[bi
お祝い(おいわい)	i[wa]i~i[wa]i	i[waigoto	oiwae	e[waε goto / e[wa]ε
結婚(けっこん)	kek[kon	kek[kon	kekkon	[si]:gen
結納(ゆいのう)	i:[no]	[i:no:	juino:	[juino:
喧嘩(けんか)	ken[ka / i:ja]ko	ken[ka	kenkwa	[kwenkwa
相互扶助(農作業などの)	te[go	te[gawari~te[gawa:	tegawari	te[gawa: / te[gawari
相撲(すもう)	si[mo]: / si[moto]ri	si[mo:	simo:	si[mo:
一つ(ひとつ)	φu[to]tsi	φu[to]tsi	φito:tsi	φu[to]tsi
二つ(ふたつ)	φu[ta]tsi~φu[tatsi	φu[ta]:tsi	φuta:tsi	φu[ta]:tsi
三つ(みっつ)	mit[tsi	mi:t[tsi	mittsi	mε[tsi
四つ(よっつ)	jot[tsi	jo:t[tsi	jottsi	[jottsi
五つ(いつつ)	i[tsi]tsi	i[tsi]tsi	itsitsi	e[tsi]tsi
六つ(むっつ)	mut[tsi	mot[tsi	muttsi	[mottsi
七つ(ななつ)	na[na]tsi	na[na]tsi	nanatsi	na[na]tei / na[natei
八つ(やっつ)	jat[tsi	jat[tsi	jattsi	jat[tsi
九つ(ここのつ)	ko[kono]tsi	kokonotts	kokonotsi	ko[konotsi
十(とお)	to]:~[to:	to]:	to:	[to:
一人(ひとり)	φu[to]: / φu[to]ri	φu[to]ri	φitori	φu[to]:
二人(ふたり)	φu[ta:ri	φu[ta:ri	φutari	φu[ta:
三人(さんにん)	san[ni]N (*mitari とはいわない)	san[ni]N	sannin	[sannin
四人(よにん)	jo[ni]N / jot[tari	jo[ni]N	jopin	jo[nin / jot[ta: / jot[ta]ri
五人(ごにん)	go[ni]N	go[nin	gonin	go[nin
六人(ろくにん)	ro[ku]nin	ro[ku]nin	rokunin	ro[ki]nin

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
七人(しちにん)	ei[tei]niN	si[tsi]niN	sitɕiɲiN	si[tei]niN
八人(はちにん)	ha[tsi]niN	ha[tsi]ɲiN	hateiɲiN	ha[tsi]niN
九人(くにん)	ku[ni]N	ku[ɲi]N	kju:ɲiN	ku[niN]
十人(じゅうにん)	dzo:niN	dzu:ɲiN	dzu:ɲiN	[dʒi]:niN
いくら	iku[ra / nam[bo (何歳?とたずねるときにも使える)	nam[bo	nambo	[nambo
いつ	i[tsi	i[tsi	itsi	e[tsi
だれ	da:[to / da:[ga / da:[ka]ne	da: (da:[ga 誰が)	da:	da: [da]:(誰だ?)
どこ	do[ko	doko	doko	do[ko
どれ	do[re / do:[ga / dot[tsi	do:	do:	do: ([da]: どれだ?)
なぜ	na[sɕite / na]ze	nasɕite: / nande:	nande	nasi[te] ka (なぜか?)
なに	na[ɲi / na]:	nan	naŋka	na[ɲi
いくつ	iku[tsi / nam[bo	nam[bo	nambo	[nambo
どう	do[ge	doge	doge:	do[ge si: da(どうするか)
これ	ko[re / [ko: / koge	ko:	ko:	ko: (kotja これは) / ka
それ	so[re / [so: / soge	so:	so:	so: / sa
あれ	a[re / [a: / a:[sa	a:	a:	a: (arja あれは)
ここ	ko[ko	ko[ko	ko:	ko[ko]
そこ	so[ko	so[ko	sɔko	so[ko
あそこ	a[sɕiko	asɕi[ko	asiko	asɕi[ko
物(もの)	mono	mon	mo[no	mo[no]
色(いろ)	iro	iro	i[ro	i[ro]
音(おと)	oto	oto	o[to	o[to
夢(ゆめ)	jimi	jume	juu]me	juu[mi]
技(わざ)	wa[dza / g'ino:	NR	ude	wa[za]
鬼(おに)	o[ɲi]~o[ɲi]	o[ɲi	oɲi	[o]ɲi
心(こころ)	ko[ko]ro	NR	kokoro	ko[ko: motsi / ko[koro
情け(なさけ)	na[sake	NR	nasake	na[sake
言葉(ことば)	ko[toba	[ɾ:ka]ta / [ko]toba	kotoba	ko[toba
歌(うた)	u[ta]	uu[ta	uta	ɔ[ta]
踊り(おどり)	o[dori / o[do:sa	o[do]ri	odori	o[do:
鼓(つづみ)	tsi[dzimi / eami[sen (三味線)	tsidzi[mi	tsizimi	tsi[dzimi
宝(たから)	ta[kara	ta[kara	takara	ta[ka: mon / ta[kara]
型(かた)	ka[ta(「肩」は kata)	NR	kata	ka[ta]
形(かたち)	ka[tatsi	ka[tatsi	katatsi	ka[tatsi

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
休息(きゅうそく)	ta[bako	ta[bako / φu[to]iki	tabako	ta[ba]ko / ta[bako jasi] _N
魂(たましい)	ta[ma]si:	ta[ma]si:	tamasi:	ta[ma]si:
刺青(いれずみ)	i[ri]dzumi	i[redzimi	irezimi	e[redzi _N
真似(まね)	ma[ne]	ma[nigo	manɛ:	ma[nego
嘘(うそ)	o[so (古) ~u[so	o[so	uso	o[so
小さい(ちいさい)	ko[ma]ɾ / tsi:sai	ko[ma]ɾ	tsi:sae / komae	ko[ma]ɛ
大きい(おおきい)	o:kʰi]na	[o:kina	o:ki: / φutoi	o[kkena / [ga]ɛna (ɛ[ka]tsiku [si]na 大きな態度をする な)
低い(ひくい)	φi[ku]i	φu[ku]ɾ	ɕiki: ~ ɕiki:	φu[ku]i
同じ(おなじ)	on[nadzi / o[nadzi / ie[ɛo	o[nadzi	onnazi	[onnadzi
短い(みじかい)	mi[tsika]ɾ / o:[o]o	mi[tsi]ka]ɾ	mizikai	mɛtsi[ke
丸い(まるい)	ma[rui	ma[rui	marui	ma[ruŋkena
暖かい(あたたかい)	nw[ku]i~no[ku]i	no[ku]i / nokɔ̄taracii ジメジ メした暑さ	attakai	no[k ^h ui
寒い(さむい)	sa[mu]i	sa[mu]i	sami:	sa[mi
冷たい(つめたい)	tsi[mitar~tsi[mitai	tsi[mitai	tsimeta:	tei[mete na]:
好きだ(すきだ)	si[kʰida	si[kʰi]da	sikida	ni[ku ni su]iteo: (肉が好きだ)
少し(+指小辞)	teom[bo]si	teom[bo]si	teombosi	teom[bo]si / teo[kko]si (指小辞 はないか)
痒い(かゆい)	ka[i]:	ka[i	kai: ~ kajui	ka[i]:
青い(おおい)	a[o]i	aoi	aoi	a[o]i
美しい(うつくしい)	kei]:na	kʰi[ri]:	kiɾɛ:da	k ^h i[re]:na
嬉しい(うれしい)	u[re]si:	uresi	ureei:	u[resi
たくさん	ɪp[pa]ɾ~ ip[pa]ɾ	ɪp[pa]ɾ	kodakusan	ep[po]do / [jo]ke
もっと	mot[to	mot[to	motsito	[mo:teombosi / mo[tto

出雲方言 基礎語彙集 (かな)

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
頭(あたま)	あ[たま]	あたま	あ[たま]	あ[たま]
髪の毛(かみのけ)	か[みの]け	かみのけ	かみ[の]け	かみ[の]け～かみ[の]け
旋毛(つむじ)	ぎー[ぎー]	ちむち	つ[むち]	ぎ[り]～ぎ[り]
雲脂(ふけ)	ふ[け]	ふけ	ふ[け]	ふ[け]
白髪(しらが)	しらが	しらが	しらが	[しらげ]～[しらげ]
目(め)	[め]	め	[め]	め
眉(まゆ)	[まえ] / [まえ]げ	まえげ	[ま]ゆ～[ま]いげ	ま[ゆ]げ
額(ひたい)	ふ[たえ]ぐち	ひたえぐち	ひ[たい]	おと[ん]げ
鼻(はな)	は[な]	はな	は[な]	はな
鼻血(はなぢ)	は[な]じ	はなぢ	は[な]ぢ	はなじ
耳(みみ)	み[み (みみが 耳が)]	みみ	み[み]	みみ
口(くち)	く[ち]～く[ち (くちが 口が)]	くち	く[ち]～く[ち]	くち～くち
唇(くちびる)	く[ち]びり～く[ち]びり	くちびー	く[ち]びる	くちびる
舌(した)	し[た]	した	し[た] / [べ]ろ	べ[ろ]
歯(は)	[は]	は(～が はしー ～が痛い)	[は]	は
歯茎(はぐき)	は[ぐ]き	はぐき	は[ぐ]き	は[ん]き～は[ぐ]き
口蓋(あご)	あ[ご]た	あごた	あ[ご]	あ[ご]
髭(ひげ)	ふい[げ]～ふ[げ]	ふいげ～ふげ	ひ[げ]	し[げ]
毛(け)	け (け[が 毛が])	け	[け]～け[け～け
面(かお)	か[お]	かお	か[お]	か[お]
首(くび)	く[び]～く[び (くびが 首が)] / く[び]んぢやく～く[び]んぢやく / く[び]たま～く[び]たま	くび / くびんぢやく	く[び]	く[び]～く[び]
肩(かた)	か[た]	かた	[か]た	か[た]
胸(むね)	む[ね (む[なんと 胸の中])]	むね (み[なんと 胸の中])	む[ね]	む[ね]
肋骨(あばらぼね)	あ[ば]ら～あ[ば]らぼね	あばらぼね	あ[ば]ー / あ[ば]ーぼね	ろ[っ]こーつ
乳(ちち)	ち[ち (ちちが 乳が)]	ちち / おっぱえ	[ち]ち	ち[ち]
腹(はら)	は[ら]	はら	は[ら]	は[ら]
背中(せなか)	せ[なか]	しえなか	せ[なか] / せ[しえ[なか]～せ[なか]
肝(きも)	き[も]	きも	き[も]	き[も]～き[も]
臍(へそ)	へ[そ]	へそ～ふえそ	へ[そ]	へ[そ]
腰(こし)	こ[し (こしが 腰が)]	こし	こ[し]	こ[し]
尻(しり)	しり / しー (しー[が 尻が])	しり～しー / しーご	し[り]	た[ん]べ
肛門(こうもん)	[こ]ーもん	こーもん	[こ]ーもん	[こ]ーもん
手(て)	[て]	て	[て]	て
腕(うで)	う[で]	うで	う[で](上腕)	う[で]

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
肘(ひじ)	ひ[じ]~ふい[じ] (ふい[じ]が 肘が)	へ _。 ぢっこ~ふえ _。 ぢっこ	ひ[ぢ]	ひじ~ひじ
力(ちから)	ち[から]	ちから	ち[から / ばりき]	ち[からこぶ]
拳(こぶし)	こ[ぶ]し	こぶし	こ[ぶ]し	げんこつ~げんこつ
筋(すじ)	し[じ] (しじ[が] (筋が))	しぢ	す[ぢ]~[す]ぢ	し[じ]
指(ゆび)	い[び] (いび[が] (指が))	い[び]	ゆ[び]	ゆ[び]
爪(つめ)	ち[め]	ちめ	つ[め]	つ[め]
足(あし)	あ[し] (あし[が] (足が))	あし	あ[し]	あ[し] (靴履くところ)
腿(もも)	も[も] / も[も]たぶら	もも / ももたぶら	も[も]~[も]も / も[も]たぶら	も[も]
股(また)	また	また	ま[た]	ま[た]
膝(ひざ)	ふ[ざ] / (?)ふい[ざ]ぼーじ	ふいざっこ / ふいざっこばーぢ	ひ[ざ]	ひざぼーず
踝(くるぶし)	(無回答)	くろぼし	く[ろ]ぼし~く[ろ]ぼし	く[る]ぶし~く[る]ぶし
脛(すね)	し[ね] / し[ね]ぼーじ	しめ / しねっこ	す[ね]	む[こ]ーずね
ふくらはぎ	こぶ[ら]	ふくろはぎ	こ[ぶ]ら	ふ[くら]はぎ
踵(かかと)	か[が]と	かがと	か[が]と	か[か]と
体(からだ)	か[ら]だ	からだ	か[ら]だ	か[ら]だ
背丈(せたけ)	[せ]ー	しえー	せ[た]け	しえー~せ
骨(ほね)	ほ[ね]	ほね	ほ[ね]	ほ[ね]
皮(かわ)	か[わ]	かわ	か[わ]	か[わ]
黒子(ほくろ)	ほくろ~ほく	ふくろ	ほく[ろ]	ほくろ
涙(なみだ)	なん[だ]	なんだ	なみ[だ]	な[み]だ
声(こえ)	こ[え]	こえ	こ[こ]い	こ[え]~こ[え]
息(いき)	い[き] (いき[が] (息が))	いき	い[き]	いき
咳(せき)	しえ[き] (しえき[が] (咳が))	しえき	せ[き]	しえ[き]
唾(つば)	ち[ば]き	ちばき	つ[ば]	つ[ば] / た[ん] (うが中舌に聞こえる)
欠伸(あくび)	あ[く]び	あくび	あ[く]び	あこび~あ[こ]び
涎(よだれ)	よ[だ]れ	よだれ	よ[だ]れ	ごぼじ
屁(へ)	ふえ _。	へ _。 ~ふえ _。	[へ]	へ
糞(くそ)	く[そ]	くそ	く[そ]	くそ
尿(にょう)	[し]っこ / [し]ょーべ	しょーべん	[に]ょー / [し]ょんべ	しょんべん
おでき	でき[も]の	できもん	お[で]き / でき[も]の~でき[もん]	でき[も]の
たんこぶ	[こ]ぶ	こぶ	[た]んこぶ	たん[こ]ぶ~たん[こ]ぶ
汗(あせ)	あ[し]え	あしえ	あ[せ]	あ[し]え

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
垢(あか)	あ[か]	あか	あ[か]	あ[か]
怪我(けが)	[あえ ₁ まち	あえ ₁ まち	け[が]	け[が]
病気(びょうき)	[bよーき	bよーき / やまえ	[bよーき / え[たし ー～え[たし	い[たし
血(ち)	[ち (ち[が 血が)	ち	ち[ち
傷(きず)	き[じ (きじ[が 傷が)	きぢ	き[づ～き[ぢ	き[ず
薬(くすり)	く[しー	くしー	く[すり	く[すり
灸(きゅう)	[きー	きー	[きゅー / [やいと	きー (きーしーど 灸するぞ)
命(いのち)	い[の]ち	いのち	(無回答)	い[のち～い]のち
面(つら)	ち[ら]	ちら	つ[ら]	つ[ら]
膿(のう)	う[み (うみ[が 膿が)	うみ (膿) (「脳」のこ とは のー という)	[の]ー / [う]み	う]み～う]み
木(き)	[き]	き	[き]	き～き
葉(は)	[は (は[が 葉が)	は	は[は[つぱ
枝(えだ)	え[だ	えだ	え[だ	え[だ
梢(こずえ)	え[ださき	きの て ₁ つぺ ₁ ん	こづ[え	(言わない)
実(み)	[み (み[が 実が)	み	[み～み[み～み
根(ね)	[ね ₁]	ね ₁	[ね]	ね[kこ
草(くさ)	く[さ	く[さ	く[さ]	く[さ]
花(はな)	は[な]	はな	は[な]	は[な]
種(たね)	た[ね]	たね	た[ね]	た[ね～た[ね
苗(なえ)	な[え]	なえ / なえんご～ なえご	[な]い	な[え～な[え
稲(いね)	い[ね]	いね	い[ね]	い[ね～い[ね
穂(ほ)	[ほ]	ほね	[ほ]	ほ
米(こめ)	こ[め]	こめ	こ[め]	こ[め]
粃(もみ)	も[み (もみ[が 粃 が)	もみ	も[み	も[み
麦(むぎ)	む[ぎ (むぎ[が 麦 が)	むぎ	[む]ぎ	む[ぎ
藁(わら)	わ[ら]	わら	わ[ら]～[わ]ら	わ[ら]
麦わら(むぎわら)	む[ぎ[わら	むぎわら	むぎ[わら	むぎわら～むぎ[わ ら
茅(かや)	か[や]	かや	[か]や	か[や
粟(あわ)	あ[わ]	あわ	[あ]わ～あ[わ]	あ[わ
稗(ひえ)	[へ ₁]ー～[へ ₁ ー	ふえ ₁ ー	ひ[え	ふえ ₁ ー
芋(いも)	い[も]	いも	い[も]～え[も]	い[も]]
甘藷(さつまいも)	[りーきいも] / さ	りーきいも	さつ[まいも / [か] んしよ	か[んしよ / さつ[ま] いも
豆(まめ)	ま[め]	まめ	ま[め]	まめ
胡瓜(きゅうり)	[きーり	きーり	[きゅーり～[きーり	きゅーり
蓬(よもぎ)	よ[もぎ	よもぎ	よ[もぎ	よもぎ

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
菜(な)	[な]	な	[な]	な]っぱ
大根(だいこん)	[だえ _こ	だえ _こ	[だいこん	だい]こん
冬瓜(とうがん)	(無回答)	(無回答)(食べない)	[とー]がん～[とー]が]ん	とー]がん
南瓜(かぼちゃ)	か[ぼちや	かぼちや	か[ぼちや	か[ぼちや
瓜(うり)	お[り (おり[が 瓜が] ~[うり]	うり	[うり]	うり]
萼(にら)	に[ら]	にら	[に]ら	にら
茸(きのこ)	[き]のこ / た[け (稀)	(無回答)(それぞれの名前を言う)	き[の]こ	きの]こ～き[の]こ
きくらげ	(無回答)	(無回答)	き<[ら]げ	き<[ら]げ～き<[く]らげ
とうがらし	[なんば	とんがらし	[とー]が]らし	とー]が]らし～とー]が]らし
苦瓜(にがうり)	(無回答)	(無回答)	に[が]うり～に[が]うり	に[が]うり～に[が]うり / ごーや
胡麻(ごま)	ご[ま	ごま	ご[ま	ごま～ごま
苺(いちご)	いち[ご	いちご	いち[ご	いち[ご]]
蘇鉄(そてつ)	(無回答)	(無回答)	そ[てつ	そてつ
松(まつ)	ま[ち (まち[が 松が] ~[ま]ち	まち	[ま]つ	ま]つ
竹(たけ)	た[け	たけ	た[け	た[け]
梅(うめ)	お[め	うめ～おめ	う[め	う[め
桃(もも)	も]も	もも	も]も	もも
桑(くわ)	<[わ]～(?)<[ふあ]	くわ	[く]わ	くわ
薄(すすき)	し[しき	ししき	す[すすき	す[すすき / か]や
蜜柑(みかん)	み[かん (みはやや広め)	みかん	み[かん	み]かん
茎(くき)	<[き]～<[き]～ [く]き ~<[く]き	くき	[く]き	<]き～<]き
あおさ	(無回答)	(無回答)	あ[お]さ～あ[お]さ	の]り
もずく	も]づく	もちく	も]づく	も]づく
藻(も)	[も (も[が 藻が]	も	[も]	も
糸瓜(へちま)	へち[ま]	へちま～ふえちま	へち[ま	へ<]ち[ま
棘(とげ)	と[げ]	とげ	と[げ]	と[げ]
烏賊(いか)	い[か	いか	い[か	い]か
蛸(たこ)	[た]こ～た[こ]	たこ	[た]こ	た]こ
海老(えび)	え[び (えび[が 海老が]	いび	え[び	え<]び
雲丹(うに)	[お]に	うに	[う]に	う]に
雲丹の身	[お]に	うにのみ	み[う]に
貝(かい)	[か]え<]	かえ<]	[か]い	か]い<]
蜷(にな, まきがい)	に[な]	にな	(無回答)	に[一な～に[一な (川にいる巻き貝。蛸の幼虫が食べる) か]い<] (海にいる巻

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
				き貝は全て)
亀(かめ)	か[め]~[か]め	かめ	[か]め	か[め]
蟹(かに)	か[に (かに[が (蟹 が)	がに	か[に~かに[かに
魚(さかな)	さ[かな	さかな	さ[かな	さ[かな
鱗(うろこ)	お[ろこ	おろこ	う[ろ]こ	う[ろ]こ
鰻(うなぎ)	お[なぎ	おなぎ	う[なぎ	うなぎ
鯨(くじら)	くぢ[ら]	くぢら	く[ぢら	く]じら
鰹(かつお)	かち[お	かちお	か[つお~かつ[お	か[つお
飛魚(とびうお)	あ[ご	(無回答)(あごは 別の魚か?)	と[びうお	と[びうお
鱧(ふか)	ふ[か	ふか~ふか	ふ[か	(言わない)
鮫(さめ)	さ[め / [わ]に	わに	[さ]め	さ[め]
海豚(いるか)	いる[か	いるか	いる[か	い[るか
海鼠(なまこ)	な[ま]こ	なまこ	な[まこ~な[ま]こ	な[ま]こ
ひとで	ひ[と]で / ふ[と]で	ひとで	ひ[と]で	ひとで
やどかり	や[ど]かー	やどかー	や[ど]かり	や[ど]かり
牛(うし)	お[し (おし[が 牛が)	おし	う[し~う]し[う[し~う]し
馬(うま)	お[ま]	うま	う[ま]	う[ま]
馬のたてがみ	[や]ぎ	やぎ	[や]ぎ	や]ぎ~ や]い
山羊(やぎ)	ぶ[た]	ぶた	ぶ[た	ぶ[た]
豚(ぶた)	ち[の]	ちの	つ[の]	つ[の
角(つの)	た[てがみ	(無回答)	た[てがみ	た[てがみ~た[てが み
犬(いぬ)	い[の]~い[の ([い] のが 犬が)	いの	[い]ぬ	い[に
猫(ねこ)	ね[こ]	ねこ	[ね]こ	ねこ
兎(うさぎ)	お[さぎ	うさぎ	う[さ]ぎ~う[さ]ぎ	う[さ]ぎ
鼠(ねずみ)	[ね]じん	ねちん	ね[づみ	ねずみ
尾(お)	しー[ぼ	しーぼ	[お] / しっ[ぼ]	お]っぼ
動物(どうぶつ)	[どーぶち	どーぶち	(無回答)	どーぶつ
虫(むし)	もし	もし	む[し	む[し
蟻(あり)	あり	あーご	あ]り / あ[りんご	[あ]り
蚊(か)	か	か	か / かぶんぶん	か
蜘蛛(くも)	くも	くも	く]も	く]も
蜘蛛の巣 (くものす)	しー	し	く]もの [し	く]ものす]
蝶々(ちょうちよ)	ちよーちよ	ちよんちよ	ちよーちよ	ちよーちよ
蝸牛(かたつむり)	でんでんもし~でん でんむし	かたちむり	でんで]ん むし / まいまい	かたつむり / でん でんむし
蛙(かえる)	ぎゃー / かいる~か える~けーる	かえる	か[わ]ず / きゃーこ	[か]える
蜂(はち)	はち	はち	は[ち	は[ち

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
蠅(はえ)	はえ _レ	はえぼんぼ	は[えぼんぼ / ぶ [とー(ブヨ)]	[はい]
蛆(うじ)	おじ	おじ	うじ	[う]ぢ
蚤(のみ)	のみ	のみ _レ	の]み	[の]み
蚯蚓(みみず)	め _レ め _レ じ	み _レ み _レ んぞ _レ ~ み _レ み _レ ぞ	め[めじ	みみづ
虱(しらみ)	しらめ _レ	しらみ _レ	し[らみ	しらみ
百足(むかで)	むかで	むかで	む[かで	む[かで
蚕(かいこ)	けいこさん~けーこさん	かえこさん~けーこさん	か]いこさん	[か]いこ
蟻螂(かまきり)	かまきー	かまきー	か]まきり~か[まきり	かまきり
蜻蛉(とんぼ)	とんぼ	とんぼ	と]んぼ	[と]んぼ
ばった	ばった	(無回答)	ば[った	ばっ[た
蝉(せみ)	せみ	せみ _レ	せ]み	し[み]]
鳥(とり)	とり	とり	とり	と]り
鶏(にわとり)	にわとー	にわとー	に[わとり / こ[けこ っこ (幼児語)]	に[わとり
鶏冠(とさか)	(無回答)	とさか	と]さか	とさか
雀(すずめ)	しじめ _レ	しじめ _レ	す[ずめ / ちゅん ちゅん (幼児語)]	すず[め
鳩(はと)	はと	はと	は]と / は]とぼっ ぼ (幼児語)]	[は]と
烏(からす)	からし	からし	か]らす / か]ーか	からす
鶉(うずら)	びよっびよどー	うじら	う[ずら	うづら
鷹(たか)	たか	たか	た[か	た[か
卵(たまご)	たまご	たまご	た[まご	た[まご
巢(す)	し	し	し~し	[す]]
羽(はね)	はね _レ	はに _レ	は[ね	は[ね]]~は[に]]
空(そら)	そら	そら	てん / そら	[そら
日(ひ)	ふ	ひ	ひ	ひ
太陽(たいよう)	おふさん / たえよー さん	てんとさん	た]いよー / た]い よーさん / て]んと さん	[た]いよー
光(ひかり)	ふか _レ し~ふかり	ひかり	ひ[かり	ひ[かり
蔭(かげ)	かげ _レ	かげっぼ	か]げ / か]げんぼ	[か]ぎ
まぶしい	まぶし	まぶし	まばい]ー	ま[ぶし]ー
火(ひ)	ふ	ひ	ひ	[ひ]
水(みず)	みじ	み _レ じ	み _レ]じ	み[づ
山(やま)	やま	やま	や[ま	や[ま]
川(かわ)	かわ	かわ	か[わ / おがわ (小川) / いで (小 川より小さい川) / いだがわ (小川より 小さい川)]	か[わ
橋(はし)	はし	はし	は[し	はし

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
丘(おか)	おか	おか	お[か	お[か
陸地(りくち)	りくち	りく	(無回答)	り[くち / りく
土・地面 (つち・じめん)	ちち / じみん	どろ	ど[ろ(土) / ぢめん / り[くち / つ[ち	ど[ろ]
星(ほし)	ほし	ほし	ほ[し～ほ[し	ほし
月(つき)	ちき	おちきさん	つ[き / おつ[きさ ん / のんのさん (幼児語)	つ[き]
雲(くも)	くも	くも	き[も	く[も]
霧(きり)	きり	きり	き[り～き[り	きり
露(つゆ)	ちゆ	ちゆ	つ[ゆ]	つ[ゆ]]～[つ]ゆ
雨(あめ)	あめ～あめ _。 ～あみ	あめ _。	あ[め	[あ]み
風(かぜ)	かぜ～かじえ	かぜ	か[ぜ～か[ぜ	か[ぜ
竜巻(たつまき)	たちまき	たちまき	た[つまき	た[つ[ま]き(稀)
稲光(いなびかり)	い _。 なびか _。	い _。 なびか _。	い[なび]かり～い な]びかり	い[な]びかり
地震(じしん)	じしん	じしん	ぢしん	ぢ[し]ん
虹(にじ)	にじ～にじ	に _。 じ ～ に _。 じ	に]じ	[に]ぢ
明かり	あか _。	あか _。	あ[かり	あかり
雷(かみなり)	かんな _。	かんなさん	かん[な _。 / かん な]ーさん	か[みなり
潮(しお)	そ～っそ	そ	しょ	しお
煙(けむり)	けも _。	けも _。	け[むり～け[ぶり	け[むり
浅瀬(あさせ)	あさせ	あさせ	あ[せ _。	あ[させ
遠浅(とおあさ)	と _。 あさ	(無回答)	(無回答)	[と _。 あさ
洞窟(どうくつ)	ど _。 くち	ど _。 くち	あ[な	[ど _。 くつ
海(うみ)	おみ	うみ ～ う _。 み	う]み	[う]み
水溜り(みずたまり)	みじたま _。	み _。 じたま _。	みず[たまり	みず[たまり
港(みなと)	め _。 なと	みなと	みなと(あまり使わ ない)	みなと
波(なみ)	なみ _。	ない	な[み	な[み]]
泡(あわ)	あばば～あわわ	あわわ	あ[わ	[あ]わ
島(しま)	しま	しま	し]ま	[し]ま
浜(はま)	はま	はまんご	は[ま	は[ま]
砂(すな)	しな	しな	し[な	すな
石(いし)	いし～い _。 し	いし ～ え _。 し	い[し～いし	[い]し
溝(みぞ)	みぞ	め _。 ぞっこ	み[ぞ _。	み[ぞ
田(た)	たんぼ	たんぼ	た / たんぼ	[た]
畦道(あぜみち)	あでい	あぜ	あ[ぢえ～あ[ぜ	[あ]ぢえ
畑(はたけ)	はたけ	はたけ	は[たけ	はたけ
野(の)	はらで	(無回答)	の / の]つばら	[の]
草原(くさはら)	くさつばら	くさつばら	の / の]つばら	や[ぶ

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
道(みち)	みち～めち	みち	どーろ / み[ち]	みち
崖(がけ)	がけ	がけ	が[け] / は[げら (山の禿げた場所)]	[が]き
坂(さか)	さか	さか	さ[か]	さ[か]
頂上(ちょうじょう)	てっぺん	てんこ	てんこつ	ていっ[ぴん]
東(ひがし)	ふがし	ひがし ~ ひがし	ひがし	ひがし
東風(ひがしかぜ)	おちかぜ	(無回答)	(無回答)	(無回答)
北(きた)	きた	きた	き[た]	きた
北風(きたかぜ)	きたかぜ	きたかぜ	(無回答)	(無回答)
西(にし)	にし	にし	にし	に[し]
西風(にしかぜ)	にしかぜ	(無回答)	(無回答)	(無回答)
南(みなみ)	みなみ	みなみ	み[なみ]	みなみ
南風(みなみかぜ)	はいかぜ～はえかぜ	み _。 なんかぜ	み[なんかぜ]	(無回答)
嶺(みね)	みね	(無回答)	む[ね]	お[に]
村(むら)	(無回答)	むら	む[ら]	む[ら]
右(みぎ)	みぎ～みぎ	みぎ	みぎ	み[ぎ]
左(ひだり)	ふだり	ひだり	ふい[だり]	ひだり
前(まえ)	まえ	まえ	ま[え]	[ま]い
後ろ(うしろ)	おしろ	うしろ	お[しろ]	[う]しろ
跡(あと)	あと	あと	あ[と]	[あ]と
横(よこ)	よこ	よこんちよ / よこっ ばら	よ[こ]	よ[こ]
上(うえ)	うい _。 ~うい	うえ ~うえ _。	う[え]	う[え]
下(した)	した	した	し[た]	し[た]
中(なか)	なか	なか	な[か]	[な]か
底(そこ)	そこ	そこ	そ[こ]	そ[こ]
内(うち)	うち	うち	う[ち]～う[ち]	うち
外(そと)	そと	そと	そ[と]	[そ]と
奥(おく)	おく	おく	お[く]	[お]く
角(かど)	かど	かどっちよ	か[ど]	[き]ど / [す]み
傍(そば)	そば	そば	そ[ば]	[そ]ば
隣(となり)	となり ~となー	となー	となり～と[なー]	と[なり]
今日(きょう)	きよー	きよー	きよー	[きよ]ー
昨日(きのう)	きんによー	きのー	きん[によー]	[きん]によー
一昨日(おととい)	おととい	おとちい	お[とちー]～お[と つ]い	お[と]とい
明日(あした)	あした	あした	あした	あし[た]
明後日(あさって)	あさって	あさって	あさ[って]～あさ[つ て]	あ[さ]って
明明後日 (しあさって)	しやさって	しゃーしゃって	しゃーさ[って]	しやさって～しあさ って
今年(ことし)	ことし	ことし	ことし	ことし

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
去年(きよねん)	きよねん	きよねん	きよ[ねん]	きよ[ねん]
一昨年(おとし)	おとし	おとし	おとし]し~お[とし し	お[とし]
来年(らいねん)	らいねん~らえねん	れーねん	らいねん	[らいねん]
再来年(さらいねん)	さらいねん~さらえねん	されーねん	さらいねん	さ[らいねん]
今(いま)	いんま	いま	え]ま	[い]ま / い[まんご ろ
昔(むかし)	むかし	むかし	むかし	む[かし]
春(はる)	はり	はる	は]る	[は]る~[は]]る
夏(なつ)	なち	なち	な[ち]	なつ
秋(あき)	あき	あき	あ]き	[あ]き~[あ]]き
冬(ふゆ)	ふゆ	ふゆ	ふ[ゆ]	ふ[ゆ]]
朝(あさ)	あさ	あさま	あ[さま]	[あ]さ
昼(ひる)	ひる	ひる	ひ[るま]	ひる
夕方(ゆうがた)	ゆーがた / ばんか た	ばんかた	よん[べがた]	ばん[げ]]
夜(よる)	ばん	ばん	よ]る	[よ]る
夜中(よなか)	よなか	よなか	よ[なか]	よ[な]か
暁(あかつき)	あさかちき	あけ]がた	あ[けがた]	あ[けがた]
暇(ひま)	ふま	ひま	ひ]ま	ひ[ま]
時(とき)	とき~とき	とき	と[き~と[き / ち か]ん	と[き]]
年(とし)	とし	とし	と]し	と[し]]
暦(こよみ)	こよみ	こよみ	こ[よみ]	こ[よみ]
着物(きもの)	きもん~きもん	きもん	きもん	[きーもん]
襟(えり)	いり~いり	えり ~えり	え]り	いり
袖(そで)	そで	そで	そ[で]	そ[で]
裾(すそ)	しそ	しそ	し[そ]	す[そ]
帯(おび)	おび	おび	お]び	[お]]び
紐(ひも)	ふも	ひも	ふ[も]	ひ[も]
足袋(たび)	たび	たび	た]び	[た]び~[た]]び
袴(はかま)	はかま	はかま	は[かま]	は[かま]
下駄(げた)	げた~ぎた	げた	げ[た]	げ[た]
草履(ぞうり)	ぞーり	ぞーり	ぞーり / ぞんぞ (幼児語)	[ぞーり]
緒(お)	お	はなお	お	[お]
布(ぬの)	にの	ちぎ	ちぎ	つ[ぎ]
表(おもて)	おもて	おもて	お[もて]	お[も]て
裏(うら)	おら	うら	う]ら	う[ら]
綾,模様(あや)	がら	がら	もによー (高級な着 物の柄) / もよー (普通の柄)	あ[や] (「言葉」の意 味)

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
手ぬぐい	てのごい	てのごい	て[のご～て[ねご	て[のぐい
蓑(みの)	ねの～にの	に _レ の	み[の	[み]の
湯(ゆ)	[ゆ	[い	ゆ _レ	ゆ
茶(ちゃ)	[ちゃ	[ちゃ	ちゃ (ちゃ[が 茶 が)	ちゃ
飯(めし)	[め _レ し	[み]し _レ	[め]し	まし
粥(かゆ)	[かい	お[かえ	お[か]ゆ	かい
餅(もち)	も[ち	も[ち	も[ち	もち
雑炊(ぞうすい)	[ぞーすい _レ	[ぞーし	お[かえさん	ぞーし
味噌(みそ)	め _レ [そ	み[そ	み[そ	め _レ そ
汁(しる)	[し _レ ー	[し _レ ー	[し]る	しり ～ しー
塩(しお)	[っそ	[そ	しょ～そ _レ	っしょ
塩辛い(しおからい)	[っそから]い _レ	[そから]え	[そーから]い	っしょからい
砂糖(さとう)	さ _レ と	さ _レ と	さ _レ とー	さとー
甘い(あまい)	[ま]い _レ	あ[まえ	[ま]い	あまい
砂糖黍(さとうきび)	さ _レ ときび	(無回答)	(無回答)	さとーきび
粕(かす)	か[し～か[し	か[し	[か]し _レ	かし _レ
酒(さけ)	さ[け _レ	さ[け	さ[け	さけ
黴(かび)	か[び (かび[が 黴 が) / [こーじ	かび / こーぢ	か[び / [こーぢ	こーじ / こ[めこ]ー じ (米麴)
麴(こうじ)	[こーぢ	[こーじ	[こーじ	こーじ
粒(つぶ)	ち[び ～ ち[び	[ち]び	[つ]ぶ	ちぶ
糠(ぬか)	に[か	ね[か	ぬ[か	ぬか
粉(こ・こな)	[こ	[こ	こ[な	こ
大蒜(にんにく)	[にんに]く	[にんに]く	[にんに]く	にんにく～にんにく
芽(め)	[め _レ	[め	め	め
肉(にく)	に[く	に[く	に[く	にく
果物(くだもの)	き[だ]もん	く[だ]もん	く[だ]もん	くだもの
油(あぶら)	あぶ[ら	あぶ[ら	あぶ[ら	あぶら
天ぷら(てんぷら)	[てんぷ]ら	[てんぷ]ら	[てんぷ]ら	てんぷら
灰(はい)	[はえ _レ	[はえ	[はい	はい
匂い(におい)	に[お]え _レ	に[お]え	に[お]い	におい
味(あじ)	あ[ぢ	あ[じ	あ[じ	あじ
料理(りょうり)	[rよ]ーり	[rよ]ーり	[rよ]ーり	rよーり
ご飯(ごはん)	[め]し / [ご]はん	[め]し	[め]し	ごはん
食事(しょくじ)	しょくぢ	しょく[じ	しょく[じ	しょくじ
朝食(あさめし)	あ[さ]はん	あ[さ]はん	あ[さ]はん	あさめし / ちゃの こく古
昼食(ひるめし)	[ちー]はん～[ちー はん	[ちー]はん	[ちゅー]はん～[ちー はん	ちーはん～ちーは ん
夕食(ゆうめし)	[よ _レ]はん～[よー]は ん	[いー]はん	[ゆー]はん	ゆーはん

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
膳(ぜん)	[ぜん	[ちえん	[ちえん	ぜん
食べる	[く]ー	[く]ー	[く]ー	たべる / くー
食べ物(たべもの)	[く]ーもん	[くいもん	[く]ーもん	たべもの / くいもん
家(いえ)	い[え	い[え	い[え	いえ
母屋(おもや)	お[も]や	お[も]や	お[も]や	おもや
台所(だいどころ)	[だえ]どこ	[だえ]どこ	だえ[どこ	だいどころ / ながし
天井(てんじょう)	[てん]ぢよ	てん[ぢよ	てん[ぢよー	てんじよー
床(ゆか)	[ぎ	ゆ[か	ゆ[か	ゆか ~ ゆか
棚(たな)	た[な	た[な	た[な	たな
竈(かまど)	く[ど	く[ど	か[まど	くど
囲炉裏(いろり)	い[ろり	い[ろり	い[ろり	いろり
戸(と)	[と	[と	と	と
板(いた)	え[た	いた	い[た	いた
節(ふし)	ふ[し~ふ[し	ふ[し	ふ[し~ふ[し	ふし
穴(あな)	あ[な	あ[な	あ[な	あな
柱(はしら)	はっ[さ	はし[ら	はし[ら~はし[ら	はしら ~ はしら
釘(くぎ)	く[ぎ	く[ぎ	く[ぎ	くぎ
瓦(かわら)	[かー]ら	[か]ーら	[かー]ら	かーら
便所(べんじょ)	[しょん]べし	[し]んち	[べん]ぢよ	ふじよー
垣(かき)	か[べ] / [へ]ー	か[k ひ	か[き~か[k ひ	かき
庭(にわ)	に[わ	に[わ	に[わ	にわ
井戸(いど)	え[ど	え[のんと	い[ど	いど
墓(はか)	は[か	は[か	は[か	はか
煤(すす)	し[し ~ し[し	し[し	し[し	しし
埃(ほこり)	ほ[こー	ほ[こー	ほ[こり	ほこり
門(もん)	[も]ん	[も]ん	[も]ん	もん
縄(なわ)	な[わ	な[わ	な[わ	なわ
綱(つな)	ち[な	ち[な	ち[な	ちな
鎖(くさり)	く[さー	く[さー	く[さり	くさり
袋(ふくろ)	ふく[ろ~ふく[ろ	ふく[ろ	ふく[ろ	ふくろ
荷(に)	[に / に[も]ち	[に	に	に
皿(さら)	さ[ら	さ[ら	さ[ら	さら
椀(わん)	[わん	[わん	しる[わん	わん
茶碗(ちやわん)	ちや[わん	ちや[わん	ちや[わん	ちやわん
壺(つぼ)	ち[ぼ	ち[ぼ	つ[ぼ	つぼ
鉢(はち)	は[ち	は[ち	は[ち	はち
瓶(かめ)	か[め	か[め	か[め	はんど
水瓶(みずがめ)	[は]んど / みぢ[がめ	みぢ[がめ	みず[がめ	(無回答)
桶(おけ)	お[け	た[が	お[け	おけ

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
水桶(みずおけ)	みぢ[おけ	みじ[たが	みず[お]け	(無回答)
盥(たらい)	た[ら]え _ゝ	た[ら]え	た[ら]い	たらい
柄杓(ひしゃく)	ふ[しゃく	っ[しゃく	っ[しゃく	っしゃく
柄(え)	[え _ゝ	[え	いえ	え
釜(かま)	は[が]ま	か[ま	か[ま	かま
煤(すす・鍋などに付く汚れ)	し[し ~ し[し	(無回答)	(無回答)	しし
しゃもじ	しゃ[もち / しゃ[くし (汁用)	しゃ[くし	しゃ[く]し	しゃもじ
急須(きゅうず)	きび[しよ	きび[しよ	きび[しよ	きびしよ
箸(はし)	[は]し~[は]し	[は]し _ゝ	[は]し	はし
包丁(ほうちょう)	[ほーちよ	[ほーちよ	[ほーちよ	ほーちよー
刀(かたな)	か[た]な	か[た]な	か[た]な	かたな
小刀(こがたな)	こ[が]たな / [な]い _ゝ ふ	こ[が]たな	こ[が]たな	こがたな
まな板(いた)	ま[な]え _ゝ た	ま[な]えた	ま[な]いた~ま[な]え _ゝ た	まないた
臼(うす)	お[し	お[し	[う]す	うし
杵(きね)	き[ね	き[ね	き[ね	きね
斧(おの)	ま[さ]かー	お[の	お[の	おの
鋸(のこ)	の[こ	の[こ	の[こ]ぎり	のこ
鑿(のみ)	の[み	の[み	[の]み	のみ
錐(きり)	き[り	き[り	[き]り	きり
箱(はこ)	は[こ	は[こ	は[こ	はこ
筆(ふで)	ふ[で	ふ[で	ふ[で	ふで
紙(かみ)	か[み	か[み	か[み]~か[み	かみ
鋏(はさみ)	は[さ]み	は[さ]み	は[さ]み	はさみ
印(しるし)	し[り]し	し[る]し	し[る]し	しるし
漆(うるし)	う[る]し	お[ろ]し	(無回答)	うるし
鏡(かがみ)	か[が]み	か[が]み	か[が]み	かがみ
櫛(くし)	く[し	く[し	く[しー	くし _ゝ
布団(ふとん)	ふ[と]ん	ふ[と]ん	ふ[と]ん	ふとん
枕(まくら)	まく[ら	まく[ら	まく[ら	まくら
箒(ほうき)	[ほーき	[ほーき	[ほーき	ほーき
竿(さお)	さ[お	さ[お	さ[お	さお
杖(つえ)	ち[え _ゝ	[ちえ	つ[え]~ち[え	ちえ _ゝ ~ちえ
笠・傘(かさ)	か[さ	か[さ	か[さ	かさ
針(はり)	[は]り	[は]ー	[は]り~[は]り	はり
糸(いと)	い[と	い[と	い[と	いと
煙管(きせる)	き[せー	き[せー~き[しえー	き[し]える	きせる
金(かね)(金属・銭)	ぜ[に(お金) / か [ね _ゝ	か[ね(鐘) / ちえ [に(銭)	か[ね]~[ちえ]に	かね

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
三味線(しゃみせん)	しゃめ _レ [しえ]ん	しゃ[み / しゃみ [せん~しゃみ[しえ ん	しゃみ[しえん	しゃみしえん
船(ふね)	ふ[ね	[ふ]ね	ふ[ね	ふね
帆(ほ)	[ほ	[ほ	ほ	ほ
櫂(舟のカイ)	[か]え _レ	[か]え	[か]い	かい
網(あみ)	あ[み	あ[み	あ[み	あみ
檣(やり)	や[り~や[り	[や	や[り	やり
漁(いさり)	え _レ [さー	い[さり	(無回答)	いさり
松明(たいまつ)	[たえ _レ まち	[たえまち	(無回答)	たいまち
鍬(くわ)	[くわ	[くわ	[くわー	くわ
鋤(牛にひかすすき)	し[き	し[き	し[き	しき
鎌(かま)	か[ま	か[ま	か[ま	かま
莫蔭(ごご)	ご[ご	ご[ご	ご[ご	むしろ
篋(へら)	へ _レ [ら	へ[ら	eえ[ら	(無回答)
箒(ざる)	ざ[る	[ざー	ざ[る	ざる
籠(かご)	か[ご / て[かご / [そーき	か[ご	か[ご	かご
もっこ	かー[こ	もっ[こ	もっ[こ	もっこ
篩(ふるい)	ふ[るい _レ	[とーし	ふ[るい	ふるい
俵(たわら)	[たーら	[たーら	[たーら	たーら
筵(むしろ)	もっ[そ	もっ[そ	むしろ	むしろ
薪(たきぎ)	た[きぎ	たく[もん	た[きぎ	たきぎ
簪(かんざし)	[かんざし _レ ~[かんざ し _レ	かん[ざ]し _レ	かん[ざ]し _レ	かんざし _レ
人(ひと)	ふい[と	ひと	ひと	ふ[と / あ[のし] い / こ[のさ]ん
親(おや)	お[や	お[や	おや	お[や]
子(こ)	こ	こ	こ	こ / わ[けも]ん
子供(こども)	こ[ども	こ[ども	こどもたち	こ[ども
長男(ちやうなん)	[ちよーなん	ちよーなん	ちよーなん	[ちよーな]ん / あ [ととー
二男(じなん)	ぢ[な]ん	ぢなん	じなん~じなん	ぢ[な]ん
三男(さんなん)	さ[んなん	さんばんめの こど もし	さんなん	[さ]んなん
四男(よんなん)	よ[んなん	よまばんめの こど もし	よんなん	[よ]んなん
五男(ごなん)	ご[な]ん	ごばんめの こども し	ごなん	[ご]なん
六男(ろくなん)	ろ[くなん	ろくなんさん	ろくなん	ろく[な]ん
七男(しちなん)	ひ[ちな]ん / ひち	なななんさん	なななん	(無回答)
八男(はちなん)	はち[な]ん	(無回答)	はちなん	はち[な]ん
九男(くなん)	きゅー[なん	(無回答)	きゅーなん	[きゅーな]ん
十男(じゅうなん)	ぢゅー[なん	(無回答)	ぢゅーなん	[ぢ]ーなん

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
長女(ちょうじょ)	[ちよ]ーぢよ	[ちよー]ぢよさん	ちよーじよ	[ちよ]ーぢよ
二女(じじょ)	ぢ[ぢ]よ	ぢぢよさん	じじよ～じじよ	に[ば]んめ
三女(さんじょ)	さ[ん]ぢよ	さんぢよさん	さんじよ	[さん]ばんめ
四女(よんじょ)	よ[ん]ぢよ	(無回答)	よんじよ	(無回答)
五女(ごじょ)	ご[ぢ]よ	(無回答)	ごじよ	(無回答)
六女(ろくじょ)	ろく[ぢ]よ	(無回答)	ろくじよ	(無回答)
末っ子(すえっこ)	すえっこ～しゅえっこ	お[と]ご / すえっ こ	おとんぼ	お[と]ご
親子(おやこ)	お[や]こ	お[や]こ	おやこ	お[や]こ / [お]やこ (親類のことも)
孫(まご)	ま[ご]	ま[ご]	まご	ま[ご]
お父さん	お[と]つつあん / おと ーさん	お[と]さん	おやじ	お[と]つつあん(自 分の父親のみ) / [お]やじ / [と]つと / お[や]つつあん
お母さん	お[か]か	お[か]さん	おかーさん	お[か]か / お[か] ーさん / [ちや]つち や / [か]つか
お兄さん	おにーさん / あ]ん さん	[に]ーさん	あに / あにき	[あ]に / [あ]んちや ん / [あ]ん.やん
お姉さん	あ[ね]さん	[ね]ーさん	あね	[ね]ーさん / あ[ね さん / あ[ね]
弟(おとうと)	お[と]ーと / お[と]と	お[と]ーと	おとーと	お[と]ーと](が おー [で])
妹(いもうと)	い[も]ーと～い[も]と～ い[も]と	い[も]ーと	(無回答)	い[も]ーと]
兄弟(きょうだい)	きよ]ーだい	きよ]ーだい	きよーだえ	お[と]どい
お祖父さん	お[ぢ]ぢ	おぢー[さん / ぢ ー[さん	じーさん	お[ぢ]ぢ / お[ぢ] ーさん / [ぢー]かま (卑語)
お祖母さん	お[ば]ば	おばー[さん	ばーさん	お[ば]ば
夫(おっと)	おっ[と]	しゅぢん / おっ[と]	(無回答)	おっ[と]
妻(つま)	ち[ま]	か[な]い	かなえ	[か]ない
夫婦(ふうふ)	ふ]ーふ	[ふ]ーふ	みよーと	[みよ]ーと
叔父(おじ)	お[ぢ]	おぢ / おぢ[さん	おじー	お[つつ]あん / お [ぢ]
叔母(おば)	おばさん	おば[さん	おばー	お[ば]さん / お[ば]
甥(おい)	[おい	おいっ[こ	おいぼし	[おい]ぼし
姪(めい)	め]ー / め]い	めいっ[こ	めいっこ	[めい]ご
従兄弟(いとこ)	い[と]こ	い[と]こ	い]とこ	い[と]こ
婿(むこ)	も[こ / も[こ]さん	む[こ]さん	むこさん	む[こ]さん
家族(かぞく)	か[ぞ]く / か[ぞ]く	か[ぞ]く	いっか	[か]ぞく
親戚(しんせき)	[しん]しえき	[しん]せき	しんせき / しんる い	[しん]しえき / (いっ けん) も[つ]とー / もち[れ]
男(おとこ)	おとこ	お[と]こ]の[こ	おとこ	お[と]こ]

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
女(おんな)	[おんな / によばん こ (小中生)	[おんな]の[こ	によーばー	お[なご] / によ[ば し(目上?複数?) / [によーば]んこ / [によ]ば
目上(めうえ)	(無回答)	(無回答)	としうえ	お[つつあん] / お [なごし(目上の女)
目下(めした)	(無回答)	(無回答)	とにした	(無回答)
青年(せいねん)	しえーねん / わ[き] し	わ[か]え しー	わかいもん / せー ねん	[しえーねん
大工(だいく)	だいく / だいくさ ん	だいく[さん	だいく	[だ]いく
友だち(ともだち)	ともだち	ともだち	ともだち	ともだち
娘(むすめ)	む[しめさ]ん~む[す めさ]ん	む[すめさん	によーばんこ	むす[め
私(わたし)	わ[たし] / わ[たし] / お[ら (男性の言い 方)	わ[たし] / お[れ (男性の言い方)	おら	あ[だ]ん(女性語)/ おら
私たち	お[ら]んちゃ	わ[た]したち / わ [た]したち	おらたち / あだん ち	お[ら]やち (お[ら]や ちや 私たちは) / あ [だ]んちゃ (私た ちは) / わー[わー
あなた	あ[ん]た / おまえさ ん	あ[ん]た	あ[ん]た	お[ま]えさん
あなたたち	あ[ん]た[や]しゃ / お ま[え]や[しゃ] / おま[え さん]がた	あ[ん]た[や]いち	あ[ん]たたち	お[ま]えさん やち (お[ま]えさん やち や あなたたちは)
お前(おまえ)	お[ま]え	お[ま]え~お[めー	お[ま]え	お[ま]え / [わ]あ
お前たち	お[ま]え[や]ち	お[ま]えたち	お[ま]えたち	お[ま]え や]ちや (お前たちは) / [わ] あ [や]ち ([わ]あ や[ち]やー お前た ちは)
皆(みな)	みんな / みんな	みん[な	あだんち	だ[れ]も / [みんな
名(な)	な[ま]え	な[ま]え~な[ま]い	な[ま]え	な[ま]え
おじさんたち	おぢさんたち / おぢ さにんやしゃ / おっ [つあ]ん (身内以外 のおじさん)	お[ぢ]さん[ら] / お ぢ[さん]や]ち	おじさんたち	お[つつあん] や]ち
老人(ろうじん)	とっしより / とっ[しよ ー]さん	とし[よ]りさん	ろーじん / としより さん	とし[よ]ー
恋人(こいびと)	い]し	あの しの しきな し	(無回答)	[こいびと
畑作業 (はたけさぎょう)	はたけしごと	はたけしごと / そ [とし]ごと	しごと	(無回答)
旅(たび)	た[び]	た[び]	rよこー	た[び]
お祝い(おいわい)	い[わ]い~い[わ]い	い[わ]いごと	おいわえ	え[わ]え ごと / え[わ]え
結婚(けっこん)	けっ[こん	けっ[こん	けっこん	[し]ーげん
結納(ゆいのう)	いー[の]	[いーのー	ゆいのー	[ゆいのー
喧嘩(けんか)	きん[か] / いーや]こ	けん[か	けんくわ	[くえんくわ

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
相互扶助(農作業などの)	て[ご	て[がわり〜て[がわ ー	てがわり	て[がわー / て[が わり
相撲(すもう)	し[もー / し[もと]	し[もー	しもー	し[もー
一つ(ひとつ)	ふ[と]ち	ふ[と]ち	ふいとーち	ふ[と]ち
二つ(ふたつ)	ふ[た]ち〜ふ[たち	ふ[た]ーち	ふたーち	ふ[た]ーち
三つ(みっつ)	みっ[ち	みーっ[ち	みっち	め[っ[ち
四つ(よっつ)	よっ[ち	よーっ[ち	よっち	[よっち
五つ(いつつ)	い[ち]ち	い[ち]ち	いちち	え[ち]ち
六つ(むっつ)	むっ[ち	もっ[ち	むっち	[も[っ[ち
七つ(ななつ)	な[な]ち	な[な]ち	ななち	な[な]ち / な[なち
八つ(やっつ)	やっ[ち	やっ[ち	やっち	やっ[ち
九つ(ここのつ)	こ[この]ち	ここのっち	ここのち	こ[このち
十(とお)	とー〜[とー	とー	とー	[とー
一人(ひとり)	ふ[と]ー / ふ[と]り	ふ[と]り	ふいとり	ふ[と]ー
二人(ふたり)	ふ[た]ーり	ふ[た]ーり	ふたり	ふ[た]ー
三人(さんにん)	さん[に]ん (*みたりと はいわない)	さん[に]ん	さんにん	[さんにん
四人(よにん)	よ[に]ん / よっ[たり	よ[に]ん	よにん	よ[に]ん / よっ[た ー / よっ[た]り
五人(ごにん)	ご[に]ん	ご[に]ん	ごにん	ご[に]ん
六人(ろくにん)	ろ[く]にん	ろ[く]にん	ろくにん	ろ[き]にん
七人(しちにん)	し[ち]にん	し[ち]にん	しちにん	し[ち]にん
八人(はちにん)	は[ち]にん	は[ち]にん	はちにん	は[ち]にん
九人(くにん)	く[に]ん	く[に]ん	きゅーにん	く[に]ん
十人(じゅうにん)	ぢょーにん	ぢゅーにん	ぢゅーにん	[ぢ]ーにん
いくら	いく[ら / なん[ぼ (何歳?とたずねると きにも使える)	なん[ぼ	なんぼ	[なんぼ
いつ	い[ち	い[ち	いち	え[ち
だれ	だー[と / だー[が / だー[か]ね	だー (だー[が 誰 が)	だー	だー [だ]ー(誰 だ?)
どこ	ど[こ	どこ	どこ	ど[こ
どれ	ど[れ / どー[が / どっ[ち	どー	どー	どー ([だ]ー どれ だ?)
なぜ	な[して / な]ぜ	なしてー / なんで ー	なんで	な[して]か(なぜ か?)
なに	な[に / な]ー	なん	なんか	な[に
いくつ	いく[ち / なん[ぼ	なん[ぼ	なんぼ	[なんぼ
どう	ど[げ	どげ	どげー	ど[げ]しー だ(どう するか)
これ	こ[れ / [こー / こ]げ	こー	こー	こー (こ _r や これ は) / か
それ	そ[れ / [そー / そ げ	そー	そー	そー / さ
あれ	あ[れ / [あー / あ	あー	あー	あー (あ _r や あれ

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
	ー[さ]			は)
ここ	こ[こ]	こ[こ]	こー	こ[こ]
そこ	そ[こ]	そ[こ]	そ _こ	そ[こ]
あそこ	あ[しこ]	あし[こ]	あしこ	あし[こ]
物(もの)	もの	もん	も[の]	も[の]
色(いろ)	いろ	い _ろ	い _[ろ]	い[ろ]
音(おと)	おと	おと	お[と]	お[と]
夢(ゆめ)	ゆみ	ゆめ	ゆめ	ゆ[み]
技(わざ)	わ[ざ] / ぎのー	(無回答)	うで	わ[ざ]
鬼(おに)	お[に]~お[に]	お[に]	おに	[お]に
心(こころ)	こ[こ]ろ	(無回答)	こころ	こ[こー もち / こ [ころ]
情け(なさけ)	な[さけ]	(無回答)	なさけ	な[さけ]
言葉(ことば)	こ[とば]	[いーか]た / [こ]と ば	ことば	こ[とば]
歌(うた)	う[た]	う[た]	うた	お _[た]
踊り(おどり)	お[どり] / お[どーさ]	お[どり]	おどり	お[どー]
鼓(つづみ)	ち[ちみ] / しゃみ[せ ん (三味線)]	ちち[み]	ちじみ	ち[ちみ]
宝(たから)	た[から]	た[から]	たから	た[かー もん / た [から]
型(かた)	か[た]([肩]は か た)	(無回答)	かた	か[た]
形(かたち)	か[たち]	か[たち]	かたち	か[たち]
休息(きゅうそく)	た[ばこ]	た[ばこ] / ふ _[と] い き	たばこ	た[ば]こ / た[ばこ やしん]
魂(たましい)	た[ま]しー	た[ま]しー	たましー	た[ま]しー
刺青(いれずみ)	い[り]づみ	い[れ]ぢみ	いれじみ	え[れ]ぢん
真似(まね)	ま[ね]	ま[に]ご	まね _ー	ま[ね]ご
嘘(うそ)	お[そ] (古) ~う[そ]	お[そ]	うそ	お[そ]
小さい(ちいさい)	こ[ま]い / ちーさい	こ[ま]い	ちーさえ / こまえ	こ[ま]え _ー
大きい(おおきい)	おーきな	[おーきな	おーきー / ふとい	お[kけ]な / [が]え な (え _[か] ちく [し な 大きな態度を するな)
低い(ひくい)	ふい[く]い	ふ _[く] い	ひきー~ひきー	ふ _[く] い
同じ(おなじ)	おん[な]ぢ / お[な]ぢ / いっ[し]よ	お[な]ぢ	おんなぢ	[お]んなぢ
短い(みじかい)	み[ち]か[い] / おー [お]お	みち[か]い	みじかい	め _[ち] け
丸い(まるい)	ま[る]い	ま[る]い	まるい	ま[る]んけな
暖かい(あたたかい)	ぬ[く]い~の[く]い	の[く]い / のくたら しい ジメジメした暑 さ	あったかい	の _[く] い
寒い(さむい)	さ[む]い	さ[む]い	さみー	さ[み]
冷たい(つめたい)	ち[み]たい~ち[み]た	ち[み]たい	ちめたー	ち[めて]な _ー

語	出雲市斐川町	雲南市木次町	奥出雲町横田	安来市広瀬町
	い			
好きだ(すきだ)	し[き]だ	し[き]だ	しきだ	に[くにす]いちよー (肉が好きだ)
少し(+指小辞)	ちよん[ぼ]し	ちよん[ぼ]し	ちよんぼし	ちよん[ぼ]し / ちよ[っこ]し (指小辞はないか)
痒い(かゆい)	か[い]	か[い]	かいー～かゆい	か[い]ー
青い(おおい)	あ[お]い	あおい	あおい	あ[お]い
美しい(うつくしい)	きーな	き[り]ー	きれーだ	き[れ]ーな
嬉しい(うれしい)	うれしー	うれし	うれしー	うれし
たくさん	いっ[ば]い～いっ[ば]い	いっ[ば]い	こたくさん	えっ[ぼ]ど / [よ]け
もっと	もっ[と]	もっ[と]	もちと	[もーちよんぼ]し / も[っ]と

出雲方言 文法例文集（音声記号）

01	共通語	おれは きょうは いそがしい。
01	1.安来市	orawa kjo:wa isigasi:.
01	2.奥出雲町	orawa kjo:wa {isogasi: ~isogasi}.
01	3.雲南市 A	orawa kjo:wa {isogaeci~isogaeci}.
01	3.雲南市 B	orawa kjo:wa isogasi:kin.
01	4.出雲市 A	ora kjo:wa isogasi:.
01	4.出雲市 B	waeiwa kjo:wa ieigaei kenno.
02	共通語	おまえが 畑へ 行け。
02	1.安来市	omae hatake: {ikitteorijaæ / ikejaæ / ikite goejaæ}.
02	2.奥出雲町	omaega hatake: {ike / ikeæ}.
02	3.雲南市 A	omaega hatage: {ige / ikita:}.
02	3.雲南市 B	omaega hatake: ike:.
02	4.出雲市 A	omaega hatake ike.
02	4.出雲市 B	omaega hatake: ikaeææ.
03	共通語	うん、畑へは おれが いく。
03	1.安来市	õ: hatake:wa oraga ikõuwaæ.
03	2.奥出雲町	{NN~UUN} hatake:wa oraga ikõu.
03	3.雲南市 A	on hatage oraga iku 《wa》 .
03	3.雲南市 B	un hatake:wa oraga iku.
03	4.出雲市 A	uun hatakja oraga iku.
03	4.出雲市 B	on hatake:wa waeiga iku ken.
04	共通語	おれの 鋤は どこに ある。
04	1.安来市	orano {kõa:wa / k ^w awa} dokoni {a:kaæ / a:a}.
04	2.奥出雲町	{oraga / orano} {kõa: / kõawa} dokoni {a:ka / a:kaæ / a:kaina / arja}.
04	3.雲南市 A	orano k ^w awa dokon a:kaæ.
04	3.雲南市 B	orano / oraga k ^w awa dokoni {aru / a:}.
04	4.出雲市 A	orano kuwa dokoni a:.
04	4.出雲市 B	waeino k ^w awa dokoni a: kaæ no.
05	共通語	この 鎌は 太郎のか。
05	1.安来市	kono kamawa taro:no jatsikajaæ.
05	2.奥出雲町	kono kamawa {taro:no / taro:ga} {ka / kaæ / kaina}.
05	3.雲南市 A	kono kamawa taro:noka.
05	3.雲南市 B	kono kamawa taro:noka.
05	4.出雲市 A	kono kama taro:nokaj.
05	4.出雲市 B	kono kamawa taro:no {ke / kaæ}.
06	共通語	どれが おまえの 笠だ。
06	1.安来市	do:ga omaeno kasa {kaæ / daæ}.
06	2.奥出雲町	do:ga {omaeno / omaega} kasa {dae / dae / daæ}.
06	3.雲南市 A	do:ga omaeno kasakaæ.
06	3.雲南市 B	do:ga omaeno kasada.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

06	4.出雲市 A	do:ga omaeno kasada.
06	4.出雲市 B	do:ga omaeno kasa {kaε / ka} ja.
07	共通語	その 笠が おれのだ。
07	1.安来市	{sono kasaga /soitea:} oraga jatsidawaæ.
07	2.奥出雲町	sono kasaga {orano / oraga}da. / sono kasa orano {da / bundawaæ}.
07	3.雲南市 A	sono kasaga oranodawa.
07	3.雲南市 B	sono kasaga {oranoda / oragada}.
07	4.出雲市 A	sono kasawa {oranda / oranoda / oran jatsuda}.
07	4.出雲市 B	sonokasaga waejino da.
08	共通語	この ふろしきは おまえのか。
08	1.安来市	kono φurosik ^s iwa omaega jatsikajaæ.
08	2.奥出雲町	kono {φurosikja: / φurosikiwa} {omaenokae / omaεgakae / omaeno bunjkaina}.
08	3.雲南市 A	kono φuroeikiwa {omaeno / omaen}kaε.
08	3.雲南市 B	kono φuroeik ⁱ wa omaenoka.
08	4.出雲市 A	kono φurosiki omaenokai.
08	4.出雲市 B	kono φuroeik ⁱ wa omaeno {kaε / kε}.
09	共通語	それは おとうとの かもしれない。
09	1.安来市	soitea: oto:tonobundajikajaæ.
09	2.奥出雲町	so:wa {oto:to no / oto:toga} {jatsi/ bun} kamo {eiren~siren} {jo / dzo}.
09	3.雲南市 A	{sora / so:wa} oto:tono kamo {ein / eiren}na:.
09	3.雲南市 B	so:wa oto:tono kamoεire:n.
09	4.出雲市 A	sa oto:tono kamoεen.
09	4.出雲市 B	sorewa oto:tono kamo een 《no》.
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	1.安来市	ok ^s inawae ik ^h ujna: φunede ik ^h ujjoka çiko:k ^s ino ho:ga i:gaæ.
10	2.奥出雲町	{ok ^s inawana: / ok ^s inawaniwa} φunede {ik ^h ujjoka / ikujori} {h ^h iko:k ^s ide / s ^h iko:k ^s ide} itta ho:ga {e: 《wa》 / i: 《zo》}.
10	3.雲南市 A	ok ⁱ nawaniwa φunede ikujjo: φuko:kide itta ho:ga iwa.
10	3.雲南市 B	ok ⁱ nawaniwa φunede ikujori çiko:kide ikita ho:ga {i: / iwana}.
10	4.出雲市 A	ok ^s inawaniwa φunede ikujoma φuko:kide {ittaho:ga / ik ^s itaho:ga} e:.
10	4.出雲市 B	ok ⁱ nawaniwa φunede iku{jjo: / jori} çiko:kide {ittaho:ga / ittaga} i: {ga ja / zo}.
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	1.安来市	çiko:k ^s iwa ittintsini ikk ^h ææsika ne:.
11	2.奥出雲町	hiko:k ^s iwa ittintsini {ikk ^h ææsika~ ikkaæsika} {ne: / naæzo}.
11	3.雲南市 A	φuko:kiwa iteintejni ippen eika naæwa.
11	3.雲南市 B	çiko:kiwa ittintsini {ikkaisika~ikk ^w aisika} nai.
11	4.出雲市 A	φuko:kiwa φun ⁱ ikkaisika ne.
11	4.出雲市 B	çiko:kiwa itejnitejni ikkaεçika nae 《ga / zo》.
12	共通語	空港なら こっちの 道を行きなさい。
12	1.安来市	çiko:zo:nara kottsino me:tsi ike ja:.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

12	2.奥出雲町	{hiko:zo:nara / ku:ko:nara} kottsino {mitsi/ mitsio} {ikacee / ittaga i:zo}.
12	3.雲南市 A	ku:ko:nara kotteino miteio ikaceae.
12	3.雲南市 B	ku:ko:nara kottsino mitsio {ikinasai / ikaceai}.
12	4.出雲市 A	ku:ko:nara kono mitsi ik'inahaj.
12	4.出雲市 B	ku:ko:nara kotteino mitejo ikaceai.
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	1.安来市	mętsino {mannaka / mannakao} aruitea ikende.
13	2.奥出雲町	mıtsino {mannaka: / mannakao} {aru:tea iken 《jo》 / aru:tea ikemaen 《jo》 / arukanga i:zo}.
13	3.雲南市 A	miteino mannakao aruitara ikenzo.
13	3.雲南市 B	mitsino mannaka aruitewa {ikenai / ikendzi}.
13	4.出雲市 A	mitsino mannaka arukuto iken.
13	4.出雲市 B	miteino mannakao aruitewa iken zo.
14	共通語	道が 広いなあ。
14	1.安来市	{o:kina mętsidana: / mętsa: fıre:na:}.
14	2.奥出雲町	mıtsiga {fıre:na: / hire:na:}.
14	3.雲南市 A	miteiga fırena:.
14	3.雲南市 B	mıtsiga fıroi na:.
14	4.出雲市 A	mitsiga fıreno:.
14	4.出雲市 B	miteiga gaena {no: / na:}.
15	共通語	あ、雨が ふってきた。
15	1.安来市	amega fıutte kşıtawa.
15	2.奥出雲町	a? 《moheæ》 amega fıutte kşıta 《zo》 .
15	3.雲南市 A	a amega fı:daetazo:.
15	3.雲南市 B	a amega fıuttekşıta.
15	4.出雲市 A	a amega fıuttekşıta.
15	4.出雲市 B	a amega fıutte kşıta.
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	1.安来市	itokono fıtonga japiji hoita:na:.
16	2.奥出雲町	ıtokono fıtonga janeno ueni {hoitea: / hosite aru}.
16	3.雲南市 A	itokono fıtonga janen ueni hoite a:wa.
16	3.雲南市 B	itokono fıtonga janeno ujni {hoitearu / hositearu}.
16	4.出雲市 A	ıtokono {fıton/ fıtonga} janeno ue hositea:.
16	4.出雲市 B	itokono fıtonga janeno ueni hoite a: ga 《na》 .
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	1.安来市	kşıno:wa kjo:joka kazega tsujokatta.
17	2.奥出雲町	{kşıno:~kşıno:}wa {kjo:joka / kjo:jori} kazega {tsijokatta / ęrakatta / habasıkkatta}.
17	3.雲南市 A	kşınowa kjo:jo: kaziga gaenatta:.
17	3.雲南市 B	kşıno:wa kjo:jori kadziga tsijokatta.
17	4.出雲市 A	kşınowa kjo:joma kazega {gajınatta / habasıkkatta}.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

17	4.出雲市 B	kjino:wa kjo:jori kazega go:ge datta.
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	1.安来市	sire: toriga {sora / sorao} tondzo: 《wa》 .
18	2.奥出雲町	{massire: / massirona} toriga {sora: / sorao} tondzo: 《wa》 .
18	3.雲南市 A	maceirona to:ga sorao tondo:wa.
18	3.雲南市 B	maceirona toriga sorao {tondo:wa / tondzo:wa}.
18	4.出雲市 A	massirona {toriga / to:ga<古>} sora tondzo:.
18	4.出雲市 B	{maceirona~maceiona} {tori~toi}ga {sora~sa}o tondzo: kenno.
19	共通語	あの 山には いのししが いるそうだ。
19	1.安来市	ano jamana: inosisiga o:toja:.
19	2.奥出雲町	ano {jamana: / jamaniwa} inosisiga {o:gena 《wa》 / o:toja:}.
19	3.雲南市 A	ano jamaniwa inoeiga o:gena.
19	3.雲南市 B	ano jamaniwa inosisiga o:kɛn.
19	4.出雲市 A	ano jamana inosisiga o:gena.
19	4.出雲市 B	ano jamaniwa inoeiga o:gena zo.
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。
20	1.安来市	a:wa gakko:da 《waæ》 . {jakubaza ne:waæ / jakubada newa}.
20	2.奥出雲町	{a:wa / arja:} gakko: {da / dawana}. {jakubaza~jakuba}za {ne: / neawaæ}.
20	3.雲南市 A	a:wa gakko: da. jakuba danae
20	3.雲南市 B	arewa gakko:da. jakubadewa nai.
20	4.出雲市 A	{ara / a:wa} gakkoda jakubada ne.
20	4.出雲市 B	arewa gakko: da. jakuba da nae gena.
21	共通語	あれが 役場だ。
21	1.安来市	a:wa jakubadawaæ.
21	2.奥出雲町	a:ga {jakubada / dawano / dawaæ}.
21	3.雲南市 A	a:ga jakubada.
21	3.雲南市 B	{arega / a:ga} jakubada.
21	4.出雲市 A	a:ga jakubada.
21	4.出雲市 B	arega jakuba da kenno.
22	共通語	あの 目の おおきい、色の 白い 男は だれだろう。
22	1.安来市	ano meno okkina irono sire: {otoko / otokosi} wa {da:dara: / da:daraeka}.
22	2.奥出雲町	ano meno {o:kina / o:ki:} irono {sire: / siroi} {otokowa / otokosi:wa} {da:dae / da:dara:ka}.
22	3.雲南市 A	ano mega o:kjan irono eire otokowa da: ka.
22	3.雲南市 B	ano mmo o:ki: irono eiroi otokowa da:dara:.
22	4.出雲市 A	ano meno okkjan irono sire {otoko / otokosi<古>} 《wa》 da:daraka.
22	4.出雲市 B	ano meno o:ki: irono eiroi otokowa da: da 《kaja》 .
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	1.安来市	magoga kjonej kara to:kjo:ni o:waæ.
23	2.奥出雲町	magoga kjonej kara to:kjo:ni {o:jo / oru / o:masiteneæ / o:masugane}.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

23	3.雲南市 A	magoga kjonɛŋkara to:kjo:ni oru.
23	3.雲南市 B	magoga kjonɛŋkara to:kjo:ni {oru / o:jo}.
23	4.出雲市 A	magowa {kjonɛŋkara / kjonɛŋka:} to:kjo:nj̥ o:.
23	4.出雲市 B	magoga kjonɛŋkara to:kjo:ni o: kenno.
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	1.安来市	magowa itsi to:kjo:kara modo:kaja.
24	2.奥出雲町	magowa {itsi~itsi} to:kjo:kara {modo:ka / modotte k ^w a:kaæ}. (自分の孫の場合) / magosanwa itsi to:kjo:kara modoraeca:masikane. (他人の孫の場合)
24	3.雲南市 A	magowa itsi to:kjokara kai:kai.
24	3.雲南市 B	magowa itsi to:kjo:kara {ku:ka / kajruka}.
24	4.出雲市 A	magowa itsu to:kjo:ka: kae:kaj.
24	4.出雲市 B	magowa itei to:kjo:ka: {kae:~kar:} kaja.
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	1.安来市	hatsig ^w atsiŋa: modotte {k̄ɸa:ja:da / modotte k ^w a:gedana}.
25	2.奥出雲町	{hatsig ^w atsiŋa: / hatsigatsiniwa} modotte {k̄ɸa:dara: / k̄ɸa:ja:da / k ^w a:jo:da / k ^w a:genajo}.
25	3.雲南市 A	hateigatejiniwa kaitte ku: jo:dano.
25	3.雲南市 B	hatsig ^w atsiniwa kajtte {kuru jo:da / ku: daro: / kuru daro: / ku:dzi}.
25	4.出雲市 A	hatsigatsiniwa kaette ku: gena.
25	4.出雲市 B	hateigatejiniwa kaette ku:gena 《no》.
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	1.安来市	{okaka / kakasan}wa asita to:kjo:e wakemonni a:ni ik̄ɸu.
26	2.奥出雲町	{ka:sanwa / oka:sanwa} asita to:kjo:e { (名前) / wake:monni} {aeniik̄ɸu / aeniittek ^w a:kene}. (家族に言う時) / utsino ka:sanwa asita to:kjo:e musukoniaeni ikimasugane. (他人に言う時)
26	3.雲南市 A	okasanwa asita to:kjo:je musukoni aeni iku.
26	3.雲南市 B	ka:sanwa asita tokjo:e musukoni aini iku.
26	4.出雲市 A	okakawa asita to:kjo:nj̥ {musuko/ wakemon}nj̥ aini iku.
26	4.出雲市 B	{okakawa / okasanwa} aejta to:kjo:ni mucikoni aeni iku kenno.
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	1.安来市	o:sakakara to:kjo:madeno k ^s ieatsin wa nambodara:ka.
27	2.奥出雲町	o:sakakara to:kjo:madeno k ^s ieatsinwa nambodara:ka.
27	3.雲南市 A	o:sakakara to:kjo:madeno kiateinwa nambodaraka.
27	3.雲南市 B	o:sakakara to:kjo:made k ^s ieatsinwa ikura daraka.
27	4.出雲市 A	o:sakakara to:kjo:no k ^s ieatsinwa nambodaraka.
27	4.出雲市 B	o:sakakara to:kjo:madeno kiateinwa nambo kaeno.
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	1.安来市	jozimade ek ^s ide matteore 《ja:》.
28	2.奥出雲町	jozimade ek ^s ide {matteore / matteotte goei:jo}.
28	3.雲南市 A	jodzimate {ikide~jekide} matteore.
28	3.雲南市 B	jodzimate ikide matteore.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

28	4.出雲市 A	jozimade ekʰide {matteore / mattore}.
28	4.出雲市 B	jozimade ekʰide {mattoke / matteoke} {jo / goetano (丁寧)}.
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	1.安来市	gozimadepi ina:na ikenwa.
29	2.奥出雲町	{gozimadepa: / gozimadeni} modoraŋa iken 《wa / deno:》.
29	3.雲南市 A	godzimadepi inana ikenŋa:.
29	3.雲南市 B	godzimadeni kaerananakutewa ikendzi.
29	4.出雲市 A	gozinjwa {kaerana / kaerana} iken.
29	4.出雲市 B	godzimadepi kaeranto ikenŋano.
30	共通語	次郎、この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	1.安来市	dziro: kono ni otsimade ina:te {ikʰite goceja: / ikieoite goceja: / ikieoite goceinaija:}.
30	2.奥出雲町	dziro: kono ni {utsimade jna:te ittegoe / iemade jna:tette goei:jo}.
30	3.雲南市 A	dziro: kono jimotsuo iemade inatte itte goe:.
30	3.雲南市 B	dziro: kono nimotsi iemade katsuide ikʰitekure.
30	4.出雲市 A	dziro: kono nimotsu {otsi/ je}made katsuide ittegojta.
30	4.出雲市 B	dziro: kono jimotsuo iemade katsuide {itte goceja / itte gosankaeja / ikʰite goetano}.
31	共通語	荷物が 重かったので、二人で もった。
31	1.安来市	niga motakattaken ŋuta:de motta {wa / waæ}.
31	2.奥出雲町	{niga / nimotsiga} {mota:te / motakattaken / motakattanode / mota:te ikadattaken / mota:te ikadattanode} ŋuta:ride motta 《gane》.
31	3.雲南市 A	jimotsuga motakattaken ŋuta:de motta.
31	3.雲南市 B	nimotsiga {motakattanodj / motakattakjn} ŋutaride motta.
31	4.出雲市 A	nimotsuga motakattaken ŋuta:de motta.
31	4.出雲市 B	jimotsuga motakatta ken ŋutaride moteŋgo ejta.
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千円で 買った。
32	1.安来市	kono uwagiwa {konomae / konaida} okʰinawade nisenende {ka:ta / kata} wa.
32	2.奥出雲町	kono {uwagʰi~ uwagi}wa konomae okʰinawade nisenende {ka:ta jatsida / katta 《gane》}.
32	3.雲南市 A	kono uwagiwa konaeda okʰinawade nisenende katta.
32	3.雲南市 B	kono uwagiwa konomaj okʰinawade nisenende katta.
32	4.出雲市 A	kono uwagiwa konajda okʰinawade nisenende katta.
32	4.出雲市 B	kono uwagiwa konaeda okʰinawade nisenende katta kenno.
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	1.安来市	okʰinawana: mezirasi: {kʰasiga a: 《wa》 / kasiga a:zo:}.
33	2.奥出雲町	{okʰinawana: / okʰinawaniwa} mezirasi: {kʰasi~kasi}ga {a: / a:masuikenne}.
33	3.雲南市 A	okʰinawapiwa mezuraei kʰaeiga a:.
33	3.雲南市 B	okʰinawaniwa mizirasi: kʰaeiga aru.
33	4.出雲市 A	okʰinawaniwa {mezurasi:~mezurasi} kʰasiga a:.
33	4.出雲市 B	okʰinawapiwa mezuraei {okaei / kʰaei}ga a: kenno.
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	1.安来市	magowa {kʰasiji suiteo: 《na:》 / okaeiga sukida}.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

34	2.奥出雲町	《utsino》 magowa 《honni》 {k̄ɸasiga si:teo: / kasini su:teo:masitene}.
34	3.雲南市 A	magowa k ^w aeiga ɕikida.
34	3.雲南市 B	magowa k ^w asiga ɕikida.
34	4.出雲市 A	magowa {k ^w asiga sukida / k ^w asinj suiteo: / k ^w asinj suiteo:}.
34	4.出雲市 B	magowa k ^w aeiga sɯki da kenno.
35	共通語	箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。
35	1.安来市	hakono nakaja: mandziga nambo a:to omo:ka.
35	2.奥出雲町	hakono {nakani / nakani:} {mandzi:~mandzu:}ga nambo a:to {omo:kæ: / omo:teo:no / omowaeæa:masuikane}.
35	3.雲南市 A	hakon nakani manziga nambo a:to omo:tete.
35	3.雲南市 B	hakono nakani mandziga jkutsi {aruto / a:to} omo:ka.
35	4.出雲市 A	hakon nakani manzuga nambo a:to omo:kaja.
35	4.出雲市 B	hakono nakani manzu:ga ikutsu a:to {omowaeæa: ka / omo: kaja}.
36	共通語	孫はまんじゅうを皮だけ食べる。
36	1.安来市	magowa mandzio kawahodo k̄ɸu:kenna:.
36	2.奥出雲町	《utsino》 magowa {mandzi:~mandzu:}o kawa {dake / hodo} {ku: / k̄ɸu:kenna:}.
36	3.雲南市 A	magowa manzio kawadake ku:.
36	3.雲南市 B	magowa mandzio kawadake ku:.
36	4.出雲市 A	magowa manzu kawahodo tabe:.
36	4.出雲市 B	magowa manzu:o kawadake tabe: {zine / gaja / kenno}.
37	共通語	じいさんは朝から海へ魚をとりに行った。
37	1.安来市	dzi:sanwa asamakara umie sakanao to:ni ikɕita.
37	2.奥出雲町	dzi:sanwa {asamakara / asakara} umie {sakana: / sakanao} torini itta.
37	3.雲南市 A	odzidziwa asamakara umie sakanao to:ni itta.
37	3.雲南市 B	zi:sanwa asakara umie sakana torini jkita 《dzi》.
37	4.出雲市 A	oziziwa asamakara umie sakana to:ni itta.
38	共通語	ここは海にちかいので魚がうまい。
38	1.安来市	kokowa umi:ni tsjka:ken sakanaga {umaæ / aziga e:wa}.
38	2.奥出雲町	kokowa umi:ni {tsjka:te / tsjka:ken / tsjka:node} sakanaga {maæ / mai}.
38	3.雲南市 A	kokowa umi:ni tsjka:ken sakanaga maæ.
38	3.雲南市 B	kokowa umi:ni tsjka:kin sakanaga maiwa:.
38	4.出雲市 A	kokowa umi:ni tsika:ken sakanaga maj.
39	共通語	魚より肉のほうが高い。
39	1.安来市	sakana {joka / joma} nikuno ho:ga take:.
39	2.奥出雲町	{sakanajori / sakanajoka} {nik̄ɸu~niku}no {ho:ga take: / takaæ 《kenne》}.
39	3.雲南市 A	sakanajo: nikuno ho:ga takewa.
39	3.雲南市 B	sakanajori nikuno ho:ga takai.
39	4.出雲市 A	sakanajoma nik̄ɸu:ho:ga {takaj / take}.
40	共通語	おれは蛸のさしみが食べたい。
40	1.安来市	orawa takono sasimiga k̄ɸuite:.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

40	2.奥出雲町	orawa takono sasimiga {k̄ɸu:tae~kuitaæ}.
40	3.雲南市 A	orawa takono saeimiga {kuitewa / kuiteɛ}.
40	3.雲南市 B	orawa takono sasimiga kuitai.
40	4.出雲市 A	ora takono sasimiga k̄ɸuite.
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	1.安来市	omae kono sakanano namae eit̄eo:kaja:.
41	2.奥出雲町	omaewa kono sakanano namae {ēit̄eo:ka / sit̄eo:no}.
41	3.雲南市 A	omaewa kono sakanano namaeo ēit̄to:kae.
41	3.雲南市 B	omaewa kono sakanano namaeo eit̄to:ka.
41	4.出雲市 A	omae kono sakanano namae s̄it̄to:kaja.
42	共通語	これは かつおだろう。
42	1.安来市	ko:wa katsuo {dara / darazojæ}.
42	2.奥出雲町	korja: {katsio~katsuo} dara: 《ga》 .
42	3.雲南市 A	kora katsuodaraga.
42	3.雲南市 B	korewa {katsudaro: / katsudazi (かつおだ) }.
42	4.出雲市 A	ka kattso {dara: (多) / daro:}.
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	1.安来市	sakewa doges̄ite koeiraeteo:ka omaewa eit̄eo:dara:ga.
43	2.奥出雲町	sakewa doges̄ite {koɛɛae:ka / ts̄uk̄wa:ka} omae 《wa》 {ēit̄to:dara: / sit̄to:no}.
43	3.雲南市 A	sakewa doge {ēite / jatte} ts̄uku:ka omae ēit̄to: daraga.
43	3.雲南市 B	sak̄jwa {doges̄ite / do:s̄ite / do:ēite} {tsukuruka / tsuku:ka} omae {ēit̄to:ka / ēit̄to:dara:}.
43	4.出雲市 A	sakewa dogejatte ts̄uku:ka omae {s̄it̄to:/ s̄it̄to:dara: 《gaja》 }.
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	1.安来市	sakewa komeka: koeirae:wæ.
44	2.奥出雲町	sakewa komekara {koɛɛae:wæ / ts̄uk̄wa:wane}.
44	3.雲南市 A	sakewa komekara ts̄uku: wana.
44	3.雲南市 B	sak̄ɛwa komɛkara {ts̄ukuru / ts̄uku:dzi}.
44	4.出雲市 A	sakewa komekara ts̄uk̄ɸu:.
45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	1.安来市	sakehodo arja: nanda: iran 《waæ》 .
45	2.奥出雲町	sakesae {arja: / arja} nanda iran.
45	3.雲南市 A	sakesae a:to nan̄nimo iran.
45	3.雲南市 B	sakɛsae arɛba nan.nimo iranwa:
45	4.出雲市 A	sakesae ara nanda iran.
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	1.安来市	otsino dzi:sanwa sakeda tabakoda nomaheno.
46	2.奥出雲町	utsino dzi:sanwa {sakeda: tabakoda: / sakemo tabakomo} {noman / nomangane}.
46	3.雲南市 A	utēino odzidziwa sakemo tabakomo nomanga:.
46	3.雲南市 B	otsino dzi:sanwa sakemo tabakomo numan̄kin.
46	4.出雲市 A	ots̄ino oziziwa sakedaj tabakadaj jaran.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	1.安来市	sono mizi {nona /nondza ikenda:/nonna}. nonnara kono mizi nome.
47	2.奥出雲町	sono miza: nonna 《jo:》. nonnara kono mizinome.
47	3.雲南市 A	sono mizi nonna. nonnara kono mizi nome:.
47	3.雲南市 B	sono mɪdʒiwa nonna. nonnara kono mɪdʒi nomɪ:
47	4.出雲市 A	sonomizuwa {nondane: / nondane}. nonnara kotsi nome.
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	1.安来市	nasɪte omaewa kʰa:ndaka.
48	2.奥出雲町	nande omae 《wa》 {kʰanno: / kʰanno}.
48	3.雲南市 A	nande omaewa kʷantete.
48	3.雲南市 B	omaewa naze {kʷannɯka / kʷanʒka:}.
48	4.出雲市 A	{nande/ dogesite} omae {tabɛŋkaja/ kʰwanʒkaja}.
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	1.安来市	orawa rɛ:kʰimonanʒka {kʰahɛnwaɛ / kʷandzo:}.
49	2.奥出雲町	ora: satsimajimonanʒka {kʰandzo / kʷanwaɛ}.
49	3.雲南市 A	orawa ri:kiimonanʒka kʷanzo:.
49	3.雲南市 B	orawa {satsimaimonanʒka / ri:kjimo} kʷanzo:.
49	4.出雲市 A	ora ri:kuijimonanʒka taben 《zo》.
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	1.安来市	mo: kʰare:monwa minna kʰutta.
50	2.奥出雲町	{he: / mo:} {kʰareɛ~kʷarjaɛ} monwa {gotto / dzembu} {kʰu:ta / ku:te sima:tagane}.
50	3.雲南市 A	mo: ku:monwa minna kʰutta.
50	3.雲南市 B	mo: kʷareru monwa dzembu kʰutta.
50	4.出雲市 A	mo kʰwe {monōwa / monōa / mona} gotto kʰutta.
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	1.安来市	{kʰu:te / kʰa:te} ne:hodonara inoja nekoto onnazida.
51	2.奥出雲町	{kʰu:te~ku:te} {neɛ~næi}hodonara {ɪnu~ɪno}ja nekoto ɪɛɛo {dawa / dangana}.
51	3.雲南市 A	kʰutte {ne:dakenara / ne:hodonara} inuja nekoto ɪɛɛo da.
51	3.雲南市 B	ku:te nerudakenara {ɪnu~ɪno}ja nekoto onadzida: .
51	4.出雲市 A	kʰutte ne:hodonara inoja nekoto ɪɛɛoda.
52	共通語	さとうは あまい。 くすりは あまくない。
52	1.安来市	satowa ame:. kʰɯsuriwa ame:kota:ne:.
52	2.奥出雲町	sato:wa {ame: / maɛkenne}. {kʰɯsɪrja: / kʰɯsuriwa} {ama: naɛ / ame: kotowa naɛ 《waɛ》 / ma: naɛkenne}. / sato:wa maɛdadomo kʰɯsuriwa ma: naɛkenne.
52	3.雲南市 A	sato:wa ame. kusu:wa amekotane.
52	3.雲南市 B	sato:wa amai. kʰɯsiriwa amakunai.
52	4.出雲市 A	sato:wa ame. kʰɯsuriwa {amekotone/ nige/ manne (まずい)}.
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	1.安来市	kjonen itokoga tsi:gakuno ɛɛnɛ:ni natta.
53	2.奥出雲町	kjonen ɪtokoga {tɛu:gaku~tɛu:gakko:}no ɛɛnɛ:ni {natta / nattagena / na.masitene}.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

53	3.雲南市 A	kjonEN itokoga teu:gakuno eence:ni natta.
53	3.雲南市 B	kjonEN itokoga teu:gakko: eence:ni natta.
53	4.出雲市 A	kjonEN itokoga {tsi:gakko:~tsi:gakko}no eence:N natta.
54	共通語	いとは 英語の 本が 読める。
54	1.安来市	itokowa e:gono honga jomeæwæ.
54	2.奥出雲町	itokowa e:gono honga {jomeæ / jomemasikenne}.
54	3.雲南市 A	itokowa e:gono honga jomje:.
54	3.雲南市 B	itokowa i:gono honga jomeru.
54	4.出雲市 A	itokowa e:gono honga jome:.
55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	1.安来市	ano siwa honno {dzenimotsi <古>/ kanemotsi} {da / dano}.
55	2.奥出雲町	ano {si:wa / si:koso} {honto:no / honno} {dzenimotsida / kanemotsida}.
55	3.雲南市 A	ano eikoso hontono kanemotei da.
55	3.雲南市 B	ano {ɸutokoso / ei:} honto:no kanimotsida.
55	4.出雲市 A	ano {hi:to / ɸi:to}ga {honto:no / honno} {kanemotsi/ zenimotsi<古>}da.
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	1.安来市	sono hanasiwa kaka:nihodo {kikasitawa / kikaçitawa / kikaçeta}.
56	2.奥出雲町	sono {hanaea: / hanasiwa} {kaka:nihodo / utsino kanainidake} {kikaçeta / i:kaçeta}.
56	3.雲南市 A	sono hanaeiwa okakani dake kikaçita.
56	3.雲南市 B	sono hanasiwa {sumadakini / no:badakini} kikaçeta.
56	4.出雲市 A	sono hanasi {no:bani/ no:bahodo} hanaeta.
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	1.安来市	kaka:ni bammesio koeiraesae:.
57	2.奥出雲町	{kaka:~kanai}ni {bammesi / bammesio} {koeæesaeæ / tsikuraæeru}.
57	3.雲南市 A	okakani bammeci:jo kossaesae:.
57	3.雲南市 B	{no:bani / tsimani} ji:han tsukuraæeru.
57	4.出雲市 A	no:bani bammesi tsukuraæe.
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。
58	1.安来市	otsino {oto:san / ototsan}wa take{de / jori} kago: {kosiraeta / kossaeta}.
58	2.奥出雲町	utsino {ojazi:wa / to:sanwa} takede kago: {koeæeta. / kosiraeta /
58	3.雲南市 A	tsukatta / tsuku:masita / tsukuræcattagane}.
58	3.雲南市 B	otosanwa takede kago: kossaeta.
58	4.出雲市 A	ottowa takede kago {tsukuttæatta (軽い尊敬) / kossaeta}.
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。
59	1.安来市	dziro:wa oto:tono kenk ^w a sita.
59	2.奥出雲町	dziro:wa oto:tono saburo:to {kenk ^h ɸa:~ kenka:} si:ta.
59	3.雲南市 A	dziro:wa oto:tono saburo:to kenk ^w a ei:ta.
59	3.雲南市 B	dziro:wa oto:no saburo:to kenk ^w asita.
59	4.出雲市 A	dziro:wa oto:tono saburo:to kenk ^w asita.
60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。

～は発音のゆれ，{ / } は複数の言い方があること，() は説明，《 》 は任意的であることを表す。

60	1.安来市	saburo:wa dʒiro:ni bo:de tatakareta.
60	2.奥出雲町	saburo:wa dʒiro:ni bo:de {tatakareta / siwagareta / naguareta}.
60	3.雲南市 A	saburo:wa dʒiro:ni bo:de naguraeta.
60	3.雲南市 B	saburo:wa dʒiro:ni {bo:de / ba:de} nagurarīta.
60	4.出雲市 A	saburo:wa dʒiro:ni bo:de {naguareta / siwagaeta}.
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。
61	1.安来市	dʒiro:wa dʒi:san̄ni {ʃikareta / okoraetawa}.
61	2.奥出雲町	dʒiro:wa dʒi:sann̄iʃikareta.
61	3.雲南市 A	dʒiro:wa odʒidʒīni ēikareta.
61	3.雲南市 B	dʒiro:wa dʒisanni ʃikarēta.
61	4.出雲市 A	dʒiro:wa {ozizi / zizi (くだけた言い方)}ni ʃikareta.
62	共通語	おれは きのうは 新聞を よまなかった。
62	1.安来市	orawa kīŋpoa simbuno {jomazatta / jomadatta}.
62	2.奥出雲町	{ora: / orawa} {kʰīŋpo:~kʰīŋpo}wa {simbun / simbuno} jomazatta.
62	3.雲南市 A	orawa kīŋpo ēimbun jomadatta.
62	3.雲南市 B	orawa kīno:wa simbunwo jomaŋkatta.
62	4.出雲市 A	{ora / orawa} kʰīŋpono ʃimbun jomadatta.
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。 きのうのは これだ。
63	1.安来市	sono simbunwa kjo:no jatsida. kīŋpo: {no/jatsi}wa ko:da.
63	2.奥出雲町	sono simbunwa kjo:noda. {kʰīŋpo:nowa / kʰīŋpo:no bunwa} ko:da 《jo》 .
63	3.雲南市 A	sono ēimbunwa kjo:no da. kīŋponowa ko: da.
63	3.雲南市 B	sono simbunwa kjo:noda. kīno:wa {ko:da / kōrēda}.
63	4.出雲市 A	sono ʃimbun kjo:noda. kīŋponowa ko:da.
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。
64	1.安来市	ameno ɸuə ɸīniwa ba:sanwa oside terebibakka miteo:.
64	2.奥出雲町	ameno ɸa: {hiwa / hīniwa~ɸīniwa} ba:sanwa {utside / ʒede} {terebibakka: / terebibakarī} miteo:.
64	3.雲南市 A	ameno ɸu: ɸiwa obabawa iede terebibakka: mito:.
64	3.雲南市 B	ameno ɸu: hiwa oba:sanwa terebibakka: mito:.
64	4.出雲市 A	ameno ɸu: hiwa obabawa {ie / oti}de terebibakka miteo:.
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。
65	1.安来市	iwaæno tokīna: ba:sammade odotta {kenna: / wa}.
65	2.奥出雲町	ʒwaino tokʰīna: ba:sammade {odottakenna: / odotta}.
65	3.雲南市 A	oiwaæno tokinwa obabamade odotta.
65	3.雲南市 B	ʒwaīno tokiwa ba:sammade odotta.
65	4.出雲市 A	iwaino tokin̄i {obaba / baba}made odotta.
66	共通語	花子は きのうから 病気で ねている。
66	1.安来市	hanakowa kīŋpo:kara itasite neteo:wa.
66	2.奥出雲町	hanakowa kʰīŋpo:kara {bjo:kʰide / itasi:te} neteo:.
66	3.雲南市 A	hanakowa kīŋpokara itaēite neto: 《ga》 .

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

66	3.雲南市 B	hanakowa k̄ino:kara {bjo:kide / itasīde} neto:.
66	4.出雲市 A	hanako k̄īn̄nokara {bjo:kide/ itasite (痛くて)} neteo:.
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	1.安来市	hanakowa kakaji mesi k̄ŋasīte {mora:ta / moratta}.
67	2.奥出雲町	hanakowa ka:sanni {misi / misi} {k̄ŋasīte mora:ta / k ^w acete moratta}.
67	3.雲南市 A	hanakowa okasan̄ni meējo k ^w acete moratta.
67	3.雲南市 B	hanakowa ka:sanni m̄sio tabesacīte moratta.
67	4.出雲市 A	hanakowa okakan̄j mesio k ^w acete {moratta/ matta}.
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	1.安来市	icasan̄ni mora:ta k̄ŋusurio nomja: nao:dara.
68	2.奥出雲町	{icaga goita / icakara moratta} {k̄ūsiri: / k̄ūsurio} nomja: {nao:dara: / nao:daro:}.
68	3.雲南市 A	icahānga goeta kusu:o {nomeba / nomja} nao:wana.
68	3.雲南市 B	icaga {kūrita / goita} k̄usurio n̄m̄jba {nao:daro: / nao:dara:}.
68	4.出雲市 A	icaga goita {k̄usuri/ k̄usu:} {noma/ nomja} nao:waja.
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。
69	1.安来市	kakasanwa itsibae kaimon̄ni ikiteatta.
69	2.奥出雲町	ka:sanwa itsibae {kaemonni / kaimonni} itta.
69	3.雲南市 A	okasanwa itējbae kaemon̄ni itta.
69	3.雲南市 B	ka:sanwa itsibae kaimonni ik̄ita.
69	4.出雲市 A	okakawa itsibae kaimonni ik̄ita.
70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	1.安来市	m̄tside gakkono eenee:ni a:ta.
70	2.奥出雲町	m̄tside gakkono eenee:ni {a:ta / atta}.
70	3.雲南市 A	mitējde gakkono eenee:ni atta.
70	3.雲南市 B	m̄tside gakkono eenee:ni atta.
70	4.出雲市 A	m̄tside gakkono eenee:ni atta.
71	共通語	なにを 買おうか。
71	1.安来市	nani kawa:kai 《na:》.
71	2.奥出雲町	nani {ka:de: / ka:dae}.
71	3.雲南市 A	nano kawa kae.
71	3.雲南市 B	nanio kao:ka. / nanio ka:dara:. (質問) / nani ka:dara:. (独り言)
71	4.出雲市 A	nani kawaka. (人に尋ねる時) / nani kawakaino:. (独り言)
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	1.安来市	kazukonoto onnazi geta hanakonimo kattea {ra / ro:}.
72	2.奥出雲町	{kaziko~kazuiko} noto {onazi / jecono} {geta: / getao} hanakonimo {katte jara: / katte jara:koi / ka:teara:ka}.
72	3.雲南市 A	kazukonoto iceona getao hanakonimo ka:teja:ka.
72	3.雲南市 B	kadzukonoto onadzi ḡita hanakonimo {katteja:dzi / kattejaro:}.
72	4.出雲市 A	kazukoto onnazi geta hanakonimo {kattea:ka / kattejarakoi (男ことば) / kattejaraja (女ことば)}.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	1.安来市	kazukoto hanakowa tomodatsida.
73	2.奥出雲町	kazikoto hanakowa {tomodatsida / tomodatsidawane}.
73	3.雲南市 A	kazukoto hanakowa tomodatejida.
73	3.雲南市 B	kadzukoto hanakowa tomodatsida.
73	4.出雲市 A	kazukoto hanakowa tsureda.
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	1.安来市	hanakowa kaoga kakasanpi jo: niteo:.
74	2.奥出雲町	hanakowa kaoga ka:sanni {jo: / joku} niteo:.
74	3.雲南市 A	hanakowa kaoga okasanpi jo: niteo:.
74	3.雲南市 B	hanakowa kaoga ka:sanni joku {niteo: / nito: / niteoru}.
74	4.出雲市 A	hanakowa kaoga okakanj jo: niteo:.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

出雲方言 文法例文集 (かな)

01	共通語	おれは きょうは いそがしい。
01	1.安来市	おらわ きょーわ いしがしー。
01	2.奥出雲町	おらわ きょーわ {いそがしー ~いそがし}。
01	3.雲南市 A	おらわ きょーわ {いそがし~いそがし}。
01	3.雲南市 B	おらわ きょーわ いそがしきん。
01	4.出雲市 A	おら きょーわ いそがしー。
01	4.出雲市 B	わしわ きょーわ いしがし けんの。
02	共通語	おまえが 畑へ 行け。
02	1.安来市	おまえ はたけー {いきつちよりやえ / いけやえ / いきて ごしえやえ}。
02	2.奥出雲町	おまえが はたけー {いけ / いけえ}。
02	3.雲南市 A	おまえが はたげー {いげ / いきたー}。
02	3.雲南市 B	おまえが はたけー いけー。
02	4.出雲市 A	おまえが はたけ いけ。
02	4.出雲市 B	おまえが はたけー いかっしゃえ。
03	共通語	うん、畑へは おれが いく。
03	1.安来市	おー はたけーわ おらが いくわえ。
03	2.奥出雲町	{んん~うん} はたけーわ おらが いく。
03	3.雲南市 A	おん はたげ おらが いく《わ》。
03	3.雲南市 B	うん はたけーわ おらが いく。
03	4.出雲市 A	うん はたきゃ おらが いく。
03	4.出雲市 B	おん はたけーわ わしが いく けん。
04	共通語	おれの 鎌は どこに ある。
04	1.安来市	おらの {かーわ / くわわ} どこに {あーかえ / あーあ}。
04	2.奥出雲町	{おらが / おらの} {かー / かわ} どこに {あーか / あーかえ / あーかいな / ありゃ}。
04	3.雲南市 A	おらの くわわ どころん あーかえ。
04	3.雲南市 B	おらの / おらが くわわ どこに {ある / あー}。
04	4.出雲市 A	おらの くわ どこに あー。
04	4.出雲市 B	わしの くわわ どこに あー かえ の。
05	共通語	この 鎌は 太郎のか。
05	1.安来市	この かまわ たろーの やちかやえ。
05	2.奥出雲町	この かまわ {たろーの / たろーが} {か / かえ / かいな}。
05	3.雲南市 A	この かまわ たろーのか。
05	3.雲南市 B	この かまわ たろーのか。
05	4.出雲市 A	この かま たろーのかい。
05	4.出雲市 B	この かまわ たろーの {け / かえ}。
06	共通語	どれが おまえの 笠だ。
06	1.安来市	どーが おまえの かさ {かえ / だえ}。
06	2.奥出雲町	どーが {おまえの / おまえが} かさ {だえ / で}。
06	3.雲南市 A	どーが おまえの かさかえ。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

06	3.雲南市 B	どーが おあまえの かさだ.
06	4.出雲市 A	どーが おまえの かさだ.
06	4.出雲市 B	どーが おまえの かさ {かえ / か} や.
07	共通語	その 笠が おれのだ.
07	1.安来市	{その かさが / そいちゃー} おらが やちだわえ.
07	2.奥出雲町	その かさが {おらの / おらが}だ. / その かさ おらの {だ / ぶんだわえ}.
07	3.雲南市 A	その かさが おらのだわ.
07	3.雲南市 B	その かさが {おらのだ / おらがだ}.
07	4.出雲市 A	その かさわ {おらんだ / おらのだ / おらん やつだ}.
07	4.出雲市 B	そのかさが わしの だ.
08	共通語	この ふろしきは おまえのか.
08	1.安来市	この ふろしきわ おまえが やちかやえ.
08	2.奥出雲町	この {ふろしきやー / ふろしきわ} {おまえのかえ / おまえがかえ / おまえの ぶんかいな}.
08	3.雲南市 A	この ふろしきわ {おまえの / おまえん}かえ.
08	3.雲南市 B	この ふろしきわ おまえのか.
08	4.出雲市 A	この ふろしき おまえのかい.
08	4.出雲市 B	この ふろしきわ おまえの {かえ / け}.
09	共通語	それは おとーとの かもしれない.
09	1.安来市	そいちゃー おとーとのぶんだにかやえ.
09	2.奥出雲町	そーわ {おとーと の / おとーとが} {やち/ ぶん} かも {しれん~しれん} {よ / ぢよ}.
09	3.雲南市 A	{そら / そーわ} おとーとの かも {しん / しれん}なー.
09	3.雲南市 B	そりわ おとーとの かもしれーん.
09	4.出雲市 A	さ おとーとの かもしえん.
09	4.出雲市 B	それわ おとーとの かも しえん 《の》.
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい.
10	1.安来市	おきなわえ いくにやー ふねで いくよか ひこーきの ほーが いーがえ.
10	2.奥出雲町	{おきなわにやー / おきなわにわ} ふねで {いくよか / いくより} {ひこーきで / しこーきで} いった ほーが {えー 《わ》 / いー 《じよ》}.
10	3.雲南市 A	おきなわにわ ふねで いくよー ふこーきで いった ほーが いわ.
10	3.雲南市 B	おきなわにわ ふねで いくより ひこーきで いきた ほーが {いー / いわな}.
10	4.出雲市 A	おきなわにわ ふねで いくよま ふこーきで {いったほーが / いきたほーが} えー.
10	4.出雲市 B	おきなわにわ ふねで いく{よー / より} ひこーきで {いったほーが / いったが} いー {が や / ぞ}.
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない.
11	1.安来市	ひこーきわ いちんちに いったえしか ねー.
11	2.奥出雲町	ひこーきわ いちんちに {いったえしか~ いったえしか} {ねー / なえじよ}.
11	3.雲南市 A	ふこーきわ いちんちに いったえん しか なえわ.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

11	3.雲南市 B	ひこーきわ いちにちに {いつかいしか~いつくわいしか} ない.
11	4.出雲市 A	ふこーきわ ふに _レ いかいしか ね.
11	4.出雲市 B	ひこーきわ いちにちに いかえしか なえ 《が / ぞ》.
12	共通語	空港なら こっちの 道を 行きなさい。
12	1.安来市	ひこーじょーなら こっちの めち いけ やー.
12	2.奥出雲町	{ひこーじょーなら / くーこーなら} こっちの {みち/ みちお} {いかっしえ / い _レ ったが いーじよ}.
12	3.雲南市 A	くーこーなら こっちの みちお いかっしやえ.
12	3.雲南市 B	くーこーなら こっちの みちお {いきなさい / いかっしやい}.
12	4.出雲市 A	くーこーなら この みち いきなはい.
12	4.出雲市 B	くーこーなら こっちの みちお いかっしやい.
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	1.安来市	めちの {まんなか / まんなかお} あるいちや いけんで.
13	2.奥出雲町	みちの {まんなかー / まんなかお} {あるーちや いけん 《よ》 / あるーちや いけましえん 《よ》 / あるかんが いーじよ}.
13	3.雲南市 A	みちの まんなかお あるいたら いけんぞ.
13	3.雲南市 B	みちの まんなか あるいてわ {いけな / いけんぢー}.
13	4.出雲市 A	みちの まんなか あるくと いけん.
13	4.出雲市 B	みちの まんなかお あるいてわ いけんぞ.
14	共通語	道が 広いなあ。
14	1.安来市	{おーきな めちだなー / めつあー ふいれーなー}.
14	2.奥出雲町	みちが {ふれーなー / ひれーなー}.
14	3.雲南市 A	みちが ふれなー.
14	3.雲南市 B	みちが ふろい なー.
14	4.出雲市 A	みちが ふれのー.
14	4.出雲市 B	みちが がえな {のー / なー}.
15	共通語	あ、雨が ふってきた。
15	1.安来市	あめが ふって きたわ.
15	2.奥出雲町	あつ 《もへえ》 あめが ふって きた 《じよ》.
15	3.雲南市 A	あ あめが ふーだえたぞー.
15	3.雲南市 B	あ あめが ふってきた.
15	4.出雲市 A	あ あめが ふってきた.
15	4.出雲市 B	あ あめが ふって きた.
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	1.安来市	いとこの ふとんが やにに ほいたーなー.
16	2.奥出雲町	いとこの ふ ^o とんが やねの うえに {ほしちやー / ほして ある}.
16	3.雲南市 A	いとこの ふとんが やねん うえに ほいて あーわ.
16	3.雲南市 B	いとこの ふとんが やねの うい _レ に {ほいてある / ほしてある}.
16	4.出雲市 A	いとこの {ふとん/ ふとんが} やねの うえ ほしてあー.
16	4.出雲市 B	いとこの ふとんが やねの うえに ほして あー が 《な》.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。
17	1.安来市	きんによーわ きょーよか かじえが つよかった。
17	2.奥出雲町	きんによーわ {きょーよか / きょーより} かじえが {ちよかった / えらかった / はばしかった}.
17	3.雲南市 A	きんによわ きょーよー かじが がえなつたー。
17	3.雲南市 B	きのーわ きょーより かぢが ちよかった。
17	4.出雲市 A	きんによわ きょーよま かじえが {がいなつた / はばしかった}.
17	4.出雲市 B	きのーわ きょーより かぜが ごーげ だった。
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	1.安来市	しれー とりが {そら / そらお} とんぢよー 《わ》.
18	2.奥出雲町	{まっしれー / まっしろな} とりが {そらー / そらお} とんぢよー 《わ》.
18	3.雲南市 A	まっしろな とーが そらお とんどーわ。
18	3.雲南市 B	まっしろな とりが そらお {とんどーわ / とんぢよーわ}.
18	4.出雲市 A	まっしろな {とりが / とーが<古>} そら とんぢよー。
18	4.出雲市 B	{まっしろな~まっしおな} {とり~とい}が {そら~さ}お とんぢよー けんの。
19	共通語	あの 山には いのししが いるそうだ。
19	1.安来市	あの やまにやー いのししが おーとやー。
19	2.奥出雲町	あの {やまにやー / やまにわ} いのししが {おーげな 《わ》 / おーとやー}.
19	3.雲南市 A	あの やまにわ いのししが おーげな。
19	3.雲南市 B	あの やまにわ いのししが おーけん。
19	4.出雲市 A	あの やまにや いのししが おーげな。
19	4.出雲市 B	あの やまにわ いのししが おーげな ぞ。
20	共通語	あれは 学校だ。 役場では ない。
20	1.安来市	あーわ がっこーだ 《わえ》. {やくばじゃ ねーわえ / やくばだ ねわ}.
20	2.奥出雲町	{あーわ / ありやー} がっこー{だ / だわな}. {やくば~やくば}じゃ {ねー / ねえ わえ}.
20	3.雲南市 A	あーわ がっこー だ. やくば だなえ
20	3.雲南市 B	あれわ がっこーだ. やくばでわ ない。
20	4.出雲市 A	{あら / あーわ} がっこだ やくばだ ね。
20	4.出雲市 B	あれわ がっこー だ. やくば だ なえ げな。
21	共通語	あれが 役場だ。
21	1.安来市	あーわ やくばだわえ。
21	2.奥出雲町	あーが {やくばだ / だわの / だわえ}.
21	3.雲南市 A	あーが やくばだ。
21	3.雲南市 B	{あれが / あーが} やくばだ。
21	4.出雲市 A	あーが やくばだ。
21	4.出雲市 B	あれが やくば だ けんの。
22	共通語	あの 目の おおきい、色の 白い 男は だれだろう。
22	1.安来市	あの めの おっきな いろの しれー {おとこ / おとこし} わ {だーだらー / だーだらえか}.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

22	2.奥出雲町	あの めの {おーきな / おーきー} いろの {しれー / しろい} {おとこわ / おとこしーわ} {だーだえ / だーだらーか}.
22	3.雲南市 A	あの めが おーきゃん いろの しれ おとこわ だー か.
22	3.雲南市 B	あの みの おーきー いろの しろい おとこわ だーだらー.
22	4.出雲市 A	あの めの おっきゃん いろの しれ {おとこ / おとこし<古>} 《わ》 だーだらか.
22	4.出雲市 B	あの めの おーきー いろの しろい おとこわ だー だ 《かや》.
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	1.安来市	まごが きよねんから とーきよーに おーわえ.
23	2.奥出雲町	まごが きよねんから とーきよーに {おーよ / おる / おーましてねえ / おーますがね}.
23	3.雲南市 A	まごが きよねんから とーきよーに おる.
23	3.雲南市 B	まごが きよねんから とーきよーに {おる / おーよ}.
23	4.出雲市 A	まごわ {きよねんから / きよねんかー} とーきよーに おー.
23	4.出雲市 B	まごが きよねんから とーきよーに おー けんの.
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	1.安来市	まごわ いち とーきよーから もどーかや.
24	2.奥出雲町	まごわ {いち〜いち} とーきよーから {もどーか / もどって くわーかえ}。(自分の孫の場合) / まごさんわ いち とーきよーから もどらっしやーましかね。(他人の孫の場合)
24	3.雲南市 A	まごわ いち とーきよーから かいーかい.
24	3.雲南市 B	まごわ いち とーきよーから {くーか / かいるか}.
24	4.出雲市 A	まごわ いつ とーきよーかー かえーかい.
24	4.出雲市 B	まごわ いち とーきよーかー {かえー〜かいー} かや.
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。
25	1.安来市	はちぐわちにやー もどって {かーやーだ / もどって くわーげだな}.
25	2.奥出雲町	{はちぐわちにやー / はちがちにわ} もどって {かーだらー / かーやーだ / くわーよーだ / くわーげなよ}.
25	3.雲南市 A	はちがち _に わ かいつて くー よーだの.
25	3.雲南市 B	はちぐわちにわ かいつて {くる よーだ / くー だろー / くる だろー / くーぢ}.
25	4.出雲市 A	はちがち _に わ かえって くー げな.
25	4.出雲市 B	はちがち _に わ かえって くーげな 《の》.
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	1.安来市	{おかか / かかさん}わ あした とーきよーえ わけもん _に あーに いく.
26	2.奥出雲町	{かーさんわ / おかーさんわ} あした とーきよーえ {(名前) / わけーもん _に } {あえにいく / あえにいってくわーけんね}。(家族に言う時) / うちの かーさんわ あした とーきよーえ むすこにあえに いきますがね。(他人に言う時)
26	3.雲南市 A	おかさんわ あした とーきよーいえ むすこに あえに いく.
26	3.雲南市 B	かーさんわ あした とーきよーえ むすこに あいに いく.
26	4.出雲市 A	おかかわ あした とーきよーに {むすこ / わけもん}に あいに いく.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

26	4.出雲市 B	{おかかわ / おかさんわ} あした とーきよーに むしこに あえに いく。けんの。
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	1.安来市	おーさかから とーきよーまでの きしゃちん わ なんぼだら一か。
27	2.奥出雲町	おーさかから とーきよーまでの きしゃちんわ なんぼだら一か。
27	3.雲南市 A	おーさかから とーきよーまでの きしゃちんわ なんぼだらか。
27	3.雲南市 B	おーさかから とーきよーまで きしゃちんわ いくら だらか。
27	4.出雲市 A	おーさかから とーきよーの きしゃちんわ なんぼだらか。
27	4.出雲市 B	おーさかから とーきよーまでの きしゃちんわ なんぼ かえの。
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	1.安来市	よじまで えきで まっちょれ《や一》。
28	2.奥出雲町	よじまで えきで {まっちょれ / まっちょって ごしーよ}。
28	3.雲南市 A	よぢまで {いきで~いえきで} まっちょれ。
28	3.雲南市 B	よぢまで いきで まっちょれ。
28	4.出雲市 A	よじまで えきで {まっちょれ / まつとれ}。
28	4.出雲市 B	よじまで えきで {まつとけ / まっちょけ} {よ / ごえたの (丁寧)}。
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	1.安来市	ごじまでに いな一にや いけんわ。
29	2.奥出雲町	{ごじまでにや一 / ごじまでに} もどらにや いけん 《わ / での一》。
29	3.雲南市 A	ごぢまでに いなな いけんが一。
29	3.雲南市 B	ごぢまでに かえらななくてわ いけんぢ。
29	4.出雲市 A	ごじにわ {かえらな / かえらにや} いけん。
29	4.出雲市 B	ごぢまでに かえらんと いけんがの。
30	共通語	次郎、 この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	1.安来市	ぢろ一 この に おちまで いな一て {いきで ごしえや一 / いきしよいて ごしえや一 / いきしよいて ごしないや一}。
30	2.奥出雲町	ぢろ一 この に {うちまで いな一て いったごしえ / いえまで いな一てって ごしーよ}。
30	3.雲南市 A	ぢろ一 この にもつお いえまで いな一って いったごしえ一。
30	3.雲南市 B	ぢろ一 この にもち いえまで かついで いきてくれ。
30	4.出雲市 A	ぢろ一 この にもつ {おち/ いえ}まで かついで いったごいた。
30	4.出雲市 B	ぢろ一 この にもつお いえまで かついで {いったごしえや / いったごさんかえや / いきて ごえたの}。
31	共通語	荷物が 重かったので、 二人で もった。
31	1.安来市	にが もたかったけん ふた一で もった {わ / わえ}。
31	2.奥出雲町	{にが / にもちが} {もた一て / もたかったけん / もたかったので / もた一て いかだったけん / もた一て いかだったので} ふた一りで もった 《がね》。
31	3.雲南市 A	にもつが もたかったけん ふた一で もった。
31	3.雲南市 B	にもちが {もたかったのでい / もたかったきん} ふたりで もった。
31	4.出雲市 A	にもつが もたかったけん ふた一で もった。
31	4.出雲市 B	にもつが もたかった けん ふたりで もちよんご した。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千元で 買った。
32	1.安来市	この うわぎわ {このまえ / こないだ} おきなわで にせんえんで {かーた / かた} わ.
32	2.奥出雲町	この {うわぎ~ うわぎ}わ このまえ おきなわで にしえんえんで {かーた やちだ / かった 《がね》}.
32	3.雲南市 A	この うわぎわ こなえだ おきなわで にせんえんで かった.
32	3.雲南市 B	この うわぎわ このまい おきなわで にしえんえんで かった.
32	4.出雲市 A	この うわぎわ こないだ おきなわで にしえんえんで かった.
32	4.出雲市 B	この うわぎわ こなえだ おきなわで にせんえんで かった けんの.
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	1.安来市	おきなわにやー めじらしー {かしが あー 《わ》 / かしが あーじょー}.
33	2.奥出雲町	{おきなわにやー / おきなわにわ} めじらしー {かし~かし}が {あー. / あーます. けんね}.
33	3.雲南市 A	おきなわにわ めずらし くわしが あー.
33	3.雲南市 B	おきなわにわ みじらしー くわしが ある.
33	4.出雲市 A	おきなわにわ {めずらしー~めずらし} くわしが あー.
33	4.出雲市 B	おきなわにわ めずらし. {おかし / くわし}が あー けんの.
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	1.安来市	まごわ {かしの すいちょー 《なー》 / おかしが すきだ}.
34	2.奥出雲町	《うちの》まごわ 《ほんに》 {かしの しーちょー / かしの すーちょーましてね}.
34	3.雲南市 A	まごわ くわしが しきだ.
34	3.雲南市 B	まごわ くわしが しきだ.
34	4.出雲市 A	まごわ {くわしが すきだ / くわしに すいちょー / くわしに すいとー}.
34	4.出雲市 B	まごわ くわしが すきだ けんの.
35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもつか。
35	1.安来市	はこの なかにやー まんぢが なんぼ あーと おもーか.
35	2.奥出雲町	はこの {なかに / なかにー} {まんぢー~まんぢゅー}が なんぼ あーと {おもーかえ. / おもーちょーの / おもわっしやーますかね}.
35	3.雲南市 A	はこん なかに まんじが なんぼ あーと おもーてて.
35	3.雲南市 B	はこの なかに まんぢが いくち {あると / あーと} おもーか.
35	4.出雲市 A	はこん なかに まんずが なんぼ あーと おもーかや.
35	4.出雲市 B	はこの なかに まんじゅーが いくつ あーと {おもわっしやー か / おもーかや}.
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	1.安来市	まごわ まんぢお かわほど くーけんなー.
36	2.奥出雲町	《うちの》まごわ {まんぢー~まんぢゅー}お かわ{だけ / ほど} {くー / くーけんなー}.
36	3.雲南市 A	まごわ まんじお かわだけ くー.
36	3.雲南市 B	まごわ まんぢお かわだけ くー.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

36	4.出雲市 A	まごわ まんず かわほど たべー.
36	4.出雲市 B	まごわ まんじゅーお かわだけ たべー {じね / がや / けんの}.
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とりに いった。
37	1.安来市	ぢーさんわ あさまから うみえ さかなお とーに いった。
37	2.奥出雲町	ぢーさんわ {あさまから / あさから} うみえ {さかなー / さかなお} とりに いった。
37	3.雲南市 A	おぢぢわ あさまから うみえ さかなお とーに いった。
37	3.雲南市 B	じーさんわ あさから うみえ さかな とりに いった 《ぢ》.
37	4.出雲市 A	おじぢわ あさまから うみえ さかな とーに いった。
38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	1.安来市	ここわ うみに ちかーけん さかなが {うまえ / あじが えーわ}.
38	2.奥出雲町	ここわ うみに {ちかーて / ちかえけん / ちかいので} さかなが {まえ / まい}.
38	3.雲南市 A	ここわ うみん ちかえけん さかなが まえ.
38	3.雲南市 B	ここわ うみに ちかいきん さかなが まいわー.
38	4.出雲市 A	ここわ うみに ちかいけん さかなが まい.
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	1.安来市	さかな{よか /よま} にくの ほうーが たけー.
39	2.奥出雲町	{さかなより / さかなよか} {にく〜にく}の {ほうーが たけー / たかえ 《けんね》}.
39	3.雲南市 A	さかなよー にくの ほうーが たけわ.
39	3.雲南市 B	さかなより にくの ほうーが たかい.
39	4.出雲市 A	さかなよま にくの ほうーが {たかい / たけ}.
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食べたい。
40	1.安来市	おらわ たこの さしみが くいー.
40	2.奥出雲町	おらわ たこの さしみが {くーたえ〜くいたえ}.
40	3.雲南市 A	おらわ たこの さしみが {くいてわ / くいーえ}.
40	3.雲南市 B	おらわ たこの さしみが くいーたい.
40	4.出雲市 A	おら たこの さしみが くいー.
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	1.安来市	おまえ この さかなの なまえ しっちょーかやー.
41	2.奥出雲町	おまえわ この さかなの なまえ {しっちょーか / しっちょーの}.
41	3.雲南市 A	おまえわ この さかなの なまえお しっとーかえ.
41	3.雲南市 B	おまえわ この さかなの なまえお しっちょーか.
41	4.出雲市 A	おまえ この さかなの なまえ しっちょーかや.
42	共通語	これは かつおだろう。
42	1.安来市	こーわ かつお{だら /だらぞやえ}.
42	2.奥出雲町	こりゃー {かちお〜かつお} だらー 《が》.
42	3.雲南市 A	こら かつおだらが.
42	3.雲南市 B	これわ {かつおだろー / かつおだじ (かつおだ)}.
42	4.出雲市 A	か かつお {だらー (多) / だろー}.

〜は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	1.安来市	さけわ どげして こしらえちよーか おまえわ しっちょーだらーが.
43	2.奥出雲町	さけわ どげして {こっしゃえーか / つ°くわーか} おまえ《わ》 {しっちょーだらー / しっちょーの}.
43	3.雲南市 A	さけわ どげ {して / やって} つくーか おまえ しっとー だらが.
43	3.雲南市 B	さきわ {どげして / どーして / どーして} {つくるか / つくーか} おまえ {しっちょーか / しっとーだらー}.
43	4.出雲市 A	さけわ どげやって つくーか おまえ {しっちょー / しっちょーだらー 《がや》}.
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	1.安来市	さけわ こめかー こしらえーわえ.
44	2.奥出雲町	さけわ こめから {こっしゃえーわえ / つ°くわーわね}.
44	3.雲南市 A	さけわ こめから つくー わな.
44	3.雲南市 B	さけわ こめから {つくる / つくーぢ}.
44	4.出雲市 A	さけわ こめから つくー.
45	共通語	酒さえ あれば なんにも いらぬ。
45	1.安来市	さけほど ありゃー なんだー いらん《わえ》.
45	2.奥出雲町	さけさえ {ありゃー / ありゃ} なんだ いらん.
45	3.雲南市 A	さけさえ あーと なんにも いらん.
45	3.雲南市 B	さけさえ あれば なんにも いらんわー
45	4.出雲市 A	さけさえ あら なんだ いらん.
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	1.安来市	おちの ぢーさんわ さけだ たばこだ のまへの.
46	2.奥出雲町	うちの ぢーさんわ {さけだー たばこだー / さけも たばこも} {のまん / のまんがね}.
46	3.雲南市 A	うちの おぢぢわ さけも たばこも のまんがー.
46	3.雲南市 B	おちの ぢーさんわ さけも たばこも めまんきん.
46	4.出雲市 A	おちの おじぢわ さけだい たばかだい やらん.
47	共通語	その 水は のむな。 のむなら この 水を のめ。
47	1.安来市	その みじ {のな / のんぢゃ いけんだー / のんな}. のんなら この みじ のめ.
47	2.奥出雲町	その みじゃー のんな《よー》. のんなら この みじのめ.
47	3.雲南市 A	その みじ のんな. のんなら この みじ のめー.
47	3.雲南市 B	その みぢわ のんな. のんなら この みぢ のみー
47	4.出雲市 A	そのみずわ {のんだねー / のんだね}. のんなら こっち のめ.
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	1.安来市	なして おまえわ かーんだか.
48	2.奥出雲町	なんで おまえ《わ》 {かんのー / かの}.
48	3.雲南市 A	なんで おまえわ くわんてて.
48	3.雲南市 B	おまえわ なじえ {くわんぬか / くわんかー}.
48	4.出雲市 A	{なんで / どげして} おまえ {たべんかや / くわんかや}.
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

49	1.安来市	おらわ れーきいもなんか {かへんわえ / くわんぞー}.
49	2.奥出雲町	おらー さちまいもなんか {かんぞ / くわんわえ}.
49	3.雲南市 A	おらわ りーきいもなんか くわんぞー.
49	3.雲南市 B	おらわ {さちまいもなんか / りーきいも} くわんぞー.
49	4.出雲市 A	おら りーくいもなんか たべん《ぞ》.
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	1.安来市	もー かれーもんわ みんな くれた.
50	2.奥出雲町	{へー / もー} {かれえ〜くわりやえ} もんわ {ごつと / ちえんぶ} {くーた / くてしまーたがね}.
50	3.雲南市 A	もー くーもんわ みんな くれた.
50	3.雲南市 B	もー くわれる もんわ ちえんぶ くれた.
50	4.出雲市 A	も くれ {ものゝわ / ものゝあ / もな} ごつと くれた.
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	1.安来市	{くーて / かーて} ねーほどなら いのや ねこと おなじだ.
51	2.奥出雲町	{くーて〜くーて} {ねえ〜ねい}ほどなら {いぬ〜いの}や ねこと いっしょ {だわ / だんがな}.
51	3.雲南市 A	くって {ねーだけなら / ねーほどなら} いぬや ねこと いっしょ だ.
51	3.雲南市 B	くーて ねるだけなら {いぬ〜いの}や ねこと おなじだー .
51	4.出雲市 A	くって ねーほどなら いのや ねこと いっしょだ.
52	共通語	さとうは あまい。 ぐすりは あまくない。
52	1.安来市	さとわ あめー。 ぐすりわ あめーこたーねー.
52	2.奥出雲町	さとーわ {あめー / まえけんね}。 {くしりやー / く°すりわ} {あまー なえ / あめー ことわ なえ《わえ》 / まー なえけんね}。 / さとーわ まえだども く°すりわ まー なえけんね.
52	3.雲南市 A	さとーわ あめ。 ぐすーわ あめこたね.
52	3.雲南市 B	さとーわ あまい。 ぐしりわ あまくない.
52	4.出雲市 A	さとーわ あめ。 ぐすりわ {あめことね / にげ / まんね (まずい)}.
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	1.安来市	きよねん いとこが ちーがくの しえんしえーに なった.
53	2.奥出雲町	きよねん いとこが {ちゅーがく〜ちゅーがっこー}の しえんしえーに {なった / なったげな / なーましてね}.
53	3.雲南市 A	きよねん いとこが ちゅーがくの しえんしえーに なった.
53	3.雲南市 B	きよねん いとこが ちゅーがっこー しえんしえーに なった.
53	4.出雲市 A	きよねん いとこが {ちーがっこー〜ちーがっこ}の しえんしえーん なった.
54	共通語	いとこは 英語の 本が 読める。
54	1.安来市	いとこわ えーごの ほんが よめえわえ.
54	2.奥出雲町	いとこわ えーごの ほんが {よめえ / よめましけんね}.
54	3.雲南市 A	いとこわ えーごの ほんが よみえー.
54	3.雲南市 B	いとこわ いーごの ほんが よめる.
54	4.出雲市 A	いとこわ えーごの ほんが よめー.

〜は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	1.安来市	あの しわ ほんの {ぢえにもち <古>/ かねもち} {だ / だの}.
55	2.奥出雲町	あの {しーわ / しーこそ} {ほんとの / ほんの} {ぢえにもちだ / かねもちだ}.
55	3.雲南市 A	あの しこそ ほんとの かねもち だ.
55	3.雲南市 B	あの {ふとこそ / しー} ほんとの かにもちだ.
55	4.出雲市 A	あの {ひと/ ふと}が {ほんとの / ほんの}{かねもち/ じえにもち<古>}だ.
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	1.安来市	その はなしわ かかーにほど {きかしたわ / きかひたわ / きかしえた}.
56	2.奥出雲町	その {はなしゃー / はなしわ} {かかーにほど / うちの かないにだけ} {きかしえた / いーかしえた}.
56	3.雲南市 A	その はなしわ おかかに だけ きかした.
56	3.雲南市 B	その はなしわ {つまだきに / によーばだきに} きかしえた.
56	4.出雲市 A	その はなし {によーばに / によーばほど} はなえた.
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	1.安来市	かかーに ばんめしお こしらえさしえー.
57	2.奥出雲町	{かかー~かない}に {ばんめし / ばんめしお} {こっしやえさしええ / ちくらしえる}.
57	3.雲南市 A	おかかに ばんめしお こっさえさしえー.
57	3.雲南市 B	{によーばに / ちまに} jいーはん つくらしえる.
57	4.出雲市 A	によーばに ばんめし つくらしえ.
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。
58	1.安来市	おちの {おとーさん / おとつあん}わ たけ{で / より} かごー {こしらえた / こっさえた}.
58	2.奥出雲町	うちの {おやじーわ / とーさんわ} たけで かごー {こっしやえた / こしらえた}.
58	3.雲南市 A	つかった / つくーました / つくらっしやったがね.
58	3.雲南市 B	おとさんわ たけで かごー こっさえた.
58	4.出雲市 A	おとわ たけで かご {つくっちゃった (軽い尊敬) / こっさえた}.
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。
59	1.安来市	ぢろーわ おとーとの けんくわ した.
59	2.奥出雲町	ぢろーわ おとーとの さぶろーと {けんかー~ けんかー} した.
59	3.雲南市 A	ぢろーわ おとーとの さぶろーと けんくわ した.
59	3.雲南市 B	ぢろーわ おとーの さぶろーと けんくわした.
59	4.出雲市 A	ぢろーわ おとーとの さぶろーと けんくわした.
60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。
60	1.安来市	さぶろーわ ぢろーに ぼーで たたかれた.
60	2.奥出雲町	さぶろーわ ぢろーに ぼーで {たたかれた / しわがれた / なぐられた}.
60	3.雲南市 A	さぶろーわ ぢろーに ぼーで なぐらえた.
60	3.雲南市 B	さぶろーわ ぢろーに {ぼーで / ぼーで} なぐらりた.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

60	4.出雲市 A	さぶろーわ ぢろーに ぼーで {なぐらえた/ しわがえた}.
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。
61	1.安来市	ぢろーわ ぢーさんに {しかられた / おこらえたわ}.
61	2.奥出雲町	ぢろーわ ぢーさんにしかられた.
61	3.雲南市 A	ぢろーわ おぢぢに しからえた.
61	3.雲南市 B	ぢろーわ ぢさんに しかられた.
61	4.出雲市 A	ぢろーわ {おじじ / じじ (くだけた言い方)}に しからえた.
62	共通語	おれは きのは 新聞を よまなかつた。
62	1.安来市	おらわ きんによあ しんぶんお {よまじやつた /よまだつた}.
62	2.奥出雲町	{おらー / おらわ} {きんによー~きんによ}わ {しんぶん / しんぶんお} よまじやつた.
62	3.雲南市 A	おらわ きんによ しんぶん よまだつた.
62	3.雲南市 B	おらわ きのは しんぶんを よまんかつた.
62	4.出雲市 A	{おら/ おらわ} きんによの しんぶん よまだつた.
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。 きのは これだ。
63	1.安来市	その しんぶんわ きよーの やちだ。 きんによー{の/やち}わ こーだ.
63	2.奥出雲町	その しんぶんわ きよーのだ。 {きんによーのわ / きんによーの ぶんわ} こーだ 《よ》 .
63	3.雲南市 A	その しんぶんわ きよーの だ。 きんによのわ こー だ.
63	3.雲南市 B	その しんぶんわ きよーのだ。 きのは {こーだ / これだ}.
63	4.出雲市 A	その しんぶん きよーのだ。 きんによのわ こーだ.
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。
64	1.安来市	あめの ふゝ ひにわ ばーさんわ おちで てれびばっか みちよー.
64	2.奥出雲町	あめの ふあー {ひわ / ひにわ~ふいにわ} ばーさんわ {うちで / いえで} {てれびばっかー / てれびばっかり} みちよー.
64	3.雲南市 A	あめの ふー ひわ おばばわ いえで てれびばっかー みとー.
64	3.雲南市 B	あめの ふー ひわ おばーさんわ てれびばっかー みとー.
64	4.出雲市 A	あめの ふー ひわ おばばわ {いえ/ おち}で てれびばっか みちよー.
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどつた。
65	1.安来市	いわえの ときにゃー ばーさんまで おどつた{けんなー / わ}.
65	2.奥出雲町	いわいの ときにゃー ばーさんまで {おどつたけんなー / おどつた}.
65	3.雲南市 A	おいわえの とकिनわ おばばまで おどつた.
65	3.雲南市 B	いわいの ときわ ばーさんまで おどつた.
65	4.出雲市 A	いわいの ときに {おばば/ ばば}まで おどつた.
66	共通語	花子は きのはから 病気で ねている。
66	1.安来市	はなこわ きんによーから いたして ねちよーわ.
66	2.奥出雲町	はなこわ きんによーから {びよーきで / いたして} ねちよー.
66	3.雲南市 A	はなこわ きんによから いたして ねとー《が》.
66	3.雲南市 B	はなこわ きのはから {びよーきで / いたして} ねとー.
66	4.出雲市 A	はなこ きんによから {びよーきで/ いたして (痛くて)} ねちよー.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	1.安来市	はなこわ かかに めし かして {もらた / もらった}.
67	2.奥出雲町	はなこわ かーさんに {みし / みしお} {かして もらた / くわしえて もらった}.
67	3.雲南市 A	はなこわ おかさんに めしお くわしえて もらった.
67	3.雲南市 B	はなこわ かーさんに みしお たべさして もらった.
67	4.出雲市 A	はなこわ おかかに めしお くわしえて {もらった / まった}.
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	1.安来市	いしゃさんに もらた くすりお のみゃー なおーだら.
68	2.奥出雲町	{いしゃが ごいた / いしゃから もらった} {く°しりー / く°すりお} のみゃー {なおーだらー / なおーだろー}.
68	3.雲南市 A	いしゃはんが ごえた くすーお {のめば / のみゃ} なおー わな.
68	3.雲南市 B	いしゃが {くりた / ごいた} くすりお ぬみば {なおーだろー / なおーだらー}.
68	4.出雲市 A	いゑあが ごいた {く°すり / く°すー} {のま / のみゃ} なおーわや.
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。
69	1.安来市	かかさんわ いちばえ かいもん に いきちゃった.
69	2.奥出雲町	かーさんわ いちばえ {かえもん に / かいもん に} いった.
69	3.雲南市 A	おかさんわ いちばえ かえもの に いった.
69	3.雲南市 B	かーさんわ いちばえ かいもの に いった.
69	4.出雲市 A	おかわ いちばえ かいもん に いった.
70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	1.安来市	めちで がっこーの しえんしえーに あーた.
70	2.奥出雲町	みちで がっこーの しえんしえーに {あーた / あった}.
70	3.雲南市 A	みちで がっこーの しえんしえーに あった.
70	3.雲南市 B	みちで がっこーの しえんしえーに あった.
70	4.出雲市 A	みちで がっこの しえんしえーに あった.
71	共通語	なにを 買おうか。
71	1.安来市	なに かわーかい 《なー》.
71	2.奥出雲町	なに {かーでー / かーだえ}.
71	3.雲南市 A	なの かわ かえ.
71	3.雲南市 B	なにお かおーか / なにお かーだらー. (質問) / なに かーだらー. (独り言)
71	4.出雲市 A	なに かわか. (人に尋ねる時) / なに かわかいのー. (独り言)
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。
72	1.安来市	かずこのと おんなじ げた はなこにも かつちゃ {ら / ろー}.
72	2.奥出雲町	{かじこ~かずこ}のと {おなじ / いっしょの} {げたー / げたお} はなこにも {かって やらー / かって やらーこい / かーちゃらーか}.
72	3.雲南市 A	かずこのと いっしょな げたお はなこにも かーてやーか.
72	3.雲南市 B	かづこのと おなじ ぎたお はなこにも {かってやーぢ / かってやろー}.
72	4.出雲市 A	かずこと おんなじ げた はなこにも {かつちゃーか / かってやらこい (男ことば) / かってやらや (女ことば)}.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	1.安来市	かずこと はなこわ ともだちだ。
73	2.奥出雲町	かじこと はなこわ {ともだちだ / ともだちだわね}.
73	3.雲南市 A	かずこと はなこわ ともだちだ。
73	3.雲南市 B	かづこと はなこわ ともだちだ。
73	4.出雲市 A	かずこと はなこわ つれだ。
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	1.安来市	はなこわ かおが かかさんに よー にちよー。
74	2.奥出雲町	はなこわ かおが かーさんに {よー / よく} にちよー。
74	3.雲南市 A	はなこわ かおが おかさんに よー にちよー。
74	3.雲南市 B	はなこわ かおが かーさんに よく {にちよー / にとー / にちよる}.
74	4.出雲市 A	はなこわ かおが おかかに よー にちよー。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

出雲方言 動詞例文集（音声記号）

Iz-0001	飛ぶ	共通語	鳩も 鷹も 飛ぶ。
Iz-0001	飛ぶ	1.安来市	hatomo takamo tobu.
Iz-0001	飛ぶ	2.奥出雲町	hatomo takamo tobuuqane.
Iz-0001	飛ぶ	3.雲南市	hatomo takamo {tobu / tondoru / tondo: 《wa》(飛んでいる)}.
Iz-0001	飛ぶ	4.出雲市	hatomo takamo tobu.
Iz-0002	飛ぶ	共通語	今日は 天気が 悪いから 飛行機は 飛ばない。
Iz-0002	飛ぶ	1.安来市	kjouqa tejkiga uqaruken çiko:kiuqa tobanuqa..
Iz-0002	飛ぶ	2.奥出雲町	kjo:uqa tejkiga uqaru:ken çiko:kiuqa tobanuqane.
Iz-0002	飛ぶ	3.雲南市	kjo:wa tejkiga waruikara çiko:kiwa toban 《wa》.
Iz-0002	飛ぶ	4.出雲市	kjo:wa tejk ^s iga waruikara fũiko:k ^s wa {tobanga / tobandzi/ tobenga}.
Iz-0003	飛ぶ	共通語	風で 帽子が 飛んだ。
Iz-0003	飛ぶ	1.安来市	kazede bo:eiga tonda..
Iz-0003	飛ぶ	2.奥出雲町	kazede bo:eiga tonda.
Iz-0003	飛ぶ	3.雲南市	kazede bo:eiga tondawa.
Iz-0003	飛ぶ	4.出雲市	kazede bo:siga tonda.
Iz-0004	飛ぶ	共通語	昨日 帽子が 飛んだ。
Iz-0004	飛ぶ	1.安来市	kijno bo:eiga tonda.
Iz-0004	飛ぶ	2.奥出雲町	kinno bo:eiga tonda.
Iz-0004	飛ぶ	3.雲南市	{k ^s ino:wa~kino:wa} bo:eiga tondawa.
Iz-0004	飛ぶ	4.出雲市	k ^s ino:wa bo:siga tonda.
Iz-0005	飛ぶ	共通語	親鳥が 飛んで、小鳥が 飛んだ。
Iz-0005	飛ぶ	1.安来市	ojado:ga tonde kotoriga tonda.
Iz-0005	飛ぶ	2.奥出雲町	ojado:ga tonde koto:ga tonda.
Iz-0005	飛ぶ	3.雲南市	ojaga tonde komo tondawa.
Iz-0005	飛ぶ	4.出雲市	ojado:ga tonde koto:ga tonda.
Iz-0006	飛ぶ	共通語	昨日は 飛んで、今日は 飛ばない。
Iz-0006	飛ぶ	1.安来市	kijnouqa tonde kjouqa tobanuqa..
Iz-0006	飛ぶ	2.奥出雲町	kinnouqa tonde kjo:uqa tobanna.
Iz-0006	飛ぶ	3.雲南市	{k ^s ino:wa~kino:wa} tondaga kjo:wa tobanwa.
Iz-0006	飛ぶ	4.出雲市	k ^s ino:wa tonde kjo:wa {tobanga / tobenga}.
Iz-0007	飛ぶ	共通語	そこから 飛んで みる。
Iz-0007	飛ぶ	1.安来市	sokoka: tonde {mire / mi:}.
Iz-0007	飛ぶ	2.奥出雲町	sokoka: tonde mi.
Iz-0007	飛ぶ	3.雲南市	sokokara tonde mr:.
Iz-0007	飛ぶ	4.出雲市	sokoka: tonde mr:.
Iz-0008	飛ぶ	共通語	今日は 飛ばないが 昨日は 飛んだ。
Iz-0008	飛ぶ	1.安来市	kjouqa tobanga kijnouqa tonda.
Iz-0008	飛ぶ	2.奥出雲町	kjo:uqa tobanga kinnouqa tonda.
Iz-0008	飛ぶ	3.雲南市	kjo:wa tombanga {k ^s ino:wa~kino:wa} tondazi.
Iz-0008	飛ぶ	4.出雲市	kjo:wa tombanga k ^s ino:wa tonda.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0009	飛ぶ	共通語	思い切って 飛べば いいのに。
Iz-0009	飛ぶ	3.雲南市	tobja i:ɣano.
Iz-0009	飛ぶ	4.出雲市	omoi ^{k̚} itte tobja i:noni.
Iz-0010	飛ぶ	共通語	ここから 飛ぼう。
Iz-0010	飛ぶ	3.雲南市	kokokara tabakoi.
Iz-0010	飛ぶ	4.出雲市	kokokara tabakoi.
Iz-0011	飛ぶ	共通語	飛ぶときは 気をつける。
Iz-0011	飛ぶ	3.雲南市	{tontok̚i~tontoki}wa ki: ts̚ike{ja / jo}.
Iz-0011	飛ぶ	4.出雲市	tontokja {k̚i:~ki:} ts̚ike jo:.
Iz-0101	漕ぐ	共通語	みんなで 舟を 漕ぐ。
Iz-0101	漕ぐ	1.安来市	daremmode φuneo kogu.
Iz-0101	漕ぐ	2.奥出雲町	daremmode φuneo kogu.
Iz-0101	漕ぐ	3.雲南市	minnade φuneo kogakoi. (勧誘) / d̚iteneə kogu. (自転車をこぐ)
Iz-0101	漕ぐ	4.出雲市	minnade φ̚uneo kogu.
Iz-0102	漕ぐ	共通語	(今は) 誰も 舟を 漕がない。
Iz-0102	漕ぐ	1.安来市	daremmo φuneo kogau̚a.
Iz-0102	漕ぐ	2.奥出雲町	imja: da:mo φuneo kogān.
Iz-0102	漕ぐ	3.雲南市	daremo φuneo kogān ja {N / ni} natta. (漕がなくなった)
Iz-0102	漕ぐ	4.出雲市	daremo φuneo {kogəŋga / kogān}.
Iz-0103	漕ぐ	共通語	昔は よく 舟を 漕いだ。
Iz-0103	漕ぐ	1.安来市	mukaea: jo: φuneo koida.
Iz-0103	漕ぐ	2.奥出雲町	mukaea: jo: φune koida.
Iz-0103	漕ぐ	3.雲南市	jo: φune kogjotta. (過去の習慣)
Iz-0103	漕ぐ	4.出雲市	mukaea: jo: φ̚une koida monda.
Iz-0104	漕ぐ	共通語	舟を 漕いで、そのあと 休め。
Iz-0104	漕ぐ	1.安来市	φuneo koide sonoato jasume.
Iz-0104	漕ぐ	2.奥出雲町	φune: koide sonoato tabako̚e:.
Iz-0104	漕ぐ	3.雲南市	φune koide ato jasimae̚ei.
Iz-0104	漕ぐ	4.出雲市	φune koide sono {atowa / ato} {jasime / tabako̚e:}.
Iz-0105	漕ぐ	共通語	舟を 漕いで、隠岐へ 行った。
Iz-0105	漕ぐ	1.安来市	φune koide okie {ittau̚a / ekita}.
Iz-0105	漕ぐ	2.奥出雲町	φune: koide okie itta.
Iz-0105	漕ぐ	3.雲南市	φune koide oki itta.
Iz-0105	漕ぐ	4.出雲市	φ̚une koide okie ik̚itaga.
Iz-0106	漕ぐ	共通語	一人で 舟を 漕いできた。
Iz-0106	漕ぐ	1.安来市	çito:de φune koidekita.
Iz-0106	漕ぐ	2.奥出雲町	çito:de φune koidekita.
Iz-0106	漕ぐ	3.雲南市	φ̚utoride φune koide {k̚ita~k̚ita}.
Iz-0106	漕ぐ	4.出雲市	φ̚utoride {φ̚uneo / φ̚une} koide {k̚itaga~k̚itaga}.
Iz-0107	漕ぐ	共通語	一生懸命 漕げば むこうへ 着くよ。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0107	漕ぐ	3.雲南市	iceokemme: kogja: muko:e tsik ^h uuzi.
Iz-0107	漕ぐ	4.出雲市	iceo:kemme: kogja: muko:e tsik ^h uuga.
Iz-0108	漕ぐ	共通語	みんなで 漕ごう。
Iz-0108	漕ぐ	3.雲南市	kogakoi.
Iz-0108	漕ぐ	4.出雲市	{mmna {de / s ^h ite} /daremmode} kogakoi.
Iz-0109	漕ぐ	共通語	舟を 漕ぐときは 足を 踏んばれ。
Iz-0109	漕ぐ	3.雲南市	φune koguu {tontok ⁱ ~tontoki}wa aci {g ⁱ bame~gibame}.
Iz-0109	漕ぐ	4.出雲市	{φuneo / φune} koguu tokja: {asio / asi} φuumbarejo:.
Iz-0201	行く	共通語	毎日 海へ 行く。
Iz-0201	行く	1.安来市	mainitei umie ikuu ^a ..
Iz-0201	行く	2.奥出雲町	bettabetta (いつも) umi: iku.
Iz-0201	行く	3.雲南市	maenitsi umie {ik ^u / iteo:wa (習慣)}.
Iz-0201	行く	4.出雲市	mam ^r tsi omni ik ^h u.
Iz-0202	行く	共通語	父は 天気が 悪いから 海へは 行かない。
Iz-0202	行く	1.安来市	ojadz ⁱ u ^a tenkiga u ^a ruiken umieu ^a ikanu ^a .
Iz-0202	行く	2.奥出雲町	ojadz ⁱ u ^a tenkiga u ^a ru:ken {umieu ^a / umja:} ikan.
Iz-0202	行く	3.雲南市	ojaziwa tenkiga waruken umie i ^a kanwa.
Iz-0202	行く	4.出雲市	ojaziwa tenk ⁱ ga warukara {ome:wa / ome:} {ik ^a nga / ik ^e nga}.
Iz-0203	行く	共通語	昨日も 海へ 行った。
Iz-0203	行く	1.安来市	kij ⁿ omo umie ekita ^a .
Iz-0203	行く	2.奥出雲町	kinno umi: itta.
Iz-0203	行く	3.雲南市	{k ⁱ no~ki ⁿ o}mo umie itta.
Iz-0203	行く	4.出雲市	k ⁱ no:mo ome: ik ^s itaga.
Iz-0204	行く	共通語	海へ 行って、泳いで きた。
Iz-0204	行く	1.安来市	umie ekite ojoide kita ^a .
Iz-0204	行く	2.奥出雲町	umi: itte ojoide kita.
Iz-0204	行く	3.雲南市	umie itte ojoide {k ^s ita~k ⁱ ta}.
Iz-0204	行く	4.出雲市	ome: ik ^s ite ojoide k ^s itaga.
Iz-0205	行く	共通語	海へは 一人で 行って こい。
Iz-0205	行く	1.安来市	{umieu ^a / umja:} cito:de ekite koi.
Iz-0205	行く	2.奥出雲町	umieu ^a cito:de itte koi.
Iz-0205	行く	3.雲南市	umie φutoride {itte koi ^a /ittara:}.
Iz-0205	行く	4.出雲市	ome:wa φuto ^r ide ik ^s ite koi.
Iz-0206	行く	共通語	それなら 一人で 行こう。
Iz-0206	行く	3.雲南市	sogenara φutoride ik ^u wa.
Iz-0206	行く	4.出雲市	sogenara φuto ^r ide {ikaka: / ik ^h uwa}.
Iz-0207	行く	共通語	山へ 行けば 涼しいだろう。
Iz-0207	行く	3.雲南市	jamae ikja: sizisi:kenno:.
Iz-0207	行く	4.出雲市	jamae ikja sizisi:daraga.
Iz-0208	行く	共通語	行くときは 教えてくれ。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0208	行く	3.雲南市	{ikūtoksi~ikūtoki} wa ittekacete {goee / goita / goeinae}.
Iz-0208	行く	4.出雲市	ikūtokja ittekacete goee:.
Iz-0301	来る	共通語	今日は 父が 家に 来る。
Iz-0301	来る	1.安来市	kjouya ojadziga ieni {kuru / ku:ken}.
Iz-0301	来る	2.奥出雲町	kjo:ya ojadziga uteie ku:.
Iz-0301	来る	3.雲南市	kjo:wa ojaziga utsini k ^h u:wa.
Iz-0301	来る	4.出雲市	kjo:wa ojaziga otsie k ^h u:ga.
Iz-0302	来る	共通語	今日は 母は 来ない。
Iz-0302	来る	1.安来市	kjouya oka:sanuya konuqa.
Iz-0302	来る	2.奥出雲町	kjo:ya ofukuroya kon.
Iz-0302	来る	3.雲南市	kjo:wa oka:sanwa konwa.
Iz-0302	来る	4.出雲市	kjo:wa okakawa konqa.
Iz-0303	来る	共通語	昨日 父が 家に 来た。
Iz-0303	来る	1.安来市	kinno oto:sanga ieni kitauya.
Iz-0303	来る	2.奥出雲町	kinno ojadziga ieni kita.
Iz-0303	来る	3.雲南市	{k ^s jno:~kino:} ojaziga utsini {k ^s itawa~kitawa}.
Iz-0303	来る	4.出雲市	k ^s jno: ojaziga otsi: k ^s itaga.
Iz-0304	来る	共通語	こっちへ 来て、家に 戻った。
Iz-0304	来る	1.安来市	uteie kite ieni endzatta.
Iz-0304	来る	2.奥出雲町	kottei: kite ieni modotta.
Iz-0304	来る	3.雲南市	kotteie {k ^s ite~k ^s ite} utsini indawa.
Iz-0304	来る	4.出雲市	kotsi k ^s ite motsie indaga.
Iz-0305	来る	共通語	こっちへ 早く 来い。
Iz-0305	来る	1.安来市	kottei: haja: ku:dauya.
Iz-0305	来る	2.奥出雲町	kottei: {haja:~haja} koi.
Iz-0305	来る	3.雲南市	kotteie haja kor.
Iz-0305	来る	4.出雲市	kotsie hajakoto kor.
Iz-0306	来る	共通語	こっちへ 来て みろ。
Iz-0306	来る	1.安来市	kottei: kite mi:dauya.
Iz-0306	来る	2.奥出雲町	kottei: kite mi.
Iz-0306	来る	3.雲南市	kottei {k ^s ite~k ^s ite} mi:.
Iz-0306	来る	4.出雲市	kotsie k ^s ite mi:.
Iz-0307	来る	共通語	明日も ここへ 来よう。
Iz-0307	来る	3.雲南市	acitamo kokoe {k ^h u:ka / k ^h u:kar}.
Iz-0307	来る	4.出雲市	asitamo kokoe koraka:.
Iz-0308	来る	共通語	来れば 分かる。
Iz-0308	来る	3.雲南市	k ^h urja: waka:wana.
Iz-0308	来る	4.出雲市	k ^h ura waka:ga.
Iz-0309	来る	共通語	来るときは 気をつけなさい。
Iz-0309	来る	3.雲南市	{k ^u :toksi~k ^u :toki} ki:tikeja.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0309	来る	4.出雲市	k̄ŋu:tokja {k̄i:~ki:} tsikenahæ.
Iz-0401	降る	共通語	2月は よく 雨が 降る。
Iz-0401	降る	1.安来市	nigatsuuja {jo:~jo} amega ŋu:no:.
Iz-0401	降る	2.奥出雲町	nigatsuuja jo: amega ŋu:.
Iz-0401	降る	3.雲南市	nigatsiwa jo: amega ŋu:no:.
Iz-0401	降る	4.出雲市	nigatsiwa jo: amega ŋu:ga.
Iz-0402	降る	共通語	明日は 雨は 降らない。
Iz-0402	降る	1.安来市	acitauja ameuja ŋurandaraka:.
Iz-0402	降る	2.奥出雲町	acita: {ameuja / amja:} ŋuran.
Iz-0402	降る	3.雲南市	acitawa amewa ŋurandzi.
Iz-0402	降る	4.出雲市	asitawa amega {ŋu:inga / ŋuraceŋga}.
Iz-0403	降る	共通語	昨日は 雨が 降った。
Iz-0403	降る	1.安来市	kinno:ja amega ŋuttano:.
Iz-0403	降る	2.奥出雲町	kinno: amega ŋutta.
Iz-0403	降る	3.雲南市	{k̄i:~ki:} wa amega ŋutta.
Iz-0403	降る	4.出雲市	k̄i:wa amega ŋutta.
Iz-0404	降る	共通語	大雨が 降って、日照りが 続いている。
Iz-0404	降る	1.安来市	o:amega ŋutte ŋide:ga tsuzuiteo:no:.
Iz-0404	降る	2.奥出雲町	o:amega ŋutte ŋide:ga tsuzuiteo.
Iz-0404	降る	3.雲南市	o:amega ŋutte erakatta. (大変だった)
Iz-0404	降る	4.出雲市	o:amega ŋutte ŋude:ga tsuzuiteo:.
Iz-0405	降る	共通語	いま 雨が 降っている。
Iz-0405	降る	1.安来市	ema amega ŋutteo:no:.
Iz-0405	降る	2.奥出雲町	ima amega {ŋutteo / ŋutteo:uai}.
Iz-0405	降る	3.雲南市	ima amega {ŋutteo:wa / ŋutteoru}.
Iz-0405	降る	4.出雲市	ima amega {ŋutteo:ga / ŋutteozi}.
Iz-0406	降る	共通語	雨が 降って きた。
Iz-0406	降る	1.安来市	mata amega ŋutte kitauja:.
Iz-0406	降る	2.奥出雲町	amega ŋutte kitauja.
Iz-0406	降る	3.雲南市	amega ŋutte {k̄itawa~k̄itawa}
Iz-0406	降る	4.出雲市	amega ŋutte k̄ita.
Iz-0407	降る	共通語	明日 雨が 降れば いいのに。
Iz-0407	降る	3.雲南市	amega ŋurja: i:wano:.
Iz-0407	降る	4.出雲市	asita amega ŋurja moni.
Iz-0408	降る	共通語	雨が 降るときは 外へ 行かない。
Iz-0408	降る	3.雲南市	amega ŋu: {tok̄i~toki}wa sotoe denwa.
Iz-0408	降る	4.出雲市	amega ŋu: tok̄ja sotoe ikan.
Iz-0501	降りる	共通語	みんな ここで 降りる。
Iz-0501	降りる	1.安来市	daremno koko:de ori:ka:.
Iz-0501	降りる	2.奥出雲町	minna kokode {ori:~ori:}.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0501	降りる	3.雲南市	daremmoga kokode orjokoi. / ora kokode ori:zi. (俺はここで降りるぞ)
Iz-0501	降りる	4.出雲市	mmna kokode ori:.
Iz-0502	降りる	共通語	毎日 そこで 降りる。
Iz-0502	降りる	1.安来市	maipitei sokode ori:ka:.
Iz-0502	降りる	2.奥出雲町	maipitei (いつも) sokode {ori:~ori:}.
Iz-0502	降りる	3.雲南市	ĩtsimo sokode ori:zi.
Iz-0502	降りる	4.出雲市	itsimo sokode {ori:ga / orĩranan}.
Iz-0503	降りる	共通語	私は ここでは 降りない。
Iz-0503	降りる	1.安来市	uataea koko:deuȝa orinuȝa.
Iz-0503	降りる	2.奥出雲町	ora: kokodza: {orĩn~orĩn}.
Iz-0503	降りる	3.雲南市	orawa kokode orĩndzi.
Iz-0503	降りる	4.出雲市	ora kokodewa orĩnga.
Iz-0504	降りる	共通語	ここでは 誰も 降りない。
Iz-0504	降りる	1.安来市	koko:deuȝa daremmo orinuȝa.
Iz-0504	降りる	2.奥出雲町	kokodza: da:mo {orĩn~orĩn}.
Iz-0504	降りる	3.雲南市	kokode darenda: orĩndzi.
Iz-0504	降りる	4.出雲市	kokodewa daremmo {orĩnga / orĩnȝga}.
Iz-0505	降りる	共通語	ここで バスを 降りた。
Iz-0505	降りる	1.安来市	koko:de basuo oritauȝa:.
Iz-0505	降りる	2.奥出雲町	kokode basuo {orita / o:ta}.
Iz-0505	降りる	3.雲南市	orawa kokode basio oritadzi.
Iz-0505	降りる	4.出雲市	kokode basio orita.
Iz-0506	降りる	共通語	バスを 降りて、電話 かけろ。
Iz-0506	降りる	1.安来市	basuo orite denuȝa {e:ȝai / eitegoe / kake:}.
Iz-0506	降りる	2.奥出雲町	basuo {orite / o:te} denuȝao kake:.
Iz-0506	降りる	3.雲南市	basi orite denwa {kake:dawa 《na》 / kakete goitazi}.
Iz-0506	降りる	4.出雲市	basi orite denwa e:.
Iz-0507	降りる	共通語	妹が バスから 降りて きた。
Iz-0507	降りる	1.安来市	imo:toga basukara orite kitauȝa.
Iz-0507	降りる	2.奥出雲町	imo:toga basuka: {orite / o:te} kita.
Iz-0507	降りる	3.雲南市	ĩmotoga basikara orite {kĩtawaw~kĩtawaw}.
Iz-0507	降りる	4.出雲市	ĩmotoga basikara orite kĩata.
Iz-0508	降りる	共通語	ここで 降りれば いいよ。
Iz-0508	降りる	3.雲南市	kokode {orĩraeai / orĩrja: ĩnoni~rĩrja ĩnoni} (降りればいいのに).
Iz-0508	降りる	4.出雲市	kokode orĩrja ĩnoni.
Iz-0509	降りる	共通語	ここで 降りよう。
Iz-0509	降りる	3.雲南市	kokode ori:ka.
Iz-0509	降りる	4.出雲市	kokode orakoi.
Iz-0510	降りる	共通語	降りる人が たくさん いる。
Iz-0510	降りる	3.雲南市	ori: ĩtoga o:zi o:wa.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0510	降りる	4.出雲市	ori: ɸútoga ippai o:ga.
Iz-0601	落ちる	共通語	猿も 木から 落ちる。
Iz-0601	落ちる	1.安来市	sa:mo kika: otei:mondaua.
Iz-0601	落ちる	2.奥出雲町	sa:mo ki:kara otei:.
Iz-0601	落ちる	3.雲南市	sarumo {kʰi~ki}kara otsi:.
Iz-0601	落ちる	4.出雲市	sarumo kʰikara otsi:.
Iz-0602	落ちる	共通語	木を 揺らしても 実(蜜柑)は 落ちない。
Iz-0602	落ちる	1.安来市	kio eracitemo miuɕa oteinno:.
Iz-0602	落ちる	2.奥出雲町	ki: {juraitemo / jura:temo} mi:uɕa otein.
Iz-0602	落ちる	3.雲南市	jusibuttemo miɕa otsin 《wa》.
Iz-0602	落ちる	4.出雲市	{kʰi~ki}o isabuttemo miɕa otsienɕa.
Iz-0603	落ちる	共通語	兄が 木から 落ちた。
Iz-0603	落ちる	1.安来市	aɲikiga kikara oteita.
Iz-0603	落ちる	2.奥出雲町	aɲiga ki:kara oteita.
Iz-0603	落ちる	3.雲南市	ansanga {kʰi~ki}kara otsita.
Iz-0603	落ちる	4.出雲市	aniga {kʰikara~kʰikara} otsitaɕa.
Iz-0604	落ちる	共通語	兄は 木から 落ちて、今は 病院に いる。
Iz-0604	落ちる	1.安来市	anteanuɕa kikara oteite ema: bjo:inpi o:uɕa:.
Iz-0604	落ちる	2.奥出雲町	aɲiuɕa ki:kara oteite imauɕa bjo:inpi o:.
Iz-0604	落ちる	3.雲南市	anteanwa {kʰi~ki}kara otsite imawa bjo:inni o:wa.
Iz-0604	落ちる	4.出雲市	aniga {kʰikara~kʰikara} otsite imawa bjo:inni o:ga.
Iz-0605	落ちる	共通語	棚から 荷物が 落ちて きた。
Iz-0605	落ちる	1.安来市	tana:kara nemotsuga oteite kita.
Iz-0605	落ちる	2.奥出雲町	tanakara pimotsuga oteite kita.
Iz-0605	落ちる	3.雲南市	tanakara nimotsiga otsite {kʰita~kʰita}.
Iz-0605	落ちる	4.出雲市	tanakara imotsiga otsite kʰita.
Iz-0701	落とす	共通語	子どもが 柿の実を 落とす。
Iz-0701	落とす	1.安来市	kodomo:ga kakinomio otosu.
Iz-0701	落とす	2.奥出雲町	kodomoga kakinomio otosuken.
Iz-0701	落とす	3.雲南市	kodomoga {kakʰino~kakʰino} mio otosi.
Iz-0701	落とす	4.出雲市	kodomoga kakʰino mio otosi.
Iz-0702	落とす	共通語	よい子は 木の実を 落とさない。
Iz-0702	落とす	1.安来市	e:kouɕa kinomio otosanɕa.
Iz-0702	落とす	2.奥出雲町	joikouɕa kinomio otosan.
Iz-0702	落とす	3.雲南市	ɨ:kowa kinomiwa otosan.
Iz-0702	落とす	4.出雲市	i:kowa kʰinomio otoeenzi.
Iz-0703	落とす	共通語	昨日 井戸に 石を 落とした。
Iz-0703	落とす	1.安来市	kijno edoɲi eɕio {otocita / otoita}.
Iz-0703	落とす	2.奥出雲町	kinno {ido~edo}ɲi {ieio~eɕio} otoita.
Iz-0703	落とす	3.雲南市	{kʰino:~kʰino:} otoita.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0703	落とす	4.出雲市	k ^s i ^{no} : idon ⁱ isi otorta.
Iz-0704	落とす	共通語	帽子を 落として、取りに 行った。
Iz-0704	落とす	1.安来市	bo:eio otoite to:ni ekita.
Iz-0704	落とす	2.奥出雲町	bo:eio otoite to:ni itta.
Iz-0704	落とす	3.雲南市	bo:eio otoite torini jitta.
Iz-0704	落とす	4.出雲市	bo:sio otorte tomi ik ^s ita.
Iz-0705	落とす	共通語	木に 登って 実を 落として くれ。
Iz-0705	落とす	1.安来市	kiji nobotte mi otosite gocejai.
Iz-0705	落とす	2.奥出雲町	ki: nobotte mio otoite goce.
Iz-0705	落とす	3.雲南市	{k ^s i~ki}ni nobotte mio otoite gose.
Iz-0705	落とす	4.出雲市	k ^s ini nobotte mio otoite goce.
Iz-0706	落とす	共通語	うまく 落とせば 傷が つかない。
Iz-0706	落とす	3.雲南市	i:guwaini otoea {k ^s izi~kizi}ga tsjkanzo.
Iz-0706	落とす	4.出雲市	dzo:zini otoea: k ^s iza: {tsikan ^{ga} / tsikeh ^{en} ga}.
Iz-0707	落とす	共通語	木に 登って 実を 落とそう。
Iz-0707	落とす	3.雲南市	{k ^s i~ki}ni nobotte mio otosakoi.
Iz-0707	落とす	4.出雲市	k ^s ini nobotte mio otosakoi.
Iz-0708	落とす	共通語	実を おとすときは 気を つけよう。
Iz-0708	落とす	3.雲南市	mi: otosu {tok ^s i~toki}niwa ki: tsjke:ja.
Iz-0708	落とす	4.出雲市	mio otosi tokja {k ^s i:~ki:} tsjke jo:.
Iz-0801	蹴る	共通語	馬も 人を 蹴る。
Iz-0801	蹴る	1.安来市	omamo ϕ uto: ke:u ^{ai} .
Iz-0801	蹴る	2.奥出雲町	umamo ϕ uto: ke:.
Iz-0801	蹴る	3.雲南市	umamo ϕ ito: keru.
Iz-0801	蹴る	4.出雲市	omamo ϕ uto: kei.
Iz-0802	蹴る	共通語	おとなしい 馬は 人を 蹴らない。
Iz-0802	蹴る	1.安来市	otonaei oma ^u a ϕ uto: keranu ^{ai} .
Iz-0802	蹴る	2.奥出雲町	otonaei: uma ^u a ϕ uto: keran.
Iz-0802	蹴る	3.雲南市	otonasi: umawa ϕ ito: keranzo.
Iz-0802	蹴る	4.出雲市	otonasi: omawa ϕ uto: keran ^{ga} .
Iz-0803	蹴る	共通語	昨日 あの 馬は 人を 蹴った。
Iz-0803	蹴る	1.安来市	kij ^{no} ano oma ^u a ϕ uto: kettagen ^a .
Iz-0803	蹴る	2.奥出雲町	kinno ano uma ^u a ϕ uto: ketta.
Iz-0803	蹴る	3.雲南市	{k ^s i ^{no} :~kij ^{no} :} ano umawa ϕ ito ketta.
Iz-0803	蹴る	4.出雲市	k ^s i ^{no} :wa ano omawa ϕ uto ketta.
Iz-0804	蹴る	共通語	主(あるじ)を 蹴って、逃げ去った。
Iz-0804	蹴る	1.安来市	ojad ^z isan kette nigetagenau ^a .
Iz-0804	蹴る	2.奥出雲町	arudzio kette nigetetta.
Iz-0804	蹴る	3.雲南市	ϕ ito: kette nigeta.
Iz-0804	蹴る	4.出雲市	aruzio kette nigete ik ^s ita.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0805	蹴る	共通語	その ボールを ここに 蹴って くれ。
Iz-0805	蹴る	1.安来市	sokono bo:ruo kokoe kette goee.
Iz-0805	蹴る	2.奥出雲町	sono bo:ruo kokoni kette goee.
Iz-0805	蹴る	3.雲南市	sono bo:ruu kokoni kette gose.
Iz-0805	蹴る	4.出雲市	sono bo:ruo kokoni kette goee.
Iz-0806	蹴る	共通語	強く 蹴れば そこまで 飛ぶだろう。
Iz-0806	蹴る	3.雲南市	gaini kerja sokomade tonzi.
Iz-0806	蹴る	4.出雲市	gamu kerja sokomade tondara.
Iz-0807	蹴る	共通語	ボールを 蹴ろう。
Iz-0807	蹴る	3.雲南市	bo:ruo ke:zo. (意志) / iεconi kerakoi. (勧誘)
Iz-0807	蹴る	4.出雲市	bo:ru kerakoi.
Iz-0808	蹴る	共通語	ボールを 蹴るときは 足を 伸ばせ。
Iz-0808	蹴る	3.雲南市	bo:ruo ke: {toki ⁱ ~toki} wa asi nobaseja:.
Iz-0808	蹴る	4.出雲市	bo:ruo ke: tokja asi nobae:.
Iz-0901	捨てる	共通語	父が 毎日 ゴミを 捨てる。
Iz-0901	捨てる	1.安来市	ojadziga ma:iñitei gomio sute:.
Iz-0901	捨てる	2.奥出雲町	teiteiga mainitei gomi: sute:.
Iz-0901	捨てる	3.雲南市	ojaziga maenitsi gomı {sıteru / sıte:wa}.
Iz-0901	捨てる	4.出雲市	ojaziga mamıtsi gomı sıte:.
Iz-0902	捨てる	共通語	明日も 捨てる。
Iz-0902	捨てる	1.安来市	acitamo sute:ıya.
Iz-0902	捨てる	2.奥出雲町	acitamo sute:.
Iz-0902	捨てる	3.雲南市	aeıtamo sıte:wa.
Iz-0902	捨てる	4.出雲市	asıtamo sıte:.
Iz-0903	捨てる	共通語	祖母は 古い 着物も 捨てない。
Iz-0903	捨てる	1.安来市	obabaıya φuru ki:mommo {sutenga / sutetearanga}.
Iz-0903	捨てる	2.奥出雲町	obabaıya φuru: kimommo suten.
Iz-0903	捨てる	3.雲南市	φurui monno sıtenwa.
Iz-0903	捨てる	4.出雲市	ba:sanwa φurı: kımondemo {sıtenga / sıteranga / sıteεenga/ sıteheंगा}.
Iz-0904	捨てる	共通語	古い 道具は おととい 捨てた。
Iz-0904	捨てる	1.安来市	φuru do:guıya {ototsui / konaida} suteta.
Iz-0904	捨てる	2.奥出雲町	φuru: do:guıya ototoi suteta.
Iz-0904	捨てる	3.雲南市	φurui do:guıwa ototsii sıteta.
Iz-0904	捨てる	4.出雲市	φurı: do:guıwa ototoi {sıtete / sıtete simatta}.
Iz-0905	捨てる	共通語	古い ものは 捨てて、新しい ものを 買え。
Iz-0905	捨てる	1.安来市	φuru monıya sutete ataraei: mon kaejai.
Iz-0905	捨てる	2.奥出雲町	φuru: monıya sutete ataraei: mono kae.
Iz-0905	捨てる	3.雲南市	φurui mono: sıtete ataraei: mon kae:ja.
Iz-0905	捨てる	4.出雲市	φurı: monwa sıtete atarasi: mon kae.
Iz-0906	捨てる	共通語	ゴミを そこに 捨てて くれ。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0906	捨てる	1.安来市	gomjo: sokontokoe {sutejai / sutete goeinahai}.
Iz-0906	捨てる	2.奥出雲町	gomi: sokoni sutete goee.
Iz-0906	捨てる	3.雲南市	gomio sokoni s̄tete gose.
Iz-0906	捨てる	4.出雲市	gomio sokomi s̄tete goee.
Iz-0907	捨てる	共通語	そんなもの 捨てれば いいのに。
Iz-0907	捨てる	3.雲南市	sogenamono s̄terja j̄.
Iz-0907	捨てる	4.出雲市	sogjamon s̄terja r̄:danika.
Iz-0908	捨てる	共通語	ゴミを 捨てよう。
Iz-0908	捨てる	3.雲南市	kjo: gomi {s̄teokoi (勧誘) / s̄te:zi (意志)}.
Iz-0908	捨てる	4.出雲市	gomi s̄tera ja:.
Iz-0909	捨てる	共通語	捨てるものと 捨てないものを 分けなさい。
Iz-0909	捨てる	3.雲南市	s̄te:monto s̄temmon wakjokoi.
Iz-0909	捨てる	4.出雲市	s̄te:monto s̄temmonto wakeraceai.
Iz-1001	出す	共通語	庭に 荷物を 出す。
Iz-1001	出す	1.安来市	niujani nimotsuo dasuka:.
Iz-1001	出す	2.奥出雲町	niujani nimotsuo dasu.
Iz-1001	出す	3.雲南市	niwani nimotsio {dasakoi (勧誘) / dasizi (意志)}.
Iz-1001	出す	4.出雲市	nirwani nimotsi dasi.
Iz-1002	出す	共通語	雨の ときには 外には 荷物を 出さない。
Iz-1002	出す	1.安来市	ameno tokja sotojanan̄kae nimotsuo {dasan / dasumondzane:ujai / dace: ikenuja}.
Iz-1002	出す	2.奥出雲町	ameno tokija sotoja nimotsuo dasan.
Iz-1002	出す	3.雲南市	nimotsio dasandzi.
Iz-1002	出す	4.出雲市	ameno tokja sotoe nimotsio darenda (誰も) {dasanja / dasahenga / dacenga / darta ikenga (出したらいけない)}.
Iz-1003	出す	共通語	友達が 荷物を 外に 出した。
Iz-1003	出す	1.安来市	tomodateiga nimotsuo sotoe {daite / daete} eimattauja.
Iz-1003	出す	2.奥出雲町	tomodateiga nimotsuo sotoji daita.
Iz-1003	出す	3.雲南市	daita.
Iz-1003	出す	4.出雲市	tomodatsiga nimotsi soton̄i darta.
Iz-1004	出す	共通語	荷物を 外に 出して、それから 帰れ。
Iz-1004	出す	1.安来市	nimotsuo sotoe {daite / daiteoite} so:kara enejai.
Iz-1004	出す	2.奥出雲町	nimotsuo sotoji daite so:kara ine.
Iz-1004	出す	3.雲南市	daite j̄ne.
Iz-1004	出す	4.出雲市	nimotsio soton̄i darte he:kara me.
Iz-1005	出す	共通語	早く 荷物を 出して こい。
Iz-1005	出す	1.安来市	haja nimotsuo daite {goee / daiteoite kojai}.
Iz-1005	出す	2.奥出雲町	haja: nimotsuo daite koi.
Iz-1005	出す	3.雲南市	haja nimotsio daite koi.
Iz-1005	出す	4.出雲市	hajakoto nimotsi daite kor.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1006	出す	共通語	今日 出せば 明日 着くだろう。
Iz-1006	出す	3.雲南市	kjo: daca aeṡta {tsikuwa/ tsikuuzi}.
Iz-1006	出す	4.出雲市	kjo: daca asṡta tsikṡu daraga.
Iz-1007	出す	共通語	明日 出そう。
Iz-1007	出す	3.雲南市	aeṡta dasakoi.
Iz-1007	出す	4.出雲市	asṡta {daso: / dasakor}.
Iz-1008	出す	共通語	荷物を 出すときは 言ってくれ。
Iz-1008	出す	3.雲南市	dasu tokja tego su:ken ṡtte go.
Iz-1008	出す	4.出雲市	nṡmotsi dasṡ tokja ṡtte goe.
Iz-1101	やる	共通語	いつも 私は 弟に お菓子を やる。
Iz-1101	やる	1.安来市	etsumo ora: ototoni kuṡacio jaru.
Iz-1101	やる	2.奥出雲町	itsumo ora: oto:toni kaei ja:ga.
Iz-1101	やる	3.雲南市	itsṡmo ototoni kaeio {jaru}.
Iz-1101	やる	4.出雲市	ṡtsimo ototoni k ^w asi ja:ga.
Iz-1102	やる	共通語	毎日 弟に 菓子を やっている。
Iz-1102	やる	1.安来市	maipitei ototoni kuṡacio jattee:uṡa.
Iz-1102	やる	2.奥出雲町	maipitei oto:toni kaei jatteeo.
Iz-1102	やる	3.雲南市	mainṡsi ototoni kasi jatteeoru.
Iz-1102	やる	4.出雲市	manṡsi ototoni k ^w asi {jatteeo / jatteeo:ga}.
Iz-1103	やる	共通語	弟は 兄に お菓子を やらない。
Iz-1103	やる	1.安来市	ototouṡa anteanpi kuṡacio jaran.
Iz-1103	やる	2.奥出雲町	oto:touṡa apṡni kaei jaran.
Iz-1103	やる	3.雲南市	oto:towa {anik ⁱ ~aniki}ni kasi jaran.
Iz-1103	やる	4.出雲市	ototowa anṡni k ^w asi {jaranga / jarehenga}.
Iz-1104	やる	共通語	昨日 弟に 飴を やった。
Iz-1104	やる	1.安来市	kṡjṡno ototoni ameo jatta.
Iz-1104	やる	2.奥出雲町	kinno oto:toni ame jatta.
Iz-1104	やる	3.雲南市	{k ^s ṡno:~kṡno:} ototoni ameo jatta.
Iz-1104	やる	4.出雲市	k ^s ṡno: ototoni ame jatta 《ga》.
Iz-1105	やる	共通語	馬に 草を やって、畑に 行った。
Iz-1105	やる	1.安来市	omṡni kusao jatte hatakeṡni ekita.
Iz-1105	やる	2.奥出雲町	umṡni kusa jatte hatake e.tta.
Iz-1105	やる	3.雲南市	kṡsa jatte hatakeni deta.
Iz-1105	やる	4.出雲市	omanṡ kṡsa jatte {hatakeni / hatake} ikṡtaga.
Iz-1106	やる	共通語	牛に 草を やって ごらん。
Iz-1106	やる	1.安来市	oeṡni kusao jatte mi:.
Iz-1106	やる	2.奥出雲町	ueṡni kusa {jatteeke / jatteeotte goe / jatteeoite gosankane / jatte minṡkaja}.
Iz-1106	やる	3.雲南市	ueini kṡsa jatte mi:.
Iz-1106	やる	4.出雲市	osṡni kṡsa jatte maece:.
Iz-1107	やる	共通語	牛には この草を やれば いいよ。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1107	やる	3.雲南市	kono kũsa {jarja~jara} i:.
Iz-1107	やる	4.出雲市	osinrwa kono k̄ũsa jarja r:noni.
Iz-1108	やる	共通語	牛に 草を やろう。
Iz-1108	やる	3.雲南市	uein kũsa jarakoi.
Iz-1108	やる	4.出雲市	osini k̄ũsa {jara: / jarakoi}.
Iz-1109	やる	共通語	牛に 草を やるときは 気を つけなさい。
Iz-1109	やる	3.雲南市	usin kũsa ja: {tok'i~toki} ki: tsjke:ja.
Iz-1109	やる	4.出雲市	osini k̄ũsa ja: tokja {k'i:~ki:} {tsjkenahae tsjkeracee: jo}.
Iz-1201	もらう	共通語	漁師から 魚を もらう。
Iz-1201	もらう	1.安来市	rjo:eikara sakanao mora:.
Iz-1201	もらう	2.奥出雲町	rjo:eikara sakana: mora:.
Iz-1201	もらう	3.雲南市	sakanao morau.
Iz-1201	もらう	4.出雲市	rjo:sj̄kara sakana mora: {ga /zi}.
Iz-1202	もらう	共通語	小さい カニは 誰も もらわない。
Iz-1202	もらう	1.安来市	kome kaniuqa daremmo morauanqa:.
Iz-1202	もらう	2.奥出雲町	tei:sana kaniuqa da:mo morauan.
Iz-1202	もらう	3.雲南市	kono tsi:kaniwa daremo morawanwa.
Iz-1202	もらう	4.出雲市	kome ganrwa daremmo {morawanqa / morahenga}.
Iz-1203	もらう	共通語	隣の 家から 大根を もらった。
Iz-1203	もらう	1.安来市	tona:no uteikara daiko {morattauqa / mora:tauqa}.
Iz-1203	もらう	2.奥出雲町	tona:no iekara daikonma:ta.
Iz-1203	もらう	3.雲南市	tonarikara daekon moratta.
Iz-1203	もらう	4.出雲市	tona:ikara daikon {mattaga / gortaga}.
Iz-1204	もらう	共通語	大きな 魚を もらって、みんなで 分けた。
Iz-1204	もらう	1.安来市	okkina sakanao {moratte / mora:te} daremmode uaketauqa.
Iz-1204	もらう	2.奥出雲町	gaina sakana: ma:te daremmode uaketa.
Iz-1204	もらう	3.雲南市	o:kina sakanao moratte daremmode waketa.
Iz-1204	もらう	4.出雲市	okkjan sakana matte minnade waketa.
Iz-1205	もらう	共通語	親戚から 味噌を もらって きた。
Iz-1205	もらう	1.安来市	ojakokara miso {moratte / mora:te} kitade:.
Iz-1205	もらう	2.奥出雲町	einekikara miso ma:te kita.
Iz-1205	もらう	3.雲南市	moratte {kʰita~kʰita}.
Iz-1205	もらう	4.出雲市	sinsekʰikara miso matte kʰitaga.
Iz-1206	もらう	共通語	遠慮せずに もらえば いいよ。
Iz-1206	もらう	3.雲南市	{zig'i~zigi} sesj̄kone morarwa i:wana.
Iz-1206	もらう	4.出雲市	enrjo sazi:ni mara r:noni.
Iz-1207	もらう	共通語	いないなら 私が もらおう。
Iz-1207	もらう	3.雲南市	irana oraga mora:zi.
Iz-1207	もらう	4.出雲市	irannara oraga mora:.
Iz-1208	もらう	共通語	お小遣いを もらうときは お礼を 言いなさい。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1208	もらう	3.雲南市	kozikai mora: {tok ^s i~toki} re: jeja.
Iz-1208	もらう	4.出雲市	okozikaio mora: tok ^s i ⁿ iwa ore: iwaeae.
Iz-1301	飲む	共通語	喉が 乾いたら 水を 飲む。
Iz-1301	飲む	1.安来市	nodoga kawaetara {mizu~mizi}demo {noma:koi~numa:koi}.
Iz-1301	飲む	2.奥出雲町	nodoga kawaetara mizu nonjo.
Iz-1301	飲む	3.雲南市	nodo çittaken mizu nomu.
Iz-1301	飲む	4.出雲市	nodoga kawaitaken mizu o nomuwane.
Iz-1302	飲む	共通語	私も 飲む。
Iz-1302	飲む	1.安来市	adammo nonjka:.
Iz-1302	飲む	2.奥出雲町	adannonjo.
Iz-1302	飲む	3.雲南市	oramo nomu.
Iz-1302	飲む	4.出雲市	uteimo {nomujo / nomuwane}.
Iz-1303	飲む	共通語	私の 夫は 酒を 飲まない。
Iz-1303	飲む	1.安来市	utsino oto:osaŋwa sakijanaŋka {noman / nondzanae ken / nomaheno~numaheno:}.
Iz-1303	飲む	2.奥出雲町	utsi ₁ no oto:sanwa sake nomanjo.
Iz-1303	飲む	3.雲南市	uteino suuŋa sake nomanjo.
Iz-1303	飲む	4.出雲市	uteino ototsanwa sake o nomanwane.
Iz-1304	飲む	共通語	お茶は さっき 飲んだ。
Iz-1304	飲む	1.安来市	otawa {immasakkw ⁱ / immasakke} nonda ken imawa iran wae (今はいらない).
Iz-1304	飲む	2.奥出雲町	otawa immasakki nonda.
Iz-1304	飲む	3.雲南市	otauŋa mo:teitto maeni nonda.
Iz-1304	飲む	4.出雲市	otauŋa sakki {nondauŋane / nonda bakkari dagane}.
Iz-1305	飲む	共通語	薬を 飲んで、早く 寝ろ。
Iz-1305	飲む	1.安来市	kusuri nonde haja: {nere: / nero: / neŋa:}.
Iz-1305	飲む	2.奥出雲町	kusuri nonde haja {nero / nenahaija / nere / neeja}.
Iz-1305	飲む	3.雲南市	kusu nonde haja ne:ja.
Iz-1305	飲む	4.出雲市	kusurio nonde hajakoto ne:dauŋa.
Iz-1306	飲む	共通語	この 薬は 甘いから 飲んで みなさい。
Iz-1306	飲む	1.安来市	kono kusuriwana: amaibundaken {nondemi:ja / nondemisaeae}.
Iz-1306	飲む	2.奥出雲町	kono kusuriwa amaekara nonde mina haeja.
Iz-1306	飲む	3.雲南市	kono kusu amaiken nonde mi:ja.
Iz-1306	飲む	4.出雲市	nontokiŋa kono kusuriwa ameken nonde mi:dauŋa.
Iz-1307	飲む	共通語	この 薬を 飲めば 治る。
Iz-1307	飲む	3.雲南市	kono kusu nomja nao:uŋai.
Iz-1307	飲む	4.出雲市	kono kusurio {nondara / nonda:} nao:uŋane.
Iz-1308	飲む	共通語	薬を 飲もう。
Iz-1308	飲む	3.雲南市	kusu {nomo: / noma:ka}.
Iz-1308	飲む	4.出雲市	kusu {nomaka / nomuŋane / nondemirakana}.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-1309	飲む	共通語	飲むときは 水で 飲め。
Iz-1309	飲む	3.雲南市	nomu tokja mizude nomejo.
Iz-1309	飲む	4.出雲市	mizude nondauane.
Iz-1401	食べる	共通語	沖縄では ヘチマを 食べる。
Iz-1401	食べる	1.安来市	okinawadza: heteimajananka {ku:genawa: / kutteo:daka:}.
Iz-1401	食べる	2.奥出雲町	okinawadewa heteima tabe:jo.
Iz-1401	食べる	3.雲南市	okinawadza heteimao {ku: / tabe:}.
Iz-1401	食べる	4.出雲市	okinawadeuqa heteimao tabe:. / okinawqa heteima taberu
Iz-1402	食べる	共通語	そのの 家族は みんな ヘチマを 食べる。
Iz-1402	食べる	1.安来市	asukono ieno ei:wa heteimajananka ku:toja.
Iz-1402	食べる	2.奥出雲町	asukono kazokuwa {minna~minna} heteima tabeejo.
Iz-1402	食べる	3.雲南市	{asukono ieuqa / sokono kazoku} minna {heteimao / heteima} {kutto: / taberu}.
Iz-1402	食べる	4.出雲市	sokono kazokuuqa gotto heteimao tabe:uane.
Iz-1403	食べる	共通語	この辺りの人は ヘチマを 食べない。
Iz-1403	食べる	1.安来市	kokono henza heteimajananka {ku:heno / ku:hende}.
Iz-1403	食べる	2.奥出雲町	konohenno citowa heteima tabenwa.
Iz-1403	食べる	3.雲南市	kono {henno / atarino} {futouqa / cito} {heteimao / heteima} {k ^w anjo / tabenjo / tabenai}.
Iz-1403	食べる	4.出雲市	kono henno futouqa heteimao tabenauane / kono atarino cito heteima tabenai.
Iz-1404	食べる	共通語	ニガウリは 昨日 食べた。
Iz-1404	食べる	1.安来市	go:jawa kinno: kutta ken kjo:wa iranwa (今日(は)いいらない).
Iz-1404	食べる	2.奥出雲町	nigauri kinno tabeta.
Iz-1404	食べる	3.雲南市	nigauriuqa kinno {kutta / tabeta}.
Iz-1404	食べる	4.出雲市	nigauriuqa kijo: {tabeta / kuttauane}.
Iz-1405	食べる	共通語	昼ご飯を 食べて、寝ろ。
Iz-1405	食べる	1.安来市	eurumecio kutte {nere: / nero:}.
Iz-1405	食べる	2.奥出雲町	çirugohan {tabete / ku:te} {nero / nenahaija}.
Iz-1405	食べる	3.雲南市	tsu:han kutte nero .
Iz-1405	食べる	4.出雲市	çirumecio kutte ne:dauqa.
Iz-1406	食べる	共通語	夕ご飯は 食べて きた。
Iz-1406	食べる	1.安来市	{bammeci~bammeci}wa kutte kita.
Iz-1406	食べる	2.奥出雲町	ju:han ku:te kita.
Iz-1406	食べる	3.雲南市	bammeca kutte kita .
Iz-1406	食べる	4.出雲市	ju:meciua kutte kitauane.
Iz-1407	食べる	共通語	山羊は 草を 食う。
Iz-1407	食べる	1.安来市	jagiwa kusao nambodemo ku:zo:.
Iz-1407	食べる	2.奥出雲町	jagiwa kusao ku: jo.
Iz-1407	食べる	3.雲南市	jagiuqa kusao ku: .
Iz-1407	食べる	4.出雲市	jagiuqa kusao {kugenuqa / ku:raei:}.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1408	食べる	共通語	山羊は 紙を 食わない。
Iz-1408	食べる	1.安来市	jagiwa {kamijanɔŋkɛ: / kamijanɔŋkæ} kʷa:heno.
Iz-1408	食べる	2.奥出雲町	jagiwa kamiwa kʷaŋwa.
Iz-1408	食べる	3.雲南市	jagiuɔa kamio {kʷaŋ / tabɛn / kʷahɛn}.
Iz-1408	食べる	4.出雲市	jagiuɔa kamio kʷaŋ.
Iz-1409	食べる	共通語	猫が 魚を 食った。
Iz-1409	食べる	1.安来市	nekoga sakana kuttatoja.
Iz-1409	食べる	2.奥出雲町	nekoga sakanao ku:ta.
Iz-1409	食べる	3.雲南市	nekoga sakanao kutta .
Iz-1409	食べる	4.出雲市	nekoga sakanao kuttauɔane.
Iz-1410	食べる	共通語	魚を 食って、すぐに 逃げた。
Iz-1410	食べる	1.安来市	sakanao kutte zikipi niɔgetawa:.
Iz-1410	食べる	2.奥出雲町	sakana ku:te ziki niɔgetawa.
Iz-1410	食べる	3.雲南市	sakanao kutte sugu niɔgeta.
Iz-1410	食べる	4.出雲市	sakana o kutte ɔzikipi niɔgetauɔane.
Iz-1411	食べる	共通語	全部 食って しまった。
Iz-1411	食べる	1.安来市	ɔzembu taeragete eimatta.
Iz-1411	食べる	2.奥出雲町	ɔzembu ku:te eima:tawa.
Iz-1411	食べる	3.雲南市	mina kutte eimatta.
Iz-1411	食べる	4.出雲市	gotto kutte eimattauɔane.
Iz-1412	食べる	共通語	もっと 食べれば いいのに。
Iz-1412	食べる	3.雲南市	motto {kuja / tabɛrja} e:ɲino:.
Iz-1412	食べる	4.出雲市	motto {kuttara ɛɲi / tabɛreba ɛɲi / kʷaɲiɲi}.
Iz-1413	食べる	共通語	少しだけ 食べよう。
Iz-1413	食べる	3.雲南市	teombœi {tabɛraka / ku:uɔa / kueja (命令)}.
Iz-1413	食べる	4.出雲市	{teombœi / teombodake} {kukane / ku:kane / ku:wane}.
Iz-1414	食べる	共通語	ご飯を 食べる時は 静かに ください。
Iz-1414	食べる	3.雲南市	mecio {ku: / tabɛ:} tokiuɔa eizukani ɛɛ: .
Iz-1414	食べる	4.出雲市	meci ku: tokiuɔa eizukani {su:ɔauɔane / saɛɛai}.
Iz-1501	酔う	共通語	この 酒は すぐに 酔う。
Iz-1501	酔う	1.安来市	kono sakewa haja: mawattawa:.
Iz-1501	酔う	2.奥出雲町	kono sake ziki jo:ne.
Iz-1501	酔う	3.雲南市	kono sakeuɔa ɔziki mauɔa:kenno:.
Iz-1501	酔う	4.出雲市	kono omikiuɔa ɔzikipi {jo:uɔane / jo:zune}.
Iz-1502	酔う	共通語	彼は どんなに 飲んでも 酔わない。
Iz-1502	酔う	1.安来市	aitsuwa nambo nondemo {jowahɛnwa /jowaɛɛŋkɛn / jowaɛɛeno}.
Iz-1502	酔う	2.奥出雲町	taro:wa nambonondemo jowanwa.
Iz-1502	酔う	3.雲南市	anosuɔa nambo nondemo jouɔaŋ.
Iz-1502	酔う	4.出雲市	ano suuɔa dogɛɲi nondemo jouɔaŋuɔane.
Iz-1503	酔う	共通語	おとといは たくさん 飲んで 酔った。

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1503	酔う	1.安来市	konaedawa gaeni nonde {mawattawa / nanto jo:ta}.
Iz-1503	酔う	2.奥出雲町	ototoiwa dzankoto nonde jo:tawa.
Iz-1503	酔う	3.雲南市	ototsuiya dzandzan nonde jotta.
Iz-1503	酔う	4.出雲市	ototsuiya magepi nonde jottauane.
Iz-1504	酔う	共通語	彼は 酔って、昨日の ことを 忘れている。
Iz-1504	酔う	1.安来市	aitsuwa nomarete kinno:no koto bo:do oboeteoranwa.
Iz-1504	酔う	2.奥出雲町	taro:wa jo:te kinno:no koto wasurete:wa.
Iz-1504	酔う	3.雲南市	anosuwa jotte kippono koto uasurete:uwa.
Iz-1504	酔う	4.出雲市	ano suwa jotte kijo:no koto uasurete:uane.
Iz-1505	酔う	共通語	酒を 飲んで 酔って しまった。
Iz-1505	酔う	1.安来市	nomisugite jo:te eimattawa.
Iz-1505	酔う	2.奥出雲町	sake: nonde jo:te eima:tawa.
Iz-1505	酔う	3.雲南市	sakeo nonde jotte eimatta.
Iz-1505	酔う	4.出雲市	sake nonde jotte eimattaua.
Iz-1506	酔う	共通語	弟は 酔えば あばれる。
Iz-1506	酔う	3.雲南市	oto:toua {joja: / jo:to} abare:.
Iz-1506	酔う	4.出雲市	oto:toua jottara abare:uane.
Iz-1601	寝る	共通語	弟は 一人で 寝る。
Iz-1601	寝る	1.安来市	aetsuwa çitoride nambodemo ne:wae.
Iz-1601	寝る	2.奥出雲町	oto:towa çitoride ne:jo.
Iz-1601	寝る	3.雲南市	oto:toua futo:de {neru / neuwa}.
Iz-1601	寝る	4.出雲市	oto:toua futo:de ne:uane.
Iz-1602	寝る	共通語	妹は 一人では 寝ない。
Iz-1602	寝る	1.安来市	imo:towa çitoridza: nerja:heno.
Iz-1602	寝る	2.奥出雲町	imo:towa çitoride nenjo.
Iz-1602	寝る	3.雲南市	imo:toua futo:dza nenjo:.
Iz-1602	寝る	4.出雲市	imo:toua futo:deuwa {nerauane / nenuane}.
Iz-1603	寝る	共通語	ゆうべは 二人で 寝た。
Iz-1603	寝る	1.安来市	jombewa futaride neta 《gena》 wa.
Iz-1603	寝る	2.奥出雲町	jombewa futa:ride netajo.
Iz-1603	寝る	3.雲南市	jombeuwa futa:de neta.
Iz-1603	寝る	4.出雲市	jombeuwa futa:de netauane.
Iz-1604	寝る	共通語	9時に 寝て、8時に 起きた。
Iz-1604	寝る	1.安来市	kuzipi nete hatezipi {okitatomoe / miga sameta}.
Iz-1604	寝る	2.奥出雲町	kudzipi nete hatezipi okitawa.
Iz-1604	寝る	3.雲南市	kudzipi nete hateidzipi okita.
Iz-1604	寝る	4.出雲市	kudzipi nete hateidzipi okitauane.
Iz-1605	寝る	共通語	今日は 一人で 寝て みろ。
Iz-1605	寝る	1.安来市	kjo:wa çitoride {netemi:jai / netemi:jæ}.
Iz-1605	寝る	2.奥出雲町	kjo:wa çitoride neteminahae.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1605	寝る	3.雲南市	kjo:ɥa ɸuto:de {nete mi: / ne:dazu}.
Iz-1605	寝る	4.出雲市	kjo:ɥa ɸuto:de nete mi:daua.
Iz-1606	寝る	共通語	たくさん 寝れば 疲れが とれる。
Iz-1606	寝る	3.雲南市	dʒandʒan nerja: kembikiga nao:.
Iz-1606	寝る	4.出雲市	ippae netara tsukarega tore:ɥane.
Iz-1607	寝る	共通語	今日は 早く 寝よう。
Iz-1607	寝る	3.雲南市	kjo:ɥa hajakoto ne:ka:.
Iz-1607	寝る	4.出雲市	kjo:ɥa hajakoto ne:ɥa:.
Iz-1608	寝る	共通語	もう 寝る時間だ。
Iz-1608	寝る	3.雲南市	mo: ne:toki dazu.
Iz-1608	寝る	4.出雲市	mo: {ne: / neru} dʒikandaua.
Iz-1701	起きる	共通語	祖父は 毎日 6時に 起きる
Iz-1701	起きる	1.安来市	zi:sanwa mainitei rokuzini okitegoza:.
Iz-1701	起きる	2.奥出雲町	odzi:san maenitei rokuzini okiru.
Iz-1701	起きる	3.雲南市	dʒidziɥa mainitei rokudʒini oki:.
Iz-1701	起きる	4.出雲市	odʒidziɥa mja:nitei rokudʒini {oki:ɥane / okirare:ɥa}.
Iz-1702	起きる	共通語	弟は まだ 起きない。
Iz-1702	起きる	1.安来市	oto:towa mada okiŋgana.
Iz-1702	起きる	2.奥出雲町	oto:towa manda oki:N.
Iz-1702	起きる	3.雲南市	oto:toua manda {okiŋke: / okiraŋkai}.
Iz-1702	起きる	4.出雲市	oto:toua manda okiran.
Iz-1703	起きる	共通語	父も 6時に 起きた。
Iz-1703	起きる	1.安来市	ojazimo rokuzini okiteo:gana.
Iz-1703	起きる	2.奥出雲町	oto:sammo rokudʒini okita.
Iz-1703	起きる	3.雲南市	oto:sammo rokudʒini okirareta.
Iz-1703	起きる	4.出雲市	ototsammo rokudʒini {okirareta / okiraeta}.
Iz-1704	起きる	共通語	早く 起きて、それから 畑に 行った。
Iz-1704	起きる	1.安来市	kisamo kobajo:ni megasamete so:kara hatageŋi detawa.
Iz-1704	起きる	2.奥出雲町	haja: okite so:kara hatakeŋi ittawa.
Iz-1704	起きる	3.雲南市	haja okite so:kara hatakeŋi ikareta.
Iz-1704	起きる	4.出雲市	hajakoto okite so:kara hatakeŋi ikaeta.
Iz-1705	起きる	共通語	おまえも 早く 起きて こい。
Iz-1705	起きる	1.安来市	ome:mo hajaku okiŋa:.
Iz-1705	起きる	2.奥出雲町	omaemo haja: okite koija.
Iz-1705	起きる	3.雲南市	omaemo hajakoto {okite koi / oki:ja}.
Iz-1705	起きる	4.出雲市	omaemo hajakoto okite ku:daua.
Iz-1706	起きる	共通語	早く 起きれば 仕事が できる。
Iz-1706	起きる	3.雲南市	hajakoto oki:to eigotoga hakado:zu.
Iz-1706	起きる	4.出雲市	hajakoto okitara eigotoga {ippe: {dekiruzo~deki:zo}. / eigotoga na:zo.
Iz-1707	起きる	共通語	明日は 早く 起きよう。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-1707	起きる	3.雲南市	acitauya hajakoto oki:zo.
Iz-1707	起きる	4.出雲市	acitauya hajakoto {oki:kana / okirakana:} . (意志)
Iz-1708	起きる	共通語	もう 起きる時間だ。
Iz-1708	起きる	3.雲南市	mo: oki: dzikanda.
Iz-1708	起きる	4.出雲市	mo: oki: dzikanda.
Iz-1801	着る	共通語	高校生は 制服を 着る。
Iz-1801	着る	1.安来市	ko:oko:ee:wa jo:φuku {mainitsi / maenitsu} (毎日) kidakenna.
Iz-1801	着る	2.奥出雲町	ko:ko:ee:wa φuku: ki:jo.
Iz-1801	着る	3.雲南市	ko:ko:ee:uqa ee:φukuo ki:.
Iz-1801	着る	4.出雲市	ko:ko:ee:uqa ee:φukuo {kiruuyane / ki:jo:}.
Iz-1802	着る	共通語	その服は 古いから 誰も 着ない。
Iz-1802	着る	1.安来市	sono jo:φukuwa borodaken darenda (r:trill) {kirja:eno / kinken}.
Iz-1802	着る	2.奥出雲町	sono φukuwa φuruikara daremmo kiranjo.
Iz-1802	着る	3.雲南市	sono φukuuya φuru:kendaremmo {kinjo: / kiranjo:}.
Iz-1802	着る	4.出雲市	sono φukuuya φurukEN {daremo / da:mo} kiran.
Iz-1803	着る	共通語	それは 昨日 着た。
Iz-1803	着る	1.安来市	so:wa kinno: kitawa.
Iz-1803	着る	2.奥出雲町	so:ja: kinno: kitajo.
Iz-1803	着る	3.雲南市	so:uqa kijno kita.
Iz-1803	着る	4.出雲市	so:uqa kijno kitauyane.
Iz-1804	着る	共通語	私は 赤い 服を 着て、妹は 青い 服を 着た。
Iz-1804	着る	1.安来市	orawa makkana jo:φukuo kite imo:towa aoi jo:φuku kiteo:wa.
Iz-1804	着る	2.奥出雲町	adaŋwa akae φuku: kite imo:towa aoi φuku: kitajo.
Iz-1804	着る	3.雲南市	uataciuya φukuo kite imo:touya aoi φukuo kita.
Iz-1804	着る	4.出雲市	uataciuya makkana φukuo kite imo:touya ae φukuo kita.
Iz-1805	着る	共通語	おまえも ちょっと 着て みる。
Iz-1805	着る	1.安来市	{omaε~ome:}mo teo:ko: kitemi:jae.
Iz-1805	着る	2.奥出雲町	omaemo teokkoei kite mi:dawa.
Iz-1805	着る	3.雲南市	omaemo teokkoei kite {mi:dauya / mireja}.
Iz-1805	着る	4.出雲市	{omaesammo / ome:mo} teotto kite mi:dauyane.
Iz-1806	着る	共通語	この服を 着れば 背が 高く みえる。
Iz-1806	着る	3.雲南市	kono φukuo ki:to eega takaku mie:zo.
Iz-1806	着る	4.出雲市	kono φukuo kitara eega taka: mieuyane.
Iz-1807	着る	共通語	今日は この服を 着よう。
Iz-1807	着る	3.雲南市	kjo:uqa kono φukuo {kitemi:ka / kitemiraka}.
Iz-1807	着る	4.出雲市	kjo:uqa kono φukuo ki:kana:.
Iz-1808	着る	共通語	着物を 着るときは 足袋を はく。
Iz-1808	着る	3.雲南市	kimono: ki: tokiuya tabio haku.
Iz-1808	着る	4.出雲市	ki:monki: tokiuya tabio hakuuyane.
Iz-1901	見る	共通語	毎日 テレビを 見る。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1901	見る	1.安来市	mata terebi {miteo:wa / miru }.
Iz-1901	見る	2.奥出雲町	maejitei terebi mi:jo.
Iz-1901	見る	3.雲南市	maipitei terebio mi:.
Iz-1901	見る	4.出雲市	mja:jitei terebio mi:uane.
Iz-1902	見る	共通語	父は 野球は 見ない。
Iz-1902	見る	1.安来市	mirja:een.
Iz-1902	見る	2.奥出雲町	oto:san jakju:wa minjo.
Iz-1902	見る	3.雲南市	oto:sanuqa jakju:o min.
Iz-1902	見る	4.出雲市	ototsanuqa jakju:uqa miranuqane.
Iz-1903	見る	共通語	昨日 虹を見た。
Iz-1903	見る	1.安来市	mita.
Iz-1903	見る	2.奥出雲町	kinno: jidzio mitajo.
Iz-1903	見る	3.雲南市	kino: jidzi mitajo.
Iz-1903	見る	4.出雲市	kino: jidzio mitazune.
Iz-1904	見る	共通語	映画を 見て、家に 帰った。
Iz-1904	見る	1.安来市	kjo:wa e:ga mijni kitawa:. (今日は映画を見てきたよ)
Iz-1904	見る	2.奥出雲町	e:ga mite ijeji kaetta.
Iz-1904	見る	3.雲南市	katsudo:eaeinmite utejini kaetta.
Iz-1904	見る	4.出雲市	e:gao mite ijeji {kaettazune: / kaettagane:}.
Iz-1905	見る	共通語	心配だから 船を 見て こい。
Iz-1905	見る	1.安来市	dogeeiteo:kaena teokko: fune mite koina:.
Iz-1905	見る	2.奥出雲町	eimpae daken fune: mite koiya.
Iz-1905	見る	3.雲南市	eimpai dakara funega dogennaka mite koi.
Iz-1905	見る	4.出雲市	eimpai daken funeo mite koiya:.
Iz-1906	見る	共通語	これを 見れば 分かる。
Iz-1906	見る	3.雲南市	kore mirja uqaka:ga.
Iz-1906	見る	4.出雲市	ko:o mitara uqaka:gane.
Iz-1907	見る	共通語	今日は テレビを 見よう。
Iz-1907	見る	3.雲南市	kjo:uqa terebio {mi:ka / miraka (勧誘)}.
Iz-1907	見る	4.出雲市	kjo:uqa terebio {mi:kana: / mirakana:}.
Iz-1908	見る	共通語	近くのを 見るときは 眼鏡を かける。
Iz-1908	見る	3.雲南市	teikakuo mi: tokiuqa meganeo kake:.
Iz-1908	見る	4.出雲市	teike toko no mon mi: tokiuqa meganeo kake:uane.
Iz-2001	死ぬ	共通語	蝉は すぐに 死ぬ。
Iz-2001	死ぬ	1.安来市	semija ziki {eino:ken~sino:ken}.
Iz-2001	死ぬ	2.奥出雲町	eemiwa ziki eino: gane.
Iz-2001	死ぬ	3.雲南市	eemiya dziki eino:.
Iz-2001	死ぬ	4.出雲市	eemiya dzikini {eino:gane / eino:uane}.
Iz-2002	死ぬ	共通語	ゴキブリは なかなか 死なない。
Iz-2002	死ぬ	1.安来市	gokiburiwa nakanaka einanzo:.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-2002	死ぬ	2. 奥出雲町	gokiburi nambo eitemo einanne:.
Iz-2002	死ぬ	3. 雲南市	einan.
Iz-2002	死ぬ	4. 出雲市	gokiburiuqa nakanaka einangane.
Iz-2003	死ぬ	共通語	へびが 車に ひかれて 死んだ。
Iz-2003	死ぬ	1. 安来市	inuga eindagana. (犬が死んだ)
Iz-2003	死ぬ	2. 奥出雲町	hebiga kurumaji çikarete eindawa.
Iz-2003	死ぬ	3. 雲南市	hebiga kurumaji eikarete einda.
Iz-2003	死ぬ	4. 出雲市	hebiga ku:maji çikaete eindagane.
Iz-2004	死ぬ	共通語	ゴキブリは 死んで、ネズミも 死んでいる。
Iz-2004	死ぬ	1. 安来市	gokiburiwa eindzo:gana: nezumimo eindzo:wa:.
Iz-2004	死ぬ	2. 奥出雲町	gokiburiga einde nezumimo eindzo:wa.
Iz-2004	死ぬ	3. 雲南市	gokiburiuqa einde nezumimo eindo:.
Iz-2004	死ぬ	4. 出雲市	gokiburiuqa einde nezumimo eindo:uqa.
Iz-2005	死ぬ	共通語	カエルも 死んで しまった。
Iz-2005	死ぬ	1. 安来市	inuga einde eimo:tawa.
Iz-2005	死ぬ	2. 奥出雲町	kaerumo einde eimattawa.
Iz-2005	死ぬ	3. 雲南市	kaerumo einde eimatta.
Iz-2005	死ぬ	4. 出雲市	kaerumo einde eimattagane.
Iz-2006	死ぬ	共通語	死ねば 何も 残らない。
Iz-2006	死ぬ	3. 雲南市	{eiŋa: / eino:to} nanjimo nokoran.
Iz-2006	死ぬ	4. 出雲市	eindara na:mmo nokorangane.
Iz-2007	死ぬ	共通語	いっしょに 死のう。
Iz-2007	死ぬ	3. 雲南市	iceoŋi {eino: / eina koi}.
Iz-2007	死ぬ	4. 出雲市	iceoŋi {eino:ka: / einakoi}.
Iz-2008	死ぬ	共通語	死ぬときは 苦しみたく ない。
Iz-2008	死ぬ	3. 雲南市	eino: tokiuqa rakupi eiŋitai.
Iz-2008	死ぬ	4. 出雲市	eino: tokiuqa kurueimitaku ja:uqa.
Iz-2101	ある	共通語	米が たくさん ある。
Iz-2101	ある	1. 安来市	komega jo:ke {aru / a:ken}.
Iz-2101	ある	2. 奥出雲町	komega takusan a:wa.
Iz-2101	ある	3. 雲南市	komega dzandzan a:uqane.
Iz-2101	ある	4. 出雲市	komega ippja: a:zune.
Iz-2102	ある	共通語	昔 ここには 井戸が あった。
Iz-2102	ある	1. 安来市	kokona: {mukaca: / mukaciwa} idoga attatoja.
Iz-2102	ある	2. 奥出雲町	mukaei kokona idoga attagena.
Iz-2102	ある	3. 雲南市	mukaei kokoniuqa edoga atta.
Iz-2102	ある	4. 出雲市	muka:ei kokoniuqa edoga attagena.
Iz-2103	ある	共通語	東に 学校が あって、西に 公民館が ある。
Iz-2103	ある	1. 安来市	asukoni(あそこに) gakkō:ga atte na kotteigawani(こっちがわに) ko:minkaŋga atte na.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-2103	ある	2.奥出雲町	kotteiji (こつちに) gakkō:ga atte atteiji (あつちに) ko:miŋkaŋga a:jo.
Iz-2103	ある	3.雲南市	ɸugaciŋi gakkō:ga atte nieiŋi ko:miŋkʷaŋga a:.
Iz-2103	ある	4.出雲市	ɸugaciŋi gakkō:ga atte nieiŋi ko:miŋkaŋga a:masuɸa.
Iz-2104	ある	共通語	薬が あって、助かった。
Iz-2104	ある	1.安来市	kusuriga atte jokatta wa:.
Iz-2104	ある	2.奥出雲町	kusuriga atte ikattane.
Iz-2104	ある	3.雲南市	kusu:ga atte tasukatta.
Iz-2104	ある	4.出雲市	kusu:ga atte {tasukattazune / tasukattagane}.
Iz-2105	ある	共通語	薬が あれば いいのに。
Iz-2105	ある	3.雲南市	kusu:ga a:to {e:gano:~i:gano:}.
Iz-2105	ある	4.出雲市	kusu:ga attara e:ŋi.
Iz-2106	ある	共通語	時間が あるときは 本を 読みなさい。
Iz-2106	ある	3.雲南市	ɸzikaŋga a: tokiɸa hono jominasai.
Iz-2106	ある	4.出雲市	ɸzikaŋga {a: tokiɸa / attara} hon {jondagane / jominai}.
Iz-2201	ない	共通語	塩が ない。
Iz-2201	ない	1.安来市	eo:ga {naeɸana: / arja:hende: / a:heno:}.
Iz-2201	ない	2.奥出雲町	eioga naewa.
Iz-2201	ない	3.雲南市	soga {nai / ne}.
Iz-2201	ない	4.出雲市	soga {nai / ne}.
Iz-2202	ない	共通語	砂糖も なかった。
Iz-2202	ない	1.安来市	{sato:~sato}mo {naeɸana / arjasenzatta / a:henzatta~a:hedzatta / a:heŋwaja}.
Iz-2202	ない	2.奥出雲町	sato:mo nakattagena.
Iz-2202	ない	3.雲南市	sato:mo nakatta.
Iz-2202	ない	4.出雲市	satomo nakatta.
Iz-2203	ない	共通語	包丁が なくて、切れなかった。
Iz-2203	ない	1.安来市	ho:teo:ga {naeɸen / ne:daken} kireŋja:eeŋwa.
Iz-2203	ない	2.奥出雲町	ho:teo:ga na:te kireŋwa.
Iz-2203	ない	3.雲南市	ho:teo:ga nade kiredatta.
Iz-2203	ない	4.出雲市	ho:teo:ga nate kirendatta.
Iz-2301	いる	共通語	我が家には 犬が いる。
Iz-2301	いる	1.安来市	utsiŋa: muga {o: zo: / oru}.
Iz-2301	いる	2.奥出雲町	uteiŋiwa inuga o:jo.
Iz-2301	いる	3.雲南市	uteiŋiɸa enoga {oru / o:kene}.
Iz-2301	いる	4.出雲市	utsuntokopiɸa enuga oru.
Iz-2302	いる	共通語	隣の家には 犬は いない。
Iz-2302	いる	1.安来市	{tonari~tonari}no iɸa muwa oraŋwa.
Iz-2302	いる	2.奥出雲町	tona:ŋa: inuga oraŋwa.
Iz-2302	いる	3.雲南市	tona: ŋiɸa enoɸa oraŋjo.
Iz-2302	いる	4.出雲市	tona:no iɸiɸa enuga oraŋ.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-2303	いる	共通語	昔は 猫も いた。
Iz-2303	いる	1.安来市	mukaeiwa nekomo otta.
Iz-2303	いる	2.奥出雲町	tonto:na nekomo ottajo.
Iz-2303	いる	3.雲南市	mukaeiɥa nekomo otta.
Iz-2303	いる	4.出雲市	mukaeiɥa nekomo otta.
Iz-2304	いる	共通語	彼は 弟が いて、私は 兄が いる。
Iz-2304	いる	1.安来市	ano: oto:toga otte orawa aɲnaga o: zo.
Iz-2304	いる	2.奥出雲町	taro:wa oto:toga otteatte {adanwa / adana} anteanga {o: jo / otte}.
Iz-2304	いる	3.雲南市	anosuɥa oto:toga otte oruɥa aɲikiga orujo.
Iz-2304	いる	4.出雲市	anosuɥa oto:toga otte uteiɥa ansanga oru.
Iz-2305	いる	共通語	ここに いて ください。
Iz-2305	いる	1.安来市	kotteɲi otte goeinahæ.
Iz-2305	いる	2.奥出雲町	kokopi {ottedawa / gozæce / oraæce / oraæceæ / o:nahæ}.
Iz-2305	いる	3.雲南市	kokopi otte goeinahai.
Iz-2305	いる	4.出雲市	kokopi otte goeinai.
Iz-2306	いる	共通語	あの人が ここに いれば いいのに。
Iz-2306	いる	3.雲南市	anosuga kokopi oreba {e:ɲi~i:ɲi}.
Iz-2306	いる	4.出雲市	anosuga kokopi {oraera e:ɲi / ora eɲi}.
Iz-2307	いる	共通語	ここに いよう。
Iz-2307	いる	3.雲南市	kokopi {o:ka / oraka}.
Iz-2307	いる	4.出雲市	kokopi {o:ka: / oraka:}.
Iz-2308	いる	共通語	家に いるときは 何も しない。
Iz-2308	いる	3.雲南市	uteɲi o: tokiɥa nanda: æn.
Iz-2308	いる	4.出雲市	uteɲi o: tokiɥa nandae san.
Iz-2401	する	共通語	彼は 酒を 飲むと 変なことを する。
Iz-2401	する	1.安来市	a:wa sake nonto suikjo: eite ikenken.
Iz-2401	する	2.奥出雲町	ano otteanwa sake nonto kitsina koto eina ha: / adan sake nonto kitsina koto su:jo.
Iz-2401	する	3.雲南市	anosuɥa sakeo nomuto inagena koto: suru.
Iz-2401	する	4.出雲市	anosuɥa sakeo nomuto mɲona koto {su:ken / sare:ken (尊敬)}.
Iz-2402	する	共通語	彼は 今日 何も しない。
Iz-2402	する	1.安来市	aetsuwa kjo: {nandaru~nandari / nanda:} ænken.
Iz-2402	する	2.奥出雲町	kjo:wa {nanda: / nandaru} {æn~ein / einaharan}jo.
Iz-2402	する	3.雲南市	anosuɥa kjo:ɥa nanda: æn.
Iz-2402	する	4.出雲市	anosuɥa kjo:ɥa nande: {san / saren (尊敬) / sareran (尊敬)}.
Iz-2403	する	共通語	昨日は たくさん 仕事を した。
Iz-2403	する	1.安来市	kinno:wa {ippæ~ippe:} eigoto eitana.
Iz-2403	する	2.奥出雲町	kinno: ippæ eigoto: eita jo.
Iz-2403	する	3.雲南市	kino:ɥa dzandzan eigoto: eita.
Iz-2403	する	4.出雲市	kijo:ɥa ippæ eigoto: {eitawane / eitagane}.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-2404	する	共通語	たくさん 仕事を して、遊びに 行った。
Iz-2404	する	1.安来市	ippae eigoto: eite asobiji ittawa.
Iz-2404	する	2.奥出雲町	ippae {eigoto: ~eigoto} eite {asobiji~asobiji} itta jo.
Iz-2404	する	3.雲南市	dzandzan eigoto: eite asobiji {itta / ikita}.
Iz-2404	する	4.出雲市	ippa: eigoto: eite asobiji ittagane.
Iz-2405	する	共通語	休んでないで 仕事を しろ。
Iz-2405	する	1.安来市	namakenkoŋi eigoto ee:.
Iz-2405	する	2.奥出雲町	age namakenkoŋi eigoto: {ee:~er:} ja.
Iz-2405	する	3.雲南市	asondoraŋkoŋi eigoto ee:.
Iz-2405	する	4.出雲市	jasundzorande eigoto: {su:daga / se: (子どもに)}.
Iz-2406	する	共通語	学校で 勉強して こい。
Iz-2406	する	1.安来市	gakko:de {nara:te koe / beŋkjo: eite kuta:bita:}.
Iz-2406	する	2.奥出雲町	gakko:de {beŋkjo: eite koija / naratte koi ja}.
Iz-2406	する	3.雲南市	gakko:de beŋkjo: eite koi.
Iz-2406	する	4.出雲市	gakkode beŋkjo: eite koi.
Iz-2407	する	共通語	勉強 すれば 試験に 受かるよ。
Iz-2407	する	3.雲南市	beŋkjo: {sureba / su:to} eikenpi uka:zu.
Iz-2407	する	4.出雲市	beŋkjo: eitara eikenpi uka:jo.
Iz-2408	する	共通語	よし 勉強 しよう。
Iz-2408	する	3.雲南市	beŋkjo: {eijo:ka / su:ka}.
Iz-2408	する	4.出雲市	joei beŋkjo: eotto.
Iz-2409	する	共通語	勉強するときは テレビを 消しなさい。
Iz-2409	する	3.雲南市	beŋkjo: su: tokiuŋa terebio {keeeja / keee:}.
Iz-2409	する	4.出雲市	beŋkjo: su: tokja terebio kesudaga.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》は任意的であることを表す。

出雲方言 動詞例文集 (かな)

Iz-0001	飛ぶ	共通語	鳩も 鷹も 飛ぶ。
Iz-0001	飛ぶ	1.安来市	はとも たかも とぶ。
Iz-0001	飛ぶ	2.奥出雲町	はとも たかも とぶわね。
Iz-0001	飛ぶ	3.雲南市	はとも たかも {とぶ / とんどる / とんどー 《わ》 (飛んでいる)}.
Iz-0001	飛ぶ	4.出雲市	はとも たかも とぶ。
Iz-0002	飛ぶ	共通語	今日は 天気が 悪いから 飛行機は 飛ばない。
Iz-0002	飛ぶ	1.安来市	きよわ てんきが わるけん ひこーきわ とばんわー。
Iz-0002	飛ぶ	2.奥出雲町	きよーわ てんきが わるーけん ひこーきわ とばんわね。
Iz-0002	飛ぶ	3.雲南市	きよーわ てんきが わるいから ひこーきわ とばん 《わ》.
Iz-0002	飛ぶ	4.出雲市	きよーわ てんきが わるいから ふこーきわ {とばんが / とばんぢ / とべんが}.
Iz-0003	飛ぶ	共通語	風で 帽子が 飛んだ。
Iz-0003	飛ぶ	1.安来市	かぜで ぼーしが とんだー。
Iz-0003	飛ぶ	2.奥出雲町	かぜで ぼーしが とんだ。
Iz-0003	飛ぶ	3.雲南市	かぜで ぼーしが とんだわ。
Iz-0003	飛ぶ	4.出雲市	かじえで ぼーしが とんだ。
Iz-0004	飛ぶ	共通語	昨日 帽子が 飛んだ。
Iz-0004	飛ぶ	1.安来市	きんによ ぼーしが とんだ。
Iz-0004	飛ぶ	2.奥出雲町	きんの ぼーしが とんだ。
Iz-0004	飛ぶ	3.雲南市	{きによーわ~きによーわ} ぼーしが とんだわ。
Iz-0004	飛ぶ	4.出雲市	きによーわ ぼーしが とんだ。
Iz-0005	飛ぶ	共通語	親鳥が 飛んで、小鳥が 飛んだ。
Iz-0005	飛ぶ	1.安来市	おやどーが とんで ことりが とんだ。
Iz-0005	飛ぶ	2.奥出雲町	おやどーが とんで ことーが とんだ。
Iz-0005	飛ぶ	3.雲南市	おやが とんで こも とんだわ。
Iz-0005	飛ぶ	4.出雲市	おやどりが とんで ことりが とんだ。
Iz-0006	飛ぶ	共通語	昨日は 飛んで、今日は 飛ばない。
Iz-0006	飛ぶ	1.安来市	きんによわ とんで きよわ とばんわー。
Iz-0006	飛ぶ	2.奥出雲町	きんのわ とんで きよーわ とばんな。
Iz-0006	飛ぶ	3.雲南市	{きによーわ~きによーわ} とんだが きよーわ とばんわ。
Iz-0006	飛ぶ	4.出雲市	きによーわ とんで きよーわ {とばんが / とべんが}.
Iz-0007	飛ぶ	共通語	そこから 飛んで みる。
Iz-0007	飛ぶ	1.安来市	そこかー とんで {みれ / みー}.
Iz-0007	飛ぶ	2.奥出雲町	そこかー とんで み。
Iz-0007	飛ぶ	3.雲南市	そこから とんで みー。
Iz-0007	飛ぶ	4.出雲市	そこかー とんで みー。
Iz-0008	飛ぶ	共通語	今日は 飛ばないが 昨日は 飛んだ。
Iz-0008	飛ぶ	1.安来市	きよわ とばんが きんによわ とんだ。
Iz-0008	飛ぶ	2.奥出雲町	きよーわ とばんが きんのわ とんだ。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0008	飛ぶ	3.雲南市	きよーわ とんぱんが {きによーわ~きによーわ} とんだじ.
Iz-0008	飛ぶ	4.出雲市	きよーわ とんぱんが きによーわ とんだ.
Iz-0009	飛ぶ	共通語	思い切って 飛べば いいのに。
Iz-0009	飛ぶ	3.雲南市	とびや いーがの.
Iz-0009	飛ぶ	4.出雲市	おもいきって とびや いーのに.
Iz-0010	飛ぶ	共通語	ここから 飛ぼう。
Iz-0010	飛ぶ	3.雲南市	ここから たばこい.
Iz-0010	飛ぶ	4.出雲市	ここから たばこい.
Iz-0011	飛ぶ	共通語	飛ぶときは 気をつけろ。
Iz-0011	飛ぶ	3.雲南市	{とんとき~とんとき}わ きー ちけ{や / よ}.
Iz-0011	飛ぶ	4.出雲市	とんときゃ {きー~きー} ちけ よー.
Iz-0101	漕ぐ	共通語	みんなで 舟を 漕ぐ。
Iz-0101	漕ぐ	1.安来市	だれんもで ふねお こぐ.
Iz-0101	漕ぐ	2.奥出雲町	だれんもで ふねお こぐ.
Iz-0101	漕ぐ	3.雲南市	みんなで ふねお こがこい. (勧誘) / ぢてんしゃ こぐ. (自転車をこぐ)
Iz-0101	漕ぐ	4.出雲市	みんなで ふねお こぐ.
Iz-0102	漕ぐ	共通語	(今は) 誰も 舟を 漕がない。
Iz-0102	漕ぐ	1.安来市	だれんも ふねお こがんわ.
Iz-0102	漕ぐ	2.奥出雲町	いみゃー だーも ふねお こがん.
Iz-0102	漕ぐ	3.雲南市	だれも ふねお こがん や{ん / に} なった. (漕がなくなった)
Iz-0102	漕ぐ	4.出雲市	だれも ふねお {こげんが / こがん}.
Iz-0103	漕ぐ	共通語	昔は よく 舟を 漕いだ。
Iz-0103	漕ぐ	1.安来市	むかしゃー よー ふねお こいだ.
Iz-0103	漕ぐ	2.奥出雲町	むかしゃー よー ふね こいだ.
Iz-0103	漕ぐ	3.雲南市	よー ふね こぎよった. (過去の習慣)
Iz-0103	漕ぐ	4.出雲市	むかしゃー よー ふね こいだ もんだ.
Iz-0104	漕ぐ	共通語	舟を 漕いで、そのあと 休め。
Iz-0104	漕ぐ	1.安来市	ふねお こいで そのあと やすめ.
Iz-0104	漕ぐ	2.奥出雲町	ふねー こいで そのあと たばこしえー.
Iz-0104	漕ぐ	3.雲南市	ふね こいで あと やしまっしやい.
Iz-0104	漕ぐ	4.出雲市	ふね こいで その {あとわ / あと} {やしめ / たばこしえー}.
Iz-0105	漕ぐ	共通語	舟を 漕いで、隠岐へ 行った。
Iz-0105	漕ぐ	1.安来市	ふね こいで おきえ {いったわ / えきた}.
Iz-0105	漕ぐ	2.奥出雲町	ふねー こいで おきえ いった.
Iz-0105	漕ぐ	3.雲南市	ふね こいで おき いった.
Iz-0105	漕ぐ	4.出雲市	ふね こいで おきえ いくたが.
Iz-0106	漕ぐ	共通語	一人で 舟を 漕いできた。
Iz-0106	漕ぐ	1.安来市	ひとーで ふね こいできた.
Iz-0106	漕ぐ	2.奥出雲町	ひとーで ふね こいできた.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0106	漕ぐ	3.雲南市	ふとりで ふね こいで {きた〜きた}.
Iz-0106	漕ぐ	4.出雲市	ふとりで {ふねお / ふね} こいで {きたが〜きたが}.
Iz-0107	漕ぐ	共通語	一生懸命 漕げば むこうへ 着くよ。
Iz-0107	漕ぐ	3.雲南市	いっしょけんめー こぎゃー むこーえ ちくじ.
Iz-0107	漕ぐ	4.出雲市	いっしょーけんめー こぎゃー むこーえ ちくが.
Iz-0108	漕ぐ	共通語	みんなで 漕ごう。
Iz-0108	漕ぐ	3.雲南市	こがこい.
Iz-0108	漕ぐ	4.出雲市	{みんな {で / し.て} / だれんもで} こがこい.
Iz-0109	漕ぐ	共通語	舟を 漕ぐときは 足を 踏んばれ。
Iz-0109	漕ぐ	3.雲南市	ふね こぐ{とんととき〜とんととき}わ あし {ぎばめ〜ぎばめ}.
Iz-0109	漕ぐ	4.出雲市	{ふねお / ふね} こぐときゃー {あしお / あし} ふんばれよー.
Iz-0201	行く	共通語	毎日 海へ 行く。
Iz-0201	行く	1.安来市	まいにち うみえ いくわー.
Iz-0201	行く	2.奥出雲町	べったべった (いつも) うみー いく.
Iz-0201	行く	3.雲南市	まえにち うみえ {いく。 / いっちょーわ (習慣)}.
Iz-0201	行く	4.出雲市	まいにち おみに いく.
Iz-0202	行く	共通語	父は 天気が 悪いから 海へは 行かない。
Iz-0202	行く	1.安来市	おやぢわ てんきが わるいけん うみえわ いかんわ.
Iz-0202	行く	2.奥出雲町	おやぢわ てんきが わるーけん {うみえわ / うみゃー} いかん.
Iz-0202	行く	3.雲南市	おやぢわ てんきが わるけん うみえ いかんわ.
Iz-0202	行く	4.出雲市	おやぢわ てんきが わるから {おめーわ / おめー} {いかんが / いけんが}.
Iz-0203	行く	共通語	昨日も 海へ 行った。
Iz-0203	行く	1.安来市	きんによも うみえ えきたわ.
Iz-0203	行く	2.奥出雲町	きんの うみー いった.
Iz-0203	行く	3.雲南市	{きによ〜きによ}も うみえ いった.
Iz-0203	行く	4.出雲市	きよーも おめー いきたが.
Iz-0204	行く	共通語	海へ 行って、泳いで きた。
Iz-0204	行く	1.安来市	うみえ えきて およいで きたわ.
Iz-0204	行く	2.奥出雲町	うみー いった およいで きた.
Iz-0204	行く	3.雲南市	うみえ いった およいで{きた〜きた}.
Iz-0204	行く	4.出雲市	おめー いきて およいで きたが.
Iz-0205	行く	共通語	海へは 一人で 行って こい。
Iz-0205	行く	1.安来市	{うみえわ / うみゃー} ひとーで えきて こい.
Iz-0205	行く	2.奥出雲町	うみえわ ひとーで いった こい.
Iz-0205	行く	3.雲南市	うみえ ふとりで {いった こいや / いったらー}.
Iz-0205	行く	4.出雲市	おめーわ ふとりで いきて こい.
Iz-0206	行く	共通語	それなら 一人で 行こう。
Iz-0206	行く	3.雲南市	そげなら ふとりで いくわ.
Iz-0206	行く	4.出雲市	そげなら ふとりで {いかかー / いくわ}.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0207	行く	共通語	山へ 行けば 涼しいだろう。
Iz-0207	行く	3.雲南市	やまえ いきやー しじしーけんの一。
Iz-0207	行く	4.出雲市	やまえ いきや しじしーだらが。
Iz-0208	行く	共通語	行くときは 教えてくれ。
Iz-0208	行く	3.雲南市	{いくとき~いくとき}わ いってかしえて {ごしえ / ごいた / ごしなえ}.
Iz-0208	行く	4.出雲市	いくときや いってかしえて ごしえー。
Iz-0301	来る	共通語	今日は 父が 家に 来る。
Iz-0301	来る	1.安来市	きよわ おやぢが いえに {くる / くーけん}.
Iz-0301	来る	2.奥出雲町	きよーわ おやぢが うちえ くー。
Iz-0301	来る	3.雲南市	きよーわ おやじが うちに くーわ。
Iz-0301	来る	4.出雲市	きよーわ おやじが おちえ くーが。
Iz-0302	来る	共通語	今日は 母は 来ない。
Iz-0302	来る	1.安来市	きよわ おかーさんわ こんわ。
Iz-0302	来る	2.奥出雲町	きよーわ おふくろわ こん。
Iz-0302	来る	3.雲南市	きよーわ おかーさんわ こんわ。
Iz-0302	来る	4.出雲市	きよーわ おかかわ こんが。
Iz-0303	来る	共通語	昨日 父が 家に 来た。
Iz-0303	来る	1.安来市	きんによ おとーさんが いえに きたわ。
Iz-0303	来る	2.奥出雲町	きんの おやぢが いえに きた。
Iz-0303	来る	3.雲南市	{きによー~きによー} おやじが うちに {きたわ~きたわ}.
Iz-0303	来る	4.出雲市	きによー おやじが おちー きたが。
Iz-0304	来る	共通語	こっちへ 来て、家に 戻った。
Iz-0304	来る	1.安来市	うちえ きて いえに えんぢやった。
Iz-0304	来る	2.奥出雲町	こっちー きて いえに もどった。
Iz-0304	来る	3.雲南市	こっちえ {きて~きて} うちに いんだわ。
Iz-0304	来る	4.出雲市	こっち きて いのちえ いんだが。
Iz-0305	来る	共通語	こっちへ 早く 来い。
Iz-0305	来る	1.安来市	こっちー はやー くーだわ。
Iz-0305	来る	2.奥出雲町	こっちー {はやー~はや} こい。
Iz-0305	来る	3.雲南市	こっちえ はや こい。
Iz-0305	来る	4.出雲市	こっちえ はやこと こい。
Iz-0306	来る	共通語	こっちへ 来て みる。
Iz-0306	来る	1.安来市	こっちー きて みーだわ。
Iz-0306	来る	2.奥出雲町	こっちー きて み。
Iz-0306	来る	3.雲南市	こっち {きて~きて} みー。
Iz-0306	来る	4.出雲市	こっちえ きて みー。
Iz-0307	来る	共通語	明日も ここへ 来よう。
Iz-0307	来る	3.雲南市	あしたも ここえ {くーか / くーかい}.
Iz-0307	来る	4.出雲市	あしたも ここえ こらかー。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0308	来る	共通語	来れば 分かる。
Iz-0308	来る	3.雲南市	くりゃー わかーわな。
Iz-0308	来る	4.出雲市	くら わかーが。
Iz-0309	来る	共通語	来るときは 気をつけなさい。
Iz-0309	来る	3.雲南市	{くーとき〜くーとき} きーちけや。
Iz-0309	来る	4.出雲市	くーときゃ {きー〜きー} ちけなはえ。
Iz-0401	降る	共通語	2月は よく 雨が 降る。
Iz-0401	降る	1.安来市	にがつわ {よー〜よ} あめが ふーのー。
Iz-0401	降る	2.奥出雲町	にがつわ よー あめが ふー。
Iz-0401	降る	3.雲南市	にがちわ よー あめが ふーのー。
Iz-0401	降る	4.出雲市	にがちわ よー あめが ふーが。
Iz-0402	降る	共通語	明日は 雨は 降らない。
Iz-0402	降る	1.安来市	あしたわ あめわ ふらんだらかー。
Iz-0402	降る	2.奥出雲町	あしたー {あめわ / あみゃー} ふらん。
Iz-0402	降る	3.雲南市	あしたわ あめわ ふらんぢ。
Iz-0402	降る	4.出雲市	あしたわ あめが {ふいんが / ふらしえんが}。
Iz-0403	降る	共通語	昨日は 雨が 降った。
Iz-0403	降る	1.安来市	きんによわ あめが ふったのー。
Iz-0403	降る	2.奥出雲町	きんのー あめが ふった。
Iz-0403	降る	3.雲南市	{きによー〜きによー} わ あめが ふった。
Iz-0403	降る	4.出雲市	きによーわ あめが ふった。
Iz-0404	降る	共通語	大雨が 降って、日照りが 続いている。
Iz-0404	降る	1.安来市	おーあめが ふって ひでーが つずいちよーのー。
Iz-0404	降る	2.奥出雲町	おーあめが ふって ひでーが つずいちよ。
Iz-0404	降る	3.雲南市	おーあめが ふって えらかった。(大変だった)
Iz-0404	降る	4.出雲市	おーあめが ふって ふでりが ちじーちよー。
Iz-0405	降る	共通語	いま 雨が 降っている。
Iz-0405	降る	1.安来市	えま あめが ふつちよーのー。
Iz-0405	降る	2.奥出雲町	いま あめが {ふつちよ / ふつちよーわい}。
Iz-0405	降る	3.雲南市	いま あめが {ふつちよーわ / ふつちよる}。
Iz-0405	降る	4.出雲市	いま あめが {ふつちよーが / ふつちよじ}。
Iz-0406	降る	共通語	雨が 降って きた。
Iz-0406	降る	1.安来市	また あめが ふって きたわー。
Iz-0406	降る	2.奥出雲町	あめが ふって きたわ。
Iz-0406	降る	3.雲南市	あめが ふって {きたわ〜きたわ}
Iz-0406	降る	4.出雲市	あめが ふって きた。
Iz-0407	降る	共通語	明日 雨が 降れば いいのに。
Iz-0407	降る	3.雲南市	あめが ふりゃー いーわのー。
Iz-0407	降る	4.出雲市	あした あめが ふりゃ いのに。
Iz-0408	降る	共通語	雨が 降るときは 外へ 行かない。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0408	降る	3.雲南市	あめが ふー {とき〜とき}わ そとえ でんわ.
Iz-0408	降る	4.出雲市	あめが ふー ときゃ そとえ いかん.
Iz-0501	降りる	共通語	みんな ここで 降りる.
Iz-0501	降りる	1.安来市	だれんも ここーで おりーかー.
Iz-0501	降りる	2.奥出雲町	みんな ここで {おりー〜おりー}.
Iz-0501	降りる	3.雲南市	だれんもが ここで おりよこい. / おら ここで おりーじ. (俺はここで降りるぞ)
Iz-0501	降りる	4.出雲市	みんな ここで おりり.
Iz-0502	降りる	共通語	毎日 そこで 降りる.
Iz-0502	降りる	1.安来市	まいにち そこで おりーかー.
Iz-0502	降りる	2.奥出雲町	まいにち (いつも) そこで {おりー〜おりー}.
Iz-0502	降りる	3.雲南市	いちも そこで おりーじ.
Iz-0502	降りる	4.出雲市	いちも そこで {おりーが / おりらなん}.
Iz-0503	降りる	共通語	私は ここでは 降りない.
Iz-0503	降りる	1.安来市	わたしゃ ここーでわ おりんわ.
Iz-0503	降りる	2.奥出雲町	おらー ここぢゃー {おりん〜おりん}.
Iz-0503	降りる	3.雲南市	おらわ ここで おりんぢ.
Iz-0503	降りる	4.出雲市	おら ここでわ おりんが.
Iz-0504	降りる	共通語	ここでは 誰も 降りない.
Iz-0504	降りる	1.安来市	ここーでわ だれんも おりんわ.
Iz-0504	降りる	2.奥出雲町	ここぢゃー だーも {おりん〜おりん}.
Iz-0504	降りる	3.雲南市	ここで だれんだー おりんぢ.
Iz-0504	降りる	4.出雲市	ここでわ だれんも {おりんが / おりえんが}.
Iz-0505	降りる	共通語	ここで バスを 降りた.
Iz-0505	降りる	1.安来市	ここーで ばすお おりたわー.
Iz-0505	降りる	2.奥出雲町	ここで ばすお {おりた / おーた}.
Iz-0505	降りる	3.雲南市	おらわ ここで ばしお おりたち.
Iz-0505	降りる	4.出雲市	ここで ばしお おりた.
Iz-0506	降りる	共通語	バスを 降りて、電話 かける.
Iz-0506	降りる	1.安来市	ばすお おりて でんわ {しえーやい / してごしえ / かけー}.
Iz-0506	降りる	2.奥出雲町	ばすお {おりて / おーて} でんわお かけー.
Iz-0506	降りる	3.雲南市	ばし おりて でんわ {かけーだわ《な》 / かけて ごといたじ}.
Iz-0506	降りる	4.出雲市	ばし おりて でんわ しえー.
Iz-0507	降りる	共通語	妹が バスから 降りて きた.
Iz-0507	降りる	1.安来市	いもーとが ばすから おりて きたわ.
Iz-0507	降りる	2.奥出雲町	いもーとが ばすかー {おりて / おーて} きた.
Iz-0507	降りる	3.雲南市	いもとが ばしから おりて {きたわ〜きたわ}.
Iz-0507	降りる	4.出雲市	いもとが ばしから おりて きた.
Iz-0508	降りる	共通語	ここで 降りれば いいよ.

〜は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-0508	降りる	3.雲南市	ここで {おりらしゃい / おりりゃー いーのに〜りりゃ いーのに} (降りればいいのに)。
Iz-0508	降りる	4.出雲市	ここで おりりゃ いーのに。
Iz-0509	降りる	共通語	ここで 降りよう。
Iz-0509	降りる	3.雲南市	ここで おりーか。
Iz-0509	降りる	4.出雲市	ここで おらこい。
Iz-0510	降りる	共通語	降りる人が たくさん いる。
Iz-0510	降りる	3.雲南市	おりー ひとが おーじ おーわ。
Iz-0510	降りる	4.出雲市	おりー ふとが いっぱい おーが。
Iz-0601	落ちる	共通語	猿も 木から 落ちる。
Iz-0601	落ちる	1.安来市	さーも きかー おちーもんだわ。
Iz-0601	落ちる	2.奥出雲町	さーも きーから おちー。
Iz-0601	落ちる	3.雲南市	さるも {き〜き}から おちー。
Iz-0601	落ちる	4.出雲市	さるも きから おちー。
Iz-0602	落ちる	共通語	木を 揺らしても 実(蜜柑)は 落ちない。
Iz-0602	落ちる	1.安来市	きお えらしても みわ おちんの一。
Iz-0602	落ちる	2.奥出雲町	きー {ゆらいても / ゆらーても} みーわ おちん。
Iz-0602	落ちる	3.雲南市	ゆしぶっても みが おちん《わ》。
Iz-0602	落ちる	4.出雲市	{き〜き}お いさぶっても みが おちえんが。
Iz-0603	落ちる	共通語	兄が 木から 落ちた。
Iz-0603	落ちる	1.安来市	あにきが きから おちた。
Iz-0603	落ちる	2.奥出雲町	あにが きーから おちた。
Iz-0603	落ちる	3.雲南市	あんさんが {き〜き}から おちた。
Iz-0603	落ちる	4.出雲市	あにが {きから〜きから} おちたが。
Iz-0604	落ちる	共通語	兄は 木から 落ちて、今は 病院に いる。
Iz-0604	落ちる	1.安来市	あんちゃんわ きから おちて えまー びよーいんに おーわー。
Iz-0604	落ちる	2.奥出雲町	あにわ きーから おちて いまわ びよーいんに おー。
Iz-0604	落ちる	3.雲南市	あんちゃんわ {き〜き}から おちて いまわ びよーいんに おーわ。
Iz-0604	落ちる	4.出雲市	あにが {きから〜きから} おちて いまわ びよーいんに おーが。
Iz-0605	落ちる	共通語	棚から 荷物が 落ちて きた。
Iz-0605	落ちる	1.安来市	たなーから ねもつが おちて きた。
Iz-0605	落ちる	2.奥出雲町	たなから にもつが おちて きた。
Iz-0605	落ちる	3.雲南市	たなから にもちが おちて {きた〜きた}。
Iz-0605	落ちる	4.出雲市	たなから いもちが おちて きた。
Iz-0701	落とす	共通語	子どもが 柿の実を 落とす。
Iz-0701	落とす	1.安来市	こどもーが かきのみお おとす。
Iz-0701	落とす	2.奥出雲町	こどもが かきのみお おとすけん。
Iz-0701	落とす	3.雲南市	こどもが {かきの〜かきの} みお おとし。
Iz-0701	落とす	4.出雲市	こどもが かきの みお おとし。
Iz-0702	落とす	共通語	よい子は 木の実を 落とさない。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0702	落とす	1.安来市	えーこわ きのみお おとさんわ。
Iz-0702	落とす	2.奥出雲町	よいこわ きのみお おとさん。
Iz-0702	落とす	3.雲南市	いーこわ きのみわ おとさん。
Iz-0702	落とす	4.出雲市	いーこわ きのみお おとしえんじ。
Iz-0703	落とす	共通語	昨日 井戸に 石を 落とした。
Iz-0703	落とす	1.安来市	きんによ えどに えしお {おとした / おといた}。
Iz-0703	落とす	2.奥出雲町	きんの {いど～えど}に {いしお～えしお} おといた。
Iz-0703	落とす	3.雲南市	{きによー～きによー} おといた。
Iz-0703	落とす	4.出雲市	きによー いどに いし おといた。
Iz-0704	落とす	共通語	帽子を 落として、取りに 行った。
Iz-0704	落とす	1.安来市	ぼーしお おといて とーに えきた。
Iz-0704	落とす	2.奥出雲町	ぼーしお おといて とーに いった。
Iz-0704	落とす	3.雲南市	ぼーしお おといて とりに いった。
Iz-0704	落とす	4.出雲市	ぼーしお おといて とりに いきた。
Iz-0705	落とす	共通語	木に 登って 実を 落として くれ。
Iz-0705	落とす	1.安来市	きに のぼって み おとして ごしえやい。
Iz-0705	落とす	2.奥出雲町	きー のぼって みお おといて ごしえ。
Iz-0705	落とす	3.雲南市	{き～き}に のぼって みお おといて ごせ。
Iz-0705	落とす	4.出雲市	きに のぼって みお おといて ごしえ。
Iz-0706	落とす	共通語	うまく 落とせば 傷が つかない。
Iz-0706	落とす	3.雲南市	いーぐわいに おとしや {きじ～きじ}が ちかんぞ。
Iz-0706	落とす	4.出雲市	ぢょーじに おとしやー きざー {ちかんが / ちけへんが}。
Iz-0707	落とす	共通語	木に 登って 実を 落とそう。
Iz-0707	落とす	3.雲南市	{き～き}に のぼって みお おとさこい。
Iz-0707	落とす	4.出雲市	きに のぼって みお おとさこい。
Iz-0708	落とす	共通語	実を おとすときは 気をつけよう。
Iz-0708	落とす	3.雲南市	みー おとす{とき～とき}にわ きー ちけーや。
Iz-0708	落とす	4.出雲市	みお おとし。ときゃ {きー～きー} ちけ よー。
Iz-0801	蹴る	共通語	馬も 人を 蹴る。
Iz-0801	蹴る	1.安来市	おまも ふとー けーわい。
Iz-0801	蹴る	2.奥出雲町	うまも ふとー けー。
Iz-0801	蹴る	3.雲南市	うまも ひとー ける。
Iz-0801	蹴る	4.出雲市	おまも ふとー ける。
Iz-0802	蹴る	共通語	おとなしい 馬は 人を 蹴らない。
Iz-0802	蹴る	1.安来市	おとなし おまわ ふとー けらんわい。
Iz-0802	蹴る	2.奥出雲町	おとなしー うまわ ふとー けらん。
Iz-0802	蹴る	3.雲南市	おとなしー うまわ ひとー けらんぞ。
Iz-0802	蹴る	4.出雲市	おとなしー おまわ ふとー けらんが。
Iz-0803	蹴る	共通語	昨日 あの 馬は 人を 蹴った。
Iz-0803	蹴る	1.安来市	きんによ あの おまわ ふとー けったげな。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0803	蹴る	2.奥出雲町	きんの あの うまわ ふとー けた。
Iz-0803	蹴る	3.雲南市	{きによー~きによー} あの うまわ ひと けた。
Iz-0803	蹴る	4.出雲市	きによーわ あの おまわ ふと けた。
Iz-0804	蹴る	共通語	主(あるじ)を 蹴って、逃げ去った。
Iz-0804	蹴る	1.安来市	おやぢさん けて にげたげなわ。
Iz-0804	蹴る	2.奥出雲町	あるぢお けて にげてった。
Iz-0804	蹴る	3.雲南市	ひとー けて にげた。
Iz-0804	蹴る	4.出雲市	あるじお けて にげて いった。
Iz-0805	蹴る	共通語	その ボールを ここに 蹴って くれ。
Iz-0805	蹴る	1.安来市	そこの ぼーるお ここえ けて ごしえ。
Iz-0805	蹴る	2.奥出雲町	その ぼーるお ここに けて ごしえ。
Iz-0805	蹴る	3.雲南市	その ぼーる ここに けて ごせ。
Iz-0805	蹴る	4.出雲市	その ぼーるお ここに けて ごしえ。
Iz-0806	蹴る	共通語	強く 蹴れば そこまで 飛ぶだろう。
Iz-0806	蹴る	3.雲南市	がいに けりゃ そこまで とんじ。
Iz-0806	蹴る	4.出雲市	がいに けりゃ そこまで とんだら。
Iz-0807	蹴る	共通語	ボールを 蹴ろう。
Iz-0807	蹴る	3.雲南市	ぼーるお けーぞ。(意志) / いっしょに けらこい。(勧誘)
Iz-0807	蹴る	4.出雲市	ぼーる けらこい。
Iz-0808	蹴る	共通語	ボールを 蹴るときは 足を 伸ばせ。
Iz-0808	蹴る	3.雲南市	ぼーるお けー {とき~とき}わ あし のばせやー。
Iz-0808	蹴る	4.出雲市	ぼーるお けー ときゃ あし のばしえー。
Iz-0901	捨てる	共通語	父が 毎日 ゴミを 捨てる。
Iz-0901	捨てる	1.安来市	おやぢが まーいにち ごみお すてー。
Iz-0901	捨てる	2.奥出雲町	ちちが まいにち ごみー すてー。
Iz-0901	捨てる	3.雲南市	おやぢが まえにち ごみ {してる / してーわ}。
Iz-0901	捨てる	4.出雲市	おやぢが まいにち ごみ してー。
Iz-0902	捨てる	共通語	明日も 捨てる。
Iz-0902	捨てる	1.安来市	あしたも すてーわ。
Iz-0902	捨てる	2.奥出雲町	あしたも すてー。
Iz-0902	捨てる	3.雲南市	あしたも してーわ。
Iz-0902	捨てる	4.出雲市	あしたも してー。
Iz-0903	捨てる	共通語	祖母は 古い 着物も 捨てない。
Iz-0903	捨てる	1.安来市	おばばわ ふる きーもんも {すてんが / すてちゃらんが}。
Iz-0903	捨てる	2.奥出雲町	おばばわ ふるー きもんも すてん。
Iz-0903	捨てる	3.雲南市	ふるい もんの してんわ。
Iz-0903	捨てる	4.出雲市	ばーさんわ ぶりー きもんでも {してんが / してらんが / してしえんが / してへんが}。
Iz-0904	捨てる	共通語	古い 道具は おととい 捨てた。
Iz-0904	捨てる	1.安来市	ふる どーぐわ {おとつい / こないだ} すてた。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-0904	捨てる	2.奥出雲町	ふるー どーぐわ おととい すてた.
Iz-0904	捨てる	3.雲南市	ふるい どーぐわ おとちい してた.
Iz-0904	捨てる	4.出雲市	ふりー どーぐわ おととい {してて / しててしまった}.
Iz-0905	捨てる	共通語	古い ものは 捨てて、新しい ものを 買え。
Iz-0905	捨てる	1.安来市	ふる もんわ すてて あたらしー もん かえやい.
Iz-0905	捨てる	2.奥出雲町	ふるー もんわ すてて あたらしー もの かえ.
Iz-0905	捨てる	3.雲南市	ふるい ものー してて あたらしー もん かえーや.
Iz-0905	捨てる	4.出雲市	ふりー もんわ してて あたらしー もん かえ.
Iz-0906	捨てる	共通語	ゴミを そこに 捨てて くれ。
Iz-0906	捨てる	1.安来市	ごんよー そこんとこえ {すてやい / すてて ごしなはい}.
Iz-0906	捨てる	2.奥出雲町	ごみー そこに すてて ごしえ.
Iz-0906	捨てる	3.雲南市	ごみお そこに してて ごせ.
Iz-0906	捨てる	4.出雲市	ごみお そこみ してて ごしえ.
Iz-0907	捨てる	共通語	そんなもの 捨てれば いいのに。
Iz-0907	捨てる	3.雲南市	そげなもの してりや いー.
Iz-0907	捨てる	4.出雲市	そぎゃもん してりや いーだにか.
Iz-0908	捨てる	共通語	ゴミを 捨てよう。
Iz-0908	捨てる	3.雲南市	きよー ごみ {しちよこい (勧誘) / してーじ (意志)}.
Iz-0908	捨てる	4.出雲市	ごみ してら やー.
Iz-0909	捨てる	共通語	捨てるものと 捨てないものを 分けなさい。
Iz-0909	捨てる	3.雲南市	してーもんと してんもん わきよこい.
Iz-0909	捨てる	4.出雲市	してーもんと してんもんと わけらっしやい.
Iz-1001	出す	共通語	庭に 荷物を 出す。
Iz-1001	出す	1.安来市	にわに にもつお だすかー.
Iz-1001	出す	2.奥出雲町	にわに にもつお だす.
Iz-1001	出す	3.雲南市	にわに にもちお {ださこい (勧誘) / だしじ (意志)}.
Iz-1001	出す	4.出雲市	にわに にもち だし.
Iz-1002	出す	共通語	雨の ときには 外には 荷物を 出さない。
Iz-1002	出す	1.安来市	あめの ときゃ そとやなんかえ にもつお {ださん / だすもんぢゃ ねーわい / だしゃー いけんわ}.
Iz-1002	出す	2.奥出雲町	あめの ときにゃ そとにゃ にもつお ださん.
Iz-1002	出す	3.雲南市	にもちお ださんぢ.
Iz-1002	出す	4.出雲市	あめの ときゃ そとえ にもちお だれんだ (誰も) {ださんが / ださ へんが / だしえんが / だいた いけんが (出したらいけない)}.
Iz-1003	出す	共通語	友達が 荷物を 外に 出した。
Iz-1003	出す	1.安来市	ともだちが にもつお そとえ {だいて / だえて} しまったわ.
Iz-1003	出す	2.奥出雲町	ともだちが にもつお そとに だいた.
Iz-1003	出す	3.雲南市	だいた.
Iz-1003	出す	4.出雲市	ともだちが にもち そとに だいた.
Iz-1004	出す	共通語	荷物を 外に 出して、それから 帰れ。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-1004	出す	1.安来市	にもつお そとえ {だいて / だいちよいて} そーから えねやい.
Iz-1004	出す	2.奥出雲町	にもつお そとに だいて そーから いね.
Iz-1004	出す	3.雲南市	だいて いね.
Iz-1004	出す	4.出雲市	にもちお そとに だいて へーから いね.
Iz-1005	出す	共通語	早く 荷物を 出して こい.
Iz-1005	出す	1.安来市	はや にもつお だいて {ごしえ / だいちよいて こいやい}.
Iz-1005	出す	2.奥出雲町	はやー にもつお だいて こい.
Iz-1005	出す	3.雲南市	はや にもちお だいて こい.
Iz-1005	出す	4.出雲市	はやこと にもち だいて こい.
Iz-1006	出す	共通語	今日 出せば 明日 着くだろう.
Iz-1006	出す	3.雲南市	きよー だしゃ あした {ちくわ/ ちくじ}.
Iz-1006	出す	4.出雲市	きよー だしゃ あした ちく だらが.
Iz-1007	出す	共通語	明日 出そう.
Iz-1007	出す	3.雲南市	あした ださこい.
Iz-1007	出す	4.出雲市	あした {だそー / ださこい}.
Iz-1008	出す	共通語	荷物を 出すときは 言ってくれ.
Iz-1008	出す	3.雲南市	だすときゃ てご すーけん いって ご.
Iz-1008	出す	4.出雲市	にもち だし.ときゃ いって ごしえ.
Iz-1101	やる	共通語	いつも 私は 弟に お菓子を やる.
Iz-1101	やる	1.安来市	えつも おらー おととに くわしお やる.
Iz-1101	やる	2.奥出雲町	いつも おらー おとーとに かし やーが.
Iz-1101	やる	3.雲南市	いちも おととに かしお {やる}.
Iz-1101	やる	4.出雲市	いちも おととに くわし やーが.
Iz-1102	やる	共通語	毎日 弟に 菓子を やっている.
Iz-1102	やる	1.安来市	まいにち おととに くわしお やっちょーわ.
Iz-1102	やる	2.奥出雲町	まいにち おとーとに かし やっちょ.
Iz-1102	やる	3.雲南市	まいにち おととに かし やっちょる.
Iz-1102	やる	4.出雲市	まいにち おととに くわし {やっちょり / やっちょーが}.
Iz-1103	やる	共通語	弟は 兄に お菓子を やらない.
Iz-1103	やる	1.安来市	おととわ あんちゃんに くわしお やらん.
Iz-1103	やる	2.奥出雲町	おとーとわ あにに かし やらん.
Iz-1103	やる	3.雲南市	おとーとわ {あにき~あにき}に かし やらん.
Iz-1103	やる	4.出雲市	おととわ あにに くわし {やらんが / やれへんが}.
Iz-1104	やる	共通語	昨日 弟に 飴を やった.
Iz-1104	やる	1.安来市	きんによ おととに あめお やった.
Iz-1104	やる	2.奥出雲町	きんの おとーとに あめ やった.
Iz-1104	やる	3.雲南市	{きによー~きによー} おととに あめお やった.
Iz-1104	やる	4.出雲市	きによー おととに あめ やった《か》.
Iz-1105	やる	共通語	馬に 草を やって、畑に 行った.
Iz-1105	やる	1.安来市	おまに くさお やって はたけに えきた.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1105	やる	2.奥出雲町	うまに くさ やって はたけ え.った.
Iz-1105	やる	3.雲南市	くさ やって はたけに だた.
Iz-1105	やる	4.出雲市	おまにくさ やって {はたけに / はたけ} いきたが.
Iz-1106	やる	共通語	牛に 草を やって ごらん.
Iz-1106	やる	1.安来市	おしにくさお やって みー.
Iz-1106	やる	2.奥出雲町	うしにくさ {やっちょけ / やっちょって ごしえ / やっちょいて ごさんかね / やって みんなかや}.
Iz-1106	やる	3.雲南市	うしにくさ やって みー.
Iz-1106	やる	4.出雲市	おしにくさお やって まっしえー.
Iz-1107	やる	共通語	牛には この草を やれば いいよ.
Iz-1107	やる	3.雲南市	この くさ {やりゃ~やら} いー.
Iz-1107	やる	4.出雲市	おしにわ このくさ やりゃ いーのに.
Iz-1108	やる	共通語	牛に 草を やろう.
Iz-1108	やる	3.雲南市	うしん くさ やらこい.
Iz-1108	やる	4.出雲市	おしにくさ {やらー / やらこい}.
Iz-1109	やる	共通語	牛に 草を やるときは 気をつけなさい.
Iz-1109	やる	3.雲南市	うしん くさ やー {とき~とき} きー ちけーや.
Iz-1109	やる	4.出雲市	おしにくさ やー ときゃ {きー~きー} {ちけなはえ ちけらっしえ ー よ}.
Iz-1201	もらう	共通語	漁師から 魚を もらう.
Iz-1201	もらう	1.安来市	りょーしから さかなお もらー.
Iz-1201	もらう	2.奥出雲町	りょーしから さかなー もらー.
Iz-1201	もらう	3.雲南市	さかなお もらう.
Iz-1201	もらう	4.出雲市	りょーしから さかな もらー{が /じ}.
Iz-1202	もらう	共通語	小さい カニは 誰も もらわない.
Iz-1202	もらう	1.安来市	こめ かにわ だれんも もらわんわー.
Iz-1202	もらう	2.奥出雲町	ちーさな かにわ だーも もらわん.
Iz-1202	もらう	3.雲南市	この ちーかにわ だれも もらわんわ.
Iz-1202	もらう	4.出雲市	こめ がにわ だれんも {もらわんが / もらへんが}.
Iz-1203	もらう	共通語	隣の 家から 大根を もらった.
Iz-1203	もらう	1.安来市	となーの うちから だいこ {もらったわ / もらーたわ}.
Iz-1203	もらう	2.奥出雲町	となーの いえから だいこんまーた.
Iz-1203	もらう	3.雲南市	となりから だえこん もらった.
Iz-1203	もらう	4.出雲市	となりから だいこん {まったが / ごいたが}.
Iz-1204	もらう	共通語	大きな 魚を もらって、みんなで 分けた.
Iz-1204	もらう	1.安来市	おつきな さかなお {もらって / もらーて} だれんもで わけたわ.
Iz-1204	もらう	2.奥出雲町	がいな さかなー まーて だれんもで わけた.
Iz-1204	もらう	3.雲南市	おーきな さかなお もらって だれんもで わけた.
Iz-1204	もらう	4.出雲市	おつきゃん さかな まって みんなで わけた.
Iz-1205	もらう	共通語	親戚から 味噌を もらって きた.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1205	もらう	1.安来市	おやこから みそ {もらって / もらーて} きたでー.
Iz-1205	もらう	2.奥出雲町	しんしえきから みそ まーて きた.
Iz-1205	もらう	3.雲南市	もらって {きた～きた}.
Iz-1205	もらう	4.出雲市	しんせきから みそ まって きたが.
Iz-1206	もらう	共通語	遠慮せずに もらえば いいよ.
Iz-1206	もらう	3.雲南市	{じぎ～じぎ} せしこね もらいわ いーわな.
Iz-1206	もらう	4.出雲市	えんりよ さじに まら いーのに.
Iz-1207	もらう	共通語	いらぬなら 私が もらおう.
Iz-1207	もらう	3.雲南市	いらぬ おらが もらーじ.
Iz-1207	もらう	4.出雲市	いらんなら おらが もらー.
Iz-1208	もらう	共通語	お小遣いを もらうときは お礼を 言いなさい.
Iz-1208	もらう	3.雲南市	こじかい もらー {とき～とき} れー いえや.
Iz-1208	もらう	4.出雲市	おこじかいお もらー ときにわ おれー いわっしゃい.
Iz-1301	飲む	共通語	喉が 乾いたら 水を 飲む.
Iz-1301	飲む	1.安来市	のどが かわえたら {みず～みじ}でも {のまーこい～ぬまーこい}.
Iz-1301	飲む	2.奥出雲町	のどが かわえたら みず のんよ.
Iz-1301	飲む	3.雲南市	のど ひったけん みず のむ.
Iz-1301	飲む	4.出雲市	のどが かわいたけん みず お のむわね.
Iz-1302	飲む	共通語	私も 飲む.
Iz-1302	飲む	1.安来市	あだんも のんかー.
Iz-1302	飲む	2.奥出雲町	あだんのんよ.
Iz-1302	飲む	3.雲南市	おらも のむ.
Iz-1302	飲む	4.出雲市	うちも {のむよ / のむわね}.
Iz-1303	飲む	共通語	私の 夫は 酒を 飲まない.
Iz-1303	飲む	1.安来市	うせいの おとーおさんわ さきやなんか {のまん / のんぢゃなえけん / のまへの～ぬまへの}.
Iz-1303	飲む	2.奥出雲町	うせいの おとーさんわ さけ のまんよ.
Iz-1303	飲む	3.雲南市	うちの すわ さけ のまんよ.
Iz-1303	飲む	4.出雲市	うちの おとっつあんわ さけ お のまんわね.
Iz-1304	飲む	共通語	お茶は さっき 飲んだ.
Iz-1304	飲む	1.安来市	おちゃわ {いんまさつき / いんまさつけ} のんだ けん いまわ いらん わえ (今はいらぬ).
Iz-1304	飲む	2.奥出雲町	おちゃわ いんまさつき のんだ.
Iz-1304	飲む	3.雲南市	おちゃわ もーちっと まえに のんだ.
Iz-1304	飲む	4.出雲市	おちゃわ さつき {のんだわね / のんだ ばっかり だがね}.
Iz-1305	飲む	共通語	薬を 飲んで、早く 寝ろ.
Iz-1305	飲む	1.安来市	くすりのんで はやー {ねれー / ねろー / ねんあー}.
Iz-1305	飲む	2.奥出雲町	くすりのんで はや {ねろ / ねなはいや / ねれ / ねえや}.
Iz-1305	飲む	3.雲南市	くす のんで はや ねーや.
Iz-1305	飲む	4.出雲市	くすりお のんで はやこと ねーだわ.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-1306	飲む	共通語	この 薬は 甘いから 飲んで みなさい。
Iz-1306	飲む	1.安来市	この くすりわなー あまいぶんだけん {のんでみーや / のんでみさっしゃえ}.
Iz-1306	飲む	2.奥出雲町	この くすりわ あまえから のんで みな はえや.
Iz-1306	飲む	3.雲南市	この くす あまいけん のんで みーや.
Iz-1306	飲む	4.出雲市	のんときわ この くすりわ あめけん のんで みーだわ.
Iz-1307	飲む	共通語	この 薬を 飲めば 治る。
Iz-1307	飲む	3.雲南市	この くす のみゃ なおーわい.
Iz-1307	飲む	4.出雲市	この くすりお {のんだら / のんだー} なおーわね.
Iz-1308	飲む	共通語	薬を 飲もう。
Iz-1308	飲む	3.雲南市	くす {のもー / のまーか}.
Iz-1308	飲む	4.出雲市	くす {のまか / のむわね / のんでみらかな}.
Iz-1309	飲む	共通語	飲むときは 水で 飲め。
Iz-1309	飲む	3.雲南市	のむ ときゃ みずで のめよ.
Iz-1309	飲む	4.出雲市	みずで のんだわね.
Iz-1401	食べる	共通語	沖縄では ヘチマを 食べる。
Iz-1401	食べる	1.安来市	おきなわぢャー ヘちまやなんか {くーげなわー / くっちょーだかー}.
Iz-1401	食べる	2.奥出雲町	おきなわでわ ヘちま たべーよ.
Iz-1401	食べる	3.雲南市	おきなわぢャー ヘちまお {くー / たべー}.
Iz-1401	食べる	4.出雲市	{おきなわでわ ヘちまお たべー / おきなわ ヘちま たべる}.
Iz-1402	食べる	共通語	そこの 家族は みんな ヘチマを 食べる。
Iz-1402	食べる	1.安来市	あすこの いえの しーわ ヘちまやなんか くーとや.
Iz-1402	食べる	2.奥出雲町	あすこの かぞくわ {みんな〜みんな} ヘちま たべえよ.
Iz-1402	食べる	3.雲南市	{あすこの いえわ / そこの かぞく} みんな {ヘちまお / ヘちま} {くっとー / たべる}.
Iz-1402	食べる	4.出雲市	そこの かぞくわ ごっと ヘちまお たべーわね.
Iz-1403	食べる	共通語	この辺りの人は ヘチマを 食べない。
Iz-1403	食べる	1.安来市	ここの へんじゃ ヘちまやなんか {くーへの / くーへんで}.
Iz-1403	食べる	2.奥出雲町	このへんの ひとわ ヘちま たべんわ.
Iz-1403	食べる	3.雲南市	この {へんの / あたりの} {ふとわ / ひと} {ヘちまお / ヘちま} {くわんよ / たべんよ / たべない}.
Iz-1403	食べる	4.出雲市	この へんの ふとわ ヘちまお たべんわね / この あたりの ひとヘちま たべない.
Iz-1404	食べる	共通語	ニガウリは 昨日 食べた。
Iz-1404	食べる	1.安来市	ごーやわ きんのー かった けん きょーわ いらんわ (今日はいらない).
Iz-1404	食べる	2.奥出雲町	にがうり きんの たべた.
Iz-1404	食べる	3.雲南市	にがうりわ きんによ {かった / たべた}.
Iz-1404	食べる	4.出雲市	にがうりわ きによー {たべた / かったわね}.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1405	食べる	共通語	昼ご飯を 食べて、寝る。
Iz-1405	食べる	1.安来市	しるめしお くて {ねれー / ねろー}.
Iz-1405	食べる	2.奥出雲町	ひるごはん {たべて / くて} {ねろ / ねなはいや}.
Iz-1405	食べる	3.雲南市	つーはん くて ねろ .
Iz-1405	食べる	4.出雲市	ひるめしお くて ねーだわ.
Iz-1406	食べる	共通語	夕ご飯は 食べて きた。
Iz-1406	食べる	1.安来市	{ばんめし~ばんめし}わ くて きた.
Iz-1406	食べる	2.奥出雲町	ゆーはん くて きた.
Iz-1406	食べる	3.雲南市	ばんめしゃ くて きた .
Iz-1406	食べる	4.出雲市	ゆーめしわ くて きたわね.
Iz-1407	食べる	共通語	山羊は 草を 食う。
Iz-1407	食べる	1.安来市	やぎわ くさお なんぼでも くてー.
Iz-1407	食べる	2.奥出雲町	やぎわ くさお くて よ.
Iz-1407	食べる	3.雲南市	やぎわ くさお くて .
Iz-1407	食べる	4.出雲市	やぎわ くさお {くげなわ / くてーらしー}.
Iz-1408	食べる	共通語	山羊は 紙を 食わない。
Iz-1408	食べる	1.安来市	やぎわ {かみやなんけー / かみやなんかえ} くてーへの.
Iz-1408	食べる	2.奥出雲町	やぎわ かみわ くてわんわ.
Iz-1408	食べる	3.雲南市	やぎわ かみお {くてわん / たべん / くてへん}.
Iz-1408	食べる	4.出雲市	やぎわ かみお くてわん.
Iz-1409	食べる	共通語	猫が 魚を 食った。
Iz-1409	食べる	1.安来市	ねこが さかな くてたとや.
Iz-1409	食べる	2.奥出雲町	ねこが さかなお くてた.
Iz-1409	食べる	3.雲南市	ねこが さかなお くてた .
Iz-1409	食べる	4.出雲市	ねこが さかなお くてたわね.
Iz-1410	食べる	共通語	魚を 食って、すぐに 逃げた。
Iz-1410	食べる	1.安来市	さかなお くて じきに にげたわー.
Iz-1410	食べる	2.奥出雲町	さかな くて じきに にげたわ.
Iz-1410	食べる	3.雲南市	さかなお くて すぐ にげた.
Iz-1410	食べる	4.出雲市	さかな お くて ぢきに にげたわね.
Iz-1411	食べる	共通語	全部 食って しまった。
Iz-1411	食べる	1.安来市	ぢえんぶ たえらげて しまった.
Iz-1411	食べる	2.奥出雲町	ぢえんぶ くて しまーたわ.
Iz-1411	食べる	3.雲南市	みな くて しまった.
Iz-1411	食べる	4.出雲市	ごっと くて しまったわね.
Iz-1412	食べる	共通語	もっと 食べれば いいのに。
Iz-1412	食べる	3.雲南市	もっと {くてや / たべりや} えーにのー.
Iz-1412	食べる	4.出雲市	もっと {くてたら えに / たべれば えに / くてわいに}.
Iz-1413	食べる	共通語	少しだけ 食べよう。
Iz-1413	食べる	3.雲南市	ちよんぼし {たべらか / くてわ / くてえや (命令)}.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1413	食べる	4.出雲市	{ちよんぼし / ちよんぼだけ} {くかね / くーかね / くーわね}.
Iz-1414	食べる	共通語	ご飯を 食べるときは 静かに 下さい。
Iz-1414	食べる	3.雲南市	めしお {くー / たべー} ときわ しずかに しえー .
Iz-1414	食べる	4.出雲市	めし くー ときわ しずかに {すーだわね / さっしゃい}.
Iz-1501	酔う	共通語	この 酒は すぐに 酔う。
Iz-1501	酔う	1.安来市	この さけわ はやー まわったわー.
Iz-1501	酔う	2.奥出雲町	この さけ じき よーね.
Iz-1501	酔う	3.雲南市	この さけわ ぢき まわーけんのー.
Iz-1501	酔う	4.出雲市	この おみきわ ぢきに {よーわね / よーずね}.
Iz-1502	酔う	共通語	彼は どんなに 飲んでも 酔わない。
Iz-1502	酔う	1.安来市	あいつわ なんぼ のんでも {よわへんわ / よわしえんけん / よわへしえの}.
Iz-1502	酔う	2.奥出雲町	たろーわ なんぼのんでも よわんわ.
Iz-1502	酔う	3.雲南市	あのすわ なんぼ のんでも よわん.
Iz-1502	酔う	4.出雲市	あの すわ どげに のんでも よわんわね.
Iz-1503	酔う	共通語	おとといは たくさん 飲んで 酔った。
Iz-1503	酔う	1.安来市	こなえだわ がえに のんで {まわったわ / なんと よーた}.
Iz-1503	酔う	2.奥出雲町	おとといわ ぢゃんこと のんで よーたわ.
Iz-1503	酔う	3.雲南市	おとついわ ぢゃんぢゃん のんで よった.
Iz-1503	酔う	4.出雲市	おとついわ まげに のんで よったわね.
Iz-1504	酔う	共通語	彼は 酔って、昨日の ことを 忘れている。
Iz-1504	酔う	1.安来市	あいつわ のまれて きんのーの こと ぼーど おぼえちよらんわ.
Iz-1504	酔う	2.奥出雲町	たろーわ よーて きんのーの こと わすれちよーわ.
Iz-1504	酔う	3.雲南市	あのすわ よって きんによの こと わすれちよーわ.
Iz-1504	酔う	4.出雲市	あの すわ よって きによーの こと わすれちよーわね.
Iz-1505	酔う	共通語	酒を 飲んで 酔って しまった。
Iz-1505	酔う	1.安来市	のみすぎて よーて しまったわ.
Iz-1505	酔う	2.奥出雲町	さけー のんで よーて しまーたわ.
Iz-1505	酔う	3.雲南市	さけお のんで よって しまった.
Iz-1505	酔う	4.出雲市	さけ のんで よって しまったわ.
Iz-1506	酔う	共通語	弟は 酔えば あばれる。
Iz-1506	酔う	3.雲南市	おとーとわ {よやー / よーと} あばれー.
Iz-1506	酔う	4.出雲市	おとーとわ よったら あばれーわね.
Iz-1601	寝る	共通語	弟は 一人で 寝る。
Iz-1601	寝る	1.安来市	あえつわ ひとりで なんぼでも ねーわえ.
Iz-1601	寝る	2.奥出雲町	おとーとわ ひとりで ねーよ.
Iz-1601	寝る	3.雲南市	おとーとわ ふとーで {ねる / ねわ}.
Iz-1601	寝る	4.出雲市	おとーとわ ふとーで ねーわね.
Iz-1602	寝る	共通語	妹は 一人では 寝ない。
Iz-1602	寝る	1.安来市	いもーとわ ひとりぢゃー ねりゃーへの.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1602	寝る	2.奥出雲町	いもーとわ ひとりで ねんよ.
Iz-1602	寝る	3.雲南市	いもーとわ ふとーちゃ ねんよー.
Iz-1602	寝る	4.出雲市	いもーとわ ふとーでわ {ねらんわね / ねんわね}.
Iz-1603	寝る	共通語	ゆうべは 二人で 寝た.
Iz-1603	寝る	1.安来市	よんべわ ふたりに ねた 《げな》 わ.
Iz-1603	寝る	2.奥出雲町	よんべわ ふたーりで ねたよ.
Iz-1603	寝る	3.雲南市	よんべわ ふたーで ねた.
Iz-1603	寝る	4.出雲市	よんべわ ふたーで ねたわね.
Iz-1604	寝る	共通語	9時に 寝て、8時に 起きた.
Iz-1604	寝る	1.安来市	くじに ねて はちじに {おきたともえ / みが さめた}.
Iz-1604	寝る	2.奥出雲町	くぢに ねて はちじに おきたわ.
Iz-1604	寝る	3.雲南市	くぢに ねて はちぢに おきた.
Iz-1604	寝る	4.出雲市	くぢに ねて はちぢに おきたわね.
Iz-1605	寝る	共通語	今日は 一人で 寝て みる.
Iz-1605	寝る	1.安来市	きよーわ ひとりで {ねてみーやい / ねてみーやえ}.
Iz-1605	寝る	2.奥出雲町	きよーわ ひとりで ねてみなはえ.
Iz-1605	寝る	3.雲南市	きよーわ ふとーで {ねて みー / ねーだず}.
Iz-1605	寝る	4.出雲市	きよーわ ふとーで ねて みーだわ.
Iz-1606	寝る	共通語	たくさん 寝れば 疲れが とれる.
Iz-1606	寝る	3.雲南市	ちゃんちゃん ねりやー けんびきが なおー.
Iz-1606	寝る	4.出雲市	いっばえ ねたら つかれが とれーわね.
Iz-1607	寝る	共通語	今日は 早く 寝よう.
Iz-1607	寝る	3.雲南市	きよーわ はやこと ねーかー.
Iz-1607	寝る	4.出雲市	きよーわ はやこと ねーわー.
Iz-1608	寝る	共通語	もう 寝る時間だ.
Iz-1608	寝る	3.雲南市	もー ねーとき だず.
Iz-1608	寝る	4.出雲市	もー {ねー / ねる} ぢかんだわ.
Iz-1701	起きる	共通語	祖父は 毎日 6時に 起きる
Iz-1701	起きる	1.安来市	じーさんわ まいにち ろくじに おきてござー.
Iz-1701	起きる	2.奥出雲町	おぢーさん まえにち ろくじに おきる.
Iz-1701	起きる	3.雲南市	ぢぢわ まいにち ろくぢに おきー.
Iz-1701	起きる	4.出雲市	おぢぢわ みやーにち ろくぢに {おきーわね / おきられーわ}.
Iz-1702	起きる	共通語	弟は まだ 起きない.
Iz-1702	起きる	1.安来市	おとーとわ まだ おきんがな.
Iz-1702	起きる	2.奥出雲町	おとーとわ まんだ おきーん.
Iz-1702	起きる	3.雲南市	おとーとわ まんだ {おきんけー / おきらんかい}.
Iz-1702	起きる	4.出雲市	おとーとわ まんだ おきらん.
Iz-1703	起きる	共通語	父も 6時に 起きた.
Iz-1703	起きる	1.安来市	おやじも ろくじに おきちよーがな.
Iz-1703	起きる	2.奥出雲町	おとーさんも ろくぢに おきた.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-1703	起きる	3.雲南市	おとーさんも ろくぢに おきられた。
Iz-1703	起きる	4.出雲市	おとつつあんも ろくぢに {おきられた / おきらえた}.
Iz-1704	起きる	共通語	早く 起きて、それから 畑に 行った。
Iz-1704	起きる	1.安来市	きさも こぼよーおに めがさめて そーから はたげに でたわ。
Iz-1704	起きる	2.奥出雲町	はやー おきて そーから はたけに いったわ。
Iz-1704	起きる	3.雲南市	はや おきて そーから はたけに いかれた。
Iz-1704	起きる	4.出雲市	はやこと おきて そーから はたけに いかえた。
Iz-1705	起きる	共通語	おまえも 早く 起きて こい。
Iz-1705	起きる	1.安来市	おめーも はやく おきにゃー。
Iz-1705	起きる	2.奥出雲町	おまえも はやー おきて こいや。
Iz-1705	起きる	3.雲南市	おまえも はやこと {おきて こい / おきーや}.
Iz-1705	起きる	4.出雲市	おまえも はやこと おきて くーだわ。
Iz-1706	起きる	共通語	早く 起きれば 仕事が できる。
Iz-1706	起きる	3.雲南市	はやこと おきーと しごとが はかどーず。
Iz-1706	起きる	4.出雲市	はやこと おきたら しごとが {いっぺー {できるぞ〜できーぞ} / しごとが なーぞ}.
Iz-1707	起きる	共通語	明日は 早く 起きよう。
Iz-1707	起きる	3.雲南市	あしたわ はやこと おきーぞ。
Iz-1707	起きる	4.出雲市	あしたわ はやこと {おきーかな / おきらかなー} . (意志)
Iz-1708	起きる	共通語	もう 起きる時間だ。
Iz-1708	起きる	3.雲南市	もー おきー ぢかんだ。
Iz-1708	起きる	4.出雲市	もー おきー ぢかんだ。
Iz-1801	着る	共通語	高校生は 制服を 着る。
Iz-1801	着る	1.安来市	こーおこーしえーわ よーふく {まいにち / まえにつ} (毎日) きだけんな。
Iz-1801	着る	2.奥出雲町	こーこーしえーわ ふくー きーよ。
Iz-1801	着る	3.雲南市	こーこーしえーわ しえーふくお きー。
Iz-1801	着る	4.出雲市	こーこーしえーわ しえーふくお {きるわね / きーよー}.
Iz-1802	着る	共通語	その服は 古いから 誰も 着ない。
Iz-1802	着る	1.安来市	その よーふくわ ぼろだけん だれんだ {きりゃーしえの / きんけん}.
Iz-1802	着る	2.奥出雲町	その ふくわ ふるいから だれんも きらんよ。
Iz-1802	着る	3.雲南市	その ふくわ ふるーけんだれんも {きんよー / きらんよー}.
Iz-1802	着る	4.出雲市	その ふくわ ふるけん {だれも / だーも} きらん。
Iz-1803	着る	共通語	それは 昨日 着た。
Iz-1803	着る	1.安来市	そーわ きんのー きたわ。
Iz-1803	着る	2.奥出雲町	そりゃー きんのー きたよ。
Iz-1803	着る	3.雲南市	そーわ きんによ きた。
Iz-1803	着る	4.出雲市	そーわ きによ きたわね。
Iz-1804	着る	共通語	私は 赤い服を 着て、妹は 青い服を 着た。

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-1804	着る	1.安来市	おらわ まっかな よーふくお きて いもーとわ あおい よーふく き ちよーわ。
Iz-1804	着る	2.奥出雲町	あだんわ あかえ ふくー きて いもーとわ あおい ふくー きたよ。
Iz-1804	着る	3.雲南市	わたしわ ふくお きて いもーとわ あおい ふくお きた。
Iz-1804	着る	4.出雲市	わたしわ まっかな ふくお きて いもーとわ あえ ふくお きた。
Iz-1805	着る	共通語	おまえも ちよっと 着て みる。
Iz-1805	着る	1.安来市	{おまえ〜おめー}も ちよーこー きてみーやえ。
Iz-1805	着る	2.奥出雲町	おまえも ちよっこし きて みーだわ。
Iz-1805	着る	3.雲南市	おまえも ちよっこし きて {みーだわ / みれや}。
Iz-1805	着る	4.出雲市	{おまえさんも / おめーも} ちよっと きて みーだわね。
Iz-1806	着る	共通語	この服を 着れば 背が 高く みえる。
Iz-1806	着る	3.雲南市	この ふくお きーと しえが たかく みえーぞ。
Iz-1806	着る	4.出雲市	この ふくお きたら しえが たかー みえわね。
Iz-1807	着る	共通語	今日は この服を 着よう。
Iz-1807	着る	3.雲南市	きよーわ この ふくお {きてみーか / きてみらか}。
Iz-1807	着る	4.出雲市	きよーわ この ふくお きーかなー。
Iz-1808	着る	共通語	着物を 着るときは 足袋を はく。
Iz-1808	着る	3.雲南市	きものー きー ときわ たびお はく。
Iz-1808	着る	4.出雲市	きーもんきー ときわ たびお はくわね。
Iz-1901	見る	共通語	毎日 テレビを 見る。
Iz-1901	見る	1.安来市	また てれび {みちよーわ / みる}。
Iz-1901	見る	2.奥出雲町	まえにち てれび みーよ。
Iz-1901	見る	3.雲南市	まいにち てれびお みー。
Iz-1901	見る	4.出雲市	みゃーにち てれびお みーわね。
Iz-1902	見る	共通語	父は 野球は 見ない。
Iz-1902	見る	1.安来市	みりゃーしえん。
Iz-1902	見る	2.奥出雲町	おとーさん やきゅーわ みんよ。
Iz-1902	見る	3.雲南市	おとーさんわ やきゅーお みん。
Iz-1902	見る	4.出雲市	おとっつあんわ やきゅーわ みらんわね。
Iz-1903	見る	共通語	昨日 虹を 見た。
Iz-1903	見る	1.安来市	みた。
Iz-1903	見る	2.奥出雲町	きんのー にぢお みたよ。
Iz-1903	見る	3.雲南市	きのー にぢ みたよ。
Iz-1903	見る	4.出雲市	きのー にぢお みたずね。
Iz-1904	見る	共通語	映画を 見て、家に 帰った。
Iz-1904	見る	1.安来市	きよーわ えーが みに きたわー。(今日は映画を見てきたよ)
Iz-1904	見る	2.奥出雲町	えーが みて いいえに かえった。
Iz-1904	見る	3.雲南市	かつどーしゃしんみて うちに かえった。
Iz-1904	見る	4.出雲市	えーがお みて いえに {かえったずねー / かえったがねー}。
Iz-1905	見る	共通語	心配だから 船を 見て こい。

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-1905	見る	1.安来市	どげしちよーかえな ちよっこー ふね みて こいなー.
Iz-1905	見る	2.奥出雲町	しんばえ だけん ふねー みて こいや.
Iz-1905	見る	3.雲南市	しんばい だから ふねが どげんなか みて こい.
Iz-1905	見る	4.出雲市	しんばい だけん ふねお みて こいやー.
Iz-1906	見る	共通語	これを 見れば 分かる。
Iz-1906	見る	3.雲南市	これ みりゃ わかーが.
Iz-1906	見る	4.出雲市	こーお みたら わかーがね.
Iz-1907	見る	共通語	今日は テレビを 見よう。
Iz-1907	見る	3.雲南市	きよーわ てれびお {みーか / みらか (勧誘)}.
Iz-1907	見る	4.出雲市	きよーわ てれびお {みーかなー / みらかなー}.
Iz-1908	見る	共通語	近くのを 見るときは 眼鏡を かける。
Iz-1908	見る	3.雲南市	ちかくお みー ときわ めがねお かけー.
Iz-1908	見る	4.出雲市	ちけ とこの もん みー ときわ めがねお かけーわね.
Iz-2001	死ぬ	共通語	蝉は すぐに 死ぬ。
Iz-2001	死ぬ	1.安来市	せみや じき {しのーけん〜しのーけん}.
Iz-2001	死ぬ	2.奥出雲町	しえみわ じき しのー がね.
Iz-2001	死ぬ	3.雲南市	しえみわ ぢき しのー.
Iz-2001	死ぬ	4.出雲市	しえみわ ぢきに {しのーがね / しのーわね}.
Iz-2002	死ぬ	共通語	ゴキブリは なかなか 死なない。
Iz-2002	死ぬ	1.安来市	ごきぶりわ なかなか しなんぞー.
Iz-2002	死ぬ	2.奥出雲町	ごきぶり なんぼ しても しなんねー.
Iz-2002	死ぬ	3.雲南市	しなん.
Iz-2002	死ぬ	4.出雲市	ごきぶりわ なかなか しなんがね.
Iz-2003	死ぬ	共通語	へびが 車に ひかれて 死んだ。
Iz-2003	死ぬ	1.安来市	いぬが しんだがな. (犬が死んだ)
Iz-2003	死ぬ	2.奥出雲町	へびが くるまに ひかれて しんだわ.
Iz-2003	死ぬ	3.雲南市	へびが くるまに しかれて しんだ.
Iz-2003	死ぬ	4.出雲市	へびが くーまに ひかえて しんだがね.
Iz-2004	死ぬ	共通語	ゴキブリは 死んで、ネズミも 死んでいる。
Iz-2004	死ぬ	1.安来市	ごきぶりわ しんちよーがなー ねずみも しんちよーわー.
Iz-2004	死ぬ	2.奥出雲町	ごきぶりが しんで ねずみも しんちよーわ.
Iz-2004	死ぬ	3.雲南市	ごきぶりわ しんで ねずみも しんどー.
Iz-2004	死ぬ	4.出雲市	ごきぶりわ しんで ねずみも しんどーわ.
Iz-2005	死ぬ	共通語	カエルも 死んで しまった。
Iz-2005	死ぬ	1.安来市	いぬが しんで しもーたわ.
Iz-2005	死ぬ	2.奥出雲町	かえるも しんで しまったわ.
Iz-2005	死ぬ	3.雲南市	かえるも しんで しまった.
Iz-2005	死ぬ	4.出雲市	かえるも しんで しまったがね.
Iz-2006	死ぬ	共通語	死ねば 何も 残らない。
Iz-2006	死ぬ	3.雲南市	{しにやー / しのーと} なんにも のこらん.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

Iz-2006	死ぬ	4.出雲市	しんだら なーんも のこらんがね.
Iz-2007	死ぬ	共通語	いっしょに 死のう。
Iz-2007	死ぬ	3.雲南市	いっしょに {しのー / しな こい}.
Iz-2007	死ぬ	4.出雲市	いっしょに {しのーかー / しなこい}.
Iz-2008	死ぬ	共通語	死ぬときは 苦しみた く ない。
Iz-2008	死ぬ	3.雲南市	しのー と きわ らく に しにたい。
Iz-2008	死ぬ	4.出雲市	しのー と きわ くるしみたく にやーわ。
Iz-2101	ある	共通語	米が たくさん ある。
Iz-2101	ある	1.安来市	こめが よーけ {ある / あーけん}.
Iz-2101	ある	2.奥出雲町	こめが たくさん あーわ。
Iz-2101	ある	3.雲南市	こめが ちゃんちゃん あーわね。
Iz-2101	ある	4.出雲市	こめが いっぴやー あーずね。
Iz-2102	ある	共通語	昔 ここには 井戸が あった。
Iz-2102	ある	1.安来市	ここにやー {むかしやー / むかしわ} いどが あったとや。
Iz-2102	ある	2.奥出雲町	むかし ここにや いどが あったげな。
Iz-2102	ある	3.雲南市	むかし ここにわ えどが あった。
Iz-2102	ある	4.出雲市	むかーし ここにわ えどが あったげな。
Iz-2103	ある	共通語	東に 学校が あって、西に 公民館が ある。
Iz-2103	ある	1.安来市	あすこに (あそこに) がっこーが あって な こっちがわに (こっちがわに) こーみんかんが あって な。
Iz-2103	ある	2.奥出雲町	こっちに (こっちに) がっこーが あって あっちに (あっちに) こーみんかんが あーよ。
Iz-2103	ある	3.雲南市	ふがしに がっこーが あって にしに こーみんくわんが あー。
Iz-2103	ある	4.出雲市	ふがしに がっこーが あって にしに こーみんかんが あーますわ。
Iz-2104	ある	共通語	薬が あって、助かった。
Iz-2104	ある	1.安来市	くすりが あって よかった わー。
Iz-2104	ある	2.奥出雲町	くすりが あって 良かったね。
Iz-2104	ある	3.雲南市	くすーが あって たすかった。
Iz-2104	ある	4.出雲市	くすーが あって {たすかったずね / たすかったがね}.
Iz-2105	ある	共通語	薬が あれば いいのに。
Iz-2105	ある	3.雲南市	くすーが あーと {えーがのー～いーがのー}.
Iz-2105	ある	4.出雲市	くすーが あったら えーに。
Iz-2106	ある	共通語	時間が あるときは 本を 読みなさい。
Iz-2106	ある	3.雲南市	ぢかんが あー と きわ ほの よみなさい。
Iz-2106	ある	4.出雲市	ぢかんが {あー と きわ / あったら} ほん {よんだがね / よみなえ}.
Iz-2201	ない	共通語	塩が ない。
Iz-2201	ない	1.安来市	しよーが {なえがなー / ありやーへんでー / あーへのー}.
Iz-2201	ない	2.奥出雲町	しおが なえわ。
Iz-2201	ない	3.雲南市	そが {ない / ね}.

～は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-2201	ない	4.出雲市	そが {ない / ね}.
Iz-2202	ない	共通語	砂糖も なかった。
Iz-2202	ない	1.安来市	{さとー〜さと}も {なえがな / ありやせんぢやった / あーへんぢ やった〜あーへぢやった / あーへんわや}.
Iz-2202	ない	2.奥出雲町	さとーも なかつたげな.
Iz-2202	ない	3.雲南市	さとーも なかった.
Iz-2202	ない	4.出雲市	さとも なかった.
Iz-2203	ない	共通語	包丁が なくて、切れなかった。
Iz-2203	ない	1.安来市	ほーちょーが {なえけん / ねーだけん} きれりゃーしえんわ.
Iz-2203	ない	2.奥出雲町	ほーちょーが なーて きれんわ.
Iz-2203	ない	3.雲南市	ほーちょーが なで きれだった.
Iz-2203	ない	4.出雲市	ほーちょーが なて きれんだった.
Iz-2301	いる	共通語	我が家には 犬が いる。
Iz-2301	いる	1.安来市	うちにゃー いぬが {おー ぞー / おる}.
Iz-2301	いる	2.奥出雲町	うちにわ いぬが おーよ.
Iz-2301	いる	3.雲南市	うちにわ えのが {おる / おーけんね}.
Iz-2301	いる	4.出雲市	うつんところにわ えぬが おる.
Iz-2302	いる	共通語	隣の家には 犬は いない。
Iz-2302	いる	1.安来市	{となり〜となり}の いえにゃ いぬわ おらんわ.
Iz-2302	いる	2.奥出雲町	となーにゃー いぬが おらんわ.
Iz-2302	いる	3.雲南市	となー にわ えのわ おらんよ.
Iz-2302	いる	4.出雲市	となーの いえにわ えぬが おらん.
Iz-2303	いる	共通語	昔は 猫も いた。
Iz-2303	いる	1.安来市	むかしわ ねこも おった.
Iz-2303	いる	2.奥出雲町	とんとーにゃ ねこも おったよ.
Iz-2303	いる	3.雲南市	むかしわ ねこも おった.
Iz-2303	いる	4.出雲市	むかしわ ねこも おった.
Iz-2304	いる	共通語	彼は 弟が いて、私は 兄が いる。
Iz-2304	いる	1.安来市	あのー おとーとが おって おらわ あんにゃが おー ぞ.
Iz-2304	いる	2.奥出雲町	たろーわ おとーとが おっちゃって {あだんわ / あだにゃ} あん ちゃんが {おー よ / おって}.
Iz-2304	いる	3.雲南市	あのすわ おとーとが おって おらわ あにきが おるよ.
Iz-2304	いる	4.出雲市	あのすわ おとーとが おって うちわ あんさんが おる.
Iz-2305	いる	共通語	ここに いて ください。
Iz-2305	いる	1.安来市	こっちにおって ごしなはえ.
Iz-2305	いる	2.奥出雲町	ここに {おってだわ / ごぎっしえ / おらっしえ / おらっしやえ / おーなはえ}.
Iz-2305	いる	3.雲南市	ここに おって ごしなはい.
Iz-2305	いる	4.出雲市	ここに おって ごしない.
Iz-2306	いる	共通語	あの人が ここに いれば いいのに。

〜は発音のゆれ、{ / } は複数の言い方があること、() は説明、《 》 は任意的であることを表す。

Iz-2306	いる	3.雲南市	あのすが ここに おれば {えーに～いーに}.
Iz-2306	いる	4.出雲市	あのすが ここに {おらえら えーに / おら えに}.
Iz-2307	いる	共通語	ここに いよう。
Iz-2307	いる	3.雲南市	ここに {おーか / おらか}.
Iz-2307	いる	4.出雲市	ここに {おーかー / おらかー}.
Iz-2308	いる	共通語	家に いるときは 何も しない。
Iz-2308	いる	3.雲南市	うちにおー ときわ なんだー しえん.
Iz-2308	いる	4.出雲市	うちにおー ときわ なんだえ さん.
Iz-2401	する	共通語	彼は 酒を 飲むと 変なことを する。
Iz-2401	する	1.安来市	あーわ さけ のんと すいきよー して いけんけん.
Iz-2401	する	2.奥出雲町	あの おっちゃんわ さけ のんと きちな こと しな はー. / あだん さけ のんと きちな こと すーよ.
Iz-2401	する	3.雲南市	あのすわ さけお のむと いなげな ことー する.
Iz-2401	する	4.出雲市	あのすわ さけお のむと んよな こと {すーけん / されーけん (尊 敬)}.
Iz-2402	する	共通語	彼は 今日は 何も しない。
Iz-2402	する	1.安来市	あえつわ きよー {なんだる～なんだり / なんだー} しえんけん.
Iz-2402	する	2.奥出雲町	きよーわ {なんだー / なんだる} {しえん～しん / しなはらん}よ.
Iz-2402	する	3.雲南市	あのすわ きよーわ なんだー しえん.
Iz-2402	する	4.出雲市	あのすわ きよーわ なんだー {さん / されん (尊敬) / されらん (尊敬)}.
Iz-2403	する	共通語	昨日は たくさん 仕事を した。
Iz-2403	する	1.安来市	きんのーわ {いっばえ～いっぺー} しごと したな.
Iz-2403	する	2.奥出雲町	きんのー いっばえ しごとー した よ.
Iz-2403	する	3.雲南市	きのーわ ちゃんちゃん しごとー した.
Iz-2403	する	4.出雲市	きによーわ いっばえ しごとー {したわね / したがね}.
Iz-2404	する	共通語	たくさん 仕事を して、遊びに 行った。
Iz-2404	する	1.安来市	いっばえ しごとー して あそびに いったわ.
Iz-2404	する	2.奥出雲町	いっばえ {しごとー～しごと} して あそびに いった よ.
Iz-2404	する	3.雲南市	ちゃんちゃん しごとー して あそびに いった / いった}.
Iz-2404	する	4.出雲市	いっばー しごとー して あそびに いったがね.
Iz-2405	する	共通語	休んでないで 仕事を しろ。
Iz-2405	する	1.安来市	なまけんこに しごと しえー.
Iz-2405	する	2.奥出雲町	あげ なまけんこに しごとー {しえー～しー} や.
Iz-2405	する	3.雲南市	あそんどらんこに しごと しえー.
Iz-2405	する	4.出雲市	やすんぢやらんで しごとー {すーだが / せー (子どもに)}.
Iz-2406	する	共通語	学校で 勉強して こい。
Iz-2406	する	1.安来市	がっこーで {ならーて こえ / べんきよー して くらーびたー}.
Iz-2406	する	2.奥出雲町	がっこーで {べんきよー して こいや / ならって こいや}.

～は発音のゆれ、{ / }は複数の言い方があること、()は説明、《 》は任意的であることを表す。

Iz-2406	する	3.雲南市	がっこーで べんきょー して こい.
Iz-2406	する	4.出雲市	がっこで べんきょー して こい.
Iz-2407	する	共通語	勉強 すれば 試験に 受かるよ.
Iz-2407	する	3.雲南市	べんきょー {すれば / すーと} しけんに うかーず.
Iz-2407	する	4.出雲市	べんきょー したら しけんに うかーよ.
Iz-2408	する	共通語	よし 勉強 しよう.
Iz-2408	する	3.雲南市	べんきょー {しよーか / すーか}.
Iz-2408	する	4.出雲市	よっし べんきょー しょっと.
Iz-2409	する	共通語	勉強するときは テレビを 消しなさい.
Iz-2409	する	3.雲南市	べんきょー すー ときわ てれびお {けしえや / けしえー}.
Iz-2409	する	4.出雲市	べんきょー すー ときゃ てれびお けすだが.

～は発音のゆれ, { / } は複数の言い方があること, () は説明, 《 》 は任意的であることを表す。

出雲方言公開講座 / 国立国語研究所セミナー

出雲方言のつどいー出雲ことば再発見ー

(司会) 本日は多数の皆様にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。これより出雲方言公開講座、国立国語研究所セミナー「出雲方言のつどい」を開催いたします。開会に当たり、国立国語研究所、危機方言プロジェクトのリーダーとして今回の方言調査を進めております、木部暢子副所長がごあいさつを申し上げます。

1 あいさつ

(木部) 皆さん、こんばんは。本日はお忙しいところ、こんなにたくさんの方がお集まりくださいまして、ありがとうございます。まず、国立国語研究所というのはどういうところだろうとお思いの方もいらっしゃると思います。また、危機方言って何だろうとお思いになる方がいらっしゃると思います。国立国語研究所は、東京にある日本語を研究するところです。そこで私どもは普段いろいろな活動を、方言も含めて日本語のいろいろな研究をやっているんですけども、2010年から研究所の中のプロジェクトの一つとして、「危機方言」というプロジェクトをスタートさせました。

危機というのは消滅の危機です。今、全国で方言が消滅しつつあります。これを何とか今のうちに記録しておいて、録音しておいて、若い人たちに伝えていこうという活動をしているのがこのプロジェクトです。きっかけは2009年にユネスコが世界中の言語のうち、2,500の言語が近いうちに消滅する心配があると発表したことにあります。2009年です。それで、私どものプロジェクトのスタートが2010年です。

ユネスコの発表の中に日本の中の言葉が8つ含まれていました。北から言うとアイヌ語、八丈語、それから奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語。多くは南の方の島の言語です。奄美は琉球の言語の仲間です。それで、私どももこれまで、2010年から4年間は、南の方の島を中心に方言の調査と記録、保存活動をしてきました。

ただ、考えてみたら、消滅が危惧される方言は南の方の言葉だけではありません。本土の方言の中にも近いうちになくなってしまいうんじゃないかと思われるような方言がたくさんあります。「出雲方言は危機ですか」とよく聞かれるんですけども、南の方の言葉に比べるとそんなに危機の度合いは高くありません。それは人口が多い、まだたくさんの方がいらっしゃるからです。ただ、なかなか若い人たちに方言が伝わっていかない。若者たちが方言をしゃべれないという現状があります。出雲もそうだと伺いました。そうすると、人口は多いんですけども、知らず知らずのうちに方言を話す人がいなくなってしまうという形で、消滅が心配されます。そのような方言であることは間違いありません。それで本土の方の方言も、やはり何とか記録して、これから継承活動を進めるようなことをしなきゃいけないなと思っておりましたところ、教育委員会の方からご相談がありまして、まいったような次第でございます。

今回、私どもは17日にまいりまして、18日に安来市へ行って方言を伺いました。それから19日は奥出雲町に伺い、今日は雲南市で方言を伺いまして、明日は出雲市へ行って方言を伺って、解散ということになります。たったの4日間で、ほんの少ししか私どもにできることはありませ

んけれども、本日は、少しでも私どもが勉強した出雲方言についてお伝えしたいと思います。それから、出雲弁の価値ですとかをぜひ守っていきましょうよ、という訴えのために、こういう会を開催させていただきました。

皆さん方もこれをきっかけに、お子さん、あるいはお孫さんに方言を伝えようという気持ちを持っていただくとありがたいなと思っています。ちょっと夜遅くまでになりますけれども、どうぞ、よろしく願いいたします。(拍手)

2 出雲方言の特徴ーアクセントを中心にー

(司会) それではプログラムに沿って進めさせていただきます。まず調査報告として、日本学術振興会特別研究員の平子達也さんからご報告いただきます。平子さんはここ数年、出雲弁の研究のため、長期の調査を進めていらっしゃいます。本日は「出雲方言の特徴ーアクセントを中心にー」と題して、調査成果をご報告いただきます。

それでは平子さん、よろしく願いいたします。

(平子) 皆さん、こんばんは。日本学術振興会というところで研究員をしていて、今は九州大学で研究をしています平子といいます。僕は今ご紹介をいただいた通り、2年前、2012年の3月ごろから出雲の方に方言の調査で来るようになりました。最初は出雲大社のあたりで調査をしたり、また今回の調査に伺いました奥出雲町の方へ調査に行ったりしてきました。

今日のお話は「出雲方言の特徴」と題しましたが、僕自身、調査できているのはごく一部のことで、地域としての出雲、一口に出雲弁、出雲方言と言っても、地区ごとに特徴が違うと思いますので、本当にごく一部のことしかお伝えできることがありませんが、今、僕が出雲方言の特徴として、こんなことがあるんじゃないか、大事なんじゃないかということをお話しできればと思います。「アクセントを中心に」と書きましたけれども、実際アクセントの話をどれぐらいするかは中身を見ていただければ分かるかなと思います。それでは始めます。

まず、木部先生からもお話があったのですが、この調査の概要を少し話しておきたいと思います。調べたことは大きく3つありました。1つは語彙です。基本的な単語のどういう言い方があるとか、標準語と同じ単語でも発音とかが微妙に違うところがありますので、そういうことをお聞きしました。

もう1つは文法というカテゴリーで調査をしました。これは例えば動詞の使い方とか言い回しの仕方が少し違うところが、出雲方言と標準語とは違うところがありますので、そういうことをお聞きしました。もう1つはアクセントの調査をしました。これはアクセント、出雲方言は非常に独特なところがありますので、そういうことを細かくお聞きしました。調査地点は今回4地点です。先ほど木部先生がおっしゃったように、安来市の広瀬町と奥出雲の横田で調査しました。今日は雲南市の木次町でやりました。明日は斐川にまいります。

今日のお話は最初に言いましたけれども、今日までの3日間の調査と私自身がこれまで出雲で調査をしてきたことについて、少しご報告をさせていただきます。調査の項目として挙げた語彙と文法とアクセントの3つに大きく分けてお話をします。こういったお話をしながら出雲方言、出雲弁の興味深いところ、重要などころを一部になりますけれども、ご紹介できればと思います。お話をする中で、いわゆる標準語と呼ばれているものやほかの地域の方言、ちょっと触れられないかもしれないですが、古い日本語ですね、古典日本語と呼ばれるものとの共通点とか、違いなんというのにも触れられればと思います。

最初に申し上げておきたいんですけども、同じ出雲でも皆さん、感じられていると思いますけれども、非常に地域差があるかと思います。僕自身も今までは西寄りの大社とか、そのあたりで調査をしてきて、この調査の最初に安来の方へ、東の方に行きまして、自分が今まで調査してきたこととはだいぶ違うなと感じました。

もう1つ、年代差も多分にあると思います。僕が調査している奥出雲町では、おばあさんとそこへお嫁に来られた方、2人同時に調査をすることがあるんですけども、おばあさんがこういうふうに言うと言っても、そのお嫁に来られた方はそんなのを言わないでしょうというふうになることもあります。ですから、ここに来られている方も、今からいろいろな例を出しますけれども、これは僕が今まで調べたデータに基づくものですけども、ご自分のお話になる出雲弁、出雲方言と違うところがきっとあると思いますので、そういうことも考えながら聞いていただけると面白いかもしれません。

最初に有名なところですけども、出雲方言の音に関することです。いわゆるズーズー弁といわれるような特徴があります。僕らは専門的にナカジタボインとかチュウゼツボイン(中舌母音)という言い方をしますけれども、「寿司」と「獅子」と「煤」ですか、発音が、ぱっと聞いただけでは分からないというような、「スス、スス、スス」と全部言ってしまうというようなこととか。あと、非常に特徴的だなと僕が思ったのは、馬のことを「オマ」と言ったり、烏賊のことを「エカ」と言ったり、人のことを「フト」と言ったり、「湯を沸かす」を「イオワカス」と言ったり、そんな言い方があって、標準語とはだいぶ違いますし、ほかの方言でもなかなか見られない特徴です。

あとこれですね。「奥さん」のことを、「妻」のことを「ニョバス」とか「ニョバ」というようなことがあります。普通に標準語みたいに、隣の「女房」と言いますが、ここが「ニョバ」となっているのは、古い、ちょっと古い日本語の特徴が残っているところです。また、「棒で殴る」というのを今日お聞きしたんですけど、「バーで殴る」とおっしゃる方がいらっしゃったりしました。こんなことです。

また、単語に関することですけども、日本語で「一人(ヒトリ)」「二人(フタリ)」「三人(サンニン)」「四人(ヨニン)」「五人(ゴニン)」「六人(ロクニン)」と言いますが、最初、今回の調査で、安来にお伺いしたときは「フトー」「フター」「サンヌン」「ヨッター」と言いますよね。「サンヌン」のところに「ミッター」とか言わないですかと聞くんですけど、安来の方は言わない。普通には「フトー」「フター」「サンヌン」「ヨッター」「ゴヌン」「ロクヌン」と言うんだと言われまして、ああ、何で三人は「ミッター」と言わないんだろうなと非常に不思議に思いました。

それを今回調査に来ているメンバーと話していたら、このプロジェクトでも1回、合同調査に行きました八丈島でも同じようなことがあって、「ヒトリ」「フタリ」は言うんだけど、三人は「ミタリ」とか言わない。「ヨッター」は言うということがあって、そんなところでも何か共通点というんですか、同じような面白いところがあるなど。

「ヒトツ」「フタツ」「ミツツ」「ヨッツ」も、これは「ヒトツ」「フターツ」「メツツ」「ヨッツ」「エツツ」「ムツツ」と言うんですかね。「ツ」という発音も、僕らはなかなか「ツ」に当たる発音が聞き取れなかったり、フタツは「フターツ」と絶対にのばさなきゃいけないんだよと言われてたりとか、そういうちょこちょここと、あっと思わせるような特徴を伺うことができました。

出雲の有名なところと言えば『砂の器』の舞台、奥出雲町の亀嵩というところは、東北方言と似ているところがあって、それがあからあのストーリーが展開されるわけですけども、本当に似ているかという、実際、発音を聞いてみると、今回のメンバーの方々の話ではずいぶん発

音が似ているところがあるんじゃないかと言われました。何で似ているのかということまでは、今すぐにお答えできるわけじゃないんですけども、そういうことも我々の研究の1つの課題になっています。以上が発音です。

次にアクセントの話になります。大まかに、ここら辺の中国、山陰地方のアクセントは東京的とか、そういうふうにいわれることもありますけれども、東京っぽいといわれるアクセントにもいろいろあります。出雲はもちろん、東京方言のアクセントとも違いますけれども、接している広島とか岡山とか鳥取のもう少し東のアクセントとも違うところなんです。

実はちょっと離れた九州の北の方、僕が今住んでいる福岡のあたりですか、福岡、大分のあたりとか、先ほども出ました東北の方のアクセントと共通点が少しあります。例えばこの3つの単語のアクセントはどうでしょう。皆さん、読んでみると分かると思いますけど、「カ[ゼガ（風が）吹く」、僕が標準語で今から言います。「カ[ゼガ（風が）吹く]」「カ[ワ]ガ（川が）流れている」「ヤ[マ]ガ（山が）見える」と言います、僕は。ですから僕の発音では「川」と「山」のアクセントが同じなんです。でもおそらくここにおられる皆さん、出雲弁の方々は「カ[ゼガ 吹く、カ[ワガ 流れる、ヤ[マ]ガ 見える」と言うんじゃないでしょうか。たぶん「風」と「川」のアクセントが一緒になっていて、「山」は違うアクセント。そういうどれとどれが同じアクセントになっていって、どれとどれが違うアクセントになっているかという組み合わせの面で、東京の標準語とは少し違うところがあります。今、言った「風」と「川」が同じアクセントになっているのは、九州の方と同じ特徴です。

もう1つアクセントで非常に面白いのは、ここはアクセントと「あいうえお」の母音ですね、その関係が非常に密接にあります。例えば「トラ」と「トリ」というのは同じアクセントでしょうか。単独でそのまま「トラ」と「トリ」というと同じようなアクセントになると思うんですけど、後ろに何か付けていると、「ト[ラがおる]」「トリ[がおる]」というふうになるんじゃないかなと思います。ちょっとアクセントが微妙に違うところがあったり。あとは標準語で言いますと、「日が出た」「火が出た」「屁が出た」、この3つを読んでみると、微妙に違うんじゃないかなと思うんですね。「ヒ[ガデタ]」「ヒ[ガ]デタ」「[へ]ガデタ」というふうに。「日が出た」「火が出た」「へが出た」。僕は最初のヒですね。お日様の「日」と燃える「火」のアクセントの違いを聞き取るのに最初すごい苦労した思い出があります。「全然違うんだよ」と調査をしているときには言われるんですけども、「え？」と言って、これが「出た」というところまで言ってもらうとはつきりするんですね。「日[が]出た」「火[が]出た」「[へ]が出た」という。

このように出雲は広島とか岡山、周りの方言とだいぶアクセントが違うんですね。それが違う理由は、またこれも我々にとっては今後の課題で、課題ばかりですけども、そういうことが出雲方言にはあるということです。アクセントを中心というのに、アクセントはこれだけしかありませんけれども。

次に、出雲方言の文法に関して、非常に標準語と同じと思われるところが多いかもしれませんが、実は微妙なところで違っているところがあるんじゃないかと思っています。僕が調べたところでの話で、皆さん自身の方言がどうなっているかというのは興味があるところなんですけど、例えば自分のことを「おら」とか、女性の方、男性も使うんですかね。「あだん」とかおっしやるかもしれないですけど、「これは私の手ぬぐいだよ」と言うときは、「これはおらの手ぬぐいだ」と言うんですけど、普通、標準語のところでは、「おらの」「自分の」というときには「の」を使いますが、出雲のあたりでは、「これはおらが手ぬぐいだ」というふうに「が」を使っても通じますよね。どうでしょう。

それで「お前」、相手に対して、「これはお前の手ぬぐいだ」と普通に「の」を使うこともある

し、「これはお前が手ぬぐいだ」というふうに「が」を使うところがあるのではないのでしょうか。けど同じ相手に向かって言う場合でも、ちょっと目上の方に言うときには、「これはお前さんの手ぬぐいだ」と「の」は入れても、たぶん「これはお前さんが手ぬぐいだ」というと、ちょっと違和感があるんじゃないかなと思います。僕の調査ではそう答えられた方がいました。

ほかに、「の」の前が生き物じゃなくて、「これは机のネジだ」とは言えるけど、「これは机がネジだ」とかは言えない。「の」と「が」の微妙な使い分けが出雲方言にはあるように感じています。詳しいところはこれから調査をしていかなければいけないなと思います。

「の」の話のついでで、標準語で「大きいのがいい」「小さいのと大きいものどっちがいいの」「大きいのがいいよ」というときの「の」ですね。その「の」を言わなくてもいいことが出雲方言にはあった。今、「の」を言わなくてもいい方が、もしおられたら、ぜひとも調査をしたいと思うんでうけれども。昔の出雲方言の会話を取った資料とかを眺めて見ると、例えば「がいながいい」という。「がいなのがいい」と言ってもいいんだけど、「がいながいい」と言って「の」なしで言うとか、「昨日、地震があったことを知っているか」という意味で、「きによ、地震があったを知っちゃーかね」というふうに、「の」とか「こと」とかを何も言わないで言えることがある。

おそらく、多くの方が標準語の「の」に当たるところに「やつ」とか、もしかしたら「ぶん」みたいなものを入れるのではないのでしょうか。「がいなやつがいい」「がいなぶんがいい」と。「これはおらがぶんだ」「これはおらのやつだ」と言うのも正しいですかね。「こと」に当たるところにも「やつ」を入れることがあるかもしれません。「昨日、地震があったやつ知っちゃーかね」とか、「昨日、地震があったこと知っちゃーかね」と言うこともあると思います。「やつ」とか「ぶん」というのは、「ぶん」は本当に、どこから来たんだと思うし、「やつ」も普通には人間とか物を指すんですけど、こういう「こと」を指すときも使えるというのは、出雲方言の大きな特徴ではないかと思います。

もう少し、今回の調査の中で出てきて面白いなと思ったのは、「孫は菓子が好きだ」というときに、「孫は菓子に好いちょーわ」と、ここに「に」が出てくるんですね。「私はお菓子が好きだよ」「菓子が好きだよ」とか、「菓子を好いているよ」と言うときに、標準語では「を」とか「が」というところに「に」が出てくるんですが、出雲では「孫は菓子に好いちょーわ」。何でこんなところに「に」が出てくるんだろうと非常に不思議に思います。

あと、最初、調査に来たときに聞いて、全然、分からなかったんですけど、「行かこい」とか「えかこい」と言いますよね。出雲方言の方は分かるかと思えますけれども、「さあ、行こう」という意味で「行かこい」と言います。これも「こい」って何なんだろうと思うんですね。あとは「行った」。普通、標準語では「海へ魚を捕りに行った」と言いますけれども、出雲では「海へ魚を捕りに行きた」という。「行きた」と言いますけれども、これも実は標準語の「行った」の方がちょっと変なんです。しかし、まあ、「行きた」というのは標準語とだいぶ違う形で、これも出雲の動詞の活用の1つの特徴になると思います。

最後に、相槌をするときとかに、「あげあげ」とか「そげそげ」と言いますよね。これは大社町でしたか、調査をしてお聞きしたものです。「誰々先生はおぞかったな」と、「おぞかった」というのはこっち側、出雲でも西側ですか、「誰々先生っておぞかったな」と言われて、「そげだ、そげだ、よく怒られたわ」「あげだ、あげだ」「あげあげ、よく怒られたわ」と言います。

「そげ」「あげ」は、おそらく標準語の「そう」とか「ああ」に対応するんですけど、標準語で、例えば「誰々先生は怖かったよね」と言ったときに、「そうそう、よく怒られたよね」とは言えると思うんですけど、「ああだ、ああだ」はちょっと使いにくいですよ。けど出雲では「あげだ、あげだ」「あげあげ」と普通に言えると思います。けど、じゃあ、「そげ」と「あげ」の使い分

げがないのかなと思うと、ちょっとまだはっきりとは分からないんですけど、例えばお友だち同士でしゃべっていて、「小学校のときに、あの木の下にタイムカプセルを埋めたな」と言って、「そげだったかいね」とは言うけど、「あげだったかいね」とは、ちょっと使いにくいという話を聞きました。これはまだはっきりしたことは言えませんが、「そげ」と「あげ」にはおそらく使い分けがちゃんとあって、標準語の「ああ」と「そう」にはないような使い分けがきっとあるんだろうなと思います。これも今後の課題の1つです。

最後にまとめです。皆さん、早足で言ってしまったので、十分に説明ができたかは分かりませんが、出雲方言、出雲弁には非常に言語学的、いろいろな方面から見て面白いところがたくさんあると思います。逆に、今、今後の課題です、今後の課題ですと何回も言ったように、分からないところもたくさんあるんですね。先ほど木部先生がおっしゃったように、このプロジェクトは今までずっと離島地域ですね、沖縄、奄美、八重山とか、八丈島という、本土の方言からちょっと遠いところをやってきましたけれども、本土の方言は全般的に大きく見ると、何となく標準語に近いから、まあ、標準語と一緒にだよと思われてきました。

今回の調査でも、「この単語は何て言いますか」とお聞きすると、「それはそのままだよ、一緒だよ」というお答えもありました。何となく標準語に近いと思いがちですけど、今見てきたようにいろいろなところで微妙な、本当にふっと、あ、そういえばこんなところは違うなというところが多くあります。逆にそういう微妙な違いだからこそ、消えていきやすいということがあるんだと思います。

ことばというのは、実際に生活の中で使っていけば、いろいろ便利な方に言葉は変わっていくものですから、なかなか今のまま、このまま変化するのはやめてください、消えないでくださいというのは難しく、皆さんが使っても、お子さん方、お孫さん方がこれを使うとは限らないし、言語を保存していく、維持していくというのは非常に難しいことなんですけれども、何とか生活に密着したところ、例えばさっきの「あげあげ」「そげそげ」なんていうものとか、「ばんじまして」というあいさつですね、そういうのを生活に密着した中で使っていって、ぜひとも出雲方言を残していただきたいと思います。僕は大社町で調査をしたときに、「ばんじまして」というあいさつですね、あれの使い方が、あれをいつ言っていいのか、僕は分からないんですけど、今、言ったらいいのかなとか思いながら、ドキドキしながら言うんですけど、ああいう単語とか、そういう言葉を生活の中で使っていっていただければと思います。

僕自身は出雲に2年前から来て、今後もいろいろなところへ調査に行きたいと思っています。もし、まちなかとか、そこら辺の道路で見掛けられましたら、「おい、平子、ちょっとおらに出雲弁をしゃべらせろ」と言っていただければ、いつでもレコーダーを持って伺いますのでおっしゃってください。今日はどうもありがとうございました。(拍手)

3 出雲弁の息づかい

(司会) ありがとうございます。ではここからは講演に移ります。最初にご登壇いただくのは県立広島大学名誉教授の友定賢治先生です。先ほど友定先生にお伺いしましたら学生時代から出雲弁の調査に携わっていらっしゃるということで、出雲弁検定教科書をはじめ多くの方言に関する著書や論文を發表なさっています。今日は「出雲弁の息づかい」と題してご講演いただきます。では友定先生、よろしくお願いいたします。

(友定) 皆様こんばんは。友定と申します。よろしくお願いいたします。今の平子さんの話を聞いていて、彼がこれから先調査をして、挙げてくださったいくつもの課題についてその解答を1つずつ与えてくださると思います。そうすると出雲弁の研究はもう本当にずいぶん進むなど、今聴いていて本当にうれしくなりました。皆さんもたぶん同じ気持ちをお持ちだったと思います。最後に彼が言っていましたけど、ぜひ彼の名前を忘れないように。字で見ただけではなかなか覚えられませんので、皆様ちょっと声を出して、平子、平子、平子と3回言ってもらえませんか？ぜひよろしくお願いいたします。

私はご覧の通りの年寄りですので、彼のようなこれから先たくさん成果を上げてくれるだろうという期待は皆さんおそらく持っていらっしゃると思いますので、私は自由に真打ちの藤岡先生の前座を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今日は40分ほど時間をいただいておりますが、最初に出雲弁の特徴として細やかさとか独自性と書いていますけど、特徴といえば独自性のことです。独自性では何の意味もないんですけど、独自性と書いています。

それから出雲弁ルネサンスと書いていますけれども、この危機言語のプロジェクトの1つの狙いは、若い世代、あるいは子供たちにその土地の方言を伝えていくということも狙いの中に入っていると思います。それをちょっとルネサンスという言葉で表してみました。

最初の出雲弁の特徴ということですが、これもここにある例の2つは、もう藤岡先生のものをそのままいただいたようなものです。2001年に『楽しい出雲弁だんだん考談』という本を小林忠夫さんと一緒にお書きですけれども、その中で3つ挙げてあります。ズーザー弁だということ。それから語彙が多くて古い言葉がたくさん生きているということ。具体的にどういう古い言葉が今生きているかというのは、この本以外でもたくさんの中です藤岡先生も挙げておられます。

もう1つ、優しい語り口だということ。この3つを、この本の中だけじゃなくいろいろな本の中でも書かれていたり、いろいろなところでの話の中でも藤岡先生はこれを強調されています。それをそのままいただいたようなものですね。

まず最初、優しい語り口といったあたりを少し私なりに資料のようなもので、こういうことかなというのを挙げてみます。これは「しょうゆを取ってくれ」という言い方のバリエーションです。上の方に行くほど丁寧な言い方だと。下の方に行くほどよりぞんざいというか、そういう言い方だというふうに聞いたものです。9つありますよね。

これでいいでしょうか。もう倍ぐらいあるとかならないでしょうかね。この中では一番、「取ってごいた」というのがぞんざいな言い方で、「ござっしょいませ」というのが一番丁寧だと聞いております。

私が生まれたのは岡山県の新見という山の中の町ですけど、こんなにたくさんはありません。3つか4つはあるかなと思いますが、これほどたくさんいろいろな待遇の度合いによって言い方

が分かれているというのは、本当に心優しい細やかな心遣いが感じられるものかと思います。

次は大変申し訳ない例ですけれども、こういうのがあります。出雲市と平田市が合併するとき、これも藤岡先生が中心となってお作りになった『出雲のことば』というものです。DVD と CD が入ってしまって、いろいろなものが入っていますから、お聴きになった方がいらっしゃるかもしれませんが、ぜひこれは聴いてみてください。

その中に収録しているものの1つにこんなものがあります。すみません、変な話題を出してしまいました。ちょっと声を聴いてみてください。

<方言の音声再生> 「おどろきいりました。こちらの たいせつな おずいーさんわ おとりなしが できませんだったげでして いたわすいことで ござえました。おさみしゅー ございましょー。」。

(友定) 次は、亡くなった家の方の言い方です。

<方言の音声再生> 「ながらく かわえがって もらえますいたども なーなって しまえますいてねー。たえした いそがすいなかお くいて ごすいなはって。ほとけさんにわちよーだえもん いたすいまして。だんだん」。

(友定) いいですね(笑)。私も母が昨年亡くなりまして、こういったあいさつをしなきゃいけない場面があったんですけど、あ、どうも、どうも、と言うしか言いようがなくて何か恥ずかしかった記憶がありますけど、こういう、朗々とあいさつがなされるというのが本当にうらやましく思います。

同じ場面のものを、昭和41年にNHKが収録したもので、1884年とか1999年生まれの方が同じ場面のあいさつをしておられるんです。それをちょっとまた聴いてください。これは、場所は大原郡大東町でのものです。

<方言音声の再生>

(友定) すみません、ちょっと変な場面で。さっきのものより40年ぐらい前のもので、場所も違うんですけど、ほぼ同じようなあいさつがずっと伝えられてきているというのがよく分かりますね。場面に応じた、非常に心遣いの細やかな言い方がたくさん見られると思います。

さっきの『出雲のことば』の中におばあさんの会話というのがあるんですね。昭和52年に平田市、今は出雲市ですけど、平田市の有線放送で放送されたものだということです。これはもしできたら県の文化財ぐらいにしてほしいんですけど、本当に何か当時の雰囲気そのまま感じられるものです。時間で2~3分ですけど、ちょっとこれも聴いてみてください。

<方言音声の再生>

(友定) 続きは本当のDVDで(笑)。私の話なんかよりよっぽどこっちの方がいいと思うんですね。ずっと聴いていて、それで終わりにした方がいいかもしれません。

本当に私が学生のころにいろいろなところで聞いたおばあさんたちの会話がそのままの感じなんです。40年ぐらい前のですね。それが貴重な資料として保存されていたというのが大変うれしくて、さらにそれをこのDVDに入れてくださった藤岡先生にも感謝したいと思います。本当に

素晴らしい資料だと思います。出雲弁の本当に文化財的なものじゃないかと思っています。

今のおばあさんは最後に「まあ、かけなはんせ」、かけなさいと言っていました。座敷に上がったら今のことがもう1回繰り返されるわけですよ（笑）。あいさつで約30分はかかると思います。

次は少し古い言葉が残っているということですが、この言葉は皆さんご存じでしょうか。「ほぐし」、「ふくし」。土を掘る竹串がありますが、雑草なんかを抜くときに、雑草の横に串を刺して柔らかくして抜くという。それが「ほぐし」とか「ふくし」です。私も岡山県の新見でこの言葉は、まあ、私自身は使ったことはないと思いますが、使っていました。その道具もこういう形のものだというのがありました。

この「ほぐし」というのがいつごろ出てくる言葉かなと思っておりましたら、ここですね。『万葉集』の冒頭の歌です。天皇さんの歌です。「掘串（ふくし）もよみ掘串（ぶくし）持ち」という、ここに出ている言葉ですね。『万葉集』の最初に出てくるそういう言葉が、この出雲でも三刀屋とか、斐川とか平田に残っていると、広戸先生の『島根県方言辞典』の中に収録されています。『万葉集』の最初に出てくる言葉です。

それからこれは広島の方でも使いますけれども、「ワニ」ですよ。これも古い言葉です。ちなみに因幡の白兎のところに「海のワニを欺きて」という、ワニという言葉が出てきます。これが出雲では全部使うというふうに広戸先生の本にはございます。

今のは古事記のものでしたが、もっと古い言葉ではないかといわれているものの1つが、この「アユノカゼ」とか「アイノカゼ」といわれるものです。黒いマルを付けたところでこの言葉を使われているそうです。日本海側ですね。この言葉について室山敏昭という先生がこういうふうにかかれています。ちょっと最初の方は飛ばしまして、赤いところで、縄文語の貴重な遺存だと言われています。

この本はこういった、出雲が日本海側の中でどういう位置にあったか、あるいは出雲とか出雲弁がどういうふうにできたかということに関して非常に面白い論を展開されている本です。『アユノカゼの文化史』という本が地元のワン・ラインという出版社から出ています。ぜひこれでもご覧いただければと思います。

次に、これは皆さんお使いですか。「そうき」。この写真のようなものですが、それは『日本国語大辞典』という本を見ますと、方言としては、島根県、それから岡山、広島。私も使っていました。それが一気に沖縄とあるんですね。何で沖縄と出雲と中国地方だけにあるんだろうか。これも1つの謎というか、なぜだろうと思っていた言葉です。

こちらに来る直前でしたので、ちょっと申し訳ないんですけど、もとの本に当たることができなかったんですが、『日本の古代2』という本の中でこういうふうにかかれています。上山根茂先生の『出雲方言考』という本の中に書かれていました。

「そうき」の始原も縄文時代後晩期ごろではないかというふうなことが書かれているそうです。これは帰って確かめたいと思います。

今の「アイノカゼ」とか「アユノカゼ」とか「そうき」とか、縄文語という言葉が出雲に使われている言葉の中で出てきます。そのあたりも非常に古い言葉だということの1つの証拠かと感じます。

次は独自性ということに関してです。これも広戸先生の『中国地方五県言語地図』というのがあるんですけど、その中に、ここに「ハイゴンスル」という言葉ですよ。それがこの黒いマルのあたりです。ここで使われていると地図に書かれていますが、中国地方では出雲だけですよ。

390枚を超えた地図がこの本の中にあるんですけど、その中で出雲だけにある言葉が何枚ぐら

いあるかなというのを非常に大ざっぱに粗く考えて数えてみますと、70枚ぐらいのものに出雲弁独自の言葉があります。2割ぐらいですか。それが多いかどうかは判断が難しいかもしれませんが、出雲だけにという言葉がこの地図で70枚ぐらいは確認することができます。中国地方での独自性ということですね。

それからこれも変な例ですみません。「何々しさがる」というふうな言い方は皆さんあんまり使わないと思いますけど、『日本方言大辞典』を見ますと、この出雲と伯耆地方の雲伯地域だけとなっています。共通語では「しあがる」という、上がる方でしょうけど、出雲は「しさがる」になっています。非常に独特な言い方の1つですね。

次は、「アユノカゼ」、「アイノカゼ」ですが、この語については室山先生は出雲でできた言葉で、それが北陸の方にずっと伝わっていったんだろうと説明をされています。出雲などにあったものが北陸の方にずっと伝わっていくとなると、例えば有名なこれですよ。四隅突出型のこの墳丘墓。これも、この中国山地を含めてですけれども、出雲地方でのもの、それがこの地図にありますように、北陸、越国（こしのくに）の方にずっと広がっていく。

とすると、「アユノカゼ」、「アイノカゼ」というのは、この四隅突出型墳丘墓と価値としては同じような意味を持っている。同じような価値を持っているんですよ。墳丘墓の方はいろいろ宣伝とか大事にされているようですが、「アイノカゼ」も、これに劣らない価値を持っていますからね。出雲弁の「アイノカゼ」というものは非常に大事な歴史資料、歴史遺産です。

同じように日本海側にあるもので、フクロウの鳴き声を「ノリツケホウセイ」と聴く、というのがこの黒いマルです。これも日本海側にずっと黒いマルが付いています。これなんかも、なぜ日本海側に「ノリツケホウセイ」というものがあるんだろうと。あるいはどこでできた言葉がどういうふうにならって日本海側にこんな具合になっているんだろうかということが、私は分かりませんが興味を引きます。もしかするとさっきの「アユノカゼ」なんかと同じようなものかもしれません。

さらに独自性ということでは、さっきも出ましたズーズー弁的なもの、それがこの東北のあたりにあるものが、出雲にあります。こういう東日本とか東北のものに多く特徴のあるものが出雲にぽつんとあるということですね。これはもういっぱい例があります。今の「い」と「え」の区別がなくなって、「え」になっているというふうなものですね。これも出雲にぽつんとあります。

東日本と九州と出雲が同じようであって、中四国と近畿に別な言葉があるというのは、考古学とか形態人類学の地図でこれに似たようなものがほかにもありますよね。頭の形が前後に長い横に広がっているかという地図もこれと近い形になっています。

無声化というのは例えばこんな発音です。「キク」、というのがありますね。〈テープ音声〉

「クサ」というのは。〈テープ音声〉

というふうな発音だと思ってください。すみません。こういった出雲に特徴的なものが東日本にずっと広がっているという。そういうものをいろいろ見つけることができます。お金を出して物を買ったというのを、西日本ではほぼ全域が「コウタ」と言いますから、この地域の「買った」というのは東日本と共通した独自性のある形ですよ。

さらに「おじ」とか「おば」という言葉。次男以下の男子をまとめて「おじ」と言うんだと。これは東北とか関西にはあるとされていますが、関西以西では島根県の隠岐と徳島というふうにご辞典にはあります。「おば」の方は次女以下の女子というのを、東北以外ではこの県だけ。島根県の隠岐とあります。

この、おじという言葉は、どうでしょう、このあたりでも使われますかね。次男、三男、四男、それらをまとめて、「おじ」と言うような。「おじさん」とか、「おじ」とか。それはないですか。

隠岐では確かに聞きました。じゃあ、ここでは使わないということですね。

今のような非常に細やかな心遣いのある、歴史のある独自性のある出雲弁。それを最初に木部さんが言っておられましたけれども、若い世代に伝えていくということを一層心掛けていきたいと考えています。

出雲弁を盛んにというのは、例えば、いろいろなことをやられているんですけど、今、出雲弁を話す人口がだいたいどれぐらいいるんだろうかと思って、これは大ざっぱな計算ですよ。確実な計算ではありません。島根県の人口は70万人を切ったというのが新聞のニュースにありましたが、現在69万7,000人ぐらいだそうです。

出雲弁の地域をその松江とか出雲とかに仮に限定した場合、その人口は47万4,000人ぐらいです。非常に乱暴に島根県の高齢化率を当てはめてみますと、30.9%。これは1年前、2013年ですけど、こういう高齢化率。65歳以上の人が出雲弁を話すかと仮に考えてみると、だいたい14万6,000人ぐらいとなっています。

この人数が、先ほど木部先生のもありましたけど、そんなに極端に少ないということではないと思いますけれども、現在出雲弁を話す人はこれぐらいの数があるのかなという概数ですね。やっぱり多いとは言いきくと思いますから、出雲弁がこれから先なくなっていくのを防ぎ、若い世代に伝えていくということをいろいろな形で考えていっていただきたいということです。

もちろん今もたくさんの方がなされていて、藤岡先生の本とか、あるいは奥野さんにも非常に面白い本がありますよね。奥野さんのはCDも付いていますよね。あと、平田のお医者さんの牧野先生が作られた辞典もあります。

それから真ん中に丸が書いてありますけど、これも奥野さんが作っておられるもので、『出雲弁の泉』というのがあります。現在5,200語ぐらいここに集まっています。たくさんの方が集まっています。

それから方言保存会というのも斐川出雲弁保存会とか、あるいは隣町の宍道にも出雲弁保存会とか、保存会も2つありまして、これも非常に活発にさまざまな活動をなさっています。ですから、出雲弁を広めようというのは非常に盛んに行われてはいるというのはもう確実なところですよ。あと看板とか品物、商品に方言をいっぱい使っているいろいろなものが出てきているというのも各地で見ることができます。

【写真を見せる】

これは出雲市の駅にあるんですよ。

「だんだん」というのは、本当に出雲を代表する言葉としていろいろなところで見ることができます。これは大社の「だんだん薬局」。この方はいらっしゃるんじゃないでしょうか。どうでしょうか。それから「だんだん、ただいま営業中」。これは平田市で撮ったものです。「お食事処だんだん(暖々)」。字はこんな字を当てています。

それからだんだん道路というのもあるんですよ。それからこれは横田町にあった「だんだんスクエア」というところ。土産物にも「だんだん」はいっぱいありまして、こういった、「出雲弁クッキーだんだん」。「だんだんまんじゅう」。それから「だんだんペットボトル」。というふうにたくさんあります。

だんだんは今のようによく見ることができるんですけど、あるいは、これは昨日行った横田の「ツーズケーキ(チーズケーキ)」です(笑)。いいですよ。ツーズケーキです。これは、チーズがツーズに聞こえるということと、あと思いが通じるということもかけているんだと説明にはありましたが、チーズをツーズと。

それから「ほんそご」というまんじゅう。ちょっと商品の宣伝をさせていただきました。これは今でもあるんですかね。「ほんそご」というまんじゅう。ありますか。

(会場) はい。

(友定) ちょっと値段が高いですよ(笑)。それから「どげだや」。これは、ここに写っているのはずっと前の島根大学です。その前にこういった飲み屋さんがありました。自分で焼ける店、「よらいや」。これも松江市内で、ずいぶん前に撮ったものですね。それから、「ちょっこ一服せんかね」という、「ちょっこ」というのはおそらくチョコとかけているんでしょうね。

それからこれは松江市の情報誌だそうですけど、『だがあ』というのがあるそうです。こういうものがあって、さらにこれは先ほど平子さんのお話にもあった『砂の器』の舞台の地、亀嵩です。

今のようなもの以外に、ここに皆さん注目してください。この字。山陰の「陰」。この字はこの地方以外ではおそらく使わない字です。今、山陰中央新報は「陰」に変わっていると思うんですけどね。ここへ看板としてはまだ残っているものがありますよね。こういう文字にも地域性のあるものがあって、方言文字という言葉を使ったりしますが、この山陰の「イン(陰)」なんかもそうですよね。

あるいは「トウフテン」。共通語的に書くと、たぶん「腐る」という字を書くんでしょうけど、あの字。上にちょんがあるかどうかは分かれていますけど、こういう「豆富」という書き方。これも全国にあるわけではないです。このあたりが中心ですね。

さらにラフカディオ・ハーン。これはバス停だと思いますけど、「ヘルン」ですよ。「ハーン」のことを「ヘルン」という読み方をするのは、ほかのところではしないんじゃないですかね。「ヘルン、ヘルン」と言うのはこの地方だけだと思います。これも方言と言ってもいいかもしれないです。

こういう山陰の「イン(陰)」とか、今の「豆富」とか「ヘルン」とか、さっきの平子さんの話もそうですけど、あんまり気付かないものとして、方言はこういった看板などで見ることもできます。

今のようにたくさん出雲弁の看板があったり、藤岡先生なんかのご努力があるんですけども、この7月に、授業を持っている57人の学生さんに出雲弁はどんなイメージがあるかと聞きました。広島県内の出身が約6割のようなクラスです。どういう答えが一番になると思います、皆さん。

先ほどの優しいとかそういうのが一番にどんと出てほしいんですけど、結果はこうです。「ない」が45人。出雲弁のイメージはと聞いたら、何も無いと言うんですよ。それが45名です。あとは出てほしいようなものが出てきます。

出雲弁というものが、我々は非常に大事な言葉だと思っていますけれども、県外の学生たち、広島は隣の県ですよ。その学生にもそれほどイメージとしてきちんとしたものは伝わっていないんだということを何か思い知らされた感じがしました。

「ゆっくりしゃべる」とか、「昔の人の言葉っぽい」とか、「巫女のイメージ」といったら何のことか知りませんが、こういうふうには書いているのも1人いました。やっぱり県外の人にとって、まだ出雲弁というのが具体的にこんな言葉でこういったイメージの言葉だと、あまり若い人には伝わっていないんだなと思います。

書いていたものを少し挙げてみると、そもそも出雲弁を知らないのでイメージできないというのが多かったんですけどね。同じことですけど、そういう方言があるのかと書いているのもいま

した。だんだんは出雲弁かとか、トビウオのことを「アゴ」と言っていたとか、こんなことを学生たちは書いています。どれほど真剣に書いたかは分かりませんが、県外の、隣の県の若い学生がイメージがないというのが圧倒的に多かったというのはちょっとショックでした。

ただ、これはたぶん若い女性だと思いますが、都会に出て暮らして、自分が出雲弁を使ったら周りの人がキュンとしたんだと。その1位がこれだ、2位がこれだというふうに、今は自分なりに順位をつけて5つ挙げています。「前から好きだったに」とか「シャイだがん」とか、「ごろごろしちょーよ」とか、「巨人が負けだがあ」、「待ちよるけん」とか、こういうのを使うと周りの人は何かいいなあと言ってくれたというわけですよ。

こういうふうに、若い人が出雲弁を使うと周りの人が、あ、この人の言い方はかわいいという評価をしてくれるものがあるということです。何かこの辺は少しヒントになりそうな気がしますね。

「今でしょ」と、誰か知りませんが何かこんなことを言う人がいますよね。島根県を訪れた観光客の数が平成25年は3,600万人。すごい数ですね。今、過去最高。地域別ではこの出雲地区が2,993万人。3,000万人近い人が1年間に来ているわけですよ。

これから先、結婚のことがあったりして出雲ブームはまだ続きますよね。今、その出雲弁を県外の人にアピールするもう絶好の機会、チャンスですよ。この時期を逃さずに藤岡先生にはますます頑張ってくださいと思っています。

最後にこういったことを提案。1つはあそこの歴史博物館に出雲弁の展示コーナーを作ってくださいということです。「アユノカゼ」、「アイノカゼ」というのは、あの墳丘墓と同じくらいの歴史的な価値があるんですよ。ぜひこういうことも考えていただきたいと。これが1つです。

2つ目は、出雲弁を話しますという方を募って、出雲弁で昔話を語ったり、あるいは観光客と茶飲み話をするような場所をどこかに設けて、例えば土曜日のこの時間からはおばあさんが出雲弁で昔話をするから観光客の人も子供たちも集まってきなさいということをする。それが子供たちに伝わる1つの方法かなと。あるいは観光客が、優しいとか温かい語り口を知ることができるものではないかなと。出雲弁のイメージがないという数を減らすことができるかもしれません。

もう1つ、ふざけてすみません。AKB48にならうような出雲弁のアイドルをつくりませんか。名前も考えてみました。だんだん48(笑)。どうですか。ちょっとあんまりこれはだめですかね。縁結び48。これもあんまりよくないですかね。アイノカゼ48。何かいいじゃないですか。縁結びの土地ですし、出会いの場、結婚もあるし。それでアイノカゼ48。この人たちが、「好きだに」とかいう言葉を使って人気になれば、出雲弁を伝える1つのことになっていくんじゃないか。各地で今、ご当地アイドルとかそういうのが盛んです。若い人に出雲弁を使ってもらう1つの手段かもしれません。

時間になりました。だんだん。あーがとござえました。(拍手)

4 出雲弁のある暮らし

(司会) どうもありがとうございました。続きまして藤岡大拙先生に、ご講演をいただきます。藤岡先生につきましては、あらためてご紹介するまでもございせんが、出雲地方の歴史、風土を多方面から分析、研究され、多くの著書をお書きになっていらっしゃると思います。本日は地元研究者を代表いたしまして、また出雲弁保存会の会長として、「出雲弁がある暮らし」と題して出雲弁の魅力を語っていただきます。それでは藤岡先生、よろしく願いいたします。(拍手)

(藤岡) 先ほどは木部先生をはじめ、平子先生、友定先生など、この学界の若手からベテランの有名な先生方が、出雲弁はキチャナマシケン(きたならしいから)、やめてしまえとおっしゃるかと思いましたが、そうではなくて、年寄りには特にこれから伝えていってほしいと。特に友定先生はあらゆる角度からもっと出雲弁保存をやるべきだとの有り難いお言葉と申しますか、励ましをいただきまして、今まで保存活動をやってきた甲斐があったと、非常に嬉しく思っております。今日は、ダラジ(馬鹿)の一つ覚えで、どこでもしゃべっているのですが、出雲弁の三つの特徴をお話ししたいと思います。

特徴の一つ目は、語彙が豊富だということです。もう他では滅び去ったような言葉が、出雲ではエマネキ(今でも)使われているということ。あるいはまたそうじゃなくて、出雲地方だけの言葉を、エマネキ使っている場合もあります。それらの語彙がどのくらいあるか。もちろん正確なことは分かりません。でも、ここに加藤義成先生原稿がございせん。稿本です。『中央出雲方言語彙考』という稿本です。

これは、加藤先生が恐らく中央の誰かに頼んで、中央で刊行してゴシナハランカ(くださいませんか)といって、大学の先生か出版社の人に頼まれたようですが、なんと、けしからんことに、その原稿が古本屋さんのカタログに出ていたのです。それを地元の方が見つけて、さっそく購入して、島根県立図書館に寄贈されたのです。それを私はコピーさせてもらったんです。

この加藤先生の稿本を見ますと、だいたい出雲方言が二千五百語ぐらい載っています。だいたいこのぐらいかな、と思ったこともありましたが、しかしよく見ると、出雲だけではなくて、他国でもつかっているような言葉もはいつていますので、純粋な出雲弁はその半分の千二、三百語ぐらいかもしれせん。

今さっきスクリーンにも出ておりましたが、出雲市灘分町で開業しておられた、牧野医院の牧野辰雄先生が作られた『出雲のことば早わかり辞典』、今、これだけが手にはいる出雲弁辞典ですが、もっとも古本屋でしか手に入りませんが、貴重なものです。この辞典は、先生が長年患者とむきあって話をされた、そのときの会話のなかの出雲弁を記録したものです。「どげ、したかね(どうしました)」「はえ、背なんはが、ハシテ(ぴりぴり痛む)、エケマシエンガ(こまっています)」こういう会話のなかから、逐一拾い上げたもので、貴重なものです。全体で約七千五百語ぐらいありますが、よく見ると、発音がちょっとなまっているだけで、出雲方言語として収録されているものもあって、相当差し引かないといけません。

ここにもう一冊、岡義重先生の遺稿本『簸川地方式千語』があります。岡先生は斐川町富村(とびむら)の先生で、私が小学校で習った先生です。先生は民俗学の研究者で、柳田国男の指導のもとで、国立国語研究所の調査員になって、方言の探訪などやておられました。この本は最近、NPO出雲学研究所が中心となって出版いたしました。

これを見ますと、私なんかでも分からんヤナモン(ようなもの)、知らん言葉がいっぱい出て来ます。でも、式千語というのはちょっと多いですね。やっぱり千二百語ぐらいが妥当な線だと思

います。でも、千二百語にしたってものすごく多いと思いますよ。皆さんも私も、共通語の上に千二百語ほど余計に知っているわけですから、われわれは、タエシタモン（すぐれた者）でございますねえ。

皆さんのお手元に、「平成版出雲弁見立番付」の一部をお配りしています。これは松江市が全戸配布しています『暮らしの便利帳』のなかに挿入されているものです。私と小林忠夫出雲弁保存会副会長とで作りました。これは売り物でございますが、掲載するのはエケン（いけない）と言いましたが、サッチ（是非是非）載せさせてゴセ（ください）と頼まれて、ほんなら、上半分だけ許可しましょうということで、話をつけました。この番付は初代出雲弁保存会長の木幡吹月さんが作られた見立番付を修正したものです。先ほど話にも出ました小学館の日本国語大事典を調べて、他国にない言葉だけを選んで作成しました。

「だんだん」は意外にも出雲弁ではありません。米子に行くと、バスのどてっ腹に「だんだん号」と書いてあります。以前、『坂の上の雲』をテレビでごらんになったら、伊予の松山のほうでも、「だんだん」と言っていましたね。だんだんは西日本一帯、九州の博多、大分、宮崎、鹿児島あたりでも、使われているそうです。ただ、島根県庁に松山から来た方がいまして、「あなたのところでは、今でもだんだんを使っていますか」と尋ねましたら、さっそく親御さんやおばさんに問い合わせをしてくれました。昔は使っていたが、今はまったく使わない、という回答をえました。だから、他国では急速に「だんだん」は使われなくなっているようですが、ひとり我が出雲では、いまだに「だんだん」を日常的に使っています。「だんだん」はいい言葉ですよ。有難うよりも、もっと心がこもっていますよ。それを出雲では、老若男女、老いも若きも使っているわけです。先ほどの友定先生の応援歌にもありましたが、我々はこれからもどんどん使っていきたいものですね。

そこで、これです（資料「出雲弁見立番付」を示す）。アクセントも注意してくださいよ。まず一番の横綱、東の横綱は「はいごん」、つづいて「ぼいちゃげる」「がっしょ」「ひまぐらし」「せぎわい」「がしんけな」「えでほる」「なやみする」「お前さんとは、なやみしなはったげなね（家を造作されたそうですね）。結構さんでござえましたね」というふうに使います。西側だと、横綱は「こらまたなんだら」代表的な強い感嘆詞、感動詞です。つづいて「ばくらとする」「おえなおえな」「じじらに」「ぼやける」「つけごめ」「ししし」「ただくち」どうですか、分かりますか。もう一段下の前頭級を見ましょう。

「あおんだま」「きびし」「の一て」「くどまんど」「せつ」「けんげら」「ぞーれる」「はいざん」「ござなめ」「えきじ」「たける」「びがんな」「さい」「ふてぶる」「ちっと」。

西方へいきましょう。「へたくなる」「ほねががいい」「つぐなる」「みりんぼ」「てれぐれ」「むらさ」「もだえる」「どける」「したえきな」「しとな」「よじき」「おみける」「りんば」「かききり」「なえくる」。

皆さんのなかには、「りんば」なんかご存じない方が多いでしょうね。ルンバは知ってるけど。「りんば」というのは、羽釜の輪っかです。羽釜をくど（竈）にかけるとき、りんばでひっかけておくのです。「りんばは直（じか）につまんだなえじ、煤がつくけん」

もう一つ難しい言葉に「たける」があります。だいぶ死語になりつつありますが、酢酸のような強い刺激臭があって、つーんと鼻にくるようなとき、鼻にたけるといいます。あと、出雲弁の言葉の上の方に、小さい字で意味が書いてありますから、それを見て使ってください。出雲弁独特の言葉がたくさんあることがお分かりいただけましたか。

語彙の豊富さの次に、発音にも大きな特徴があります。ズウズウ弁というやつですね。東北地方がズウズウ弁だということは、広く知られていますが、東京から西、九州までの間で、唯一ズ

ウズウ弁がの遺っているのが出雲なんです。さらに出雲弁には、かなりきつい訛があります。そこで資料の裏のほうを見てください。岡義重先生の書かれた『郷土斐川物語』のなかに出雲弁が載っております。それをちょっと拝借してきました。最初のところを少し読んでみましょう。へたくそですが。

「今度はおばあさんに聞いた昔の女の子の遊びをお話しましょう」ここまでは共通語ですよ。これからです。「あのな、おらんちが、ほせ時ねわな、よう手毬ちきをして遊んだもんだわ。グンマリだなての、綿を芯ねして、木綿のふきえとをあちに巻えて、丸ねしての、そーを五色の糸で、かがったもんだ。白玉の上へ赤や青の糸で、麻の葉ちなぎや松かがりやなんかや、美事ね、縫いちけることを、手毬をかがるてて言ってな、そのかがることが、おれしかったもんだ。その美事な手毬を、縁側や板の間でちくと、ようちけての、歌おたえながら、両手でトントンちえたわな。近えころのグンマリみたえね、足あげたり、尻からげしたりしたもんだなて、縁側ね坐って、歌ね合わせて、ちきやこしたものよ。おたって聞かしょか、手毬ちき歌を。忘れてしまったかも知れんがの。」

こういうのです。これは縁側でおばあちゃんが、孫娘に話している情景です。資料の次へいきましよう。これは『里坊郷土誌』です。里坊は雲南市三刀屋町の山の中です。稗原からも行けますよ。此処の郷土誌には囲み記事がたくさん載っていますが、その一つがこの資料です。出雲弁の用例としていいじゃないかと思います。第一行目は出雲弁。第二行目はその翻訳文。第三行目は出雲弁、というぐあいになっています。ですから、皆さんは出雲弁を先刻ご承知ですから、奇数行だけ読むことにしますよ。その前に、ちょっと申しておきたいのですが、里坊は山に囲まれた所ですが、その山はほとんど田部家の持ち山だったそうです。

「尼子さんの時代から オランチの山だとおもっちゃったけん
 オチのもんだけん デヒャーシーだないてて
 田部のダンサン エワッシャーげな
 オツァン ドゲ 思わっしやーかね
 オラ ヨークソ シゴシーてて ホドがあーわ と思うじね
 ジゲジの山を ゼニで買えだことなてて ワジラーヤナワー
 オチャ エンバト オババが センド ワジラッタシ
 オジジの 法事もあたっちょーし エゴハゴすーなかえね
 カカが メヤシンナーだけん エーモンバッカーで クターベタワ
 フダリテ アエマチ シーだけん ドコゾ ゴモシンでも
 エワニャー クウハテがねとまっしやい
 ドッコネモ カエサメしたてて ゼニケなもんは
 アーシマセンワ オザワキが エチバン クターベましたわ
 ソーネシテも 松四郎さんは キーなことで
 エラシジことでしたわ アラ シンカタが オカシじね
 子供シが エトシナゲで ならんがのー」

この次は、恐らく悔やみの文言が続くでしょう。

「なーんと、驚きいりました。とうとう、松四郎おじいさんのオトリナオシ（回復）が、ござえませだったゲデ（そうで）、エタワシ（労しい）こととござえましたねー」という文言から、ながながとお悔やみの口上がはじまります。先ほどの友定先生の話とつながっていくわけです。出雲の挨拶は、慶弔、日常にかかわらず、長くて丁寧です。ちょっとした挨拶でも、五、六ぺんは頭をさげなければなりません。もちろん、その間に、しっかり口上もしゃべります。今の若いもん

は、いったいなんですか。「オッス」とか「やあ、どうも」これだけで終わりじゃないですか。都会の方はだいたいこんなぐあいでしょう。出雲人は最敬礼に近い挨拶をしています。出雲はいいところですよ。

そこで、次にそのいいところをやらないといけませんね。第三番目の特徴です。それは穏やかで、柔らかい語り口です。相手に不快感や負担感をあたえないためです。それだけに、内容は曖昧で分かりにくくなりますが、出雲人はそれでもいいと思っています。そこで、曖昧な語り口についてお話ししてみましょう。

大津か今市の、或る家としましょう。親類が奥の方（山間部）にあった。何処でもいいですが、例えば今日先生たちが調査に行かれた日登（雲南市木次町）としましょうか。日登の親類のおつつあんが、今市の家へやってきた。

「今日（こんにち）は、今日は、誰かおられ一かね」

「はい、おえでましたね」と言って出て来たのは、おばさんでした。

「コラマタナダラ（まあ、これはこれは）、奥のおつつあん、今日はドゲしたことでしかね」

「エンヤ、エマエチ（今市）ヘデー（出る）用があつたついでに、門（かど）とおつたけん、チョッコ（ちょっと）、のぞえてみたがね」

「マージ（まあまあ）、フサシブー（久しぶり）でしたね、さ、上がってごしなはえ」

「エンヤ（いやいや）、今日はソゲナシコ（そんなわけ）で、チョッコ、顔見ねのぞえたばっかだけん、上がらんじね」

それから、しばらくオエタリフツパツタリ（押したり引いたり押し問答）して、

「そげかね、そんなら、カケゴシ（縁側に腰掛ける）も、ナンダラケン（よくないだろうから）、チョッコシ、あがらせてモラワカノ（もらいましょうか）」

上がりますと、畳の上で正式な挨拶がはじまります。例の五、六ぺん頭さげるやつ。

「えらえ、ノク（暑い）ことでござえますがねえ」「そげそげ、ねえ。毎日、ノクタラシテ（暑くて）アバキマセン（やりきれません）がねえ。」「お前さんトカ（ところは）、ゴット（みんな）まめなかね」「だんだん、だんだん、お蔭三さんで、ゴット、シナーグナー（どうやらこうやら）やっちょますがね。ソーヨモ（それよりも）お前さんとこはね」というように続きます。

そのうちに、奥のおつつあんは亭主のおやじの姿が見えないのに気がつきます。

「おばさん、今日は此処のおつつあんの姿が見えんが、何処へえきちやったかね。畑かね」

「えんや、チョッコシ」

「チョッコシでは分からんがね。散髪屋かね。スーパーかね」

「えんや」「按摩かね」「えんや」「アーエケ、えんや、えんや、では分からんがね。エシヤハン（医者はん）かね」「は一、エシヤハンへ、チョッコシ」

「なにね？ どころがエタシ（病気）かね」「えーんや、自転車でちょっこしマクレテ（転んで）……」「そーで、どげなアイマチ（怪我）だった？ たいしたこたなかつたかね」

「はあ、マクレタとこへダンプがやってきて」

「ナニヤ（なにになに）、そら一、おおアイマチだがね。そーで、何処へ入院しちよってだ」

「中央病院ですが」「そーで、ナンボ（どれくらい）入院しちよってかね」

「ホホロ（おおよそ）一ヶ月くらいですかねえ」

「うわー、そらたいへんだ、知らんとはいえ、見舞いだえセスコネ（せずにいて）、失礼しとったのー」

おばさんは、なんでそんなに逃げまわるのでしょうか。はじめから、はっきり実情を言えばいいのに、と思うでしょう。出雲人はそこのところにもものすごくこだわる。亭主が大怪我をしてい

ることが分かったと、見舞いだのなんだのと、相手に迷惑をかけることになる。だから、もう、言わんように、言わんように、内緒にして、内緒にしておこうとするのです。

奥から来たおっつあんも出雲人ですから、そこは追求の手をゆるめない。ぴったりくっついてネネシク（しつこく）聞きますだけん、とうとう言わざるを得ないようになります。おじさんは、「コラマタナンダラ、失礼しとったねえ、」というようなことで、後日、羊羹箱でも持って、中央病院へ見舞いにいくということになります。

こういうふうには、万事についてあまりモノを言わない。言ったら相手を不愉快にさせる、負担感を抱かせることがありますから、穏やかに、曖昧に、どっちかという、よく分からないようなふうな言い方を出雲人はするのです。顔の表情も豊かではありません。能面のような、というのは言い過ぎですが、大げさな表情はいたしません。すべてセーブした表現です。

そのため、相手の顔色、相手の表情を読み取る感覚は、ものすごく鋭いものがあります。微かな表情のくもり、口元や目尻の微かな動き、そういったものに敏感に反応するのです。象徴的な芸術である能や狂言を、出雲人は地（じ）で行っている。言葉よりも表情を読み取る感性がつよいのです。ですから、現代の風潮には合いませんわ。若い人には住みにくいかもかもしれませんね。出雲やなんかはやーめただ、と思っている人も多いでしょう。ところが、慣れてくると、これくらい住みやすい人間社会はないんです。

私なんか出雲が好きで好きでコタエン（たまらない）です。もう間もなく、お迎えの駕籠が来る年齢ですが、「チョコシ、待ってゴシナハイ。モチト（もうちょっと）、エンジョイしてから逝きたいですケン」と言いたいですね。出雲は豊富な語彙、ズウズウ弁、そして非常にデリケートな言葉遣いがある、ということをお願いして、私のつたない漫談を終わりにします。せっかとお二人の先生がアカデミックなお話をなさった後で、なんだか、マゼクラカス（だいなしにする）ヤナ（ような）お話をしておし訳ありませんでした。ご静聴を有難うございました。

出雲方言公開講座 / 国立国語研究所セミナー

出雲方言のつどいー

出雲ことば再発見

参加費 無料

国立国語研究所が行う出雲方言の現地調査に合わせて、公開講座を行います。

国立国語研究所「出雲方言プロジェクト」
高級漢学教育委員会、出雲市

出雲市役所 1F 「くまびき大ホール」
定員 200名

主催

出雲市立文化財庫

電話・FAX・E-Mailにて
◆事前申し込み◆
◆定員になり次第締め切り◆
申し込み期限：8月8日(金)
問い合わせ・申し込み先

出雲市立文化財庫
電話：0853-21-6993
FAX：0853-21-6937
E-Mail：bunkazai@city.jzome.shimane.jp

出雲方言の奥づかい
出雲弁の奥づかい
出雲市立文化財庫
出雲市立文化財庫
出雲市立文化財庫

出雲方言の奥づかい
出雲弁の奥づかい
出雲市立文化財庫
出雲市立文化財庫
出雲市立文化財庫

国立国語研究所共同研究

消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究
出雲方言調査報告書

2016年3月20日発行

編集 木部暢子（国立国語研究所時空間変異研究系）

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel.042-540-4538（木部研究室）

<http://www.ninjal.ac.jp/>

©国立国語研究所



**General Study for Research and Conservation of
Endangered Dialects in Japan
Research Report on Izumo Dialect**

Edited by

KIBE Nobuko

March 2016